三千貫ノ車輛、十五米噸曝壓機

第十八條　交通ノ情勢ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ得テ前各條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

附　則

本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●道路法第六十二條ノ規定ニ依ル不用物件等ノ管理及處分ニ關スル件

（大正八年十一月二十五日　勅令第四百七十四號）

【沿革】　大正十年一月勅令第一〇號改正

民道路法第六十二條ノ規定ニ依ル不用物件等ノ管理及處分ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　道路ノ路線ノ認定ノ變更又ハ廢止ノ場合ニ於テ不用ニ歸シタル道路又ハ其ノ附屬物ヲ構成シタル物件ハ其ノ道路ヲ管理者タリシ者之ヲ管理處分ス

第二條　道路法第六十二條第二項ノ期間ハ國道、府縣道及地方費道ニ關シテハ八月、其ノ他ノ道路ニ關シテハ四月トス

前項ノ期間ハ道路ノ附屬物ヲ構成シタル物件ニ關シ監督官廳ノ認可ヲ得テ十五日迄之ヲ短縮スルコトヲ得

第三條　第一條ノ物件前條ノ期間滿了前ニ定リタル道路又ハ其ノ附屬物ノ區域內ニ在ルトキハ其ノ管理者ニ之ヲ引渡スヘシ

第四條　第一條ノ物件他人ノ所有ニ屬スルモノナルトキハ前條ノ規定ニ該當スル場合ヲ除クノ外其ノ所有者ニ之ヲ還付スヘシ

第一條ノ物件官有財產トシテ存置スルノ必要アルモノナルトキハ前條ノ規定ニ該當スル場合ヲ除クノ外主務大臣ニ之ヲ還付スヘシ

道路附替ノ場合ニ於テハ其ノ附替ニ依リ不用ニ歸スル第一條ノ物件ハ新ニ道路又ハ其ノ附屬物ヲ構成スル物件ト第二條ノ期間內ニ於テ交換スルコトヲ得

第五條　第一條ノ物件前二條ニ該當セサル場合ニ於テハ道路ノ費用ヲ負擔シタル公共團體ニ之ヲ交付スヘシ土地收用法第六十六條第一項又ハ民法第五百七十九條ノ規定ニ依ル賣渡ハ交付ヲ受ケタル公共團體之ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ二以上ノ公共團體アルトキハ第一條ノ管理者ハ監督官廳ノ認可ヲ得テ交付ノ割合ヲ定ムヘシ

第六條　前數條ノ規定ニ依ルモノヲ除クノ外道路又ハ其ノ附屬物ノ區域ノ變更其ノ他ノ場合ニ於テ不用ニ歸シタル道路又ハ其ノ附屬物ヲ構成シタル物件及材料器具機械等ノ管理及處分ニ付テハ第一條、第四條及前條ノ規定ヲ準用ス

第七條　本令ニ依ル管理者ハ處分ノ費用又ハ管理中ノ收益ニ關シテハ道路ニ關スル費用又ハ道路ヨリ生スル私益ト看做ス

第八條　道路法施行令第十九條乃至第二十二條ノ規定ハ本令ニ規定スル管理者ノ監督ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●官有道路敷取扱ニ關スル件

（大正十一年三月七日　內務省通牒靜土第二八號）

各地方長官宛

一　道路法第六十二條ノ規定ニ依ル不用物件等ヲ處分スル權限ハ先般勅令第四七四號ノ一部改正ニ依リ明確ナラシメタルカ如ク其ノ道路ノ管理者タリシ者ニ屬スルヲ以テ其ノ處分シタル道路敷ノ所有權移轉登記モ亦其者ニ於テ囑託スヘキ義ニ有之候

二　新ニ道路ト爲スヘキ土地ヲ官有ニ取得シ其ノ他種目ノ變換ヲ爲スハ道路管理者ノ權限ニ屬スヘキモノニ有之候

三　道路法ニ依リ路線ヲ認定セサル舊道路敷ハ官有地特別處分規則ニ依リ處分スヘキ義ニ有之候

●道路法施行令ニ基キ道路附屬物指定

（大正九年三月二十五日　內務省告示第二十二號）

道路法施行令ニ基キ道路附屬物左ノ通指定ス

一　第十條ノ規定ニ依リ區域ヲ告示スヘキ道路附屬物

道路ノ區域外ニ又ハ道路ノ區域外ニ亙リ設クル道路附屬物

二　第十一條ノ規定ニ依リ供用ノ開始、廢止ヲ告示スヘキ道路附屬物

橋梁、渡船場

●道路法第五十二條但書ノ規定ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ受クルヲ要セサル件

（大正九年三月三十日　內務省令第六號）

【沿革】　大正九年四月省令第八號、同十五年九月同第四四號、昭和十年四月同第一八號改正

道路法第五十二條但書ノ規定ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要セサル件左ノ通相定ム

第一條　國道、府縣道ニ關スル事項ニシテ左ニ揭クルモノハ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

一　府縣道ノ路線ノ認定ノ變更又ハ廢止ニシテ重要ナラサルモノ

二　道路ノ區域ノ決定又ハ其ノ變更ニシテ道路法第十七條但書ノ規定ニ依ル市ノ區域內ニ關セサルモノ

三　道路ノ附屬物ノ區域ノ決定又ハ其ノ變更

四　沿道ノ區域ノ決定又ハ其ノ變更ニシテ內務大臣ノ定ニ準據スルモノ

五　國道、內務大臣ノ指定スル府縣道又ハ其ノ附屬物ノ新設又ハ改築ニシテ道路ノ些少ナル區間ニ於ケル幅員、勾配、屈曲及路面ノ改良ニ屬スルモノ若ハ溝橋竝簡易ナル橋梁（キング形、クヰーン形、ハウ形竝ニワレン形等ノ桁桁橋及桁橋ノ類）渡船場及道路法第二條第二號及第三號ノ附屬物ニ關スルモノ

五ノ二　內務大臣ノ指定スル府縣道以外ノ府縣道又ハ其ノ附屬物ノ新設又ハ改築ニ爲スコト

六　道路橋梁ノ應急施設

七　道路法第二十一條ノ規定ニ依ル工事ノ執行又ハ維持ニシテ主務大臣ノ管理スル河川ノ附屬物ニ關セサルモノ

八　道路法第二十二條ノ規定ニ依ル工事ノ執行ニシテ主務大臣ノ施設スル河川ニ關スル工事ニ關セサルモノ

九　道路法第二十三條ノ規定ニ依リ下級行政廳又ハ私人ヲシテ道路若ハ其ノ附屬物ノ修繕ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ維持ヲ爲サシムルコト

十　（削除）

十一　道路法第二十四條ノ規定ニ依ル許可又ハ承認ヲ爲スコト

十二　道路法第二十五條ノ規定ニ依リ他ノ工事ヲ執行スルコト

十三　非常災害ノ場合ニ於テ六月ヲ超エサル期間ニ於テ道路法第二十六條ノ規定ニ依ル承認ヲ爲スコト

十四　道路法第二十八條ノ規定ニ依ル許可又ハ承認ニシテ內務大臣ノ定ニ準據スルモノ

十五　道路法第二十八條ノ規定ニ依リ道路ノ占用料ヲ徵收スルコト

十六　道路法第三十七條ノ規定ニ依ル負擔ニシテ國ノ負擔ニ關セサルモノ

十七　道路法第三十八條ノ規定ニ依リ費用ヲ負擔セシムルコト

十七ノ二　道路法第三十九條及第四十條ノ規定ニ依ル負擔ニシテ監督官廳ノ認可ヲ得タル標準ニ依ルモノ

十八　道路法第四十一條ノ規定ニ依リ費用ヲ負擔セシムルコト

十九　道路法第五十一條第一項第一號乃至第四號ノ規定ニ依リ處分ヲ爲スコト

第二條　（削除）

第三條　市道、町村道ニ關スル事項ニシテ左ニ揭クルモノハ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

一　道路法第十七條但書ノ規定ニ依ル市ノ區域內ニ於ケル市道ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更、廢止

二　前號ニ規定スル以外ノ市ノ市道又ハ町村道ノ路線ノ認定ノ變更若ハ廢止ニシテ重要ナラサルモノ

二ノ二　道路法第十七條但書ノ規定ニ依ル市ノ區域內ニ於ケル市道ノ區域ノ決定又ハ其ノ變更

二ノ三　道路法第十七條但書ノ規定ニ依ル市ノ區域內ニ於ケル市道又ハ其ノ附屬物ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト

二ノ四　前號ニ規定スルモノヲ除クノ外府縣知事ノ指定スル道路又ハ其ノ附屬物ノ新設又ハ改築ニシテ第一條第五號ニ該當スルモノ

二ノ五　第二號ノ三ニ規定スルモノヲ除クノ外府縣知事ノ指定スル道路以外ノ道路又ハ其ノ附屬物ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト

三　道路法第二十一條ノ規定ニ依ル工事ノ執行又ハ維持ニシテ主務大臣又ハ府縣知事ノ管理スル河川ノ附屬物ニ關セサルモノ

四　道路法第二十二條ノ規定ニ依ル工事ノ執行ニシテ主務大臣又ハ府縣知事ノ施設スル河川ニ關スル工事ニ關セサルモノ

四ノ二　非常災害又ハ從來ノ慣行アル場合ニ於テ道路法第二十三條ノ規定ニ依リ私人ヲシテ道路又ハ其ノ附屬物ノ修繕ニ關スル工事ヲ執行セシメ若ハ維持ヲ爲サシムルコト

四ノ三　道路法第十七條但書ノ規定ニ依ル市ノ區域內ニ於ケル市道ノ管理者ニ於テ道路法第二十五條ノ規定ニ依リ他ノ工事ヲ執行スルコト

四ノ四　前號ニ規定スルモノヲ除クノ外道路法第二十五條ノ規定ニ依ル他ノ工事ノ執行ニシテ他ノ工事ニ關シ法律勅令ニ基キ許可、認可又ハ承認ヲ要セサルモノ

五　道路法第二十四條ノ規定ニ依ル許可

六　占用料ノ徵收ニシテ監督官廳ノ認可ヲ得タル標準ニ依ルモノ

七　道路法第三十七條ノ規定ニ依ル負擔ニシテ國又ハ府縣ノ負擔ニ關セサルモノ

七ノ二　道路法第三十八條ノ規定ニ依リ第四號ノ二ニ要スル費用ヲ負擔セシムルコト

七ノ三　道路法第四十一條ノ規定ニ依リ他ノ工事ニ關スル費用ヲ道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ負擔セシムルコト

八　第一條第三號、第四號、第六號、第十三號、第十四號、第十七號ノ二又ハ第十九號ノ規定ニ該當スルモノ

九　第一次監督官廳ノ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ府縣知事ニ於テ認可ヲ受クルコトヲ要セスト定メタルモノ

第四條　本令中府縣道ニ關スル規定ハ地方費道及準地方費道ニ關シ、府縣知事ニ關スル規定ハ道廳長官ニ關シ府縣ニ關スル規定ハ地方費ニ關シ之ヲ適用ス但シ準地方費道ニ關シ道路法第二十六條ノ規定ニ依ル承認ヲ爲シ又ハ同法第二十七條ノ規定ニ依リ橋錢若ハ渡錢ヲ徵收スル橋梁又ハ渡船場ヲ設クル場合ニ於テ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

附　則

本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

道路法第十七條但書ノ規定ニ依ル市ノ區域內ニ於ケル國道、府縣道ノ道路區域ノ決定ハ道路法施行ノ際ニ限リ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

道路及其ノ附屬物ノ新設ハ道路法施行ノ際ニ限リ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス但シ國道、府縣道、地方費道及主要ナル郡道市道區道町村道ノ道路橋梁ノ構造ニ付テハ道路法施行後一年內ニ更ニ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

道路法ノ施行ニ依リ道路若ハ其ノ附屬物ニ關スル費用カ上級行政廳ノ統轄スル公共團體ノ負擔トナリタル場合ニ於テ道路法第二十三條ノ規定ニ依リ下級行政廳ヲシテ既ニ著手セル工事ヲ引續キ執行セシムルモノハ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス其ノ費用ノ負擔ニ關シ道路法第三十八條ノ規定ニ依ルトキ亦同シ

假定縣道又ハ府縣費支辨里道ニシテ道路法施行ノ際郡道以下ノ道路トナリタルモノニ關シ道路法第二十四條ノ承認ヲ得府縣ニ於テ大正八年以前ノ災害ニ因ル工事ヲ引續キ執行スルモノハ其ノ承認ニ付內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

㊂道路橋梁ノ構造認可ニ關スル件

（大正九年十月十五日內務省通牒發第一二四號）

各地方長官宛

本年三月當省令第六號ニ依ル道路橋梁ノ構造ニ關スル認可申請ニハ別紙樣式ニ依ル調査及圖面添附セラレ度

記

第一一路線ノ全部カ道路構造令ニ規定スル構造ノ本則ニ該當シ改良ヲ要セサルモノハ別紙第一號表ニ依リ調査スヘシ

第二一路線ノ道路ノ全部ヲ今後二十箇年内ニ規定ノ構造ニ改良ヲ要スルモノハ其ノ改良ノ計畫ヲ別紙第二號表ニ依リ調査スヘシ

第三一路線ノ道路ノ全部ヲ今後二十箇年内ニ道路構造令ノ規定ニ依ル構造ト爲ス事ヲ得サルモノハ別紙第三號表ニ依リ調査スヘシ

第四一路線ノ道路一部カ前各號ニ該當スルモノハ第四號表ニ依リ調査シ第一ニ該當スル區間ハ第一、第二ニ該當スル區間ハ第二、第三ニ該當スル區間ハ第三トシ前各表ノ記載事項ト同一ノ事項ヲ起點ヨリ順次調査スヘシ

圖面（五萬分一若ハ二十萬分一）ニハ路線及區間ヲ表示スヘシ

第一號調書

路線名	延長	一般幅員	最狹有效幅員	最急勾配	最小屈曲半徑	隧道 箇所數	隧道 延長	橋梁 箇所數	橋梁 延長	摘要

（備考）

本表ハ現在道路ニ關シ記載スルモノトス

摘要ニハ現在ノ幅員ニテ十分ナリトスル理由其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

延長、幅員、屈曲半徑ハ間テ以テ單位トシ分マテテ計算スヘシ以下同シ

第二號調書

路線名	延長	現在 一般幅員	現在 最狹有效幅員	現在 最急勾配	現在 最小屈曲半徑	現在 隧道 箇所數	現在 隧道 延長	現在 橋梁 箇所數	現在 橋梁 延長	改良計畫 渡船又ハ渡渉所要有效幅員	改良計畫 改良工事工事施行豫定年度	改良計畫 改良工事費概算額	摘要

（備考）

摘要欄ニハ所要有效幅員選定ノ事由其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

渡船又ハ渡渉ノ延長ハ其ノ現在ノ長ト假想橋梁長ニ相當スル長トヲ併記（朱書）スヘシ

第三號調書

路線名	延長	現在 一般幅員	現在 最狹有效幅員	現在 最急勾配	現在 最小屈曲半徑	現在 隧道 箇所數	現在 隧道 延長	現在 橋梁 箇所數	現在 橋梁 延長	現在 橋梁 最小幅員	現在 橋梁 最小高	改良計畫 渡船又ハ渡渉所要有效幅員	改良計畫 改良工事工事施行豫定年度	改良計畫 改良工事費概算額	摘要

（備考）

分界有效幅員ヲ云フ最狹トハ其ノ中ニ就キ最狹ナル有效幅員ヲ云フ

分界勾配トハ十五分一ヨリ急ナル勾配ヲ云ヒ最急トハ其ノ中ニ就キ最急ナル勾配ヲ云フ

分界屈曲半徑トハ十五間未滿ノ半徑ヲ云ヒ最小トハ其ノ中ニ就キ最小ナル半徑ヲ云フ

橋梁ノ最小高トハ道路構造令第十四條ノ橋梁ニ付高サノ最小ナルモノヲ云フ（尺ヲ單位トス）

渡船又ハ渡渉ノ延長ハ其ノ現在ノ長ト假想橋梁長ニ相當スル長トヲ併記（朱書スヘシ）

摘要欄ニハ所要有效幅員選定ノ事由其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

第四號調書

路線名	區間	該當延長	道路 一般幅員	道路 最狹又ハ分界有效幅員	道路 最急又ハ分界勾配	道路 最小又ハ分界屈曲半徑	隧道 箇所數	隧道 延長	隧道 最急	隧道 最小	橋梁 箇所數	橋梁 最小幅員	橋梁 延長	渡船又ハ渡渉 箇所數	渡船又ハ渡渉 最小幅員	渡船又ハ渡渉 延長	所有改良工事施行豫定年度	所有改良工事費概算額	摘要
	自　郡町村字 至　郡町村字																		

備考

數路線ヲ列記スルトキハ各路線毎ニ延長改良工事費概算額ノ計ヲ附スヘシ

●道路法第二十九條ノ規定ニ依ル占用ニ關スル申請手續

（大正九年六月十六日内務省令第十五號）

道路法第二十九條ノ規定ニ依ル占用ニ關スル申請手續左ノ通相定ム

第一條　道路法第二十九條ノ規定ニ依リ許可若ハ承認又ハ占用料ノ決定ヲ受ケムトスル者ハ地方長官ヲ經由シ申請書ヲ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依ル申請ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　申請事項

二　申請理由

三　管理者ニ提出セル申請書及其ノ指令書ノ謄本又ハ占用料告知書其ノ他ノ處分書ノ謄本

四　事業ノ種類及其ノ計畫

五　占用區域（附近地形圖及占用區域ノ圖面ヲ添付シ其ノ區域内ニ他ノ工作物アルトキハ之ヲ明示スルコト）

六　占用期間

第二條　前條第一項ノ規定ニ依ル申請書ヲ處分アリタル日ヨリ六十日内ニ地方長官ニ之ヲ提出スヘシ

地方長官申請書ヲ受理シタルトキハ意見ヲ附シ十四日内ニ内務大臣ニ之ヲ進達スヘシ

附　則

本令ハ大正九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ處分ニ付テハ第二條第一項ノ規定スル期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス

●道路及其ノ附屬物ノ占用ノ許可又ハ承認ニ關スル件

（大正九年七月一日内務省訓令第十一號）

道路管理者

道路法第二十八條第一項ノ規定ニ依ル占用ノ許可又ハ承認ニ付テハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外左ノ定ニ依ルヘシ

道路及其ノ附屬物ノ占用ノ許可又ハ承認ニ關スル件

第一條　道路又ハ其ノ附屬物ノ占用ヲ許可又ハ承認スルハ他ニ相當餘地ナク道路又ハ其ノ附屬物ヲ占用スル緊切ノ必要アル場合ニ限ルヘシ

第二條　道路又ハ其ノ附屬物ノ占用ハ本令中特ニ規定スル場合ヲ除クノ外路面側溝及其ノ上下ヲ避ケ法敷其ノ他適當ナル箇所ヲ擇ハシムヘシ

占用ニ關スル工事ノ爲既設ノ特殊工作物ノ保持ニ影響ヲ及ホス虞アル箇所ハ之ヲ避クヘシ但シ之ニ關シ特別ノ施設ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニアラス

第三條　電線路建設ノ爲路面ヲ占用スルノ必要アル場合ニ於テハ電柱ハ路端ニ之ヲ建設セシメ電線ハ路面上十五尺以上ニ架設セシムヘシ但シ歩車道ノ區別アル箇所ニ於テハ電柱ハ歩道ノ車道側ニ建設セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ引込線ニ限リ歩道ノ路面上十五尺以下ニ架設セシムルコトヲ得

第四條　前條ノ規定ニ依リ電柱ヲ建設スル場合ニ於テハ左ノ各號ニ依ラシムヘシ

一　電柱ハ道路ノ同一側ニ建設シ對側ニ路上建設物アルトキハ五間以上錯立セシムルコト

二　電柱ハ道路ノ曲角ニ建設セサルコト

三　電柱ノ脚釘ハ路面上六尺以下ノ部分ニ取付サルコト

四　地下線路ト架空線路トノ連絡用鐵管ハ電柱ノ道路ニ面セサル側ニ設備スルコト

第五條　街燈建設ノ爲必要アル場合ニ於テハ路端又ハ歩道ノ車道側ヲ占用セシムルコトヲ得

第六條　道路ニ出入スヘキ通路ヲ設クルカ爲必要アルトキハ路端又ハ側溝上ヲ占用セシムルコトヲ得

第七條　標燈又ハ看板ノ類ヲ路面上八尺以上ノ高サニ設クル場合ニ限リ二尺以内側溝上又ハ路端上ニ突出セシムルコトヲ得

第八條　家屋牆壁等ノ工事ノ爲必要アル場合ニ限リ側溝上又ハ路端ヲ板

關ノ爲占用セシムルコトヲ得

第九條　上水道、下水道、電線路又ハ瓦斯管路等布設ノ爲道路ノ地下ヲ占用スルノ必要アル場合ニ於テハ左ノ各號ニ依ラシムヘシ

一　本線ハ車道ノ地下ニ支線ハ歩道ノ地下ニ築設スルコト但シ歩車道ノ區別ナキ箇所ニ於テ本號ノ適用ニ付テハ道路幅員ノ中央三分二ヲ車道、兩側各六分一ヲ歩道ト看做ス

二　瓦斯管路ノ本線ト電線路ノ本線トハ道路ノ同一側ニ築設セサルコト

三　下水道ノ本線ハ道路ノ中央ニ上水道ノ本線ハ瓦斯管路ノ本線ト同一側ニ築設スルコト

四　電線路及瓦斯管路ノ引込線ハ直接本線ヨリ分岐セサルコト

五　下水道本線ノ頂部ト路面トノ距離ハ十尺以上タラシムルコト但シ工事上又ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ限リ三尺迄短縮シ得ルコト

六　上水道電線路及瓦斯管路ノ本線ノ頂部ト路面トノ距離ハ四尺以上タラシムルコト但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ限リ二尺迄短縮シ得ルコト

七　地下工作物ハ堅牢ニシテ耐久力ヲ有セシムルコト

八　車道ニ築設スル地下工作物ノ耐力ハ道路構造令又ハ街路構造令ニ規定スル橋梁ノ耐力ニ相當セシムルコト

九　地下工作物相互間又ハ地下工作物ト地上建設物トノ距離ハ作業上保安上支障ヲ來ササル限リ之ヲ接近セシムルコト

第十條　鐵道、專用軌道其ノ他道路ヲ橫斷シテ工作物ヲ築設スル場合ハ左ノ各號ニ依ラシムヘシ

一　工作物ヲ路面ニ築設スルトキハ路面ト高低ナカラシムルコト

二　鐵道又ハ專用軌道カ路面ヲ橫斷シテ踏切ヲ設クルトキハ其ノ斜角ハ四十五度ヨリ緩ナラシムルコト

三　工作物道路上ヲ橫斷スルトキハ路面上十五尺以上タラシムルコト

四　工作物ヲ道路ノ地下ニ築設スルトキハ他ノ地下工作物ニ支障ヲ及ササル限度ニ於テ路面トノ距離ヲ定ムルコト

第十一條　露店又ハ祭典、縁日、盛ノ市、草市、市日、賣出等ノ爲必要ナル施設ニ付テハ特ニ路面ヲ臨時占用セシムルコトヲ得

第十二條　上水道、下水道、電線路又ハ瓦斯管路等布設ノ爲必要アルトキハ橋梁ノ耐力ニ影響ヲ及ササル範圍ニ於テ橋梁ノ兩側又ハ橋床下ヲ占用セシムルコトヲ得

●河川其ノ他工作物ヲ道路ニ供用方

（大正十年一月十日　内務省通牒出土第一號）

各地方長官宛

河川法第八條ノ規定ニ依リ當分ニ於テ直接工事ヲ施行スル河川又ハ其ノ附屬物ヲ道路ノ用ニ供スル場合ニ在リテハ所管當省土木出張所長ニ協議ノ上道路新設ノ手續ヲ履行セラレ度尚既ニ道路ヲ開設シタルモノニ對シテモ此際相當協議ノ上河川工作物ト道路ノ敎用上遺憾ナカラシメラレ度

●鐵道敷設ノ爲ニスル道路ノ占用又ハ改築ニ關スル件

（大正十四年三月三十一日　内務省通牒發甲第四號）

各地方長官宛

鐵道敷設ノ爲ニスル道路ノ占用方法ニ關シテハ大正九年當省訓令第十一號第十條ノ定ニ依據セラルヘク又其ノ道路ノ改築ニ關シテハ道路構造令街路構造令等ノ規定スル構造ニ依リ鐵道經營者ヲシテ適當ニ施設セシムヘキハ勿論ノ義ニ有之候處往々ニシテ是等ノ定ニ依ラサルモノアルノミナラス現在道路ヲ著シク改惡スル事例不尠爲ニ是ヲ變更セシメムトスルモ其後ニ於ケル鐵道工事ハ既ニ竣功濟ニシテ變更困難ナル場合アリ道路交通上遺憾トスル所ニ有之候此ノ如キハ地方鐵道ニ關スル工事ノ施行認可申請書ヲ審査スルニ方リ道跨トノ關係ヲ考慮セサルニ基因スル義ト存候ニ付自今ハ篤ト審査ノ上敍上ノ缺陷ヲ事前ニ防止スル樣御留意相成度

●道路ノ占用ニ關スル件

（大正九年四月一日　内務省通牒遞土第一號）

各地方長官宛

遞信省ニ於テ電信電話線路建設ノ爲道路ヲ占用スル場合ニ於テハ別紙要項ニ依ルヘキコトニ協議候條御承知ノ上道路管理者ニ御通達相成度

遞信省所管電信電話線路建設其ノ他ニ關スル要項

第一　線路ノ測量

一　線路ノ測量ヲ爲サムトスルトキハ相當日數前其ノ區間及期日ヲ關係地方長官ニ通知シ官吏、吏員ノ現場立會ヲ求ムルコト地方長官其ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ道路管理者ニ通知スルコト

二　前項ノ官吏吏員立會ヲ爲ササルトキハ便宜工事擔當官限リ測量ヲ行ヒ其ノ旨ヲ通知スルコト

三　前二項ニ依リ測量シタル後關係地方長官ヨリ要求アリタルトキハ必要ニ應シ現場ニ就キ說明シ若シ支障アルトキハ速ニ測量換ヲ爲スコト

四　建柱位置（支柱支線ヲ含ム）ヲ定メタルトキハ其ノ位置ヲ標識シ置クコト

第二　線路ノ建設

甲　架空線路

一　電柱（支柱支線ヲ含ム）建設ノ際ハ著手工事擔當官ヨリ直接關係地方長官ニ通知スルコト

二　電柱建設ノ際ハ一般交通ニ最モ支障尠ナカラシムルコト

三　道路ヲ占用シテ電柱ヲ建設スル場合ニ於テ相當（側溝去敷ヲ除ク）在ルトキハ之ヲ利用シ相當法敷ナキ場合ニ於テノミ路端ニ之ヲ建設スルコト

四　前項ノ場合ニ於テハ電柱ハ道路ノ同一側ニ之ヲ建設シ其ノ電柱ノ對側ニ電柱郵便函其ノ他ノ建設物アルトキハ可成五間以上錯立セシムルコト

五　道路ノ曲角ニハ電柱ヲ建設セサルコト已ムヲ得スシテ道路ノ曲角ニ電柱ヲ建設スル場合ニ於テハ特ニ注意シテ其占用面積ヲ少クシ交通ノ支障ヲ最モ少ナカラシムルコト

六　電線路ハ道面ヨリ十五尺以上ノ高サヲ保タシムルコト特別ノ事由アル場合ニ於テハ引込線ニ限リ交通ニ支障ナキ程度ニ於テ其ノ高サヲ低減スルヲ得ルコト

七　道路ニ建設スル電柱ノ脚釘ハ通行者ニ危險ナカラシムル爲地上六尺以下ノ部分ニハ之ヲ取附ケサルコト

八　電柱建設ノ爲道路ヲ掘鑿シタルトキハ地下線ノ埋設ニ準シ相當措置スルコト

乙　地下線路

一　地下線路ノ工事ノ施行ニ付テハ一般交通ニ最モ支障尠カラシムルコト

二　地下線路ハ一旦埋設シタルトキハ屢掘鑿スルカ如キコトナキ樣長期ノ計畫ヲ定メ施工スルコト

三　地下線路ハ幅員狹キ道路ヲ避クルコト

四　地下線路ト架空線路トノ連絡用ノ鐵管ハ交通ノ妨害トナラサル樣成ルヘク電柱ノ道路ニ向ハサル側ニ設備スルコト

五　地下線路ヲ橋梁ニ架設シタル場合ニ於テ其ノ橋梁ノ改築又ハ修繕ノ爲地下線路ノ移轉ヲ要スルトキハ其ノ工事及費用ニ付テハ道路管理者豫メ當該官廳ト協議スルコト

六　地下線ノ埋設ニ付テハ左記各號ニ依ルコト

(イ)　道路ノ掘鑿ハ作業上支障ナキ限リ可成其ノ範圍ヲ狹少ナラシメ且同時ニ長區間ニ亙リ施行セサルコトトシ尙其ノ工事ハ成ルヘク之ヲ敏速ナラシムルコト

(ロ)　道路ヲ橫斷シテ掘鑿スル場合ハ一側ノ掘鑿ヲ終リ之ニ完全ナル棧橋ヲ架設シタル後他側ノ掘鑿ヲ爲スコト但シ二部ニ分チ施行シ能ハサルトキハ夜間交通杜絕シタル後ニ於テシ日出前迄ニ棧橋架設スルコト

(ハ)　人家ノ軒先ニ接近シテ道路ヲ掘鑿スル場合ハ居住者ノ出入ヲ妨ケサル樣棧橋ヲ架設スルコト

一　本要項ニ於テ地下工作物ト稱スルハ道路面下ニ築造埋設スル郵便、電信、電話、電氣信號、電燈、電力又ハ電氣鐵道用ノ地下線路、ク之ヲ堆積シ置カサルコト

(ホ)　掘坑ノ周圍ハ勿論掘鑿土砂又ハ工事用物品ヲ置キタル箇所ニハ通行人ニ危險ヲ及ホササル樣柵其ノ他ノ設備ヲ爲シ且夜間ハ注意燈ヲ點スルコト

(ヘ)　道路ノ掘坑ハ成ルヘク速ニ埋戻ヲ爲スコト

(ト)　道路埋戻ノ際ハ舊道路ノ構造ト同等以上ニ復舊スルコト但シ特別ナル工法ヲ以テ鋪裝セル道路ノ路面工事ハ占用者ノ負擔ニ於テ道路管理者之ヲ施工スルコト

第三　線路ノ移轉

一　道路管理者ヨリ線路移轉ノ請求アリタルトキハ占用者ハ遲滯ナク其ノ工事設計及豫算ヲ提示シ工事施工ノ請求アリタルトキハ速ニ工事ヲ施工スルコト

二　道路改築ノ爲電信線路電話線路移轉ノ必要ヲ生スヘキ部分ニ付テハ道路管理者豫メ當該官廳ト協議スルコト

第四　損害補償

一　工事又ハ通信ノ支障ト爲ルヘキ道路ニ關スル工作物、竹木等ノ移轉伐採等ヲ要スルトキハ道路管理者ニ照會シタル上相當處理スルコト

二　前號ノ竹木ノ伐採ヲ爲ストキハ道路管理者ノ立會ヲ求ムルコト

三　前二號ニ依ル損害ノ補償金額ハ協議ノ上之ヲ定ムルコト

第五　現在道路ノ整理

一　現在道路ヲ占用セル電柱ニシテ前各號ニ適合セサルモノハ漸次前各號ニ依ルコトシ殊ニ建替ノ際ハ可成之ヲ實行スルコト

遞信省所管電信電話地下工作物施設要項

一　本要項ニ於テ地下工作物ト稱スルハ道路面下ニ築造埋設スル郵便、電信、電話、電氣信號、電燈、電力又ハ電氣鐵道用ノ地下線路、

上水、下水、瓦斯其ノ他液體氣體ノ輸送管路竝交通運輸用ノ地下道ノ類ヲ謂フ

二　本要項ニ於テ本線ト稱スルハ起點ヨリ支線ノ分岐點ニ至ル間ノ線路（管路ヲ含ム）ヲ謂ヒ引込線ト稱スルハ支線ヨリ分岐シ需要場ニ至ル間ノ線路ヲ謂フ

三　本要項ハ道路ノ幅員三間未滿ニシテ本要項ニ據リ難キ場合ニハ之ヲ適用セス

四　本線ハ車道ニ支線ハ歩道ニ築設スヘシ歩車道ノ區別ナキ道路ハ幅員ノ中央三分ノ二ヲ車道兩側各六分ノ一ヲ歩道ト看做ス

五　幅員六間未滿ノ道路又ハ工事上已ムヲ得サル場合ニ限リ二尺迄短縮スルコトヲ得

六　瓦斯管路ノ本線ハ各種電氣用ノ本線トハ道路ノ同一側ニ築設スヘカラス

七　下水道ノ本線ハ道路ノ中央ニ上水道又ハ液體氣體輸送用ノ本線ハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外瓦斯管路ノ本線ト同一側ニ築設スヘシ

八　引込線ハ本線ヨリ分岐スヘカラス

九　幅員六間未滿ノ道路ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

十　交通運輸用地下道ノ築設ニ付テハ上部ニ他ノ地下工作物ヲ築造又ハ埋設スルノ餘地ヲ存スヘシ但シ起業者ニ於テ既設地下工作物ヲ整理シ且橫斷地下工作物ニ對シ相當ノ設備ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

十一　前項以外ノ地下工作物ノ頂部ト道路面トノ距離ハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス

(一)　下水道本線十尺以上但シ工事上又ハ土地狀況ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ限リ三尺迄短縮スルコトヲ得

(二)　其ノ他ノ本線四尺以上但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ限リ二尺迄短縮スルコトヲ得

十二　地下工作物ハ堅牢ニシテ耐久力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

十三　地下工作物ノ耐久力ハ道路構造令ニ規定スル橋梁ノ耐力ニ相當スルヲ要ス

十四　地下工作物相互間又ハ地下工作物ハ地上建設物トノ距離ハ作業上竝保安上支障ヲ來ササル限リ之ヲ接近セムシヘシ

十五　實施方針

(一)　既設地下工作物ニ妨ケラレ本要項ヲ適用スルコト能ハサル場合ハ本要項精神ニ從ヒ施行セシムルコト

(二)　幅員六間以上ノ道路ニ築設スル地下工作物ニシテ需要場所ニ配給スルモノハ支線ヲ築設セシムルコト

(三)　支線路ヲ本要項第四ニ依リ歩道ニ築設シ難キ場合ニ於テハ之ニ準スヘキ場所ヲ選ハシムルコト

(四)　支線路（電信線電話線下水線路ヲ除ク）ハ保安上支障ナキ限リ可成共同溝ト爲サシムルコト

(五)　支線路（下水線路ヲ除ク）ノ構造ハ溝形式トシ管「コンクリート」又ハ煉瓦等ヲ以テ構成シ蓋ハ鐵又ハ「コンクリート」等ノモノヲ用ヒ之ヲ道路面ト高低ナカラシメ必要アル場合ニ隨時開閉シ得ルノ設備ト爲サシムルコト

(六)　共同溝内ニハ各種線路相互ノ錯綜ヲ防クヘキ區劃ヲ設ケシムルコト

(七)　引込線ヲ敷設スルニ當リ甚シク道路ヲ破壞スル虞アル場所ハ其ノ溝築設ノ際豫メ引込管ヲ分岐シ置キ必要ニ應シ作業シ得ルノ設備ヲ爲サシムルコト

（大正十年一月三十一日内務省通牒來第一四四號）

各地方長官宛

通信省ニ於テ郵便函設置ノ爲道路ヲ占用スル場合ニ於テハ別紙要項ニ依ルヘキコトニ協議候條御承知ノ上道路管理者ニ御通達相成度

（大正九年八月四日　内務省通牒海土第四號）

郵便柱函設置ニヨル道路占用ニ關スル協定

第一　郵便柱函ノ設置

一　郵便柱函ヲ道路ニ設置スル場合ニハ歩道（歩車道ノ區別ナキ場合ハ歩道ニ準スヘキ部分）中其ノ效用ヲ妨ケサル限リ一般交通上最モ支障尠キ位置ヲ撰ヒテ設置スルコト

二　郵便函ヲ道路ニ設置スル場合ニハ其ノ位置ヲ郵便柱函ヲ所轄スル逓信官署ヨリ五日前道路管理者ニ通知スルコト

三　郵便柱函設置ノ爲メ道路ヲ掘鑿スルニハ作業上支障ナキ限リ可成其範圍ヲ狹少ナラシメ其工事ハ可成之ヲ敏速ナラシムルコト

四　掘鑿土砂ハ交通ニ支障ナキ場所ニ搬出スルコト

五　道路埋戻ノ際ハ舊道路ノ構造ト同等以上ニ復舊スルコト但シ特別ナル工法ヲ以テ舖裝セル道路ノ路面工事ハ占用者ノ負擔ニ於テ道路管理者之ヲ爲スコト

六　郵便柱函設置ノ爲メ道路ニ關スル工作物竹木等ヲ要スル場合ニハ道路管理者ニ照會シタル上相當處理スルコト

七　前號ノ移轉伐採等ヲ爲ストキハ道路管理者ノ立會ヲ求ムルコト

八　前二號ニ依ル損害ノ補償金額ハ協議ノ上之ヲ定ムルコト

第二　道路工事ニ伴フ郵便柱函ノ移轉

一　道路改築ノ爲又ハ其ノ他ノ事情ニ因リ郵便柱函移轉ノ必要ヲ生スヘキ場合ニハ道路管理者擬メ逓信官署ニ協議スルコト

二　前號ノ工事ニ要スル費用ハ道路管理者又ハ道路ニ關スル工事ヲ執行スル者ヲシテ負擔セシムルコト

第三　現在ノ郵便柱函

現在道路ヲ占用セル郵便柱函ニシテ第一項第一號ニ適合セサルモノハ漸次改設スルコトトシ一應現在ノモノヲ認ムルコト

（大正九年八月四日　内務省通牒海土第四號）

各地方長官宛

海軍省ニ於テ電柱其ノ他工作物建設ノ爲道路ヲ占用スル場合ニ於テ本年四月一日土逓第一號通牒ト同一ノ要項ニ依ルヘキコトニ協議候條御承知ノ上道路管理者ニ御通達相成度

（大正十年九月九日　内務省通牒陸土第五號）

各地方長官宛

陸軍省所管ノ電柱建設（軍用電信法ニ依ル遊動）ノ爲ニスル路面ノ占用ハ大正九年四月一日逓土第一號通牒要項ニ準據スルモノニシテ協議濟ニ候條御了知ノ上各道路管理者ニ御傳達相成度

●逓信省ニ於テ自働電話所設置ノ爲道路占用ノ件

（大正十年四月六日　内務省通牒逓土第一號）

道廳長官府縣知事宛

逓信省ヨリ自働電話所設置ニ要スル道路占用ノ件不日貴官宛協議セラルル事ト存候就テハ右占用ノ標準ハ左記ニ候ハヽ御承諾相成可然ト存候ニ付爲御參考申進候

第一　自働電話所設置

一　自働電話所ヲ道路ニ設置スル場合ニハ歩道（歩道ノ區別ナキ場合ハ歩道ニ準スヘキ部分）中可成有效幅員ヲ減セサルヲ旨トシ竝木ノ保護道路標識其ノ他ノ附屬物ノ效用ヲ妨ケス且一般交通ニ最モ支障ナキ位置ヲ選ヒテ之ヲ設置スルコト

二　道路ノ曲角ニハ自働電話所ヲ設置セサルコト

三　自働電話ヲ道路ニ設置スル場合ニハ其ノ位置ヲ自働電話所ヲ所轄スル逓信官署ヨリ五日以前道路管理者ニ通知スルコト

四　自働電話所設置ノ爲道路ヲ掘鑿スル必要アルトキハ作業上支障ナキ限リ可成其ノ範圍ヲ狹少ナラシメ且其ノ工事ハ可成敏速ナラシムルコト

五　掘鑿土砂ハ交通ニ支障ナキ場所ニ搬出スルコト

六　道路埋戻ノ際ハ掘鑿前ニ於ケル道路ノ構造ト同等以上ニ復舊スルコト但シ特別ナル工法ヲ以テ舖裝セル道路ノ路面工事ハ占用者ノ負擔ニ於テ道路管理者之ヲ爲スコト

七　自働電話所設置ノ爲道路ニ關スル工作物竹木等ノ移轉伐採等ヲ必要トスル場合ニハ道路管理者ニ照會シタル上相當處理スルコト

八　前項ノ移轉伐採等ヲ爲ストキハ道路管理者ノ立會ヲ求ムルコト

九　前二號ニ依ル損害ノ補償金額ハ協議ノ上之ヲ定ムルコト

第二　道路工事ニ伴フ自働電話所ノ移轉

一　道路改築ノ爲又ハ其ノ他ノ事情ニ因リ自働電話所移轉ノ必要ヲ生スヘキ場合ニハ道路管理者ニ於テ豫メ自働電話ヲ所轄スル逓信官署ニ協議スルコト

二　前號ノ移轉工事ニ要スル費用ハ道路管理者又ハ道路ニ關スル工事ヲ執行スル者ヲシテ負擔セシムルコト

第三　現在ノ自働電話所

既ニ道路ニ設置シアル自働電話所ニシテ第一項第一號及第二號ニ適合セサルモノハ漸次改設スルコトトシ一應現在ノモノヲ認ムルコト

●陸地測量部所管水準點ノ建設竝移轉ノ爲道路占用ノ件

（大正十年六月一日　内務省通牒發土第六五號）

道廳長官府縣知事宛

陸軍省ヨリ陸地測量部所管水準點ノ建設竝移轉ニ關シ別紙要項ニ依リ道路占用方協議有之候節ハ協議ニ應セラレ可然ト存候ニ付御參考ノ爲及通牒候

陸地測量部所管水準點ノ建設竝移轉ニ關スル要項

第一　水準點標石（又ハ木標）ノ建設

一　標石（又ハ木標以下之ニ準ス）埋設地點ヲ選定シタルトキハ假杭ヲ以テ其ノ位置ヲ標識シ其ノ位置ヲ圖示シタル圖面ヲ添ヘ成ルヘク速ニ道路管理者ニ通知スルコト

二　前項管理者其位置ニ支障アリト認メタルトキハ速ニ測量官ノ立會ヲ求メ位置ノ變更ヲ協議スルコト

三　道路ヲ占用シテ標石ヲ建設スル場合ニ於テハ路肩其ノ他適當ナル箇所（側溝法敷ヲ除クノ外利用シ已ムヲ得サル場合ニハ其ノ一側ニ於テ成ルヘク一般交通ニ支障ナキ位置ヲ選フコト

四　標石建設ノ際一般交通ニ最モ支障ナカラシムルコト

五　道路ノ曲角及路上建設物ト五間以内ニ於テ竝立セル地點ヲ避クルコト

六　交通上支障アル地點ニ建設ヲ要スルトキハ埋設法ニ依リ其ノ上方ヲ交通シ得セシムル如クスルコト

七　建設作業ハ努メテ速ニ竣工セシメ且ツ其除土及物件堆積ノ爲交通ヲ妨ケサル如クスルコト

八　標石建設ノ爲道路ヲ掘鑿スルニハ作業上支障ナキ限リ成ルヘク其範圍ヲ狹少ナラシムルコト

九　標石建設ノ爲道路ノ掘鑿ヲ要スルトキハ掘坑ノ周圍ハ勿論鑿土砂又ハ工事用物品ノ置キタル箇所ニハ通行ニ危險ヲ及ホササル樣柵其ノ他設備ヲ爲シ且夜間注意燈ヲ點スルコト

十　道路埋戻ノ際ハ舊道路ノ構造ト同等以上ニ復舊スルコト但シ特別ナル工法ヲ以テ舖裝セル道路ノ路面工事ハ占用者ノ負擔ニ於テ道路管理者之ヲ施行スルコト

第二　既設點ノ移轉改埋

十一　既設水準點標石カ道路工事ノ支障トナリタルトキハ道路管理者ハ該點ノ番號所在ヲ指摘シ之カ移轉ヲ陸地測量部ニ請求スルコト

十二　陸地測量部前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ該點ノ移轉改埋ニ要スル經費ノ豫算書ヲ添ヘ實施則日ヲ道路管理者ニ通知スルコト

十三　前項ノ實施ニ當リ移轉地ノ選定及標石建設ニ關シテハ第一ノ要項ニ準スルコト

十四　道路工事ノ都合ニヨリ至急水準點ノ撤去ヲ要スルカ又ハ該點ノ移轉改埋作業ニシテ道路工事ノ竣成後ニアラサレハ實施シ難キ場合ニ在リテハ臨地測量部ハ道路工事擔任官ニ於テ隨意標石ヲ撤去シ之ヲ保管スル樣道路管理者ニ通知シ適當ノ時期ニ至リ前項ノ如ク實施スルコト

十五　標石ノ移轉改埋及改測ニ要スル經費ハ（標石、磐石、石蓋及防衞石代ヲ除ク）一切移轉請求者ノ負擔タルコト

●道路法第六十七條ノ規定適用ニ關スル件

（大正九年七月二十一日　内務省通牒發土第八〇號）

「道廳府縣長官宛」

道路法第六十七條ノ規定ニ依リ管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做サレタル事項ニシテ舊法ニ依ル許可又ハ承認ノ條件ニ違反スルモノノ道路法ノ定規ニ適合セルモノ等其ノ儘之ヲ存續セシムルコト能ハサルモノニ對シ同條但書ノ規定ヲ適用スヘキ筋合ニ有之候而シテ右但書ノ適用上往々但書ノ規定ニ依リ失效ノ告示ヲ爲スト同時ニ關係者ニ對シ告示中ニ指定シタル期間ノ經過ニ依リ管理者ノ許可又ハ承認ノ效力ヲ失フヘキ旨ヲ通知セル地方モ有之候處若シ貴管内ニ於テ右樣ノ事實有之而モ將來引續キ許可又ハ承認ヲ與フルモ支障ナキモノニ付テハ告示中ニ指定シタル期間内ニ更ニ許可又ハ承認ノ手續ヲ了シテ其ノ效力ヲ繼續セシメ關係者ニ對シ不便ヲ與フルコトナキ樣管理者ニ對シ御注意相成度尙其ノ儘之ヲ存續セシムルコト能ハサルモノニ付テモ幾分ノ改訂ヲ加ヘ許可又ハ承認ヲ爲シ得ヘキモノハ速ニ改訂ヲ加フヘキ廉ヲ指示スル等相當便宜ノ措置ヲ講スル樣管理者ニ對シ御指示相成度

●道路工事執行令

（大正九年十一月八日　内務省令第三十六號）

道路法第三十一條ノ規定ニ依リ道路ノ工事執行方法ニ關スル件左ノ通定ム

道路工事執行令

第一條　道路工事執行ノ方法ハ直營及請負トス

第二條　左ニ揭クル場合ニ於テハ直營ト爲スヘシ

一　請負ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ

二　急施ヲ要シ請負ニ付スルノ暇ナキトキ

三　請負契約ヲ締結スルコト能ハサルトキ

四　特ニ直營ト爲スノ必要アリト認ムルトキ

第三條　請負ニ付セムトスルトキハ一般競爭入札ニ付スヘシ

第四條　左ニ揭クル場合ニ於テハ三名以上ヲ指名シ競爭入札ニ付スルコトヲ得

一　一般競爭入札ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ

二　急施ヲ要シ一般競爭入札ニ付スルノ暇ナキトキ

三　一般競爭入札ニ付スルモ入札人ナキニ付スルノ暇ナキトキ

四　特ニ指名競爭入札ニ付スルモ入札人ナキニ又ハ落札人ナキトキ

第五條　左ニ揭クル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　競爭入札ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ

二　急施ヲ要シ競爭入札ニ付スルノ暇ナキトキ

三　競爭入札ニ付スルモ入札人ナキトキ又ハ落札人ナキトキ

四　豫定價格國道、府縣道、地方費道又ハ道路法第十七條但書ノ規定ニ依ル市ノ市道ニ在リテハ二千圓未滿郡道、準地方費道、道路法第十七條但書ノ規定ニ依ラサル市ノ市道又ハ區道ニ在リテハ千圓未滿町村道ニ在リテハ五百圓未滿ナルトキ

五　競爭入札ニ付スルコト能ハサルトキ

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ入札人若ハ請負人又ハ其ノ代理人トナルコトヲ得ス

一　無能力者

二　破產者ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨濟ヲ了ヘサル者

三　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

五　責付又ハ保釋中ノ者

六　入札又ハ請負ニ關シ不正ノ行爲アリタル後二年ヲ經過セサル者

道路管理者ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外市區町村ト請負契約ヲ締結スルコトヲ得ス

第七條　一般競爭入札ハ入札期日ヨリ五日前入札ニ必要ナル事項ヲ公告スヘシ

第八條　入札人ハ左ニ揭クル要件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ道路管理者ニ於テ相當ト認ムル學識經驗ヲ有スル技術者ヲシテ工事ヲ擔當セシムルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

一　引續キ二年以上土木請負業ニ從事スルコト

二　其ノ他地方長官ノ定ムル要件

第九條　入札ヲ爲サムトスル者ハ入札金額ノ百分ノ三以上ノ入札保證金ヲ納付スヘシ但シ指名競爭入札又ハ豫定價格二千圓未滿ノ工事ニ付テハ之ヲ減免スルコトヲ得

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル入札ハ之ヲ無效トス

一　本令、本令ニ基キテ發スル命令又ハ道路管理者ノ定ムル入札條件ニ違反シタルトキ

二　入札人又ハ其ノ代理人二以上ノ入札ヲ爲シタルトキ

三　入札人協定シテ入札ヲ爲シタルトキ

四　入札ニ際シ不正ノ行爲アリタルトキ

第十一條　入札人中豫定價格以内ニシテ豫定價格ノ三分二ヲ下ラサル最低價格ノ入札ヲ爲シタル者ヲ以テ落札人トス但シ設計附入札ニ在リテハ設計及入札金額ニ依リ落札人ヲ定ム

同一ノ入札アリタルトキハ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ム

落札人ナキトキハ直ニ再入札ニ付スルコトヲ得

第十二條　落札人ハ落札ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ道路管理者ト請負契約ヲ締結シ契約書ヲ作成スヘシ

落札人前項ノ期間内ニ請負契約ヲ締結セサルトキハ落札ハ其ノ效力ヲ失フ

第十三條　請負人ハ請負金額ノ百分ノ十以上ノ契約保證金ヲ納付スヘシ但シ指名競爭入札又ハ隨意契約ノ方法ニ依リ請負契約ヲ締結スル場合ニ在リテハ之ヲ減免スルコトヲ得

第十四條　入札保證金及契約保證金ハ國債證券、地方債證券、勸業債券農工債券、拓殖債券、興業債券其ノ他道路管理者ニ於テ適當ト認ムル有價證券ヲ以テ代用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ國債證券ハ其ノ額面金額ニ依リ其ノ他ハ該地方ニ於ケル前月市場價格ノ十分八ヲ以テ之ヲ換算ス

第十五條　入札保證金ハ入札終了後之ヲ還付ス但シ落札人ニ對シテハ契約保證金納付ノ際之ヲ還付ス

契約保證金ハ工事完成後之ヲ還付ス但シ契約ニ依リ增保義務終了迄其ノ全部又ハ一部ヲ留保スルコトヲ得

第十六條　請負人ハ道路管理者ノ承諾ヲ得スシテ工事ノ執行ヲ他人ニ委託スルコトヲ得ス

第十七條　請負人ハ工事ノ執行ニ付道路管理者ノ指揮監督ニ從フヘシ

第十八條　請負人ハ工事竣功シタルトキ道路管理者ノ檢查ヲ受クヘシ

第十九條　請負人天災事變其ノ他正當ノ事由ニ依リ契約期間内ニ工事ヲ竣功スルコト能ハサルトキハ道路管理者ニ期間ノ延長ヲ求ムルコトヲ得

第二十條　契約期間内ニ工事ヲ竣功セサルトキハ遲延日數一日ニ付請負金額千分一ノ違約金ヲ徵收ス

前項ノ違約金ハ請負金額中ヨリ之ヲ控除ス

第二十一條　左ニ揭クル場合ニ於テハ道路管理者ニ契約ヲ解除スルコトヲ得

一　契約期間内ニ工事ノ竣功ノ見込ナキトキ

二　工事ノ執行ニ付不正ノ行爲アリタルトキ

三　正當ノ事由ナクシテ管理者ノ指揮監督ニ從ハサルトキ

四　本令、本令ニ基キテ發スル命令又ハ契約ニ違反シタルトキ

第二十二條　前條ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ工事ノ既成部分ニ對シ道路管理者ニ於テ相當ト認ムル金額ヲ交付スル契約無效ノ場合亦同シ

第二十三條　入札ニ付不正ノ行爲アリタルトキ又ハ第十二條第二項ノ規定ニ依リ落札其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ入札保證金ヲ沒收ス

第二十一條ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ契約保證金ヲ沒收ス

請負人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ依リ契約無效トナリタル場合亦同シ

前二項ノ規定ニ依リ沒收シタル保證金ハ道路管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス

第二十四條　道路管理者ハ請負人ニ對シ工事ノ出來形ニ相當スル金額ノ十分八以内ノ假拂ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　本令ニ規定セサル事項ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第二十六條　道路法第十八條第二項ノ規定ニ依ル管理者竝道路管理者ニ非サル者ニ於テ工事ヲ執行スル場合及北海道拓殖費ヲ以テ工事ヲ執行スル場合ハ本令ヲ適用セス

第二十七條　本令ハ工事ニ要スル物件ヲ購入、借入又ハ勞力供給ノ場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●道路ニ關スル工事取締ニ關スル件

（大正十一年七月二十六日　内務省通牒發土第八七號）

「各地方長官宛」

道路ニ關スル工事ハ管理者ニ於テ之ヲ執行スルト其ノ他ノ者ニ於テ管理者ノ許可承認ヲ受ケ之ヲ執行スルトヲ問ハス其ノ施行ニ當リテハ力メテ道路交通上ニ支障ヲ生セサラシムヘキハ勿論ノ義ニ有之候處往々右ノ趣旨ニ副ハサルモノモ有之道路利用上遺憾少カラサルニ付自今左記要項ニ依リ措置相成候樣致度尙此旨管下道路管理者ニモ御通達相成度

記

一　各起業者カ道路ノ同一箇所ニ於テ各自別ニ工事ヲ施行スルカ如キコトナキ樣豫メ計畫ヲ定メ協定ノ上同時ニ施工スルコト

二　道路ノ掘鑿ハ作業上支障ナキ限リ可成其ノ範圍ヲ狹小ナラシメ且同時ニ長區間ニ亙リ施行セサルコト尙其ノ工事ハ成ルヘク之ヲ敏速ナラシムルコト

三　道路ヲ橫斷シテ掘鑿スル場合ハ一側ノ掘鑿ノ終リタル後ニ完全ナル棧橋ヲ架設シタル後他側ノ掘鑿ヲ爲スコト但シ二部ニ分チ施工シ能ハサルトキハ夜間交通杜絕シタル後ニ於テシ日出迄ニ棧橋ヲ架設スルコト

四　人家ノ軒先ニ接近シテ道路ヲ掘鑿スル場合ハ居住者ノ出入ヲ妨ケサル樣棧橋ヲ架設スルコト

五　掘鑿土砂ハ交通ニ支障ナキ場所ニ搬出シ堰坑附近ニハ成ルヘク之ヲ堆積シ置カサルコト

六　堰坑ノ周圍ハ勿論掘鑿土砂又ハ工事用物品ヲ置キタル箇所ニハ通行人ニ危險ヲ及ホササル樣柵其ノ他ノ設備ヲ爲シ且夜間ハ注意燈ヲ點スルコト

七　市内ノ主要ナル道路其ノ他交通頻繁ナル道路ニ於テ工事ヲ執行スルニ當リテハ其ノ工事施行箇所ニ工事施行期間及起業者名（起業者カ府縣又ハ市ナルトキハ其ノ工事ヲ擔當スル部局名）ヲ揭示セシムルコト

倘請負者ヲシテ工事ヲ執行セシムルトキハ請負者名ヲモ併記セシムルコト

八　道路ノ掘坑ハ成ルヘク速ニ埋戻ヲ爲スコト

九　道路埋戻ノ際ハ舊道路ノ構造ト同等以上ニ復舊スルコト但シ特別ナル工法ヲ以テ鋪裝セル道路ノ路面工事ハ起業者ノ負擔ニ於テ道路管理者之ヲ施行スルコト

●道路維持修繕令（大正十年五月二十八日内務省令第十五號）

【沿革】大正十一年四月省令第一〇號、同十四年九月同第一六號ヲ正

道路法第三十一條ノ規定ニ依リ道路維持修繕ニ關スル件左ノ通相定ム

道路維持修繕令

第一條　實用路面ノ維持、修繕ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外當初ノ築造方法ニ應シ適當ニ之ヲ執行スヘシ

塵埃、泥土、土芝等ハ路面ノ維持修繕ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

實用路面ノ築造ニ適合セサル栗石、荒砂利等ハ之ヲ車轍又ハ輪窪ニ塡充スルコトヲ得ス

第二條　實用路面ハ其ノ種類ニ應シ適當ナル橫斷形狀ヲ保持セシムヘシ

第三條　路肩ハ特殊ノ箇所ヲ除クノ外實用路面ノ橫斷勾配ニ準シ之ヲ整理シ路面ノ排水ニ支障ナカラシムヘシ

第四條　必要アル箇所ニハ撒水、注油其ノ他適當ナル處理ヲ爲スヘシ

第五條　路面ハ常ニ之ヲ掃除シ其ノ鋪裝シタル箇所ハ必要ニ應シ之ヲ洗滌スヘシ

側溝其ノ他直接道路ノ排水ニ必要ナル施設ハ常ニ注意シテ水行上支障ナカラシムヘシ道路ノ防水ニ必要ナル遮溝等ニ付亦同シ

第六條　實用路面ノ積雪及結氷ハ遲滯ナク之ヲ除却スヘシ但シ雪上ノ交通ヲ便トスル箇所又ハ交通稀ナル箇所ニアリテハ此ノ限ニ在ラス

結氷ヲ除却スルコト能ハサル場合ニ於テハ路面ノ危滑防止上適當ナル處理ヲ爲スヘシ

第七條　橋梁ノ各部材ハ常ニ其ノ狀態ニ注意シ所定ノ耐力ヲ保持セシムヘシ

塗料ヲ施シタル橋梁ハ相當期間毎ニ之ヲ塗換ヘ其ノ保存ニ注意スヘシ

第八條　駒寄、雪除工等ハ特ニ其ノ保守ニ注意シ異狀アルトキハ直ニ應急ノ處理ヲ爲スヘシ

第九條　道路元標、里程標及道路標識ハ常ニ其ノ保守ニ注意シ必要ニ應シ修繕ヲ爲スヘシ特ニ徐行標、危險標等ノ記號又ハ文字ハ常ニ之ヲ明瞭ナラシムヘシ

第十條　左ニ揭ク事項ハ每年二回以上之ヲ執行スヘシ

一　法面ニ生スル障碍植物ノ除却其ノ他法面ノ掃除

二　石垣其ノ他ノ壁面ニ生スル障碍植物ノ除却

三　橋梁溝橋ノ水行ニ關スル障碍ノ除却

第十一條　出水ノ場合ニ於テハ河川其ノ他水流、水面ノ漂流物ニ注意シ橋梁、溝橋ノ危害豫防上必要ナル處理ヲ爲スヘシ

第十二條　竝木及道路ニ必要ナル樹木ハ之ヲ保護シ必要ニ應シ手入ヲ爲スヘシ街路ニ存スル花苑及芝生ニ付亦同シ

竝木ニ缺位ヲ生シタルトキハ之ヲ補植スヘシ

第十三條　左ニ揭ク場合ヲ除クノ外竝木及道路ニ必要ナル樹木ヲ伐採スルコトヲ得ス

一　枯損ニ係ルトキ

二　障碍ニ係ルトキ

三　非常災害又ハ危害防止ノ爲緊急ノ必要アルトキ

前項各號ノ場合ニ於テ竝木及道路ニ必要ナル樹木ヲ伐採シタルトキハ其ノ位置、種類、員數、價格竝伐採ノ事由ヲ具シ六ケ月每ニ之ヲ監督官廳ニ報告スヘシ

障害除却ノ爲必要アルトキハ竝木及道路ニ必要ナル樹木ノ枝打ヲ爲スコトヲ得

第十四條　道路ノ維持及修繕ノ爲道路工夫ヲ常置シ其ノ受持區域ヲ定メ服務セシムヘシ

第十五條　道路修理用材料常置場ヲ設ケ必要ナル材料ヲ保藏スヘシ

第十六條　町村道ニ付テハ前二條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第十七條　街路ノ清潔ヲ保持スル爲必要ナル掃除夫ヲ常置スヘシ

第十八條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●道路維持修繕令第十三條第一項第三號竝木伐採ノ件

（大正十一年十月三日内務省通牒發甲第四三號）

「道廳長官、府縣知事宛」

道路維持修繕令第十三條第一項第三號ノ規定ハ竝木ノ存在スル爲災害ノ範圍ヲ擴大シ又ハ危害ノ原因トナリ之ヲ急速ニ伐採除却スルニ非サレハ災害者ハ危害ヲ防止スルコトヲ得サル場合ニノミ適用スヘキモノニシテ應急假手當用材トシテ竝木伐採ノ場合ハ不可然義ニ付將來御留意相成度

●道路法ニ依リ橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スルコトヲ得ル橋梁又ハ渡船場設置ニ關スル取扱方

（大正九年七月二十八日内務省令第二十三號）

道路法ニ依リ橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スルコトヲ得ル橋梁又ハ渡船場設置ニ關スル取扱方左ノ通定ム

第一條　道路法第二十六條ノ規定ニ依ル申請書ニハ左ノ圖書ヲ添附スヘシ

一　地形圖（接續道路其ノ他ノ道路系統ヲ記入スヘシ）

二　工事方法書及圖面（橋梁縱斷面圖又ハ渡船位置河川橫斷面圖ニハ接續道路トノ取付關係、河底、平水位及最高水位ヲモ記入スヘシ）

三　工費豫算書

四　收支豫算明細書

五　橋錢又ハ渡錢ノ額

六　徵收期間

七　元資銷却年次表

八　工事着手及竣功ノ年月日

第二條　道路法第五十二條第三號第五號ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　前條申請書及其ノ添附圖書ノ謄本

二　道路法第二十條及第二十七條ノ規定ニ依ルコトヲ得サル事由

三　申請人私人ナルトキ地元公共團體ニ於テ之ヲ經營スルコトヲ得サル事由（管理者ト地元公共團體トノ交渉顚末書ヲ添附スヘシ）

四　申請人私人ナルトキハ其ノ信用及資產ノ狀態

五　許可又ハ承認ニ付スル條件

他ノ法令ニ依リ許可、認可其ノ他ノ手續ヲ要スルトキハ前項ノ認可申請ト同時ニ管理者之ヲ爲スヘシ

第三條　橋梁又ハ渡船場設置ノ許可承認ニ關シ道路法第五十二條但書ノ規定ニ基ク命令ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ要セサルモノハ處分ノ日ヨリ十日內ニ申請書及附屬圖書ノ謄本ヲ添附シ處理ノ要領ヲ監督官廳ニ報告スヘシ

第四條　橋梁又ハ渡船場ノ工事竣功シタルトキハ工費精算書ヲ添ヘ道路管理者ノ檢查ヲ受クヘシ

第五條　管理者ハ橋梁又ハ渡船場ノ工事其ノ他必要ト認ムル事項ヲ隨時監查スヘシ

管理者ハ許可ヲ受ケタル者ニ說明ヲ求メ關係帳簿、書類、圖面等ヲ檢閱スルコトヲ得

第六條　管理者橋錢又ハ渡錢徵收期間中公益上ノ必要ニ依リ道路法第二十六條ノ規定ニ依ル許可又ハ承認ヲ取消シタルトキハ元資銷却年次表ニ依ル未銷却額ヲ補償スヘシ

道路法第二十六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ國又ハ公共團體ヨリ請求アリタルトキハ許可ニ依リ生スル權利義務ノ移轉ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ國又ハ公共團體ハ前項ノ規定ニ依ル金額ヲ補償スヘシ但シ協議ニ依リ之ニ異ナル補償金額ヲ定ムルコトヲ得

第七條　管理者橋錢又ハ渡錢徵收期間中公益上ノ必要ニ依リ橋錢又ハ渡錢ノ徵收ヲ停止シタルトキハ收支豫算明細書ヲ參酌シテ補償金額ヲ定ムヘシ

第八條　第一條ノ規定ハ道路法第二十七條ノ規定ニ依ル橋梁又ハ渡船場ノ設置ニ關スル認可申請ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●賃取橋等整理ニ關スル件

（大正九年一月十七日　內務省通牒發土第二號）

「各地方長官宛」

現今私人ノ經營ニ係ル賃取橋ヲ觀ルニ往往營利ノ目的ヲ以テ之ヲ經營セルモノアリ其ノ然ラサルモノニアリテモ收支ノ計算ヲ謬リ免許年限ノ延長ヲ計ルモノアルノミナラス又其ノ維持修繕ヲ怠ルカ爲メ交通上危險ヲ惹起スルノ慮アルモノ少カラサルハ道路改良上極メテ遺憾ノ次第ニ有之候條道路法ノ施行ヲ期トシ費用負擔團體ノ資力ニ鑑シ相當之ヲ整理スルノ必要ヲ認ムル次第ニ有之候依テ道路法ニ依リ認定セントスル府縣道ノ路線中ニ賃取橋賃取渡船場アルトキハ名稱、位置徵收期限及其ノ路線名ヲ記載シ其整理ニ關スル意見書ヲ添附スヘキ旨客年十一月發土第一五一號ヲ以テ通牒シタル次第ニ有之候處右整理ノ方針ニ付テハ大體左記ノ通決定相成候條右ニ依リ相當御措置相成度

記

一　國道及府縣道上ニ有スル賃取橋賃取渡船場ハ道路法第二十七條ノ規定ニ依リ可成管理者ヲシテ之ヲ經營セシムルコト

二　郡道町村道上ニ存スル賃取橋賃取渡船場ニ付テモ之ニ準スルコト但シ市內ニ於ケル市道上ニハ賃取橋賃取渡船場ヲ認メサルコト

三　管理者ニ於テ之ヲ經營スルコト能ハサル事由アル場合ニ於テハ道路法第二十六條ノ規定ニ依リ郡市町村等ノ地元公共團體ヲシテ之ヲ經營セシムルコト

四　前三項ニ依リ難キ事由アル場合ニ非サレハ私人ヲシテ之ヲ經營セシメサルコト

●道路費國庫補助規程

（大正十年一月二十九日　內務省令第一號）

【沿革】　大正十五年八月省令第三八號ヲ以テ改正

道路法第三十五條ノ規定ニ依ル道路費國庫補助規程左ノ通定ム

第一條　道路法第三十五條ノ規定ニ依ル國庫補助ハ當該年度豫算內ニ於テ本令ニ依リ之ヲ行フ

第二條　國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ノ國庫補助ハ二分一トス但シ特ニ必要ト認ムル場合ニ限リ補助ノ率ヲ高ムルコトヲ得

第三條　府縣道以下ノ道路ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ノ國庫補助ハ三分一トス但シ特ニ必要ト認ムル場合ニ限リ補助ノ率ヲ高ムルコトヲ得

第四條　國庫補助ノ算定ニ付テハ道路法第三十九條ノ規定ニ依ル負擔額及第四十一條ノ規定ニ依ル道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ノ負擔額ヲ補助基本額ニ加算シテ補助金ヲ定ムルコトヲ得

第五條　補助金ハ支出額ニ應シ之ヲ交付ス

第六條　補助基本額決算ノ結果減少シタルトキハ國庫補助ヲ減額ス

決算ノ際換價シ得ヘキ物件殘存スルトキハ其ノ使途ニ付內務大臣ノ認可ヲ得タルモノヲ除クノ外其ノ時價ニ相當スル金額ヲ補助基本額ヨリ控除ス

第七條　國庫補助ノ條件ニ適合セサルトキハ補助ヲ取消シ又ハ停止シ交付シタル補助金ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

第八條　國庫補助ノ必要アルモノニ付テハ道路管理者其ノ工事ノ計畫書、圖面及補助ヲ受クヘキ公共團體ノ收支豫算書ヲ內務大臣ニ提出スヘシ

第九條　道路管理者工事ヲ竣功シタルトキハ內務大臣ニ竣功ノ認定ヲ申請スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國道改良費國庫補助ノ件

（大正九年十月十三日　內務省通牒發土第一二二號）

「各府縣知事宛」

國道ノ改良ハ近代交通ノ發達ニ順應スルヲ要ス從テ工費ハ無慮三億圓ノ巨額ニ上リ殆ント其全長ニ渉ルト雖先ツ急施ヲ要スル架橋又ハ險路ノ開鑿ニ著手スルコトアルヘキハ必然ノ義ト存候處斯カル場合ニ於テハ改良後ニ於ケル道路トノ取付ノ關係等ヲ愼重考慮シ架橋隧道又ハ切割ノ位置ニ關シ悔ヲ將來ニ遺ササル樣先以テ其道路ノ改良計畫ヲ樹立シ其ノ一定計畫ニ基キ路線ノ不動地點間ニ起工スルモノニ非サレハ國庫補助ノ趣意不相成答ニ候條右御含ノ上改良計畫ヲ樹テラレ度

●國庫補助道路工事工程報告ノ件

（大正九年十二月二十三日）
（内務省通牒發土第一三九號）

地方長官宛

國庫補助ヲ受ケ施行スル道路ニ關スル工事ノ工程ヲ別表ニ依リ第一表ニ在リテハ毎年三、六、九、十二月現在ヲ各月翌十日迄ニ御報告相成度
追テ從來施行ノ工事ニ關シテ本月末現在ヲ大正十年一月二十日迄ニ御報告相成度

第一表

何々道路國庫補助工事功程報告　大正　年　月末現在

府廳名、

種別	認可計畫高	出來形 前期迄一當期	出來形 歩合	摘要
道路工	延長間	間	間	
橋梁工	延長箇所數			
隧道工	延長箇所數			

第二表

何々道路國庫補助工事功程月報　大正　年　月末現在

工種別	種別	設計高	出來形 前月迄一當月	仕拂高 前月迄一當月	出來形 歩合	摘要
道路	切取及盛土	立坪				
	擁壁工	面坪				
	路面工	面坪				
橋梁	橋臺	基				
	橋脚	基				
	橋體	面坪				
	雜工事	圓				
	小計	圓				
隧道	引立	圓				
	切擴	立坪				
	卷立	圓				
	雜工事	圓				
	小計	圓				
雜工事	雜工事	圓				
	小計	圓				
何々	橋	間				

計			
道路工事費	圓	圓	
橋梁工事費			
隧道工事費			
土地買收費			
物件移轉其他補償費			
雜費			
計			

備考

1　工事ノ種別ニ依ル出來形トハ工事ノ竣工シタルト工事費ノ支拂ヲナルトニ關セス工事進捗ノ程度ヲ示スモノトス

2　濟ト工事費ノ種別ニ依ル出來形トハ工事費支出額ヲ示スモノトス

3　出來歩合欄ハ百分率ヲ以テ示スモノトス

事	雜工事	圓
	小計	圓
橋梁工事	橋臺	基 圓
	橋脚	基 圓
	橋體	面坪 圓
	雜工事	圓
	小計	圓
隧道工事	引立	圓
	切擴	立坪 圓
	卷立	圓
	雜工事	圓
	小計	圓
雜工事	潰地買收	面坪 圓
	物件移轉及其他報償費	圓
	雜費	圓
	合計	圓

備考

出來形トハ工事ノ竣功部分又ハ支拂高ノ如何ニ關セス工事進捗ノ程度ヲ云フ
出來形歩合欄ニハ出來形（當月迄）ト設計高（前年度繰越トモ）トノ割合ヲ記入スルコト

●道路取締令

（大正九年十二月十六日　内務省令第四十五號）

【沿革】　大正十四年十月省令第二三號改正

道路法第四十九條ノ規定ニ基キ道路取締令左ノ通定ム

道路取締令

第一條　道路ヲ通行スル者ハ左側ニ依ルヘシ

第二條　歩道、車道等ノ區別アル道路ニ於テハ其ノ區別ニ從ヒ通行スヘシ

除伍、神輿、葬列其ノ他ノ行列ハ車道ヲ通行スヘシ但シ兒童、幼兒ノ除伍ハ此ノ限ニ在ラス

小兒車ハ歩道ヲ通行スヘシ

第三條　牛車、馬車、自動車其ノ他ノ重キ車輛ハ歩道ヲ横切ルヘカラス但シ通路ニ特別ノ裝置アル場合又ハ最寄警察官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

牛、馬、諸車等ハ斜ニ道路ヲ横切ルヘカラス

地方長官必要ト認ムルトキハ交通頻繁ナル道路ニ於テ特ニ指定シタル場所ノ外區域及時間ヲ限リ車道ノ横斷ヲ禁止スルコトヲ得

第四條　牛、馬、諸車等ハ夜間燈火ヲ用ヰスシテ通行スヘカラス

地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ニ異リタル規定ヲ設クルコトヲ得

第五條　牛、馬、諸車等前方ニ在ル者ヲ追越ス場合ハ止ムヲ得サルトキヲ除クノ外前者ハ左方ニ避ケ後者ハ其ノ右方ヲ通過スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ後者ニ於テ警鐘器ヲ鳴ラシ又ハ掛聲其ノ他ノ合圖ヲ爲シ前者ノ避クルヲ待チテ通行スヘシ

第六條　進行中ノ消防車、郵便車、傷病人運搬車及除伍、神輿、葬列ニ對シテハ避讓スヘシ

第七條　牛、馬、諸車等ハ左ノ場合ニ於テハ警鐘器ヲ鳴ラシ又ハ掛聲其ノ他ノ合圖ヲ爲シ徐行スヘシ

一　道路ノ交叉點、曲角其ノ他屈曲ノ場所又ハ雜沓ノ場所ヲ通過スルトキ

二　第三條第三項ノ規定ニ依リ地方長官ノ特ニ指定シタル場所ヲ通過スルトキ

三　歩道ヲ横切ルトキ

四　安全地帶ノ設ケナキ停留場ニ在ル電車ノ側方ヲ通過スルトキ

牛、馬、諸車等坂路、隧道又ハ橋梁ヲ通過スルトキハ徐行スヘシ

牛、馬、諸車等道路交叉ノ場所ニ於テ右折セムトスルトキハ道路ヲ横切リタル後右方ニ轉向スヘシ

第一項第四號ノ場合ニ於テ乘降客輻輳スルトキハ牛、馬、諸車等ハ一時進行ヲ停止スヘシ

第八條　牛、馬、諸車等ハ夜間燈火ヲ用ヰスシテ通行スヘカラス

地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ニ異リタル規定ヲ設クルコトヲ得

第九條　鐵道又ハ軌道ノ踏切ヲ通過セムトスルトキハ汽車、電車等ノ接近セサルコトヲ確メタル後通行スヘシ

第十條　牛、馬、諸車等ハ安全地帶内ヲ通行スヘカラス

第十一條　道路ノ交叉點、曲角、隧道又ハ橋梁等ニ牛、馬、諸車等ヲ駐ムヘカラス

牛、馬、諸車等ヲ道路ニ駐ムルトキハ其ノ左側端ニ於テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ牛馬等ノ奔逸ヲ防クニ必要ナル措置ヲ爲スヘシ但シ立木、道路元標、里程標及道路標識等ニ之ヲ繫クヘカラス

第十二條　荷車ノ輪帶幅ハ左ノ制限ニ從フヘシ

牛車	三寸五分以上、四輪車ニ在リテハ其ノ前輪ヲ後輪ノ二分ノ一迄縮小スルコトヲ得
馬車	三寸以上　同上
大車荷臺ノ面積十八平方尺以上ノモノ	二寸以上
無限軌道其ノ他道路ヲ損傷セサル特別ノ裝置ヲ爲セル車ニ在リテハ其ノ裝置ノ幅ヲ以テ前項ノ輪帶幅ト看做ス	

第十三條　荷車ノ積載量ハ車體ノ重量ヲ合セ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

自動車	千四百貫
牛車	四輪車　五百五十貫 其ノ他　四百　貫
馬車	四輪車　五百　貫 其ノ他　三百五十貫
大車	二百貫

第十四條　荷車ノ積荷ノ容積ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一　高

自動車ニ在リテハ荷臺ヨリ八尺
其ノ他ノ荷車ニ在リテハ六尺

二　前後ノ出幅　荷臺ヨリ各二尺

三　左右ノ出幅　荷臺ヨリ各一尺

自動車ニ依ル積荷ハ之ヲ車體ノ前後左右ニ突出セシムルコトヲ得ス

第十五條　地方長官ハ土地ノ狀況、道路、橋梁又ハ車輛ノ構造若ハ裝置ニ依リ第十二條第一項、第十三條及第十四條ノ制限ニ異リタル規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條　第十三條、第十四條ノ規定又ハ第十五條ニ基ク命令ニ依ル荷車ノ積載量、其ノ積荷ノ容積ノ制限ヲ超ユル物ニシテ分割スヘカラサル場合ハ出發地警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

第十七條　管理者ハ道路ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ道路ノ通行ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十八條　地方長官ハ危險豫防上其ノ他公安上必要ト認ムルトキハ道路ノ通行ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

警察官吏ハ危險豫防上其ノ他公安上必要ト認ムルトキハ一時道路ノ通行ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十九條　道路ヲ損壞シ又ハ道路ニ物ヲ置ク場合ニハ繩張、點燈其ノ他危險豫防ニ必要ナル裝置ヲ爲スヘシ

第二十條　沿道ノ土地ニ物ヲ堆積シ又ハ立テ置クトキハ倒壞、崩落ヲ防クニ必要ナル裝置ヲ爲スヘシ

第二十一條　道路又ハ沿道ノ土地ニ於テ工作物ヲ建設、撤去若ハ修繕シ又ハ其ノ他ノ作業ヲ爲ストキハ土砂、瓦石、竹木、金物等ノ道路ニ飛散又ハ墜落スルヲ防クニ必要ナル裝置ヲ爲スヘシ

第二十二條　警察官署ハ道路及沿道ノ土地ニ於ケル工作物ヲ建設、撤去若ハ修繕シ及物件ニ付其ノ占有者ニ對シ危險防止其ノ他交通保全ノ爲必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第二十三條　道路ニ於テ物ヲ運搬スルトキハ其ノ飛散、落出、墜落及危險ヲ防ク爲ニ必要ナル裝置ヲ爲スヘシ

第二十四條　道路ニ於テ乘馬又ハ諸車運轉ノ練習ヲ爲スヘカラス但シ交通稀疎ニシテ危險ノ虞ナキ場所ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　交通頻繁ナル道路ニ於テ兒童、幼兒ニ遊戲ヲ爲サシメ又ハ保護者ナクシテ幼兒ヲ步行セシムヘカラス

第二十六條　道路ニ於テ煙火、空氣銃、吹矢ノ類ヲ弄シ又ハ投石、投球等危險ノ行爲ヲ爲スヘカラス

第二十七條　第二條、第三條第一項、第二項、第四條乃至第八條第一項、第十條及第二十五條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第三條第三項ノ規定ニ基ク禁止ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十八條　第十一條、第十三條、第十四條、第十六條、第二十三條、第二十四條及第二十六條ノ規定ニ違反シタル者、第十二條第一項ノ規定又ハ第十五條ノ規定ニ基ク命令ニ依ル輪帶幅ノ制限ニ違反シタル荷車ヲ使用シ若ハ同條ノ規定ニ基ク命令ニ依ル荷車ノ積載量、其ノ積荷ノ容積ノ制限ニ違反シタル者又ハ第十七條、第十八條ノ規定ニ基ク禁止若ハ制限ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十九條　第十九條乃至第二十一條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十二條ノ規定ニ基ク處分ニ違反シタル者ハ百圓以内ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第三十條　前條ノ罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス

法人ニ處罰スヘキ場合ハ其ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第三十一條　本令ニ規定スルモノノ外道路法第四十九條ノ規定ニ基ク命令ハ地方長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ使用スル荷車ノ輪帶幅ハ大正十八年十二月三十一日迄本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

●道路取締令ニ關スル件

（大正九年十二月二十三日）
（内務省通牒警發第三五八號）
各地方長官宛

本月十六日ヲ以テ公布相成道路取締令ノ義來ル大正十年一月一日ヨリ施行相成候處右實施ノ機會ニ於テ取締令規定條項中日常遵守スヘキ事項ヲ一般民衆ニ普ク了解セシメ義務ノ觀念ヲ厚カラシムルニ努メ交通ノ危險ヲ防止シ安全ヲ圖ルニ備フルハ時宜ニ適シタル措置ト被存候尤此邊ニ付テハ從來適應ニ御計畫相成居義ニ有之候得共此際更ニ普及宣傳ヲ圖リ候義ハ適當ノ機會ト存候間特ニ御配慮ノ當省令及貴廳交通取締規則中最モ主要ナル事項ヲ平易ニ摘錄印刷シ貴管下都會地ニ於ケル學校、工場、諸興業場、料理屋、飮食店、浴場、理髮店等公衆ノ頻々出入スル場所其ノ他一般ノ注意ヲ惹起スヘシト認メラルル場所ニ配付若ハ掲示方御取計相成樣致度尙自動車、自轉車等ヲ運轉、操縱シ若ハ使用候者ニ對シテハ取締令ノ趣旨御示達ノ上充分之ヲ嚴守スルニ從順ナラシメ違反行爲ヲ遂行スルコトナキヲ期シ度又一面ニ於テ青年會衞生會等多衆會同ノ機會ヲ利シ時々警察官吏ヲシテ交通取締上必要ノ事項ヲ反覆說述ヲシテ宣傳ニ努メシメ民衆ヲシテ交通上ニ於ケル紀律節制ヲ重ンスルノ習慣ヲ馴致セシメラレ度尙申進候迄モ無之義ニハ候得共本件取締ノ任ニ當リ候警察官吏ニシテ道路ノ通行等ニ當リ規則ノ條項ニ背反スルノ擧措ニ出ツル樣ノコト有之候ニハ一般民衆ニ於テ面白カラサル感想ヲ惹起シ執行ニ及ホスノ影響モ可不尠被存候間取締ノ任ニ在ルモノニ於テモ充分取締規則ノ體得シ以テ範ヲ一般ニ示シ相待テ交通警察ノ目的ヲ達成候樣貴部下ニ御示達相煩度右申進候也

追而本件ハ各地交通事故ノ日常頻發生スルニ顧ミ交通ノ保全ヲ圖ルノ豫防會察上極メテ緊要ナルヲ認メ道路取締令ノ施行ヲ機トシ交通上ニ於ケル義務ノ觀念ヲ一般民衆ニ注入シテ充分自覺ヲ促シ警察ト相待テ良好ナル習慣ヲ馴致スルノ趣旨ニ外ナラサル義ニ有之候間兪顯申進候方法ヲ實行シテ普及宣傳ヲ圖ラルルト共ニ一面相當ノ時機御見計ノ上時々一定ノ期間及場所ヲ限リ警察官吏ヲシテ交通整理ニ當ラシメラレ度尙本件ノ執行ニ當リ候警察官吏中如上ノ趣旨ヲ充分了得セス執行苛察ニ渉リ候樣ノ事有之候テハ徒ラニ民衆ノ反感ヲ來タシ所期ノ目的ヲ達スル能ハサルノ結果ヲ生スヘク懸念被致候間此邊周到ニ御示達相成樣致度候

別紙御參考迄差進候間尙本件御實行相成候計畫ノ大要及印刷物等將來ノ參考迄ニ御送付相成度候樣致度候

道路ヲ通行スルニ付テハ心懸クヘキコト

一　道路ニテハ右側ヲ通ルコト

二　步道ト車馬道トノ區別アル所テハ其ノ區別ニ從ツテ通ルコト

三　步道ト車馬道トノ區別ナキ所テハ人ノ道路ノ右端ニ近ク通ルコト

四　隊伍、神輿、葬列其ノ他ノ行列ハ車道ヲ通ルコト

五　小兒車ハ步道ヲ通ルコト

六　道路ヲ行逢フトキニハ互ニ左ニヨケルコト

七　道路ヲ追越ストキニハ合圖シテ前ノ者ノ左ニヨケルヲ得テ右側ヲ通スコト

八　消防車、郵便車、傷病者運搬車、神輿、葬列ニ對シテハ常ニヨケルコト

九　電車ノ停留場ニ安全地帶アル所テハ其ノ內ニテ安全、地帶ナキ處テハ可成通行ノ妨害トナラヌ樣ニシテ電車ヲ待合ハスコト

十　電車ノ駐ツテ居ル處ヲ車馬ヲ進メルニハ乘客ニ危險ナキ樣ニ心懸ケテ徐行スルコト若シ乘降客ノ込合テ居ル際ニハ一時駐ムルコト

十一　馬ト車ヲ進メル者カ道路ノ交叉點ト曲角ト道路ヲ橫切ルトキニハ合圖ヲナシツツ左ノ樣ニシテ通ルコト

1　道路左側ヨリ右側ニ移ラントスルトキ

2　道路ヲ右ニ折レントスルトキ

3　道路ヲ左ニ折レントスルトキ

4　道路ニテ交通巡査ノ合圖ニヨリ車馬ノ通行ヲ一時駐ムル時ニハ道幅十分殘シテ手前ニトマルコト

十二　牛馬者カ雜沓ノ場所ヲ通ル時ハ合圖ヲナシツツ徐行スルコト

十三　夜間牛ト馬ヲ進ムルニハ燈火ヲツケルコト

十四　往來ヲ乘馬、自轉車ナドノ稽古ハセヌコト

十五　往來ヲ煙火、空氣銃、吹矢ナトヲ弄ンダリ石投ケナト危險ナコトヲセヌコト

十六　往來ヲ子供ニ遊戲ヲサセタリ附添人ナキ幼兒ヲ獨リ步キセヌコト

十七　以上ハ重モナルコトナルカ尙其ノ他道路ノ取締規則ニ揭ケテアルコトヲ守ルコト

●道路取締ニ關スル件

（大正九年十二月二十七日）
（內務省通牒發警第九十八號）

各地方長官宛

道路取締令今般公布相成候處右ハ主トシテ從來廳府縣令ヲ以テ規定相成居候交通取締ニ關スル諸規則中各地大體ニ於テ其ノ規定ノ內容ヲ同フスルモノヲ統一シタルモノニ有之交通取締ニ付テハ平素ニ於ヲ充分御配慮相成居候義ニ有之候得共道路法實施ニ伴ヒ各般ノ施設著々計畫ノ折柄一般民衆ヲシテ交通上ニ於ケル紀律節制ヲ重ンスルノ良風ヲ馴致セシメ危險ヲ防止シ交通ノ安全ヲ圖ルハ一層緊切ナルヲ認メ候間本件ノ趣旨直接執行ノ任ニ當リ候貴部下ノ周到御示達ノ上貴管下一般ニ本令周知ノ方法ヲ講セシメ土地ノ狀況ヲ參酌考量シテ適應ニ措置シ本令ノ規定條項ヲ遵守シテ違反ナカラシメルニ努メシメラレ度尙本令ノ施行ニ付左記御參考迄申進候

記

一　道路ノ右側通行其ノ他ニ付テハ陸軍官憲ニ於テモ交通保全上本令ノ發布ノ精神ニ基キ軍事上ノ行動ニ支障ナキ範圍ニ於テ之ヲ遵守スヘキ旨別紙ノ通陸軍一般ヘ通牒相成候ニ付御承知相成度尙一條ハ道路ノ狀況又ハ交通ノ狀態ニ依リテハ右側通行ニ依ル能ハサル場合モ可有之旁々之ニ違反候者ニ對シ科罰ヲ以テ臨ムハ苛然ニ失スルノ嫌アルニ依リ省令中制裁ヲ附セサル事ト爲シタル次第ニ有之候條本趣旨ニ從ヒ執行ノ任ニ當ル者ヲシテ左側通行ノ勵行ニ遺憾ナキ幼兒ヲ獨リ步キセヌコト

二　第三條第三項ハ人馬諸車等雜沓輻輳ノ場合ニ於テ一定ノ區域內ニ於テ車道ヲ橫斷シ得ヘキ場所ヲ指定シ其ノ以外ハ一般ノ橫斷ヲ禁止シテ交通上ノ危險ヲ防止シ安全ヲ圖ルト共ニ一面ニ於テハ車馬ノ行進ヲ容易ナラシムノ趣旨ニ出テタルモノナルヲ以テ本件ノ指定ニ付テハ便宜ノ方法ニ依リ御措置相成度候

二　第七條第三項牛馬諸車等道路ノ交叉セル場所ヲ右折スル場合ニ於テハ廳府縣令中右折ハ大廻ノ規定ニ相成度候得共實行上的確ヲ期スル能ハサルニ鑑ミ本條ニ於テハ之カ方法ヲ指示シ牛馬諸車等右折セントスル場合ニ於テハ道路ノ中央地點ヲ橫切リタル後右方ニ轉向セシムルコトト爲シタルモノニ有之候

四　第八條第一項牛馬諸車等夜間通行ノ場合燈火ヲ用キシムルノ規定ハ戰務上平素之ヲ用キサルヲ例トスル陸軍軍人乘馬等ノ場合ニハ適用ナキモノナルニ依リ執行上誤リナキ樣致度候

五　第十一條第二項ハ牛馬諸車等ヲ道路ニ駐ムル場合ハ左側端ニ於テ之ヲ爲サシメ其ノ車體等ヲ一般通行スル者ノ行進スル方向ニ置カシメ交通上ノ障害ナカラシメムトスルモノニシテ例ヘハ道路ノ左側ヲ南向行進セルモノカ右側ノ某地點ニ駐止セムト欲スルトキハ先ツ其ノ左側對向點ヲ通過シタル後道路ヲ橫切リ更ニ北向ニ轉換行進シ此ノ新方向ニ於ケル道路ノ左側端ニ駐止セシムルノ趣旨ニ出テタルモノナルヲ以テ交通專務又ハ警邏ノ警察官吏ヲシテ特ニ注意セシメラレ度候

六　第十二條ノ規定セル荷車輪帶ノ制限ハ全國之ヲ統一スルノ必要ヲ認メタルニ因ルモノナルヲ以テ其ノ現ニ使用スル荷車ノ輪帶幅ニシテ本條ノ制限ニ適合セサルモノハ附則ノ規定ニ依リ大正十五年末迄六箇年間ヲ限リ之ヲ使用シ得ルコトト爲シ本令施行後新ニ調製スルモノハ總テ本令ノ制限ニ從ハシムルノ趣旨ニ有之本件ハ道路保全ノ維持ニ及ホスノ影響少カラス且交通取締上ニモ關係ヲ有スル義ニ付事實已ムヲ得サルモノノ外ハ勵メテ本令ノ制限ニ據ラシメ度從テ第十五條ノ規定ニ基キ土地ノ狀況其ノ他ノ事由ニ依リ本令ニ規定スル輪帶幅ノ最少限ニ滿タサル輪帶幅ニ依ラシムル外致方無之場合ヲ除クノ外本令ト異リタル規定ヲ設ケラレサル樣致度候

七　第十三條ニ規定セル荷車ノ積載量ハ第十二條ノ輪帶幅ノ制限ニ依ル車輪ヲ考慮シ一人挽一頭立ノ場合ヲ規定シタルモノナルヲ以テ第十五條ノ規定ニ依リ之ト異リタル規定ヲ設ケラルル場合ニ於テモ之ニ準據シ且積載量ノ制限超過ハ人又ハ牛馬等動物ノ虐待ト相關スルニ依リ此邊御考慮ノ上規定上竝取締上相當御注意相成度候

八　路面ノ耐力ハ道路ノ構造面ニ及ホス荷重ノ影響ハ車輪ノ構造、荷重ノ重量、荷積ノ工合等ニ關シ各異同アルヲ免レスト雖各道ニ於ケル運輸ノ共通ハ交通上極メテ緊要ノ事ニ屬スルヲ以テ第十二條第一項及第十三條ノ規定ニ在リテハ路面ノ耐力ハ輪帶幅一寸ニ付五十貫內外、二輪車ノ車輪及四輪車ノ後輪ノ直徑ハ二尺、四輪車ノ前輪直徑ハ二尺四輪車ノ前輪ノ直徑ハ二尺ヲ標準トシ行進四輪車ノ方向轉換ノ難易ヲモ考慮シ輪帶幅及積載量ヲ一定シタルモノナルヲ以テ前二項ノ趣旨ニ依リ本令ト異リタル規定ヲ設クル場合ニ於テ車輪ノ直徑ト輪帶幅トヲ變更セントスル時ハ兩者ノ相乘積ヲ定數タラシメ又同時ニ積載量ヲモ變更セントスルトキハ四輪車ノ後車軸ハ總荷重ノ三分ノ二乃至四分ノ三ヲ分擔スルモノトシテ計算シ常ニ路面ノ保持ニ有利ニシテ適數ナキモノヲ採ラレ度尙此ノ場合ニ於テハ隣接府縣ト能ク協調ヲ遂ケ相互車輪ノ共通ヲ圖ル樣御注意相成度候

九　第十七條ノ道路工事ニ關シ管理者ニ於テ道路ノ通行ヲ禁止シ、制限スル場合ハ警察官署ト照覆シ措置セシメラレ度又第六條第一項ニ依リ地方長官ニ於テ道路ノ通行ヲ禁止若ハ制限ヲ爲スニ當リ其ノ長期

ニ渉ル場合ハ管理者ニ對シ讓メ知照セラレ度候

十　現行廳府縣令中本省令中ニ規定スル條項ニ低觸セモノニシテ本省令ノ趣旨ニ副ハサルモノ有之候ハハ相當整理ヲ行ハレ殊ニ罰則ニ付テハ科罰上均衡ヲ失スルコト無之樣御措置相成度候

十一　荷車ノ積載量、積荷ノ容積ノ制限ヲ超ユルモノニシテ分割スヘカラサルモノニ付從前ノ規定ニ依リ警察官署ノ許可ヲ與ヘタルモノニシテ本令施行後ニ至ルモノニ付テハ彼是煩累ヲ重ネシメサル樣便宜措置セシメラレ度候

十二　道路占用ノ許否ハ道路法第二十八條ノ規定ニ依リ道路管理者ノ權限ニ屬シタリト雖交通取締上ノ目的ニ依リ更ニ當該取締官憲ノ許可ヲ受ケシムルノ權限ヲ排除シタルモノニ之レナキヲ以テ相當規定ヲ設ケ取締上ノ必要ニ應スルハ妨ケサル所ニ有之候ヘ共斯クテハ民衆ヲシテ管理者及當該官憲ノ許可ヲ重複ニ受ケシムルノ結果ヲ生シ彼是煩累ニ渉ルヘキヲ以テ省令中別ニ之カ規定ヲ爲ササリシ次第ニ有之從テ地方ノ實情ニ鑑シ交通取締上必要已ムヲ得サルニ於テハ本令第三十一條ニ基キ廳府縣令ヲ以テ當該取締官憲ノ許可ヲ受ケシムルニ付テハ管理者當該取締官憲ノ何レニ於テスルヲ問ハス相互照覆ノ上處理致度候

●道路法第五十條ノ規定ニ依ル沿道ノ區域設定標準（大正十一年七月三十一日 内務省訓令第十六號）

道路管理者

道路法第五十條ノ規定ニ依ル沿道ノ區域ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外道路ノ各一側ニ其ノ路面總幅員ノ二倍五分以内ト爲スヘシ但シ特殊ノ箇所ニ限リ之ヲ五倍以内ト爲スコトヲ得

●軍隊竝砲車輜重車ニ對シ一般ノ車馬途上避讓方（明治十八年二月十二日 陸軍省達乙第二十二號）

警視總監各府縣（東京府ヲ除ク）

途上ニ於テ軍隊竝砲車輜重車ト一般ノ車馬ト行逢フ時避讓方ノ儀ニ付內務卿ヨリ別紙之通各地方ヘ及訓示候趣申來候間爲心得此旨相達候事

（別紙）

途上ニ於テ車馬行逢フ時ハ互ニ左方ヘ避讓スヘキ旨各地方ニ於テ規定有之候處今般陸軍卿ヨリ照會ノ旨モ有之ニ付軍隊竝ニ砲車輜重車ニ行逢フタル時ニ限リ右方ヘ避讓スヘキ樣管下ヘ告示スヘシ此旨及訓示候也

但一般車馬互ニ左方ヘ避讓スヘキ規則ト相牴觸セサル樣致スヘシ

●道路ニ關スル訴訟費用ノ件（大正十二年五月二十九日 内務省通牒甲第四九號）

各地方長官宛

土地收用審査會ノ裁決ニ係ル土地收用補償金額ヲ失當トシ補償金增額ノ民事訴訟應訴ノ辯護士報酬及其ノ他ノ訴訟費用ハ道路改築起業者タル道路管理者ニ對スル訴訟ニ要スル費用即チ道路法ニ所謂道路ニ關スル費用トシテ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ負擔スヘキ筋合ノモノニ有之候

●國道ノ路線認定（大正九年四月一日 内務省告示第二十八號）

【沿革】大正九年十一月告示第一〇五號、同十一年三月同第五七號、同年八月同第二〇〇號、同年十二月同第三四七號、同十三年三月同第一一〇號、同十四年十月同第一六七號、同十五年六月同第八三號、昭和二年七月同第三八二號、同年十一月同第一四〇號、同三年五月同第一二號、同第一三號、同年六月同第一四〇號、同四年十月同第二九六號、同四年三月同第五五號、同年十一月同第三四五號、同第三四九號、同六年四月同第九二號、同第一一五號、同年十月同第一九五號、同年十月同第二一二〇號、同第二三六號、同七年十一月同第二九一號、同八年二月同第三一號、同年五月同第一三八號、同第一五九號、同年七月同第一七四號、同年十月同第二〇九號、同第二二六號、同年十一月同第二三四號、同年十二月同第二四〇號、同第二四四〇號、同年八月同第二五一號、同年七月同第三七三號、同年八月同第四〇五號、同十年九月同第五一四號、同十一年七月同第五二六號、同十二年三月同第一〇二號、同年四月同第二七八號、同年十一月同第六六九號、同十三年六月同第二二〇號、同十四年四月同第二五四號、同十五年三月同第一〇八號、同年四月同第二三〇號、同年五月同第三四四號改正

國道ノ路線左ノ通認定ス

一號　東京市ヨリ神宮ニ達スル路線

經過地

橫濱市（神奈川町字西之町、青木町字宮洲町經由）神奈川縣足柄下郡箱根町　靜岡縣田方郡三島町　駿東郡大岡村山神道、沼津市濟水市（江尻出作經由）靜岡市（鳥見町經由）濱松市　豐橋市　岡崎市（八丁橋經由）名古屋市　愛知縣海部郡永和村、三重縣桑名郡西桑名町、四日市市（字治山田市宮川町通經由）三重郡川越村　三重縣三重郡日永村　津市

二號　東京市ヨリ鹿兒島縣廳所在地ニ達スル路線（甲）

經過地

一號路線（三重縣三重郡日永村ニ於テ分岐）三重縣鈴鹿郡龜山町、關町　滋賀縣栗太郡草津町　大津市　京都市（下京區烏丸通ヨリ七條通ニ至リ西折シテ大宮通經由）大阪市（葭屋橋、淀屋橋、大江橋、西成大橋經由）大阪府西成郡歌島村　兵庫縣川邊郡小田村、尼崎市　兵庫縣武庫郡鳴尾村、瓦木村、西宮町、本山村、魚崎町、住吉村、御影町　神戸市（葺合北本町通同小野柄通、大開通經由）明石市（大蔵町一丁目、弓町、西王子町一丁目經由）姫路市（神屋町、平野町、米田町經由）兵庫縣飾磨郡餘部村　岡山市　岡山縣小田郡笠岡町　福山市　廣島縣安藝郡海田市町　廣島市（仁保町、的場町、紙屋町、左官町、觀音町經由）山口縣吉敷郡小郡町、下關市（關後地村經由）門司市（大字門司字文字經由）小倉市（三萩野經由）福岡縣糟屋郡多々良村大字名島（名島橋經由）福岡市（潟洲町經由）（大字金平、大字松園經由）佐賀縣三養基郡田代村　久留米市　福岡縣三井郡國分村　熊本市　熊本縣葦北郡水俣町

三號　東京市ヨリ鹿兒島縣廳所在地ニ達スル路線（乙）

經過地

二號路線（小倉市三萩野ニ於テ分岐）福岡縣企救郡企救町、大分縣下毛郡中津町　速見郡御越町大字龜川（海岸經由）、別府町大字濱脇　大分市　宮崎縣宮崎郡宮崎町　高岡町　同縣北諸縣郡都城町

四號　東京市ヨリ北海道廳所在地ニ達スル路線

經過地

（東京市日本橋區本石町三丁目經由）東京府南足立郡千住町　淵江村　宇都宮市　福島市　宮城縣柴田郡船岡村　宮城縣名取郡岩沼町　仙臺市（廣瀬橋、東二番町經由）岩手縣膽澤郡衣川村　盛岡市　青森縣三戸郡野澤村　青森市　函館市　小樽市

五號　東京市ヨリ青森縣廳所在地ニ達スル路線

經過地

四號路線（福島市本町ニ於テ分岐）米澤市　山形縣南村山郡堀田村　大字成澤　山形市　秋田市（川尻、泉經由）　弘前市

六號　東京市ヨリ宮城縣廳所在地ニ達スル路線

經過地

四號路線（東京府東京市淺草區言問橋西詰ニ於テ分岐）水戸市　茨城縣那珂郡柳河村　宮城縣名取郡岩沼町　四號路線

七號　東京市ヨリ千葉縣廳所在地ニ達スル路線
經過地
四號路線（東京市日本橋區馬喰町四丁目ニ於テ分岐）東京市江戸川區東小松川三丁目、市川市
八號　東京市ヨリ京都府廳所在地ニ達スル路線（甲）
經過地
一號路線（東京市日本橋區通一丁目ニ於テ分岐）八王子市　神奈川縣津久井郡小原町　山梨縣北都留郡上野原町　南都留郡河口村　東八代郡金生村　甲府市錦町　中巨摩郡貢川村　長野縣諏訪郡下諏訪町　西筑摩郡福島町　岐阜縣可兒郡御嵩町　稻葉郡加納町　十二號路線　岐阜縣不破郡關ヶ原町ニ於テ分岐）滋賀縣栗太郡草津町二號路線
九號　東京市ヨリ新潟縣廳所在地ニ達スル路線
經過地
四號路線（東京市日本橋區本石町三丁目ニ於テ分岐）東京市板橋區板橋町　浦和市　埼玉縣北足立郡與野町　北埼玉郡太井村　高崎市（芝塚經由）　前橋市　新潟縣南魚沼郡湯澤村　北魚沼郡小千谷町　長岡市
十號　東京市ヨリ秋田縣廳所在地ニ達スル路線
經過地
九號路線（高崎市芝塚ニ於テ分岐）　高崎市住吉町、長野縣北佐久郡西長倉村　上田市（北沖經由）　長野市　南長野經由）長野縣上水內郡若槻村　同縣下水內郡飯山町　新潟縣北魚沼郡小千谷町　九號路線　新潟市ニ於テ分岐）　新潟縣北蒲原郡新發田町　鶴岡市　山形縣東田川郡廣野村　同縣飽海郡酒田町　秋田縣由利郡本莊町
十一號　東京市ヨリ石川縣廳所在地ニ達スル路線（甲）
經過地
十號路線（長野縣上水內郡若槻村ニ於テ分岐）　高田市　新潟縣中頸城郡直江津町　富山縣下新川郡入善町　富山市（新大橋經由）　高岡市（金澤市市姫通經由）
十二號　東京市ヨリ石川縣廳所在地ニ達スル路線（乙）
經過地
一號路線（名古屋市南區熱田市場町ニ於テ分岐）（名古屋市西區南外堀町通景雲橋、明道町經由）　一宮市　（傳馬町經由）　岐阜縣稻葉郡加納町　同縣安八郡黑俣町　大垣市　岐阜縣不破郡關原村　滋賀縣伊香郡木之本町　鹽津村　福井縣敦賀郡敦賀町　福井市（幸橋經由）
十三號　東京市ヨリ岐阜縣廳所在地ニ達スル路線
經過地
十二號路線（岐阜縣稻葉郡加納町ニ於テ分岐）（岐阜市金町一丁目經由）
十四號　東京市ヨリ京都府廳所在地ニ達スル路線（乙）
經過地
十號路線（長野縣北佐久郡西長倉村ニ於テ分岐）　長野縣諏訪郡下諏訪町　八號路線
十五號　東京市ヨリ和歌山縣廳所在地ニ達スル路線（甲）
經過地
二號路線（京都市下京區七條通ニ於テ分岐）（京都市下京區東九條柳下町經由）　京都府紀伊郡深草村、伏見町　同府久世郡宇治町　奈良市　奈良縣磯城郡田原本町　同縣高市郡八木町　畝傍町　同縣北葛城郡浮孔村　同縣南葛城郡御所町　同縣宇智郡五條町　和歌山縣伊都郡橋本町　同縣那賀郡粉河町
十六號　東京市ヨリ和歌山縣廳所在地ニ達スル路線（乙）
經過地
二號路線（大阪市東區大川町淀屋橋南詰ニ於テ分岐）　堺市（大濱南町經由）　大阪府泉南郡淡輪村

十七號　東京市ヨリ山口縣廳所在地ニ達スル路線（甲）
經過地
二號路線（山口縣吉敷郡小郡町ニ於テ分岐）
十八號　東京市ヨリ山口縣廳所在地ニ達スル路線（乙）
經過地
二號路線（京都市下京區大宮通ニ於テ分岐）　京都府天田郡下夛富村　兵庫縣朝來郡枚田村　鳥取市（吉方經由）　松江市　島根縣那賀郡濱田町
十九號　東京市ヨリ島根縣廳所在地ニ達スル路線
經過地
二號路線（岡山市萬町ニ於テ分岐）　岡山縣御津郡伊島村　同縣久米郡福渡村、大倭村　同縣眞庭郡久世町　鳥取縣西伯郡米子町　十八號路線（松江市雜賀町ニ於テ分岐）
二十號　東京市ヨリ鳥取縣廳所在地ニ達スル路線
經過地
二號路線（兵庫縣飾磨郡餘部村ニ於テ分岐）
二十一號　東京市ヨリ德島縣廳所在地ニ達スル路線（甲）
經過地
二號路線（明石市追手町ニ於テ分岐）　兵庫縣津名郡岩屋町　德島縣板野郡撫養町
二十二號　東京市ヨリ德島縣廳所在地ニ達スル路線（乙）
經過地
二號路線（岡山市西大寺町ニ於テ分岐）（岡山市下田町經由）　岡山縣兒島郡宇野町　高松市（鹽上町、花園町經由）　香川縣香川郡太田村　香川縣大川郡津田町　德島縣板野郡板西町　德島市船場町
二十三號　東京市ヨリ高知縣廳所在地ニ達スル路線
經過地
二十二號路線（高松市兵庫町ニ於テ分岐）　丸龜市　香川縣仲多度郡龍川村　善通寺町、琴平町　德島縣三好郡池田町
經過地
二號路線（山口縣吉敷郡小郡町ニ於テ分岐）
二十四號　東京市ヨリ愛媛縣廳所在地ニ達スル路線
經過地
二十三號路線（香川縣仲多度郡龍川村ニ於テ分岐）　愛媛縣宇摩郡川之江町
二十五號　東京市ヨリ長崎縣廳所在地ニ達スル路線
經過地
二號路線（佐賀縣三養基郡田代村ニ於テ分岐）　佐賀市（松原町堀端經由）　佐賀縣杵島郡武雄町
二十六號　東京市ヨリ沖繩縣廳所在地ニ達スル路線
經過地
二號路線　鹿兒島港
二十七號　東京市ヨリ第七師團司令部所在地（旭川區）ニ達スル路線（甲）
經過地
四號路線（札幌區北一條通ニ於テ分岐）　北海道空知郡岩見澤町
二十八號　東京市ヨリ第七師團司令部所在地（旭川區）ニ達スル路線（乙）
經過地
四號路線（青森港ニ於テ分岐）　室蘭區　北海道空知郡栗澤村（靑眞布經由）、岩見澤町　二十七號路線
二十九號　東京市ヨリ第十四師團司令部所在地（栃木縣河內郡國本村）ニ達スル路線
經過地
四號路線（宇都宮市池上町ニ於テ分岐）
三十號　東京市ヨリ第十五師團司令部所在地（愛知縣瀨美郡高須村）ニ達スル路線
經過地
一號路線（豐橋市大字札木ニ於テ分岐）
三十一號　東京市ヨリ橫須賀鎭守府所在地（橫須賀市）ニ達スル路線
經過地
一號路線（橫濱市中區櫻木町七丁目ニ於テ分岐）　神奈川縣久良岐郡

金澤村
三十二號　東京市ヨリ呉鎮守府所在地（呉市）ニ達スル路線
經過地
二號路線（廣島縣安藝郡海田市町ニ於テ分岐）廣島縣安藝郡大屋村
三十三號　東京市ヨリ佐世保鎮守府所在地（佐世保市）ニ達スル路線
經過地
二十五號路線（佐賀縣杵島郡武雄町ニ於テ分岐）
三十四號　東京市ヨリ舞鶴鎮守府所在地（京都府加佐郡中舞鶴町）ニ達スル路線（甲）
經過地
十八號路線（京都府天田郡下豐富村ニ於テ分岐）京都府加佐郡舞鶴町
三十五號　東京市ヨリ舞鶴鎮守府所在地（京都府加佐郡中舞鶴町）ニ達スル路線（乙）
經過地
十二號路線（福井縣敦賀郡敦賀町ニ於テ分岐）
三十六號　東京市ヨリ横濱港ニ達スル路線
經過地
八號路線（東京市麹町區外櫻田町ニ於テ分岐）東京市芝區白金丹波町　品川區西大崎一丁目　蒲田區古市町　川崎市小向　横濱市鶴見區東寺尾　神奈川區青木通　三十一號路線（横濱市中區櫻木町一丁目ニ於テ分岐）
三十七號　東京市ヨリ大阪港ニ達スル路線
經過地
十六號路線（大阪市東區本町四丁目ニ於テ分岐）（大阪市木津川橋經由）
三十八號　東京市ヨリ神戸港ニ達スル路線
經過地
二號路線（神戸市神戸加納町六丁目ニ於テ分岐）
三十九號　東京市ヨリ下關港ニ達スル路線

經過地
二號路線（下關市下關後地村ニ於テ分岐）
（大正九年十二月二十五日　内務省告示第百二十五號）
【沿革】大正十一年一月告示二〇號、同年八月同第二〇一號、同十四年六月同第一〇七號、昭和二年四月同第三一一號、同年八月同第三九二號、同十三年十二月同第五二六號、同十四年八月同第四二〇號、同十五年三月同第一三五號、同年五月同第三五八號改正

國道ノ路線左ノ通認定ス
特一號　千葉縣千葉郡津田沼町大字大久保ヨリ印旛郡千代田村大字畔田ニ達スル路線
特二號　神奈川縣足柄下郡溫泉村ヨリ靜岡縣富士郡加島村ニ達スル路線
特三號　靜岡縣駿東郡富士岡村大字二子ヨリ玉穗村大字瀧ヶ原ニ達スル路線
特四號　愛知縣豐橋市ヨリ渥美郡二川町大字小松原ニ達スル路線
特五號　愛知縣渥美郡高師村ヨリ高豐村大字高塚ニ達スル路線
特六號　愛知縣渥美郡福江町ヨリ伊良湖岬村ニ達スル路線
特七號　愛知縣渥美郡福江町大字畠ヨリ大字中山ニ達スル路線
特八號　長崎縣上縣郡佐須奈村大字佐護字北里ヨリ同字安保ニ達スル路線
特九號　長崎縣下縣郡雞知村大字雞知字樽ヶ濱陰ヨリ同字口樽ヶ濱ニ達スル路線
特十號　長崎縣下縣郡雞知村ヨリ竹敷村ニ達スル路線
特十一號　長崎縣下縣郡嚴原町ヨリ豆酘村ニ達スル路線
特十二號　山口縣豐浦郡黒井村ヨリ豐西村ニ達スル路線
特十三號　和歌山縣海草郡加太町大字加太ヨリ大字深山ニ達スル路線
特十四號　鹿兒島縣大島郡西方村大字久慈ヨリ大字西古見ニ達スル路線
特十五號　鹿兒島縣大島郡西方村ヨリ東方村ニ達スル路線
特十六號　鹿兒島縣大島郡實久村ヨリ鑛西村ニ達スル路線
特十七號　佐賀縣藤津郡西嬉野村大字下宿ヨリ長崎縣東彼杵郡千綿村ニ

達スル路線
特十八號　廣島縣廣島市蟹屋町ヨリ字品町ニ達スル路線
特十九號　東京府小笠原島父島大村ヨリ扇村ニ達スル路線
特二十號　京都府加佐郡新舞鶴町ヨリ東大浦村ニ達スル路線
特二十一號　神奈川縣三浦郡南下浦村大字菊名ヨリ大字金田ニ達スル路線
特二十二號　大分縣北海部郡佐賀關町大字關字西町ヨリ字禰水ニ達スル路線
特二十三號　神奈川縣三浦郡田浦町大字浦郷字前田千二百三十三ヨリ三千三百七十九番地地先ニ達スル路線
特二十四號　廣島縣吳市阿賀町字小倉新開ヨリ賀茂郡廣村字八郎ニ達スル路線
特二十五號　長崎縣佐世保市大宮町ヨリ同市天神町ニ達スル路線
特二十六號　千葉縣東葛飾郡葛飾村ヨリ塚田村ニ達スル路線
特二十七號　靜岡縣駿東郡原里村板妻四百八十五番地先ヨリ同郡須山村百六十五ノ一番地先ニ達スル路線
特二十八號　鹿兒島縣大島郡實久村字薩川ヨリ字芝立神岬ニ達スル路線
特二十九號　愛知縣渥美郡高豐村大字高塚字二ノ澤ヨリ大字西七根ニ達スル路線
特三十號　東京府小笠原島父島扇村扇浦ヨリ袋澤村西海岸ニ達スル路線
特三十一號　東京府小笠原島父島扇村扇浦ヨリ袋澤村南崎ニ達スル路線
特三十二號　長崎縣下縣郡嚴原町ヨリ上縣郡豐崎村鰐浦ニ達スル路線
特三十三號　長崎縣上縣郡仁田村仁田ヨリ佐須奈村佐護ニ達スル路線

●道路法改正法律施行ニ伴フ府縣道路線認定ニ關スル件

（大正十一年八月二十二日　内務省通牒祕第八〇〇號）
府縣知事宛（埼玉鹿兒島沖繩縣ヲ除ク）

本年法律第三號ヲ以テ公布セラレタル道路法中改正法律第十一條ノ規定ニ依リ郡制廢止ノ場合ニ於テ爲ス府縣道ノ路線ノ認定ニ付テハ左記ノ通御取扱相成度

記

一　改正規定ニ依リ府縣道ノ路線ヲ認定スルニ方リテハ其ノ路線カ單ニ形式的ノ要件ヲ具備スルニ止マラス管下交通情勢ニ適合セル道路網ニ該當スルモノニシテ交通上府縣道タルノ實質的價値ヲ有スルモノニ限リ之ヲ認定スルコト

二　從來認定濟ノ府縣道ノ路線ノ起點及終點ハ已ムヲ得サル事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ變更セサルコト

三　法第十一條ノ規定ニ依リ府縣道ノ路線ノ起點又ハ終點タルヘキ樞要ノ地ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノヨリ之ヲ採擇スルコト

1　市又ハ町

2　人家連檐シ且多量ノ貨物ヲ生產シ又ハ集散スル情況第一號ノ町ニ比肩スヘキ村若ハ市町村内ノ地區

3　郡役所、警察署又ハ區裁判所等所在ノ地

4　府縣内ニ傳稱セラレ且旅客ノ來往類繁ナル名勝地又ハ舊蹟地

5　官國幣社又ハ府縣社所在ノ地

6　參詣者ノ來往類繁ナル宗派本山又ハ寺院敎院等ノ所在ノ地

7　軍事上樞要ノ地

四　法第十一條第七號ニ規定スル數市町村ヲ連絡スル重要ナル幹線ハ其ノ路線ノ起點樞要ノ地タラサルモ沿ネク沿道市町村住民ノ利用ス

ル經濟上主要ナル幹線道路ニ該當シ且終點タル市町村ヲ除キ少クモ經過地二市町村以上ニ亙ルモノニ限リ之ヲ採擇スルコト

五　法第十一條ニ規定スル府縣道ノ路線ノ起點又ハ終點ト爲ルヘキ樞要ノ停車場ハ國有鐵道本線ノ停車場、國有鐵道輕便線又ハ地方鐵道ノ樞要ナル停車場又ハ軌道ノ樞要ナル停車場ニ限リ之ヲ採擇スルコト

六　法第五十二條ノ規定ニ依ル府縣道ノ路線認可申請ニハ左ノ調書及圖面ヲ添附スルコト

1　調書

イ　調書ハ別表樣式第一號ニ準據スルコト

ロ　路線名ハ路線ノ目的ヲ知ルニ便ナラシムル爲別表樣式第一號例示ノ如キ一定ノ名稱ヲ附スルコト

ハ　他管內ニ起點又ハ終點ヲ有スル道路ノ路線ニ付テハ相互ノ連絡ニ付關係府縣ト協議シ其ノ顚末要領書ヲ添附スルコト道路ノ路線カ他府縣ヲ通過スル場合ニ付亦同シ

ニ　法第十一條第四號乃至第八號ニ該當スル府縣道ノ路線ニ付テハ密接關係ノ說明書ヲ添附スルコト

ホ　法第十一條第三號乃至第七號ノ規定ニ依ル樞要ノ地ヲ府縣道路線ノ起點又ハ終點トスル場合ニ於テハ其ノ樞要ノ地タル說明書、港津又ハ鐵道停車場ヲ府縣道路線ノ起點又ハ終點トスル場合ニ於テハ貨物ノ集散乘降客ノ員數等ノ調查書ヲ添附スルコト但シ國有鐵道本線ノ停車場ヲ府縣道路線ノ起點又ハ終點トスル場合ハ之ヲ要セス

ヘ　法第十一條第九號ニ該當スル路線ニ付テハ道路ノ新設ニ因ル地方開發調書及其ノ路線ノ起點又ハ終點タルヘキ地ノ現況竝將來ノ豫想說明書ヲ添附スルコト

ト　認定セムトスル道路ノ路線中ニ貰取橋又ハ貰取渡場アルトキハ其ノ名稱位置、徵收期限及路線名ヲ記載シ且其ノ整理ニ關スル意見書ヲ添附スルコト

チ　府縣道路線ノ認定ニ關スル府縣會諮問案及之ニ屬スル答申書寫ヲ添附スルコト

リ　現ニ郡道ノ路線タルモノニシテ府縣道ノ路線ニ認定セサルモノニ關スル其ノ處分方法ノ意見書ヲ添附スルコト

ヌ　別表樣式第二號ニ依ル道路費調書ヲ添附スルコト

2　平面圖

陸地測量部發行二十萬分ノ一ノ帝國圖（本圖ヲ發行セサル地方ニ在リテハ陸地測量部發行輯製圖又ハ正確ナル管內圖ヲ以テ代用スルコトヲ得ルモ此ノ場合ニ於テハ市町村境界線ヲ明記スルコト）ニ左ノ事項ヲ記載スルコト

イ　認定路線（現ニ郡道ノ路線ニ該當スル部分ハ朱色實線、然ラサル部分ハ朱色點線）

ロ　路線名

ハ　起點及終點ノ地名

ニ　他府縣ニ起點又ハ終點ヲ有スル道路ノ路線ニ付テハ其ノ連絡關係

ホ　國道路線（青色實線）

ヘ　府縣道路線「路線名記入」（黑色實線）

ト　現ニ郡道ノ路線タルモノニシテ府縣道ノ路線ニ認定セサル部分（綠色）

チ　鐵道、軌道及運河

右ノ外市內ニ係ルモノハ市街圖（二萬分ノ一以上）ニ又市ニ係ルモノニ非スト雖道線ノ關係復雜ニシテ前項ノ平面圖ノミニテハ明瞭ヲ缺ク箇所ニ係ルモノハ其ノ附近ノ擴大圖（五萬分ノ一以上）ニ前各號ノ事項ヲ記載シ添附スルコト

（樣式第一號）

府縣道路線認定調書

路線名	法第十一條ノ該當號	認定路線 起點	認定路線 終點	主要ナル經過地	道路 延長	橋梁 延長	渡船場 延長	他ノ道路ニ屬スル區間地點延長
池田伊丹線	四	豐能郡池田町	縣界何郡何村	郡（何市何町）村	一〇里一四丁	四二間		
梅田停車場大阪港線	六	梅田停車場	大阪港		五里一丁二〇間	〇里一丁〇間	〇里一丁二間	何線自郡町（村）至郡五里一一二四間
堺停車場	四	堺市何町堺停車場						
梅田停車場庄内線	八	梅田停車場豐能郡庄内村（府縣道何々線）						

備考

一　他ノ道路ニ屬スル區間ノ延長ハ甲線ニ認定スルモノヲ再ヒ乙線ニ認定スル場合ニ記入シ道路、橋梁、渡船場等ヲ區別セス其ノ總延長ヲ記載スルコト

二　堺ヨリ堺停車場ニ達スルカ如キ同一名ノ重複スル場合ハ其ノ一ヲ省略シ路線名ヲ定ムルコト

三　法第十一條第八號ニ該當スル路線名ハ前揭例示ノ如ク終點タル地ノ市町村名（大字名又ハ市ノ町名）ヲ用ユルコト

（様式第二號）

道路費調書

種別	專用全延長	維持修繕費 金額	維持修繕費 專用延長一里當金額	新設改築費 金額	新設改築費 專用延長一里當金額	摘要
現在府縣道	里町間	圓	圓	圓	圓	
今回認定府縣道						
計						
現在郡道						

大正十一年度豫算ニ依ル府縣費總額……圓（特別會計ニ屬スル分ヲ除ク）調査方法

一　現在府縣道ノ維持修繕費ハ大正十一年度豫算ニ依リ其ノ設備改築費ハ改良計畫ニ基ク將來十ケ年度乃至二十ケ年ノ平均一ケ年度分ヲ揭クルコト

二　今回認定セムトスル府縣道ノ維持修繕費ハ將來支出セムトスル見込ニ依リ一ケ年度分ヲ又其ノ新設改築費ハ同樣見込ニ依リ將來十ケ年度乃至二十ケ年度ノ平均一ケ年度分ヲ揭クルコト

三　現在郡道ノ維持修繕費ハ大正十年度決算ニ依ルコト

四　六大都市所在ノ府縣ニ在リテハ市部經濟ニ屬スル分ハ之ヲ除外スルコト

五　現ニ郡道ノ路線タルモノニシテ府縣道路線ニ認定スヘキモノノ專用延長ト然ラサルモノノ專用延長トヲ備考トシテ附記スルコト

●府縣道（地方費道）ノ路線認定申請ニ關スル件（大正八年十一月十九日內務省通牒發第一五一號）

「道廳府縣知事宛」

道路法實施ノ準備トシテ道路線認定申請ニ關シテハ左記及圖面提出相成度

記

一　路線認定調

イ　別表樣式ニ準據スルコト

ロ　路線名ハ路線ノ目的ヲ知ルニ便ナラシムル爲別表樣式例示ノ如キ一定ノ名稱ヲ付スルコト

ハ　他管內ニ起點ヲ有スル路線ニ付テハ相互連絡ニ付關係府縣ト協議セル顚末要領書ヲ添付スルコト路線カ他府縣ヲ通過スル場合ニ付テモ亦同シ

ニ　道路法第十一條第四號乃至第七號ニ該當スル路線ニ付テハ密接關係ノ說明書ヲ添付スルコト

ホ　道路法第十一條第八號ニ該當スル路線ニ付テハ道路新設ニ因ル地方開發調書及其ノ起點終點タルヘキ地ノ現況竝將來ノ豫想說明書ヲ添付スルコト

ヘ　認定セリトスル路線中ニ賃取橋、賃取船場アルトキハ名稱、位置、徵收期限及其ノ路線名ヲ記載シ其ノ整理ニ關スル意見書ヲ添付スルコト

ト　府縣會（道會）諮問案及之ニ對スル答申書寫ヲ添付スルコト

二　平面圖

陸地測量部發行二十萬分ノ一ノ三色刷圖面（本圖ヲ發行セサル地方ニ在リテハ陸地測量部發行輯製圖又ハ正確ナル管內圖ヲ以テ代用スルコトヲ得）ニ郡ノ境界ヲ暈色シ左ノ事項ヲ記載スルコト

イ　認定路線（朱色）

ロ　路線名

ハ　起點、終點ノ地名

ニ　他府縣ニ起點終點ヲ有スル路線ニ付テハ連絡關係

ホ　國道認定路線（コバルトブリユー）

ヘ　假定縣道又ハ府縣費支辨ニシテ府縣道ニ非ラサル部分（青色）右ノ外市（區）ニ在テハ市街圖（二萬分ノ一以上）市ニ非スト雖路線ノ關係複雜ニシテ前項ノ平面圖ノミニテハ明瞭ヲ缺ク箇所ニ在リテハ其ノ附近ノ擴大圖（五萬分一以上）ニ前項各號ノ事項ヲ記載シ添付スルコト

府縣道（地方費道）路線認定書

路線名	法第十一條ノ該當號	認定路線起點終點	重要ナル經過地	認定路線延長	橋梁延長	渡船場延長	他ノ道路ニ屬スル區間地點延長
大阪奈良線	一	大阪市東區高麗橋通二丁目縣界何郡何村	郡町村（何市何町）郡町村	一〇里五里一二丁二〇間	二五丁〇間	〇里〇丁二〇間	何線　自郡村　至郡村　五里一丁二〇間
池田伊丹線	四	豐能郡池田町　兵庫縣川邊郡伊丹町					
梅田停車場大阪港線	六	梅田停車場大阪港					
堺停車場線	四	堺市何町　堺停車場					

府縣名（北海道）

備考

一　他ノ道路ニ屬スル區間ノ延長ハ甲線ニ認定スルモノヲ再ヒ乙線ニ認定スル場合ニ記入シ道路橋梁渡船場等ヲ區別セス其ノ總延長ヲ記載スルコト

一　堺ヨリ堺停車場ニ達スルカ如キ同一名ノ重複スル場合ハ其一ヲ省略シ路線名ヲ定ムルコト

八　地方開發ノ爲必要ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スヘキ路線

●北海道道路令（大正八年十一月二十五日勅令第四百七十三號）

朕北海道道路令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

北海道道路令

第一條　北海道ニハ準地方費道ヲ設ク

準地方費道ノ等級ハ地方費道ニ次クモノトス

第二條　準地方費道ノ路線ハ左ノ路線ニ就キ道廳長官之ヲ認定ス

一　支廳ノ所在地ヨリ其ノ管轄區域ト管轄區域ヲ隣接スル支廳又ハ區役所ノ所在地ニ達スル路線

二　支廳ノ所在地ヨリ其ノ管內町村役場所在地ニ達スル路線

三　支廳ノ所在地ヨリ其ノ管內樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

四　支廳管內樞要ノ地ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

五　支廳管內樞要ノ港津ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

六　支廳管內樞要ノ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ港津ニ達スル路線

七　數町村ヲ連結スル幹線ニシテ其ノ沿線地方ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

八　他ノ道路ニ屬スル區間ノ延長ハ甲線ニ認定スル場合ニ記入シ道路橋梁渡船場等ヲ區別セス其ノ總延長ヲ

第三條　準地方費道ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲サムトスルトキハ道會ニ之ヲ諮問スヘシ但シ重要ナラサル變更又ハ廢止ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　準地方費道ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲シタルトキハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

前項ノ告示ニハ路線名竝路線ノ起點終點及重要ナル經過地ヲ表示スヘシ

第五條　國道ニ關スル費用ハ當分ノ內國庫ノ負擔トシ拓殖費ヨリ支辨ス

準地方費道ニ關スル費用ハ地方費ノ負擔トス

地方費道以下ノ道路ニシテ道廳長官拓殖ノ爲必要ト認ムルモノニ關スル費用ハ當分ノ內期間ヲ定メ國庫ノ負擔トシ拓殖費ヨリ支辨スルコトヲ得

第六條　前條ノ場合ニ於テ道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌルモノナルトキハ其ノ費用ノ負擔ニ付テハ道路法第三十四條ノ例ニ依ル

第七條　第五條第三項ノ規定ニ依リ拓殖費ヨリ支辨スル道路及其ノ支辨期間ハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第八條　地方費道以下ノ道路ニ關スル工事ニシテ道廳長官拓殖ノ爲必要ト認ムルモノノ費用ニ對シテハ當分ノ內其ノ全部又ハ一部ヲ國庫ヨリ補助シ拓殖費ヨリ支辨スルコトヲ得

第九條　道路ニ關スル費用ノ負擔金ハ費用負擔者カ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ス場合ヲ除クノ外第五條第一項及第三項ノ道路ニ要スルモノニ在リテハ國庫、第五條第二項ノ道路ニ要スルモノニ在リテハ地方費ノ收入トス

道路法第四十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

道路法第四十一條ノ規定ニ係ル負擔金ハ前二項ノ例ニ依リ國庫又ハ地方費ノ收入トス

第十條　第五條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ拓殖費ヨリ支辨スル道路ノ占用料其ノ他其ノ道路ヨリ生スル收益ハ國庫ノ收入トス但シ道路法第二十六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ得テ徵收スル橋錢又ハ渡錢ハ其ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ收入トス

第十一條　道路法第二十六條又ハ第二十七條ノ規定ニ依リ行政廳ニ於テ徵收スル橋錢又ハ渡錢ハ同法第四十四條及前條ノ規定ニ拘ラス當該行政廳ハ其ノ橋梁又ハ渡船場ノ取扱ヲ命シタル者ノ收入ト爲スコトヲ得

第十二條　道路法及之ニ基キテ發スル命令中町村長、町村役場、町村會又ハ町村ニ關スル規定ハ戶長、戶長役場、町村總代人又ハ戶長所轄區域ニ關シ之ヲ適用ス

附則

第十三條　本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條　本令施行ノ際認定スヘキ準地方費道ノ路線ニ關シ豫メ道會ニ諮問シタルモノハ本令ニ依リ諮問シタルモノト看做ス

第十五條　第五條第三項ノ規定ニ依リ拓殖費ヨリ費用ヲ支辨スル道路ニ付テハ本令施行ノ際ニ限リ第七條ノ規定ニ拘ラス道廳長官ノ定ムル道路調書ヲ公衆ノ縱覽ニ供シ其ノ旨ヲ告示スルコトヲ得

●堤塘道路並木敷ノ使用及收益ニ關スル件（明治二十四年五月二十二日內務省訓令第四百六十二號）

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ使用ハ自今其ノ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ於テ處分スヘシ但シ市町村ノ處分ニカ、ルモノハ府縣廳ノ認可ヲ請ハシムヘシ

前項堤塘道路並木敷使用料及堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木其ノ他ノ收益ハ其ノ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ノ收入ニ屬スヘシ

費用ノ負擔主擔定マラサルカ又ハ年々負擔ヲ異ニスル堤塘道路並木敷用惡水路土居敷等ニ關スル事項ハ府縣廳ニ於テ處分シ其ノ收益ニ屬スルモノハ府縣廳ニ於テ之レヲ徵收シ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ配付スヘシ

地盤ノ市町村有ニ屬スル堤塘ノ使用及堤塘ヨリ生スル收益等ハ市町村ノ管理ニ歸セシムヘシ

第二款　運河

●運河法（大正二年四月九日法律第十六號）

【沿革】大正四年一月法律第三號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル運河法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

運河法

第一條　一般運送ノ用ニ供スル目的ヲ以テ運河ヲ開設セムトスル者ハ內務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

第二條　免許ヲ受ケタル者ハ內務大臣ノ指定シタル期限內ニ工事設計ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

第三條　國、公共團體又ハ行政廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ運河ニ接續若ハ接近シ又ハ之ヲ橫斷シテ河川、溝渠、道路、橋梁、鐵道、軌道、其ノ他公共ノ用ニ供スルモノヲ造設スルモ免許ヲ受ケタル者ハ運河ノ

救用ニ妨ナキ限リ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ内務大臣又ハ地方長官ハ公益上必要ト認ムルトキハ免許ヲ受ケタル者ニ命シ接續、横斷ノ場所ニ於ケル設備ヲ共用ニ供セシメ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得

第四條　前條第一項ノ場合ニ於テ運河ノ效用ニ妨アリヤ否ニ付爭アルトキ又ハ同條第二項ノ場合ニ於テ設備ノ共用若ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五條　工事カ其ノ設計又ハ免許、許可若ハ認可ノ條件ニ違反スルトキハ地方長官ハ其ノ改築、除却又ハ停止ヲ命スルコトヲ得

第六條　工事ノ全部又ハ一部竣功シ運送ヲ開始セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　免許ヲ受ケタル者ハ通航料其ノ他運河使用ニ關スル規程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官ニ於テ公益上必要ト認ムルトキハ前項ノ規程ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第八條　内務大臣又ハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ヨリ事業ノ報告ヲ徵シ又ハ其ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第九條　内務大臣又ハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ニ對シ運河及附屬物件ノ維持修繕ヲ命シ其ノ他公益上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十條　運河及附屬物件ハ免許ノ效力存續スル間及其ノ效力消滅後一年間ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第十一條　株式會社又ハ株式合資會社カ事業經營者タル場合ニ於テハ株式ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分一以下ルコトヲ得

第十二條　左ニ掲クルモノヲ以テ運河用地トス

一　水路用地及運河ニ屬スル道路、橋梁、堤防、護岸、物揚場、繫船場ノ築設ニ要スル土地

二　運河用通信、信號ニ要スル土地

三　上屋、倉庫等ノ建設ニ要スル土地

四　運河ニ要スル船舶、器具、機械ヲ修理製作スル工場ノ建設ニ要スル土地

五　職務上常住ヲ要スル運河從事員ノ舍宅及從事員ノ駐在所等ノ建設ニ要スル土地

前項第三號乃至第五號ニ掲クル土地ハ運河ニ沿ヒタルモノニ限ル

第十三條　明治四十二年法律第二十八號ハ運河ノ抵當ニ之ヲ準用ス

第十四條　運河財團ハ左ニ掲クルモノニシテ運河財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

一　水路其ノ他ノ運河用地及其ノ上ニ存スル工作物竝之ニ屬スル器具、機械

二　工場、上屋、倉庫、事務所、舍宅及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具、機械

三　運河用通信、信號ニ要スル工作物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具、機械

四　前三號ニ掲クル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上ニ存スル地上權、登記シタル賃借權及前三號ニ掲クル土地ノ爲ニ存スル地役權

五　運河ニ要スル船舶竝之ニ屬スル器具、機械

六　運河ノ維持修繕ニ要スル材料及器具、機械

第十五條　國又ハ公共團體ハ免許ノ效力消滅シタル後運河開設ニ要シタル費用ヲ支拂ヒ其ノ運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得但シ運河及附屬物件ニシテ開設當時ニ比シ價格ヲ減損シタルモノアルトキハ開設ニ要シタル費用ヨリ之ヲ控除ス

前項費用ノ範圍及金額ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十六條　國又ハ公共團體ニ於テ必要ト認ムルトキハ免許年限ノ滿了前ト雖運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得

前項ノ買收價格ニ付協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十七條　左ニ掲クル場合ニ於テハ免許ヲ取消スコトヲ得

一　法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ

二　免許、許可若ハ認可ノ條件ニ違反シタルトキ

第十八條　工事竣功前免許ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ニ對シ原狀ノ回復其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第十九條　前二條ノ場合ニ於テ同一路線ニ當リ運河ノ開設ヲ免許セラレタル者ハ運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得

前項ノ買收價格ニ付協議調ハサルトキハ第十六條第二項ノ規定ニ依ル

本條ノ規定ハ運河財團ニ屬スルモノニハ之ヲ適用セス

附　則

第二十條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正二年十一月勅令第三〇五號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行）

第二十一條　本法施行前免許ヲ受ケタル運河ニ關シ本法ヲ適用スヘキ範圍ハ内務大臣之ヲ定ム

第二十二條　本法ノ適用ヲ受クル運河ノ用地ニシテ免許條件ニ依リ官有ニ歸屬シタルモノハ之ヲ運河經營者ニ下付スルコトヲ得

運河法施行規則

（大正二年十一月二十八日内務省令第十七號）

【沿革】大正七年四月省令第七號改正

運河法施行規則左ノ通定ム

第一條　運河開設免許ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添付スヘシ

一　起業目論見書

二　運河豫測圖

三　開設費概算書

四　事業上ノ收支概算書

五　組合事業ニ在リテハ其ノ組合契約書ノ謄本

六　會社發起人ニ在リテハ定款ノ謄本

七　會社ニ在リテハ其ノ會社ノ登記及定款ノ謄本竝運河事業經營ニ關スル株主總會ノ決議錄若ハ總社員ノ同意書ノ謄本

八　公共團體ニ在リテハ其ノ團體ノ運河事業經營ニ關スル決議書ノ謄本

第二條　起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　起業ノ目的及理由

二　運河ノ名稱及主タル事務所設置地

三　事業資金ノ總額及財源

四　運河ノ起點終點及經過地名

五　運河ノ延長、底幅及水深（里町間尺ヲ以テ示スヘシ）

六　運河ヲ通航スヘキ最大舟筏ノ長、幅及吃水竝航行ノ方法

七　工事施行期間

八　事業經營期間

第三條　運河豫測圖ハ左ノ三種トス

一　平面圖

縮尺ハ二萬分一以上トシ運河ノ中心線、閘門、水門、隧道、物揚場、乘降場、繫船場、船溜、待避場等ノ位置竝附近ノ鐵道、軌道、重要ナル道

略、水流、水面等ノ位置及名稱ヲ記載シ運河中心線ノ距離ハ六町毎ニ記入スヘシ

二　縱斷面圖

縮尺ハ距離ヲ二萬分一以上、高ヲ二百分一以上トシ地盤及運河底敷ノ高位、諸水位（成ルヘク陸地測量部水準基線ニ據ルヘシ）竝平面圖ニ示シタル各種工作物ノ位置ヲ記載シ距離ハ六町毎ニ記入スヘシ

三　橫斷定規圖

縮尺ハ二百分一以上トシ縱橫ノ各寸法ヲ記入スヘシ

運河豫測圖ニハ運河經過地ノ地勢、水路選定ノ理由竝運河ト附近ノ鐵道、軌道、重要ナル道路、水流、水面、社寺、公園、名勝、舊蹟等トノ關係ヲ說明シタル書類ヲ添付スヘシ

第四條　開設費概算書ニハ其ノ總額ヲ測量費、監督費、用地費、土工費、開門費、水門費、隧道費、橋梁費、通信信號設備費、建物費、船舶費、器具機械費、總係費等ノ各項ニ分チ數量及金額ヲ記載スヘシ

第五條　事業上ノ收支概算書ニハ收入及支出ノ總額、內譯竝其ノ計算ノ基ク所ヲ示シ且事業資金ニ對スル純益ノ割合ヲ記載スヘシ

第六條　工事設計認可ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一　運河實測圖
二　構造圖
三　工事說明書
四　土坪計算書
五　開設費豫算書

第七條　運河實測圖ハ左ノ三種トス

一　平面圖

縮尺ハ三千分一以上トシ運河ノ中心線、曲線ノ半徑及交角、運河用地ノ境界、水路、閘門、水門、隧道、道路、曳船道、堤防、物揚場、繫船場、船溜、待避場、上屋、倉庫、工場、舍宅、駐在所、通信所、信號所等及之ニ要スル土地ノ區劃、用地以外左右各百間以內ノ地勢、附近ノ市街、村落、鐵道、軌道、道路、水流、水面、社寺、公園、名勝、舊蹟等及其ノ名稱、運河開設ニ伴ヒ鐵道、軌道、道路、水流、水面等ヲ變換スル爲施設スヘキ工作物、府、縣、郡、市、區、町、村ノ境界及方位ヲ記載シ運河中心線ノ距離ハ一町毎ニ記入スヘシ

二　縱斷面圖

縮尺ハ距離ヲ平面圖ト同一ニシ高ヲ二百分一以上トシ地盤、運河底敷及兩岸堤防ノ高位、諸水位（成ルヘク陸地測量部水準基線ニ據ルヘシ）竝平面圖ニ示シタル各種工作物ノ位置ヲ記載シ距離ハ一町毎ニ記入スヘシ

三　橫斷面圖

縮尺ハ二百分一以上トシ一町毎ニ調製スヘシ但シ水路幅員ノ異ナル箇所ニ付テハ其ノ斷面ヲ示スヘシ

第八條　構造圖ハ左ノ二種トス

一　護岸、閘門、水門、隧道、曳船道、堤防、物揚場、乘降場、繫船場、船溜、待避場、通信所、信號所等ノ構造圖
二　運河開設ニ伴ヒ鐵道、軌道、道路、水流、水面等ヲ變換スル爲施設スヘキ橋梁、伏越其ノ他ノ工作物ノ構造圖

前項第二號ノ構造圖ニハ運河ト新舊工作物トノ關係ヲ明ニシタル平面圖及斷面圖ヲ添附スヘシ

第九條　工事說明書ニハ水路測定ノ理由、運河實測圖及構造圖ニ示シタル各工事設計ノ要領、工事施行ノ順序、作業方法、掘鑿及棄泄土砂處

分方法等ヲ記載スヘシ

第十條　土坪計算書ニハ一町毎（地盤ノ起伏甚シキカ又ハ幅員ニ變狹アルトキハ仍其ノ箇所毎）ニ橫斷面ヲ取リ其ノ番號、距離、平積、立積ヲ記載シ土質ヲ區別シテ切取、盛土ノ數量ヲ示スヘシ

第十一條　開設費豫算書ニハ第四條記載ノ各項ヲ目ニ分チ各其ノ數量、金額及內譯ヲ示スヘシ

閘門、水門、隧道等構造ノ複雜ナル工作物ニ付テハ設計書ヲ添付スヘシ

第十二條　免許ヲ受ケタル者會社設起人ナルトキハ會社成立ノ後ニ非サレハ工事設計ノ認可ヲ申請スルコトヲ得ス

第十三條　指定ノ期限內ニ工事設計ノ認可ヲ申請スルコト能ハサルトキハ正當ノ事由アル場合ニ限リ期限ノ伸長ヲ許可スルコトアルヘシ

第十四條　免許ヲ受ケタル者ハ工事設計ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月內ニ工事ニ著手シ指定ノ期限內ニ之ヲ竣功スヘシ但シ正當ノ事由ニ因リ期限內ニ著手又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ期限ノ伸長ヲ許可スルコトアルヘシ

第十五條　工事ニ著手シ又ハ竣功シタルトキハ遲滯ナク地方長官ニ屆出ツヘシ

工事竣功屆出後一箇月內ニ開設費精算書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第十六條　免許ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ全部又ハ一部ノ通航ヲ停止スルコトヲ得ス

第十七條　免許ヲ受ケタル者ハ每事業年度後一箇月內ニ事業報告書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第十八條　運河法第四條、第十五條第二項、第十六條第二項又ハ第十九條第二項ニ依ル決定ノ申請書ハ正副二通ヲ作成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當事者ノ表示
二　申請ノ目的及理由
三　協議ノ顚末

第十九條　前條ノ申請書ヲ受理シタル地方長官ハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ一定ノ期限內ニ答辯書ヲ提出セシムヘシ

指定ノ期限內ニ答辯書ヲ提出セサルトキハ地方長官ハ申請書ノミニ依リテ決定ヲ爲スコトヲ得副本ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

第二十條　決定ハ理由ヲ附シタル文書ヲ以テ之ヲ爲シ當事者雙方ニ送付スヘシ

第二十一條　左ノ場合ニ於テハ遲滯ナク內務大臣ニ屆出ツヘシ

一　免許申請者又ハ免許ヲ受ケタル者其ノ氏名若ハ住所ヲ變更シ又ハ死亡シタルトキ
二　會社成立シ又ハ解散シタルトキ
三　定款又ハ組合契約ヲ變更シタルトキ
四　本則第二條第二號及第三號ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキ
五　事業ヲ廢止シタルトキ

第二十二條　本則ニ依リ內務大臣ニ提出スル書類ハ總テ副本ヲ作成シ運河開設地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

附　則

第二十三條　本則ハ運河法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正二年十二月一

日ヨリ施行）

第二十四條　運河法施行前免許ヲ受ケタル運河ニシテ免許ノ條件ニ因リ免許年限滿了後官有ニ歸スヘキモノニ付テハ運河法中第十五條以外ノ規定ヲ、其ノ他ノモノニ付テハ運河法ノ規定全部ヲ適用ス

第二十五條　運河法ニ依リ許可若ハ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際既ニ許可若ハ認可ヲ受ケタルモノハ運河法ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十六條　運河法第二十二條ニ依リ運河用地ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ內務大臣ニ申請スヘシ

第一章ノ二　自動車

●自動車交通事業法（昭和六年四月一日法律第五十二號）

沿革　昭和一五年四月法律第一〇六號、一八年三月第五五號改正

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル自動車交通事業法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

自動車交通事業法

第一章　旅客自動車運輸事業

第一條　本法ニ於テ旅客自動車運輸事業トハ一般交通ノ用ニ供スル爲路線ヲ定メ定期ニ自動車ヲ運行シテ旅客ヲ運送スル事業ヲ謂フ

第二條　旅客自動車運輸事業ノ路線ハ一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路ニ依ルヘシ

第三條　主務大臣ハ命令ヲ以テ旅客自動車運輸事業ニ付路線ニ應ジテ使用スヘキ自動車ノ輛數其ノ他事業ノ基準ヲ定ムルコトヲ得

第四條　旅客自動車運輸事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運賃其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

主務大臣ハ前項ノ免許ヲ爲スニ當リ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ有效期間ヲ指定スルコトヲ得

第四條ノ二　旅客自動車運輸事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ旅客ノ運送ニ附隨シテ物品ヲ運送スルコトヲ得

第五條　主務大臣ハ旅客自動車運輸事業者ガ免許ノ有效期間滿了後仍引續キ其ノ事業ヲ經營センコトヲ申請シタルトキハ當該路線ニ依ル旅客自動車運輸事業ノ不必要其ノ他特別ノ事由ナキ限リ期間更新ノ免許ヲ爲スヘシ

第六條　旅客自動車運輸事業經營ノ免許ヲ受ケタル者ハ主務大臣ノ指定スル期間內ニ運輸開始ノ認可ヲ申請スヘシ

第十七條第一項ノ專用自動車道ヲ開設シテ旅客自動車運輸事業ヲ經營スル場合ニ在リテハ工事方法ヲ定メ前項ノ認可申請前主務大臣ノ指定スル期間內ニ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ

天災其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ前二項ノ期間內ニ認可ヲ申請スルコト能ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣ハ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第七條　旅客自動車運輸事業者事業計畫又ハ專用自動車道ノ工事方法ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　（削除）

第九條　旅客自動車運輸事業ノ運輸、設備及會計ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ旅客自動車運輸事業者ニ對シ左ニ揭ゲル事項ヲ命ズルコトヲ得

一　運賃其ノ他ニ關スル事業計畫又ハ專用自動車道ノ工事方法ヲ變更セシムルコト

二　路線ヲ延長又ハ變更セシムルコト但シ專用自動車道ノ延長及變更ハ此ノ限ニ在ラズ

三　他ノ運送事業者ト設備ノ共同、連絡運輸、運賃協定其ノ他運輸ニ關スル協定又ハ共同經營ヲ爲サシムルコト

四　旅客又ハ物品ノ運送ニ關スル損害ニ付保險ニ付セシムルコト

五　前各號ノ外事業ノ改善ヲ爲サシムルコト

前項第三號ノ場合ニ於テ其ノ實施方法又ハ各事業者ノ收得シ若ハ負擔スベキ金額ニ付協議調ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第十一條　免許、許可又ハ認可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ハ公益上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ第一項ノ條件ニ於テ他ノ運送事業者ヨリ事業ノ讓渡又ハ共同經營、會社ノ合併等ヲ求メタルトキハ之ニ應ズベキコトヲ命ジタル場合ニ於ケル實施方法及收得又ハ負擔金額ニ之ヲ準用ス

第十二條　旅客自動車運輸事業ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ズ

第十三條　旅客自動車運輸事業ノ讓渡ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

會社ノ合併ニ因ル旅客自動車運輸事業ノ承繼ニ付テハ合併前主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

旅客自動車運輸事業者死亡シタルトキハ相續人ハ其ノ事業ヲ承繼ス

旅客自動車運輸事業ヲ營ム會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十三條ノ二　旅客自動車運輸事業ノ管理ノ委託及受託ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ管理ノ受託ハ旅客自動車運輸事業者ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第一項ノ管理ノ委託及受託ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　左ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ旅客自動車運輸事業經營ノ免許ノ全部若ハ一部ヲ取消シ又ハ事業ノ全部若ハ一部ヲ停止セシムルコトヲ得

一　法令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ

二　法令ニ基キテ爲シタル處分又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

三　許可又ハ認可ヲ受ケタル事項ヲ故ナク實施セザルトキ

四　事業ノ經營不確實又ハ資產狀態ノ著シキ不良其ノ他ノ爲事業ヲ繼續スルニ適セズト認メタルトキ

五　公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキ

六　道路、自動車道又ハ通路ノ狀況ガ自動車ノ運行ニ適セザルニ至リタルトキ

第十五條　左ノ場合ニ於テハ旅客自動車運輸事業經營ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

一　運輸開始ノ認可申請期間內ニ認可ヲ申請セザルトキ

二　運輸開始ノ認可ナキトキ

三　事業經營ノ免許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ運輸開始ノ認可申請期間內（路線ノ全部又ハ一部ニ付專用自動車道ヲ開設スル場合ニ在リテハ工事施行ノ認可申請期間內）ニ會社設立ノ登記ヲ爲サザルトキ

四　專用自動車道ニ付工事施行ノ認可申請期間內ニ認可ヲ申請セザルトキ

五　專用自動車道ニ付工事施行ノ認可ナキトキ

六　事業ノ廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

第十六條　第四條第一項、第四條ノ二、第七條、第十條（第一項第二號及第四號ヲ除ク）及第十一條乃至第十三條ノ二ノ規定ハ旅客自動車運輸事業ニ非ズシテ一般ノ需用ニ應ジ自動車ヲ使用シテ旅客ヲ運送スル事業（旅客自動車運送事業）ニ之ヲ準用ス但シ第四條第一項、第七條、第十條及第十二條乃至第十三條ノ二中主務大臣トアルハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監トス）トス

本法ニ規定スルモノノ外免許ノ失效、免許ノ全部又ハ一部ノ取消、事業ノ全部又ハ一部ノ停止其ノ他旅客自動車運送事業ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

旅客自動車運輸事業又ハ旅客自動車運送事業ニ非ズシテ自動車ニ依リ旅客ヲ運送スル事業ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章　貨物自動車運送事業

第十六條ノ二　本法ニ於テ貨物自動車運送事業トハ他人ノ需用ニ應ジ自動車ヲ使用シテ物品ヲ運送スル事業ヲ謂フ

第十六條ノ三　貨物自動車運送事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運賃其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ免許ヲ受クベシ

第十六條ノ四　貨物自動車運送事業經營ノ免許ヲ受ケタル者ハ主務大臣ノ指定スル期間內ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

天災其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ前項ノ期間內ニ事業ヲ開始スルコト能ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣ハ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第十六條ノ五　事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業ノ爲ニ專用自動車道ヲ開設セントスル者ハ工事方法ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ工事方法ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ專用自動車道ノ工事方法ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十六條ノ六　主務大臣又ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監トス以下本章及第三章中之ニ同ジ）ハ公益上必要アリト認ムルトキハ貨物自動車運送事業者ニ對シ左ニ掲グル事項ヲ命ズルコトヲ得

一　運賃其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ變更セシムルコト

二　他ノ運送事業者ト設備ノ共用、連絡運輸、運賃協定其ノ他運輸ニ關スル協定又ハ共同經營ヲ爲サシムルコト

三　物品ノ運送ニ關スル損害ニ付保險ニ付セシムルコト

四　前各號ノ外事業ノ改善ヲ爲サシムルコト

前項第二號ノ場合ニ於テ其ノ實施方法又ハ各事業者ノ收得シ若ハ負擔スベキ金額ニ付協議調ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣又ハ地方長官之ヲ裁定ス

主務大臣又ハ地方長官ハ物資輸送ノ確保ヲ期スル爲必要アリト認ムルトキハ貨物自動車運送事業者ニ對シ物品ノ種類、數量、運賃其ノ他ノ運送條件ヲ定メ物品ノ運送ヲ命ズルコトヲ得

第十六條ノ七　政府ハ貨物自動車運送事業ノ施設ノ整備ヲ圖ル爲其ノ他特別ノ事情ニ依リ必要アリト認ムルトキハ貨物自動車運送事業者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍內ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第十六條ノ八　第七條（專用自動車道ノ工事方法ノ變更ニ關スル部分ヲ除ク）、第九條、第十一條乃至第十四條及第十五條第六號ノ規定ハ貨物

自動車運送事業ニ之ヲ準用ス

第十六條ノ九　貨物自動車運送事業ニ非ズシテ自動車ニ依リ物品ヲ運送スル事業及自動車ニ依ル物品運送ノ運送取扱業又ハ運送代辨業ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章　自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會

第十六條ノ十　自動車運送事業組合ハ旅客自動車運輸事業、旅客自動車運送事業又ハ貨物自動車運送事業（以下自動車運送事業ト總稱ス）ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲自動車運送事業ノ統制指導ヲ圖リ又ハ之ガ爲ニスル經營ヲ行ヒ且自動車運送事業ニ關スル國策ノ遂行ニ協力スルコトヲ目的トス

組合ハ法人トス

第十六條ノ十一　自動車運送事業組合ハ一定地區ニ於テ前條第一項ニ揭グル事業ノ種類別ニ其ノ事業者ヲ以テ之ヲ設立ス但シ特別ノ事情アルトキハ二種以上ノ事業者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

第十六條ノ十二　自動車運送事業組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ揭グル事業ヲ行フ

一　運賃、運輸其ノ他組合員ノ事業ニ關スル統制

二　組合員ノ事業ノ整備確立

三　組合員ノ事業ニ關スル指導、調査及研究

四　組合ハ前項ノ事業ノ外自動車運送事業ノ統制指導ノ爲必要アルトキハ左ニ揭グル事業ヲ併セ行フコトヲ得

一　組合員ノ事業ニ必要ナル物ノ購入、共同設備ノ設置其ノ他組合員ノ事業ニ關スル共同施設

二　組合員ノ事業ニ必要ナル資金ノ貸付

三　前各號ニ揭グルモノノ外必要ナル事業

前項ノ組合ノ共同施設ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限リ組合員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第二項第三號ノ事業ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得ズ

第十六條ノ十三　主務大臣ハ自動車運送事業組合ヲ設立セシメントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地區ヲ定メ其ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ組合ノ設立ヲ命ズベシ

前項ノ規定ニ依ル組合ノ設立ノ命令アリタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ創立總會ヲ開キ之ニ諮リテ定款其ノ他組合ノ設立ニ必要ナル事項ヲ定メ監事ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第一項ノ規定ニ依リ組合ノ設立ヲ命セラレタル者主務大臣ノ指定スル期限迄ニ其ノ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ主務大臣ハ定款ノ作成、監事ノ任命其ノ他組合ノ設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十六條ノ十四　自動車運送事業組合ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第十六條ノ十五　自動車運送事業組合成立シタルトキハ其ノ組合ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合ノ組合員トス

第十六條ノ十六　自動車運送事業組合ノ定款ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一　目的

二　名稱

三　地區

四　事務所ノ所在地

五　組合員ニ關スル規定

六　事業及其ノ執行ニ關スル規定

七　役員ニ關スル規定

八　會議ニ關スル規定

九　會計ニ關スル規定

第十六條ノ十七　自動車運送事業組合ニハ左ノ役員ヲ置クベシ

理事長	一人
理事	若干人
監事	若干人

理事長ハ組合ヲ代表シ組合事務ヲ總理ス

理事ハ理事長ヲ輔佐シ組合事務ヲ分掌シ豫メ理事長ノ定ムル順位ニ依リ理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ組合ノ業務及財產ノ狀況ヲ監査ス

理事長及理事ノ任期ハ三年、監事ノ任期ハ二年トス

理事長又ハ理事ト監事トハ相兼ヌルコトヲ得ズ

第十六條ノ十八　自動車運送事業組合ノ理事長ハ自動車運送事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ主務大臣ノ認可ヲ受ケ地方長官之ヲ命ズ

組合ノ理事ハ自動車運送事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ理事長之ヲ選任ス

組合ノ監事ハ創立總會又ハ總會ニ於テ之ヲ選任ス

前項ノ規定ニ依ル選任ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十六條ノ十九　自動車運送事業組合ノ理事長ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條ノ二十　自動車運送事業組合ハ組合員ノ事業ニ關スル統制規程ヲ定ムベシ

組合員ハ當該組合ノ統制規程ニ依ルベシ

第十六條ノ二十一　左ニ揭グル事項ハ總會ニ諮リ自動車運送事業組合ノ理事長之ヲ決ス

一　定款ノ變更

二　統制規程ノ制定及變更

三　收支豫算竝ニ賦課金ノ額及徵收方法

前項ノ規定ニ依ル組合ノ理事長ノ處分ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十六條ノ二十二　自動車運送事業組合ノ理事長ハ每年總會ニ組合ノ事業ノ狀況ヲ報告シ組合ノ監事ヲシテ財產ノ狀況ヲ報告セシムベシ

第十六條ノ二十三　自動車運送事業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ賦課シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

組合ハ其ノ事業ヲ行フ爲特ニ必要アルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ組合員ノ全部又ハ一部ニ對シ前項ノ規定ニ依ル賦課金ノ外特別ノ賦課金ヲ課スルコトヲ得

第十六條ノ二十四　前條ノ規定ニ依ル賦課金又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ自動車運送事業組合ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ組合ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

前項中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第一項ノ規定ニ依ル徴收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徴收金ニ次ギ其ノ時效ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル

第十六條ノ二十五　自動車運送事業組合ハ使用料及手數料ヲ徴收スルコトヲ得

前項ノ使用料及手數料ノ徴收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十六條ノ二十六　自動車運送事業組合ハ必要アリト認ムルトキハ組合ノ役員又ハ使用人ヲシテ組合員ノ業務若ハ財產ノ狀況又ハ帳簿、書類、設備其ノ他ノ物件ヲ檢查セシムルコトヲ得

組合前項ノ規定ニ依リ役員又ハ使用人ヲシテ檢查セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十六條ノ二十七　政府ハ自動車運送事業ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ自動車運送事業組合ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍內ニ於テ自動車運送事業ノ統制指導ニ要スル費用ノ一部ヲ補助スルコトヲ得

第十六條ノ二十八　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ自動車運送事業組合ニ對シ定款、統制規程、收支豫算、賦課金ノ額若ハ徴收方法ノ變更又ハ必要ナル事業ノ施行ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十六條ノ二十九　地方長官ハ自動車運送事業組合ノ役員ノ行爲ガ法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ、公益ヲ害シタルトキ其ノ他事業ノ執行上當該役員ヲ不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

第十六條ノ三十　自動車運送事業組合ハ主務大臣ノ命令ニ因リテ解散スル場合ノ外左ノ事業ヲ爲スコトヲ得ズ

一　自動車運送事業ノ經營

二　自動車運送事業ノ經營ニ關スル施設ニ對スル資金ノ貸付又ハ其ノ斡旋

三　自動車運送事業ノ經營ニ關スル共同施設

四　自動車運送事業ノ經營ニ關スル調査及研究

五　自動車運送事業ノ經營ニ關スル統制指導

六　前各號ノ事業ニ附帶スル事業

第十六條ノ三十一　自動車運送事業組合聯合會ハ自動車運送事業ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲其ノ會員ノ事業ノ統制指導ヲ圖リ又ハ之ガ爲ニスル經營ヲ行ヒ且自動車運送事業ニ關スル國策ノ立案及遂行ニ協力スルコトヲ目的トス

聯合會ハ法人トス

第十六條ノ三十二　自動車運送事業組合聯合會ハ第十六條ノ十第一項ニ揭グル事業ノ種類別ニ之ヲ設立シ全國ヲ通ジテ一個トス但シ特別ノ事情アルトキハ二種以上ノ事業ニ付之ヲ設立スルコトヲ得

聯合會ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ左ニ揭グル者トス

一　當該自動車運送事業ノ事業者ヲ以テ組織スル自動車運送事業組合

二　當該自動車運送事業ノ事業者ニシテ自動車運送事業組合ノ組合員タラザルモノ

第十六條ノ三十三　自動車運送事業組合聯合會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ揭グル事業ヲ行フ

一　自動車運送事業ニ關スル政府ノ計畫ニ對スル參畫

二　自動車運送事業ニ關スル調査及研究

三　會員ノ事業ニ關スル統制指導

四　會員ノ事業ニ關スル檢查

聯合會ハ前項ノ事業ノ外其ノ會員ノ事業ノ統制指導ノ爲必要アルトキハ左ニ揭グル事業ヲ併セ行フコトヲ得

一　會員ノ事業ニ必要ナル物ノ購入、共同設備ノ設置其ノ他會員ノ事業ニ關スル共同施設

二　前號ニ揭グルモノノ外必要ナル事業

前項ノ聯合會ノ共同施設ハ會員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限リ會員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第二項第二號ノ事業ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得ズ

第十六條ノ三十四　自動車運送事業組合聯合會ニハ左ノ役員ヲ置クベシ

會長　一人

理事　若干人

監事　若干人

評議員　若干人

聯合會ニハ前項ノ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ理事長一人ヲ置クコトヲ得

會長ハ聯合會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

理事長ハ會長ヲ輔佐シ會務ヲ掌理シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ會長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

理事ハ會長及理事長ヲ輔佐シ會務ヲ分掌シ豫メ會長ノ定ムル順位ニ依リ會長及理事長共ニ事故アルトキハ會長ノ職務ヲ代理シ會長及理事長共ニ缺員ノトキハ會長ノ職務ヲ行フ

監事ハ聯合會ノ業務及財產ノ狀況ヲ監査ス

評議員ハ會長ノ諮問ニ答申シ又ハ會長ニ對シ意見ヲ具申ス

會長、理事長及理事ノ任期ハ三年、監事及評議員ノ任期ハ二年トス

會長、理事長又ハ理事ト監事トハ相兼ヌルコトヲ得ズ

第十六條ノ三十五　自動車運送事業組合聯合會ノ會長ハ鉉衡委員ノ推薦シタル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

前項ノ鉉衡委員ハ自動車運送事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

聯合會ノ理事長及理事ハ自動車運送事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ會長之ヲ命ズ

聯合會ノ監事ハ創立總會又ハ總會ニ於テ之ヲ選任ス

聯合會ノ評議員ハ自動車運送事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

第十六條ノ三十六　理事長ハ會長ヲ補佐シ會務ヲ掌理シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ會長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

理事ハ會長及理事長ヲ補佐シ會務ヲ分掌シ豫メ會長ノ定ムル順位ニ依リ會長及理事長共ニ事故アルトキハ會長ノ職務ヲ代理シ會長及理事長共ニ缺員ノトキハ會長ノ職務ヲ行フ

監事ハ聯合會ノ業務及財產ノ狀況ヲ監査ス

評議員ハ會長ノ諮問ニ答申シ又ハ會長ニ對シ意見ヲ具申ス

會長、理事長及理事ノ任期ハ三年、監事及評議員ノ任期ハ二年トス

第十六條ノ三十七　自動車運送事業組合ニ關スル規定ハ第十六條ノ十乃至第十六條ノ十二及第十六條ノ十七乃至第十六條ノ十九ノ規定ヲ除クノ外自動車運送事業組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第十六條ノ二十一及第十六條ノ二十二中自動車運送事業組合ノ理事長又ハ組合ノ理事長トアルハ聯合會ノ會長トシ第十六條ノ二十九中地方長官トアルハ主務大臣トス

第十六條ノ三十八　主務大臣ハ自動車運送事業ノ統制ノ徹底ヲ期スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ニ對シ他ノ自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ト運賃ノ統制其ノ他事業ノ實施ニ關シ協定ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ運賃、事業ノ實施方法其ノ他必要ナル事項ニ付協議調ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第十六條ノ三十九　自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三

者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十六條ノ四十　本法ニ規定スルモノノ外自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會ノ管理、合併、解散、清算其ノ他組合及聯合會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條ノ四十一　自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ

第四章　自動車道及自動車道事業

第十七條　本法ニ於テ自動車道トハ專ラ自動車ノ一般交通ノ用ニ供スル道路（一般自動車道）及旅客自動車運輸事業者又ハ貨物自動車運送事業者（事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業ノ事業者ニ限ル以下本章中之ニ同ジ）ガ其ノ事業用自動車ノ專用ニ供スル通路（專用自動車道）ヲ謂フ

本法ニ於テ自動車道事業トハ一般自動車道ヲ開設シ有償又ハ無償ニテ之ヲ專ラ自動車ノ一般交通ノ用ニ供スル事業ヲ謂フ

第十八條　自動車道事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ使用料金其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ免許ヲ受クベシ

第十九條　自動車道事業經營ノ免許ヲ受ケタル者ハ工事方法ヲ定メ主務大臣ノ指定スル期間內ニ工事施行ノ認可ヲ申請スベシ

天災其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ前項ノ期間內ニ認可ヲ申請スルコト能ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣ハ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第二十條　自動車道事業者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ主務大臣ノ指定スル期間內ニ一般自動車道ノ工事ニ著手シ之ヲ竣功セシムベシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ノ伸長ニ之ヲ準用ス

第二十一條　自動車道事業者事業計畫又ハ一般自動車道ノ工事方法ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十二條　自動車道ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ自動車道事業者、旅客自動車運輸事業者又ハ貨物自動車運送事業者ノ事業者ニ限ル以下本章中之ニ同ジ）ガ其ノ事業用自動車ノ專用ニ供スル通路（專用自動車道）ヲ謂フ

本法ニ於テ自動車道事業トハ一般自動車道ヲ開設シ有償又ハ無償ニテ之ヲ專ラ自動車ノ一般交通ノ用ニ供スル事業ヲ謂フ

第十八條　自動車道事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ使用料金其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ免許ヲ受クベシ

第十九條　自動車道事業經營ノ免許ヲ受ケタル者ハ工事方法ヲ定メ主務大臣ノ指定スル期間內ニ工事施行ノ認可ヲ申請スベシ

天災其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ前項ノ期間內ニ認可ヲ申請スルコト能ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣ハ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第二十條　自動車道事業者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ主務大臣ノ指定スル期間內ニ一般自動車道ノ工事ニ著手シ之ヲ竣功セシムベシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ノ伸長ニ之ヲ準用ス

第二十一條　自動車道事業者事業計畫又ハ一般自動車道ノ工事方法ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十二條　自動車道ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ自動車道事業者、旅客自動車運輸事業者又ハ貨物自動車運送事業者ノ事業者ニ限ル以下本章中之ニ同ジ）ガ其ノ事業用自動車ノ專用ニ供スル通路（專用自動車道）ヲ謂フ

本法ニ於テ自動車道事業トハ一般自動車道ヲ開設シ有償又ハ無償ニテ之ヲ專ラ自動車ノ一般交通ノ用ニ供スル事業ヲ謂フ

第十八條　自動車道事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ使用料金其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ免許ヲ受クベシ

第十九條　自動車道事業經營ノ免許ヲ受ケタル者ハ工事方法ヲ定メ主務大臣ノ指定スル期間內ニ工事施行ノ認可ヲ申請スベシ

天災其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ前項ノ期間內ニ認可ヲ申請スルコト能ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣ハ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第二十條　自動車道事業者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ主務大臣ノ指定スル期間內ニ一般自動車道ノ工事ニ著手シ之ヲ竣功セシムベシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ノ伸長ニ之ヲ準用ス

第二十一條　自動車道事業者事業計畫又ハ一般自動車道ノ工事方法ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十二條　自動車道ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ自動車道事業者、旅客自動車運輸事業者又ハ貨物自動車運送事業者ノ事業者ニ限ル以下本章中之ニ同ジ）ガ其ノ事業用自動車ノ專用ニ供スル通路（專用自動車道）ヲ謂フ

本法ニ於テ自動車道事業トハ一般自動車道ヲ開設シ有償又ハ無償ニテ之ヲ專ラ自動車ノ一般交通ノ用ニ供スル事業ヲ謂フ

第十八條　自動車道事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ使用料金其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ免許ヲ受クベシ

第十九條　自動車道事業經營ノ免許ヲ受ケタル者ハ工事方法ヲ定メ主務大臣ノ指定スル期間內ニ工事施行ノ認可ヲ申請スベシ

天災其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ前項ノ期間內ニ認可ヲ申請スルコト能ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣ハ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第二十條　自動車道事業者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ主務大臣ノ指定スル期間內ニ一般自動車道ノ工事ニ著手シ之ヲ竣功セシムベシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ノ伸長ニ之ヲ準用ス

前項ノ條件ハ公益上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第二十七條　自動車道事業者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ズ

第二十八條　自動車道事業ノ讓渡ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生セズ

會社ノ合併ニ因ル自動車道事業ノ承繼ニ付テハ合併前主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

自動車道事業者死亡シタルトキハ相續人ハ其ノ事業ヲ承繼ス

自動車道事業ヲ營ム會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生セズ

第二十九條　左ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ自動車道事業經營ノ免許ノ全部又ハ一部ヲ取消シ又ハ事業ノ全部又ハ一部ヲ停止セシムルコトヲ得

一　法令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ

二　法令ニ基キテ爲シタル處分又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

三　主務大臣ノ指定スル期間內ニ工事ヲ竣功セズ其ノ他許可又ハ認可ヲ受ケタル事項ヲ故ナク實施セザルトキ

四　事業ノ經營不確實又ハ資產狀態ノ著シキ不良其ノ他ノ爲事業ヲ繼續スルニ適セズト認メタルトキ

五　公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキ

第三十條　左ノ場合ニ於テハ自動車道事業經營ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

一　工事施行ノ認可申請期間內ニ認可ヲ申請セザルトキ

二　工事施行ノ認可ナキトキ

三　事業經營ノ免許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ工事施行ノ認可申請期間內ニ會社設立ノ登記ヲ爲サザルトキ

四　事業ノ廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

第三十一條　政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ガ自動車道ニ接續シ若ハ接近シ又ハ之ヲ橫斷シテ一般ノ道路、自動車道、橋梁、河川、運河、溝渠、鐵道、軌道、索道等ヲ造設セントスルトキハ自動車道事業者、旅客自動車運輸事業者又ハ貨物自動車運送事業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ自動車道事業者、旅客自動車運輸事業者又ハ貨物自動車運送事業者ニ對シ設備ノ共用又ハ變更ヲ命ズルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ其ノ實施方法及費用ノ負擔ニ付協議調ハザルトキハ申請ニ因リ關係主務大臣之ヲ裁定ス自動車道事業者、旅客自動車運輸事業者又ハ貨物自動車運送事業者ノ受ケタル損害ノ補償ニ付亦同ジ

第三十二條　一般自動車道以外ノ自動車ノ通行スル道路ヲ開設シテ使用料金ヲ徵收スル場合ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章　共通規定

第三十三條　同一ノ一般自動車道ニ依ル自動車道事業ト自動車運輸事業トノ兼營ノ場合ニ於ケル免許、許可及認可ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三十四條　主務大臣、地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム以下之ニ同ジ）又ハ鐵道局長ハ必要アリト認ムルトキハ自動車運送事業

ノ事業者、自動車運送事業組合、自動車運送事業組合聯合會又ハ自動車道事業者ヲシテ事業上ノ報告ヲ爲サシメ、書類ヲ提出セシメ又ハ監査員ヲ派遣シテ事業ノ狀況ヲ監査セシムルコトヲ得

監査員ハ自動車運送事業ノ事業者、自動車運送事業組合、自動車運送事業組合聯合會若ハ自動車道事業者又ハ其ノ代表者若ハ其ノ他ノ從業者ニ說明ヲ求メ帳簿、書類及圖面ヲ檢閱スルコトヲ得

監査員其ノ職務ヲ執行スル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶スベシ

第三十五條　本法ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官又ハ鐵道局長ニ委任スルコトヲ得

第三十六條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣、地方長官又ハ鐵道局長ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ爲スコトヲ得

第三十七條　國ニ於テ經營スル旅客自動車運輸事業、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業及自動車道事業ニ付テハ第一條乃至第三條、第四條ノ二、會計ニ關スル部分ヲ除キタル第九條（第十六條ノ八ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第十六條ノ二、第十七條、第二十二條、第二十四條及第五十四條乃至第五十七條ノ規定ニ限リ本法ヲ適用ス

國ニ於テ旅客自動車運輸事業、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業又ハ自動車道事業ヲ經營セントスルトキハ當該官廳ハ主務大臣ニ協議ヲ爲スベシ

國ニ於テ旅客自動車運輸事業又ハ事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業ヲ經營シタル爲之ト路線又ハ事業區間ヲ共通ニスル旅客自動車運輸事業者又ハ貨物自動車運送事業者又ハ其ノ他ノ事業ヲ經營スル者ニ對シ其ノ事業ノ經營ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第六章　自動車交通事業抵當

第三十八條　旅客自動車運送事業、貨物自動車運送事業又ハ自動車道事業ヲ營ム株式會社ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲旅客自動車運輸事業、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業又ハ自動車道事業ニ在リテハ其ノ事業ノ全部又ハ一部ニ付、旅客自動車運送事業又ハ事業區間ヲ定メザル貨物自動車運送事業ニ在リテハ其ノ事業ノ全部ニ付自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得

前項ニ揭グル株式會社自動車交通事業財團ヲ設定セントスルトキハ當該株式會社ニ屬シ且其ノ事業ニ關スル自動車ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ登錄ヲ受クベシ自動車交通事業財團設定後新ニ其ノ財團ノ所有者ニ屬シ又ハ其ノ事業ニ關スルニ至リタル自動車ニ付亦同ジ

第一項ニ揭グル事業ノ抵當ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外鐵道抵當法ヲ準用ス但シ同法第一章及第三章中登錄トアルハ登記、第四十六條、第六十八條及第六十九條中監督官廳トアルハ登記所、第八十條乃至第八十二條、第八十八條及第九十二條中監督官廳トアルハ裁判所トス

第三十九條　自動車交通事業財團ハ左ニ揭グルモノニシテ同一ノ旅客自動車運輸事業者、旅客自動車運送事業者、貨物自動車運送事業者又ハ自動車道事業者ニ屬シ且其ノ事業ニ關スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

一　自動車道ノ敷地及其ノ上ニ存スル工作物竝ニ之ニ屬スル器具機械

二　發著場、駐車場其ノ他自動車運行ノ爲必要ナル沿線土地及其ノ上ニ存スル工作物竝ニ之ニ屬スル器具機械

三　自動車庫、停留所、貨物庫、給油所、附屬工場、事務所、事務員駐在所其ノ他事業ノ爲必要ナル建物及其ノ敷地竝ニ之ニ屬スル器具機械

四　通信又ハ信號ニ要スル工作物及其ノ敷地竝ニ之ニ屬スル器具機械

五　前四號ニ揭グル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上ニ存スル地上權及第三者ニ對抗シ得ベキ貸借權竝ニ前四號ニ揭グル土地ノ爲ニ存スル地役權

六　前條第二項ノ規定ニ依リ登錄ヲ受ケタル自動車及其ノ附屬品

七　事業經營ノ爲必要ナル貯藏物品及器具機械

第四十條　前條第一號乃至第三號ニ揭グル不動產ノ何レモガ存セザルトキハ自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得ズ

自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當權ハ之ノミニ依リテ擔保セラルル債務ノ額ガ三萬圓以上ナラザルトキハ之ヲ設定スルコトヲ得ズ但シ第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十一條　第三十八條第一項ノ規定ニ依リ事業ノ一部ニ付自動車交通事業財團ヲ設定スル場合ニ於テハ旅客自動車運輸事業ニ在リテハ獨立ノ路線ニ付、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業ニ在リテハ獨立ノ事業區間ニ付、自動車道事業ニ在リテハ獨立ノ一般自動車道ニ付之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十二條　同一事業者ガ第三十八條第一項ニ揭グル事業ノ二以上ヲ兼

營スル場合ニ於テハ此等ノ事業ノ中二以上ノ事業ニ關スルモノヲ合シテ一個ノ自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得但シ此等ノ事業ノ何レカニ付自動車交通事業財團ノ設定アリタル後ハ其ノ事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ事業者ガ自動車道事業ト其ノ他ノ事業トニ付各別ニ自動車交通事業財團ヲ設定スル場合ニハ一般自動車道ノ敷地其ノ他專ラ自動車道事業ニ關スルモノハ他ノ事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ屬スルコトナシ

第四十三條　自動車交通事業財團ノ設定ハ自動車交通事業財團登記簿ニ所有權保存ノ登記ヲ爲スニ依リテ之ヲ爲ス

自動車交通事業財團登記簿ニ所有權保存ノ登記ヲ爲シタルトキハ第三十九條ニ規定スルモノハ當然自動車交通事業財團ニ屬ス但シ第三者ニ對抗シ得ベキ他人ノ權利ノ目的タルモノ又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

自動車交通事業財團ノ設定後新ニ其ノ財團ノ所有者ニ屬シタルモノ亦前項ニ同ジ

第四十四條　自動車交通事業財團ハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權及抵當權以外ノ權利、差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ズ但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ之ヲ第三十八條第一項ニ揭グル事業ヲ營ム株式會社ニ讓渡スハ此ノ限ニ在ラズ

自動車交通事業財團ニ屬スルモノハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ權利、差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ズ但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ之ヲ讓渡シ又ハ貸付グルハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ自動車交通事業財團ニ屬スルモノヲ讓渡シタルトキハ抵當權ハ其ノモノニ付消滅ス

第四十五條　自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當權ノ設定又ハ變更ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後定款變更ト同一方法ノ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第四十六條　自動車交通事業財團ノ登記ニ付テハ其ノ財團ノ所有者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ其ノ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

自動車交通事業財團ノ所有者タル會社カ本店ヲ一登記所ノ管轄地ヨリ他ノ登記所ノ管轄地ニ移シタル場合ニ於ケル登記手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

左ノ場合ニ於テハ登記所ハ直ニ其ノ旨ヲ主務大臣ニ通知スベシ

一　第一順位ノ抵當權ノ設定ヲ登記シタルトキ

二　自動車交通事業財團ノ用紙ヲ閉鎖シタルトキ

第四十七條　自動車交通事業財團ニ關シテハ工場抵當法第十條、第十二條、第十八條乃至第二十條、第二十二條乃至第四十四條、第四十七條及第四十八條ノ規定ヲ準用ス

本法ニ規定スルモノヲ除クノ外自動車交通事業財團ノ登記ニ關シテハ不動產登記法ヲ準用ス

登記ノ申請書ニハ不動產登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ揭ゲル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スベシ

一　自動車交通事業財團ノ設定セラルル事業ノ表示

二　旅客自動車運輸事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ在リテハ其ノ事業ノ行ハルル路線ノ表示

二ノ二　事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ在リテハ其ノ事業區間ノ表示

二ノ三　旅客自動車運送事業又ハ事業區間ヲ定メザル貨物自動車運送事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ在リテハ其ノ事業ノ行ハルル主タル事業區域ノ表示

三　自動車道事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ在リテハ之ニ屬スル一般自動車道ノ表示

四　免許ニ有效期間ノ指定アルトキハ其ノ期間

五　免許ニ條件ガ附セラレタルトキハ其ノ條件

第四十八條　第四十二條第一項ノ規定ニ依リテ自動車交通事業財團ヲ設定シタル場合ニ於テ第三十八條第一項ニ揭ゲル事業ノ何レカニ付事業經營ノ免許ノ失效又ハ取消アリタルトキハ抵當權者ハ一事業ニ付自動車交通事業財團ノ設定セラレタル場合ニ準ジ財團ノ全部ニ對シ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得

第四十九條　自動車交通事業財團ニ對スル抵當權ノ强制執行ニ付テハ執行シ得ベキ一定ノ債務名義ヲ要セズ

强制管理ノ開始ハ第三十八條第一項ニ揭ゲル事業ニ對スル主務大臣又ハ地方長官ノ監督ヲ妨ゲズ

强制管理ノ管理人ノ任免ニ付テハ裁判所ハ主務大臣ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

强制管理終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ旨ヲ主務大臣ニ通知スベシ

第七章　罰則

第五十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　免許ヲ受ケズシテ第三十八條第一項ニ揭ゲル事業ヲ經營シタルトキ

二　認可ヲ受ケズシテ一般自動車道ノ供用ヲ開始シタルトキ

第五十一條　免許ヲ受ケタル者ノ名義ヲ利用シテ第三十八條第一項ニ揭ゲル事業ヲ經營シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス名義ヲ利用セシメタル者亦同ジ

第五十二條　旅客自動車運輸事業者、旅客自動車運送事業者、貨物自動車運送事業者又ハ自動車道事業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第五十條ニ規定スル場合ヲ除クノ外本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケテ爲スベキ事項ヲ之ヲ受ケズシテ爲シタルトキ

二　免許、許可又ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ

三　本法ニ基キテ爲シタル處分（第十六條ノ十三第一項及第十六條ノ三十七ニ於テ準用スル同條同項ノ規定ニ基キテ爲シタル處分ヲ除ク）又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

四　第三十八條第二項ノ規定ニ依ル自動車ノ登錄ニ付不實ノ事項ノ登錄ヲ申請シタルトキ

五　正當ノ事由ナクシテ一般自動車道ノ使用ヲ拒ミタルトキ

六　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ屆出又ハ報告ヲ爲スベキ事項ニ付虛僞ノ屆出又ハ報告ヲ爲シタルトキ

第五十一條　監査員ノ監査ヲ妨ゲタルトキ

第五十三條　旅客自動車運輸事業者、旅客自動車運送事業者、貨物自動車運送事業者又ハ自動車道事業者ガ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

旅客自動車運輸事業者、旅客自動車運送事業者、貨物自動車運送事業者又ハ自動車道事業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

會社ノ代表者其ノ他ノ從業者會社ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ會社ニ適用ス

第五十四條　自動車道若ハ其ノ標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ自動車道ニ於ケル自動車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五十五條　人ノ現在スル旅客自動車運輸事業ノ自動車ヲ顚覆シ又ハ破壞シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ傷ニ致シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五十六條　第五十四條ノ罪ヲ犯シ因テ自動車ノ顚覆又ハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同ジ

第五十七條　過失ニ因リ第五十四條第一項又ハ第五十五條第一項ノ罪ヲ

犯シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ業務ニ從事スル者犯シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條　自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ノ役員、使用人又ハ清算人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第五十九條　前條第一項ニ揭ゲル者ニ對シ賄賂ヲ交付シ、提供シ又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得

第五十九條ノ二　自動車運送事業組合ノ組合員又ハ自動車運送事業組合聯合會ノ會員統制規程ニ基キテ爲シタル組合又ハ聯合會ノ處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條ノ三　自動車運送事業組合ノ組合員又ハ自動車運送事業組合聯合會ノ會員第十六條ノ二十六第一項又ハ第十六條ノ三十七ニ於テ準用スル同條同項ノ檢査ヲ妨ゲタルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第五十九條ノ四　自動車運送事業組合聯合會ノ會員ガ自動車運送事業組合ナルトキハ第五十九條ノ二ノ規定ハ其ノ行爲ヲ爲シタル組合ノ役員又ハ使用人ニ、前條ノ規定ハ其ノ行爲ヲ爲シタル組合ノ役員ニ之ヲ適用ス

第六十條　左ノ場合ニ於テハ自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ノ役員又ハ清算人ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ認可又ハ許可ヲ受ケテ爲スベキ事項ヲ之ヲ受ケズシテ爲シタルトキ

二　本法ニ基キテ爲シタル處分（第十六條ノ三十七ニ於テ準用スル第十六條ノ十三第一項ノ規定ニ基キテ爲シタル處分ヲ除ク）ニ違反シタルトキ

三　行政官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

四　本法ニ依リ行政官廳ノ發スル報告ヲ差出サズ又ハ監査員ノ監査ヲ妨ゲ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ

五　第十六條ノ三十九ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

六　第十六條ノ四十ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反シタルトキ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和八年九月勅令第二百五十號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

本法施行前自動車運輸事業又ハ自動車道事業ニ該當スル事業ニ付地方長官ノ爲シタル事業經營ノ免許又ハ許可ハ之ヲ本法ニ依ル自動車運輸事業又ハ自動車道事業經營ノ免許ト看做ス

主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ前項ノ自動車運輸事業ニ付新ニ免許ノ有效期間、運輸開始ノ認可申請期間又ハ事業ノ休止期間ヲ指定スルコトヲ得

登錄稅法第三條ノ六中「又ハ漁業財團登記簿」ヲ「、漁業財團登記簿又ハ自動車交通事業財團」ヲ加フ

附　則（昭和十五年法律第百六號）

第一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十六年一月勅令第七十六號ヲ以テ同年二月一日ヨリ施行）

第二條　從前ノ規定又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ自動車交通事業財團登記簿ニ登記セラレタル事項ニ付變更アリタルトキハ登記所ハ主務大臣ノ囑託ニ依リテ變更ノ登記ヲ爲スベシ

第三條　本法施行ノ際現ニ存スル商業組合又ハ商業組合聯合會ニシテ從前ノ第一條ノ自動車運輸事業又ハ從前ノ第十六條ノ運送事業ノ事業者ノミヲ其ノ組合員又ハ其ノ所屬ノ組合ノ組合員若ハ其ノ所屬ノ聯合會ヲ組織スル組合ノ組合員トスルモノハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依ル自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ト爲リタルモノトス

前項ノ場合ニ於テ登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　本法施行前從前ノ規定ニ依リテ處罰スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第五條　小運送業法第一條中「鐵道、軌道若ハ自動車運輸事業」ヲ「鐵道若ハ軌道」ニ、「鐵道、軌道又ハ自動車運輸事業」ヲ「鐵道又ハ軌道」ニ改ム

第六條　陸上交通事業調整法第一條中「自動車運輸事業」ヲ「旅客自動車運輸事業」ニ改ム

第七條　帝國鐵道會計法中左ノ通改正ス

第三條中「又ハ自動車運輸事業」ヲ「、旅客自動車運輸事業又ハ事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業」ニ改ム

第七條中「及地方鐵道補助金」ヲ「、地方鐵道補助金及自動車運送事業補助金」ニ改ム

第八條　商工組合中央金庫法中左ノ通改正ス

第一條中「及貿易組合聯合會」ヲ「、貿易組合聯合會、自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會」ニ改ム

第三條第一項中「貿易組合聯合會」ノ下ニ「、自動車運送事業組合聯合會」ヲ加ヘ同條第三項及第四項中「又ハ貿易組合聯合會」ヲ「、貿易組合聯合會又ハ自動車運送事業組合聯合會」ニ改ム

第七條及第二十九條中「又ハ貿易組合聯合會」ヲ「、貿易組合聯合會、自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會」ニ改ム

第二十七條中「及貿易組合」ヲ「、貿易組合及自動車運送事業組合」ニ改ム

第二十八條中「貿易組合聯合會、」ノ下ニ「自動車運送事業組合、自動車運送事業組合聯合會、」ヲ加フ

第九條　登錄稅法第十九條中「又ハ肥料製造業組合」ヲ「、肥料製造業組合、自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會」ニ、「又ハ重要肥料業統制法」ヲ「、重要肥料業統制法又ハ自動車交通事業法」ニ改ム

第十條　印紙稅法第四條中「又ハ貿易組合聯合會」ヲ「、貿易組合聯合會、自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會」ニ改ム

第十一條　特別法人稅法中左ノ通改正ス

第二條中第七號ヲ第八號トシ第八號ヲ第九號トシ第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

七　自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會（所屬ノ組合員ヲ組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク）

附　則（昭和十八年法律第五十五號）

第一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十八年八月勅令第六百六十三號ヲ以テ同年八月十五日ヨリ施行）

第二條　從前ノ第十六條ノ三、第十六條ノ四又ハ第十六條ノ八ノ規定ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ同條ノ改正規定ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三條　本法施行ノ際現ニ本法ニ依リ新ニ免許ヲ受クベキモノト爲リタル事業ヲ營ム者ハ本法施行後三月內ニ限リ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得此ノ期間內ニ事業經營ノ免許申請ヲ爲ストキハ免許又ハ免許ノ拒否ノ日迄亦同シ

第四條　本法施行ノ際現ニ存スル自動車運送事業組合ハ本法ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル組合ニシテ地區ヲ同ジクスルモノノ成立シタル時解散ス

本法施行ノ際現ニ存スル自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會ニ付テハ仍從前ノ規定ヲ適用ス

第五條　本法施行前從前ノ規定ニ依リテ處分スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第六條　印紙稅法中左ノ通改正ス

第四條第一項第十二號中「自動車運送事業組合、自動車運送事業組合聯合會、」ヲ削ル

●自動車交通事業法施行令

（昭和十六年一月二十二日勅令第七十七號）

沿革　昭和一八年八月勅令第六六四號改正

自動車交通事業法施行令改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　自動車交通事業法中主務大臣トアルハ自動車道事業ニ關シテハ內務大臣及鐵道大臣、其ノ他ニ關シテハ同法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外鐵道大臣トス

第二條　左ニ揭グル場合ニ於テハ鐵道大臣ハ內務大臣ニ協議スベシ

一　自動車交通事業法第四條ノ規定ニ依リ免許ヲ爲サントスルトキ

二　自動車交通事業法第十六條ノ三ノ規定ニ依リ事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業ノ經營ノ免許ヲ爲サントスルトキ

三　貨物自動車運送事業者ニ對シ自動車交通事業法第十六條ノ八ニ於テ準用スル第七條ノ規定ニ依リ事業計畫ノ變更（事業區間ヲ新設又ハ變更スル場合ニ限ル）ノ認可ヲ爲サントスルトキ

四　公共團體ニ對シ自動車交通事業法第十條、第十一條第三項、第十三條第一項、第十三條ノ二第一項、第十四條、第十六條ノ六、第一項、第二項又ハ第十六條ノ八ニ於テ準用スル第十一條第三項、第十

三條第一項、第十三條ノ二第一項若ハ第十四條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲サントスルトキ

五　自動車交通事業法第三十七條第二項ノ規定ニ依リ爲サレタル旅客自動車運輸事業又ハ事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業ノ經營ノ協議ニ應セントスルトキ

第三條　鐵道大臣自動車運送事業組合ニ付自動車交通事業法ニ定ムル職務ヲ行フ場合ニ於テ其ノ職務ガ同法第十六條ノ十二第二項ノ規定ニ依リ自動車運送事業組合ノ行フ賦金ノ貸付ノ事業ニ關スルモノナルトキハ大藏大臣ニ協議スベシ

第四條　左ニ揭グル場合ニ於テハ地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監トス）ハ旅客自動車運送事業經營ノ免許ノ全部若ハ一部ヲ停止セシムルコトヲ得

一　法令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ

二　法令ニ基キテ爲シタル處分又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

三　事業ノ經營不確實又ハ資產狀態ノ著シキ不良其ノ他ノ爲事業ヲ繼續スルニ適セズト認メタルトキ

四　公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキ

第五條　左ニ揭グル場合ニ於テハ旅客自動車運送事業經營ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

一　免許ヲ受ケタル後四月以內ニ事業ヲ開始セザルトキ

二　事業ノ廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

第六條　前二條ニ規定スルモノノ外旅客自動車運送事業ニ關シ必要ナル事項ハ鐵道大臣之ヲ定ム

第七條　鐵道大臣自動車交通事業ノ統制其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ左ニ揭グル事業ノ經營ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

一　旅客自動車運輸事業又ハ旅客自動車運送事業ニ非ズシテ自動車ニ依リ旅客ヲ運送スル事業

二　貨物自動車運送事業ニ非ズシテ自動車ニ依リ物品ヲ運送スル事業

三　自動車ニ依ル物品運送ノ運送取扱業又ハ運送代辨業

前項各號ニ揭グル事業ニ關シ必要ナル事項ハ鐵道大臣之ヲ定ム

第八條　自動車交通事業法第十六條ノ七ノ規定ニ依リ補助ヲ爲ス貨物自動車運送事業者ハ鐵道若ハ軌道ト連絡スル事業又ハ產業上特ニ有用ナル事業ヲ營ム者ニ限ル

第九條　貨物自動車運送事業者ガ輸送上必要ナル施設ニシテ鐵道大臣ノ定ムルモノノ取得、建設又ハ改良ヲ爲シタルトキハ其ノ費用ノ三分ノ一以內ニ於テ鐵道大臣ノ定ムル補助金ヲ交付スルコトヲ得

第九條ノ二　貨物自動車運送事業者ガ貨物自動車ノ修繕ヲ爲シタルトキハ其ノ費用ノ一部ニ付鐵道大臣ノ定ムル補助金ヲ交付スルコトヲ得

第九條ノ三　貨物自動車運送事業者自動車交通事業法第十六條ノ六第三項ノ規定ニ依ル運送ニ從事シタルガ爲益金ガ減少シ又ハ損金ガ增大シタルトキハ鐵道大臣ノ定ムル補助金ヲ交付スルコトヲ得

第十條　第九條ノ補助金ハ貨物自動車運送事業ノ施設ノ整備ノ爲、第九條ノ二ノ補助金ハ貨物自動車ノ修繕ノ爲之ヲ使用スベシ

第十一條　貨物自動車運送事業ノ管理者ガ法令若ハ法令ニ基キテ發スル命令、免許若ハ補助ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲

ヲ爲シタルトキハ鐵道大臣ハ其ノ補助ヲ停止シ若ハ廢止シ又ハ補助金ヲ償還セシムルコトヲ得

第十二條　詐欺ノ行爲ヲ以テ補助金ヲ受ケタルトキハ法定ノ利息ヲ附シテ之ヲ償還セシム

第十三條　國ニ於テ旅客自動車運輸事業（以下運輸事業ト稱ス）又ハ事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業（以下運送事業ト稱ス）ヲ經營シタル爲之ト路線又ハ事業區間ヲ共通ニスル旅客自動車運輸事業者又ハ貨物自動車運送事業者（以下事業者ト總稱ス）ガ其ノ部分ニ付事業ヲ繼續スルコト能ハザルニ至リ廢止シタル場合ニ於ケル補償金額ハ事業者ノ該部分ニ於ケル利益ノ年額ヲ基礎トシ其ノ七年分以内ニ於テ鐵道大臣ノ定ムル所ニ依リ計算シ一時ニ之ヲ交付ス但シ事業者ノ同意アリタル場合ハ分割シテ三年以内ニ之ヲ交付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ事業者ノ決算ニ基キ鐵道大臣ノ査定シタル該部分ノ興業費ヨリ殘存物件ノ價額ヲ控除シ殘額アルトキハ該殘額ノ範圍内ニ於テ鐵道大臣ノ決定シタル額ヲ前項ノ規定ニ依ル交付金額ニ加算スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ殘存路線又ハ殘存事業區間ノミニ付事業ヲ繼續スルコト能ハザルニ至リ廢止シタル場合ニ於ケル補償金ノ交付ニ之ヲ準用ス

前各項ノ規定ニ依ル補償金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ國ノ經營スル運輸事業又ハ運送事業ノ運輸開始ノ日ヨリ一年以内ニ其ノ事業廢止ノ許可ヲ申請スルコトヲ要ス

第十四條　國ニ於テ運輸事業又ハ運送事業ヲ經營シタル爲之ト路線又ハ事業區間ヲ共通ニスル事業者ガ其ノ部分ニ付著シク運輸收入ヲ減少スルニ至リタル場合ニ於ケル補償金額ハ國ノ經營スル運輸事業又ハ運送事業ニ轉嫁シタリト認メラルル運輸數量ニ對應スル事業者ノ利益ノ減少額ノ範圍内ニ於テ鐵道大臣ノ定ムル所ニ依リ計算シ之ヲ交付ス

前項ノ規定ニ依ル補償ノ期間ハ國ノ經營スル運輸事業又ハ運送事業ノ運輸開始ノ日ヨリ三年以内トス

第一項ノ規定ニ依ル補償金ハ前條ノ規定ニ依ル補償金ヲ交付スル場合ニハ之ヲ交付セズ

第十五條　前二條ノ利益ハ運輸收入ヨリ營業費ヲ控除シタル殘額ヲ謂フ但シ第十三條ノ場合ニ於テ殘額ガ運輸收入ノ百分ノ五ニ達セザルトキハ該收入ハ百分ノ五ニ相當スル額トス

第十六條　前三條ノ興業費及殘存物件ノ價額ハ事業廢止ノ日ニ於ケル額ニ依ル

第十四條　國ニ於テ運輸事業又ハ運送事業ヲ經營シタル爲之ト路線又ハ事業區間ヲ共通ニスル事業者ガ其ノ部分ニ付著シク運輸收入ヲ減少スルニ至リタル場合ニ於ケル補償金額ハ國ノ經營スル運輸事業又ハ運送事業ニ轉嫁シタリト認メラルル運輸數量ニ對應スル事業者ノ利益ノ減少額ノ範圍内ニ於テ鐵道大臣ノ定ムル所ニ依リ計算シ之ヲ交付ス

前項ノ規定ニ依ル補償ノ期間ハ國ノ經營スル運輸事業又ハ運送事業ノ運輸開始ノ日ヨリ三年以内トス

第一項ノ規定ニ依ル補償金ハ前條ノ規定ニ依ル補償金ヲ交付スル場合ニハ之ヲ交付セズ

第十五條　前二條ノ利益ハ運輸收入ヨリ營業費ヲ控除シタル殘額ヲ謂フ但シ第十三條ノ場合ニ於テ殘額ガ運輸收入ノ百分ノ五ニ達セザルトキハ該收入ハ百分ノ五ニ相當スル額トス

第十六條　前三條ノ興業費及殘存物件ノ價額ハ事業廢止ノ日ニ於ケル額ニ依ル

事業區間ヲ共通ニスル事業者ガ其ノ部分ニ付著シク運輸收入ヲ減少スルニ至リタル場合ニ於ケル補償金額ハ國ノ經營スル運輸事業又ハ運送事業ニ轉嫁シタリト認メラルル運輸數量ニ對應スル事業者ノ利益ノ減少額ノ範圍内ニ於テ鐵道大臣ノ定ムル所ニ依リ計算シ之ヲ交付ス

前項ノ規定ニ依ル補償ノ期間ハ國ノ經營スル運輸事業又ハ運送事業ノ運輸開始ノ日ヨリ三年以内トス

第一項ノ規定ニ依ル補償金ハ前條ノ規定ニ依ル補償金ヲ交付スル場合ニハ之ヲ交付セズ

第十五條　前二條ノ利益ハ運輸收入ヨリ營業費ヲ控除シタル殘額ヲ謂フ但シ第十三條ノ場合ニ於テ殘額ガ運輸收入ノ百分ノ五ニ達セザルトキハ該收入ハ百分ノ五ニ相當スル額トス

第十三條ノ興業費及殘存物件ノ價額ハ事業廢止ノ日ニ於ケル額ニ依ル

第十六條　前三條ノ興業費及殘存物件ノ價額ハ事業廢止ノ日ニ於ケル額ニ依ル

本令ハ昭和十五年法律第百六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十六年二月一日ヨリ施行）

昭和八年勅令第二百二十號及昭和十三年勅令第五百二號ハ之ヲ廢止ス

陸上交通事業調整法施行令中「自動車運輸事業」ヲ「旅客自動車運輸事業」ニ改ム

附　則（昭和十八年勅令第六百六十四號）

本令ハ昭和十八年法律第五十五號施行ノ日（昭和十八年八月十五日）ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行前取得シタル貨物自動車ニ付テハ當該貨物自動車運送事業ヲ經營シタル爲之ト路線又ハ事業區間ヲ共通ニスル事業者ノ申請ニ依リ仍從前ノ規定ニ依リ補助スルコトヲ妨ゲズ

前項但書ノ規定ニ依リ從前ノ規定ニ依ル補助ヲ受クル者ニハ其ノ補助ヲ受クル間當該貨物自動車ニ付第九條ノ二ノ規定ニ依ル補助ハ之ヲ爲サズ

●自動車交通事業法施行規則

（昭和八年八月五日鐵道、内務省令）

沿革　昭和一六年一月鐵道、内務省令第一號、一七年一二月第二號、一八年八月第一號改正

自動車交通事業法施行規則左ノ通定ム

自動車交通事業法施行規則

第一章　旅客自動車運輸事業

第一條　旅客自動車運輸事業經營ノ免許申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　本籍及住所

二　氏名、商號又ハ名稱

三　路線　路線ヲ以テ明示スルノ外左ノ事項ヲ記載スルコト

イ　起點終點ノ地名地番（通稱アルトキハ之ヲ附記スルコト）

ロ　延長

ハ　主ナル經過地

ニ　專用自動車運ヲ開設スルモノニ在リテハ其ノ區間

四　事業計畫

第二十類　通信、交通及電氣　第二編　交通

ヲ示ス圖ヲ添附スルコト）

六　一年ヲ通ジ繼續シテ運輸ヲ爲スモノニ非ザルトキハ運輸ヲ爲ス期間

免許申請ノ際前項第一號「イ」ニ揭グル車輛ノ車名、形式及年式竝ニ「ハ」ニ揭グル事項ヲ記載スルコト能ハザルトキハ之ガ記載ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ免許並ニ運輸開始ノ屆出ニ付テハ其ノ事項ニ付別ニ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

路線延長ノ免許ヲ申請スル場合ニ於テ既免許路線ノ事業計畫ニ變更ヲ生ズルトキハ其ノ關係ヲ明示シ該變更ニ關スル手續ヲ省略スルコトヲ得

旅客自動車運輸事業基準規程又ハ旅客自動車運輸事業設備規程ニ適合セザル事業計畫ヲ定メタルトキハ其ノ事由ヲ詳記スベシ

第三條　第一條ノ路線圖ハ縮尺五萬分ノ一以上ノ平面圖トシ左ノ事項ヲ記載シ縮尺方位ヲ示スベシ

一　路線

二　停留所ノ位置、名稱及特ニ特避所ヲ設クルトキハ其ノ位置

三　車庫ノ位置

四　一般ノ道路、種類ヲ明示スルコト）、自動車道及二般通行ノ用ニ供スル道路ノ別竝ニ其ノ種別幅ノ杆程及有效幅員、往路及復路ノ別アルトキハ其ノ區間及方向

車運送事業者ノ申請ニ依リ仍從前ノ規定ニ依リ補助スルコトヲ妨ゲズ

前項但書ノ規定ニ依リ從前ノ規定ニ依ル補助ヲ受クル者ニハ其ノ補助ヲ受クル間當該貨物自動車ニ付第九條ノ二ノ規定ニ依ル補助ハ之ヲ爲サズ

●自動車交通事業法施行規則

（昭和八年八月五日鐵道、内務省令）

沿革　昭和一六年一月鐵道、内務省令第一號、一七年一二月第二號、一八年八月第一號改正

自動車交通事業法施行規則左ノ通定ム

自動車交通事業法施行規則

第一章　旅客自動車運輸事業

第一條　旅客自動車運輸事業經營ノ免許申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　本籍及住所

二　氏名、商號又ハ名稱

三　路線　路線ヲ以テ明示スルノ外左ノ事項ヲ記載スルコト

イ　起點終點ノ地名地番（通稱アルトキハ之ヲ附記スルコト）

ロ　延長

ハ　主ナル經過地

ニ　專用自動車運ヲ開設スルモノニ在リテハ其ノ區間

四　事業計畫

五　沿線ニ於ケル學校、工場、名所舊蹟等多數旅客ノ參集スル場所

第四條　地方長官免許申請書ヲ受附ケタルトキハ一般ノ道路及一般通行ノ用ニ供スル通路ノ管理者ニ對シ答申ノ期限ヲ指定シテ其ノ管理上ノ意見ヲ聽スベシ

第五條　地方長官ハ免許申請書ニ左ノ事項ニ關スル調査ヲ遂ヘ免許ノ許否ニ關スル意見ヲ附シ之ヲ通遞スベシ

一　申請者ノ資產及信用程度

二　事業ノ成否及效用

三　一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路ノ適否（管理者ノ意見書ノ寫ヲ添附シ期限內ニ答申ナキトキハ其ノ旨ヲ記載スルコト）

四　旅客自動車運輸事業、自動車道事業、鐵道、軌道、索道等（未開業ノモノヲ含ム）ニ及ボス影響

五　附近ニ於ケル旅客自動車運輸事業、自動車道事業、鐵道、軌道、索道等ノ出願アルトキハ其ノ名稱、區間、申請者、申請書ノ受附年月日等

六　申請路線ニ於ケル推定運輸數量（該路線ノ經營ニ依リ免免許路線ノ運輸數量ヲ增加スベキ場合ニ在リテハ尙其ノ推定增加運輸數量ヲ記載スルコト）及其ノ推定ノ根據

七　其ノ他必要ト認ムル事項

地方長官第二條第三項ノ規定ニ依リ內務大臣ニ提出スベキ書類ヲ受附ケタルトキハ前項ノ規定ニ依ル書類ノ寫ヲ遂ヘ內務大臣ニ之ヲ提出スベシ

第六條　事業計畫ガ旅客自動車運輸事業基準ニ適合セザルトキハ免許ニ五年以內ノ有效期間ヲ指定ス

第七條　臨時ノ必要ニ因リ一月以內ノ期間ヲ限リ旅客自動車運輸事業ノ經營セントスル場合ニ於ケル免許申請書ニハ第一條第二項乃至第四項ノ規定ニ依ル書類ヲ添附セズ又第一條第二項ニ揭グル書類ノ內容ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

第八條　事業計畫變更ノ認可申請書ニハ變更セントスル事項及事由ヲ記載シ新舊ヲ對照シタル書類及圖面ヲ添附スベシ

專用自動車道ノ工事方法變更ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テ事業計畫ノ變更ヲ伴フモノナルトキハ前項ノ書類及圖面ヲ提出シ該變更ニ關スル手續ヲ省略スルコトヲ得

第九條　事業計畫ノ變更ニシテ第一號乃至第五號ニ揭グルモノハ地方長官ニ、第六號ニ揭グルモノハ鐵道大臣ニ其ノ事由及實施ノ年月日ヲ記載シ新舊ヲ對照シタル書類ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

一　車輛ノ車名、形式、動力ノ種類又ハ車體ヲ變更スルトキ（旅客自動車運輸事業ニ關スル規程ニ適合セザル車體又ハ車體ニ變更スルトキヲ除ク）

二　往路復路ノ別アル場合ニ於テ其ノ區間及方向ヲ變更スルトキ

三　一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路ノ工事等ニ因リ停留所ノ位置ヲ一時變更スルトキ

四　待避所ヲ新設シ廢止シ又ハ其ノ位置ヲ變更スルトキ

五　營業所ノ名稱ヲ變更シ又ハ營業所ヲ新設シ廢止シ若ハ多額ノ變更スルトキ

六　停留所若ハ主タル事務所ノ名稱ヲ變更シ又ハ主タル事務所ヲ新設シ廢止シ若ハ統轄スルトキ

第十條　旅客自動車運輸事業者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ片道運賃及往復運賃ニ限リ認可ヲ受ケズシテ之ヲ五割以內割引スルコトヲ得但シ割引期間ハ一年ヲ通ジテ六十日ヲ超ユルコトヲ得ズ

一　季節ニ依リ旅客ヲ誘致スルトキ

二　祝祭日、祭日、記念日等多數旅客ノ參集スルトキ

前項ノ規定ニ依ル運賃ノ割引ヲ爲シタルトキハ其ノ事由、割引期間、割引區間及割引率ヲ記載シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第十一條　專用自動車道ノ工事施行ノ認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　工事方針

二　工事實施算書（第二號樣式）

三　免許ヲ受ケタル會社ヲ設立セントスルモノナルトキハ定款及會社ノ登記簿謄本

第十二條　工事方法書ニハ左ノ事項ヲ記載シ實測圖ヲ添附スベシ

一　工事ヲ執行スル區間ノ起點終點ノ地名地番及延長

二　鋪裝及路床ノ構造竝ニ路面ノ橫斷勾配

三　路梁、溝渠、隧道其ノ他ノ工作物ノ構造（主要ナルモノニ在リテハ耐力計算書ヲ添附スルコト）

四　排水設備

五　一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路トノ連絡若ハ交叉ノ方法竝ニ鐵道、軌道等トノ交叉方法（交叉ニ關スル協定ノ要領ヲ記載スルコト）

前項第二號乃至第五號ノ事項ニ付テハ構造寸法ヲ示ス設計圖ヲ添附スベシ

設計圖ハ縮尺ヲ一般圖ニ在リテハ二百分ノ一以上、詳細圖ニ在リテハ五十分ノ一以上（鋼鈑ニ在リテハ十五分ノ一以上）トスベシ但シ簡易ナル工作物ニ在リテハ定規圖ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十三條　實測圖ハ左ノ三種トス

一　平面圖

縮尺ハ二千五百分ノ一以上トシ左ノ事項

ヲ記載シ縮尺方位ヲ示スベシ

イ　起點終點ノ地名地番竝ニ經過市町村名及其ノ境界線

ロ　中心線ヨリ左右各二十米以上ニ亘ル區域內ノ地形地物

ハ　二十米毎（地形ニ依リ短縮スルコトヲ得）ノ測點及百米毎ノ過加距離ヲ示シタル中心線

ニ　曲線ノ起點終點、半徑及交角

ホ　鐵軌員線、敷地境界線及自動車運行ノ爲必要ナル沿線土地ノ境界線

ヘ　橋梁、隧道其ノ他ノ主要ナル工作物ノ位置及名稱

ト　一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路トノ連絡若ハ交叉ノ位置及名稱竝ニ鐵道、軌道等トノ交叉ノ位置及名稱

チ　停留所、待避所等ノ位置及名稱

市街地ニ在リテハ縮尺五百分ノ一以上ノ平面圖ニ「イ」乃至「チ」ニ揭グル事項ヲ記載シ別ニ之ヲ添附スベシ

二　縱斷面圖

縮尺ハ橫ヲ平面圖、縱ヲ橫斷面圖ト同一トシ左ノ事項ヲ記載スベシ

イ　測點番號、測點間距離及累加距離

ロ　測點毎ノ中心線ノ地面、施工基面及盛土ノ高、切土ノ深

ハ　勾配及其ノ延長

ニ　縱斷曲線ノ位置及延長

ホ　曲線ノ起點終點、半徑及方向

ヘ　橋梁、溝渠、隧道其ノ他ノ工作物ノ位置及名稱（橋梁及溝渠ニ在リテハ其ノ種類及材質、桁間ノ長及徑、隧道ニ在リテハ其ノ長ヲ明示スルコト）

ト　一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路トノ連絡若ハ交叉ノ位置及名稱竝ニ鐵道、軌道等トノ交叉ノ方法

チ　停留所、待避所等ノ位置及名稱

三　橫斷面圖

縮尺ハ二百分ノ一以上トシ二十米毎（地形ニ依リ伸縮スルコトヲ得）ニ專用自動車道ノ敷地境界線ヨリ左右各五米以上ニ亘ル區間ノ橫斷面ヲ示シ左ノ事項ヲ記載スベシ

イ　測點番號

ロ　施工基面ノ幅

ハ　盛土切土ノ斜面ノ勾配

ニ　屈曲部ニ於ケル路面ノ片勾配

ホ　敷地ノ境界及自動車運行ノ爲必要ナル沿線土地ノ境界

第十四條　專用自動車道ノ全部ニ付工事施行ノ認可ヲ一時ニ申請スルコト能ハザルトキハ其ノ事由ヲ記載シ分割シテ認可ヲ申請スルコトヲ得

第十五條　自動車交通事業法第六條第三項ノ期間伸長ノ申請書ニハ伸長ノ期間及事由ヲ記載スベシ

第十六條　專用自動車道ノ工事方法變更ノ認可申請書ニハ變更セントスル事項及事由ヲ記載シ新舊ヲ對照シタル書類及圖面ヲ添附スベシ

第十七條　專用自動車道ノ工事方法ノ變更ニシテ左ニ揭グルモノハ其ノ事由ヲ記載シ新舊ヲ對照シタル書類及圖面ヲ添附シ遲滯ナク地方長官ニ之ヲ屆出ヅベシ

一　縱斷勾配ヲ緩ナラシメ又ハ二十分ノ一迄急ナラシムルトキ

二　縱斷曲線ヲ變更スルトキ

三　施工基面高ノ變更ニシテ路端ノ高ヲ增加スルトキ（洪水氾濫區域ヲ除ク）又ハ水流水面ノ最高水位上三十糎迄低下スルトキ

四　側溝ヲ長カラシメ又ハ八十米迄短縮スルトキ

五　盛土切土ノ斜面ノ勾配ヲ緩ナラシムルトキ

六　路肩ノ幅員ヲ擴張スルトキ

七　曲線ノ半徑ヲ長カラシメ又ハ百米迄短縮スルトキ

八　屈曲部ノ兩端ニ於ケル緩和區間ヲ長カラシムルトキ

第三一〇號

九　路面上ノ有效高ヲ大ナラシメ又ハ四・五米迄短縮スルトキ

十　橋梁又ハ溝渠ノ桁ノ下端ト最高水位トノ間隔ヲ大ナラシムルトキ

十一　既認可ノ設計ト同一設計ニ依リ橋梁、溝渠又ハ隧道ヲ新設スルトキ

第十八條　運輸開始ノ認可申請書ニハ免許ヲ受ケタル者會社ヲ設立セントスルモノナルトキハ定款及會社ノ登記簿ノ謄本（當該區間ニ專用自動車道ヲ開設スル場合ヲ除ク）ヲ添附スベシ

當該區間ニ專用自動車道ヲ開設スル場合ニ於テ道路、橋梁、河川、運河等ニ關スル工事並功セザルトキハ運輸開始ノ認可ヲ申請スルコトヲ得ズ但シ其ノ工事ニ付所管行政廳ノ承認ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

運輸ヲ開始シタルトキハ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第十九條　旅客自動車運輸事業職員ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者之ニ連署スベシ

一　職員ノ及職受人ノ本籍及住所竝ニ氏名、兩號又ハ名稱

二　職員ノ範圍及職務價額

三　職員ノ事由

前項ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スベシ

一　路線圖（路線竝ニ其ノ起點終點及分岐點ノ地名地番ヲ明示スルコト）
二　鐵道敷設契約書ノ謄本及鐵道敷設概況説明書
三　當該路線ノ最近ノ興業費明細表及最近一年間ノ運輸收支表
四　申請者會社ニシテ鐵道又ハ軌道ニ付株主總會又ハ社員總會ノ決議又ハ無限責任社員若ハ總社員ノ同意ヲ要スルトキハ其ノ議事及決議ノ要領書又ハ同意書ノ謄本
五　鐵道受入會社ナルトキハ現ニ旅客自動車運輸事業ヲ經營スルモノヲ除クノ外定款及登記簿ノ謄本竝ニ最近ノ財産目錄及貸借對照表、會社ヲ設立セントスルモノナルトキハ定款ノ謄本
六　自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當權ノ設定アルトキハ抵當權者ノ同意書ノ謄本

旅客自動車運輸事業ノ一部ヲ鐵道又ハ軌道ニ讓渡スル場合ニ於テハ鐵道又ハ軌道ノ讓受及殘存部分ニ付各別ノ事業計畫書ヲ提出シ事業計畫變更ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

事業ノ全部ヲ鐵道又ハ軌道ニ讓渡スル場合ニ於テ鐵道又ハ軌道ノ讓受人ガ鐵道又ハ軌道ノ事業ニ付事業計畫ヲ變更セントスルトキハ其ノ關係ヲ明示シ該變更ニ關スル手續ヲ省略スルコトヲ得

第二條　第三項ノ規定ハ鐵道又ハ軌道ノ讓受人ガ鐵道又ハ軌道ノ讓受ニ依リ旅客自動車運輸事業ヲ營ムノ會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ノ認可申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ株主總會若ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書又ハ無限責任社員若ハ總社員ノ同意書ノ謄本ヲ添附スベシ

第二十一條　旅客自動車運輸事業者死亡シタルニ因リ其ノ事業ヲ承繼シタル相續人ハ戶籍謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第二十二條　旅客自動車運輸事業休止ノ許可申請書ニハ休止セントスル路線（事業ノ一部ヲ休止セントスルトキハ其ノ路線竝ヲ添附スルコト）、期間及事由ヲ記載スベシ

許可ヲ受ケタル期間中ニ事業ヲ再開シタルトキハ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第二十三條　旅客自動車運輸事業廢止ノ許可申請書ニハ廢止セントスル路線（事業ノ一部ヲ廢止セントスルトキハ其ノ路線竝ヲ添附スルコト）及事由ヲ記載シ第十九條第二項第四號ニ準ズル書類ヲ添附スベシ

第二十四條　旅客自動車運輸事業ヲ營ム會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ノ認可申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ株主總會若ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書又ハ無限責任社員若ハ總社員ノ同意書ノ謄本ヲ添附スベシ

五　合併後存續スル會社ニ在リテハ現ニ旅客自動車運輸事業ヲ經營スルモノヲ除クノ外定款及登記簿ノ謄本、合併ニ因リ設立スル會社ニ在リテハ定款ノ謄本
前條第四項及第五項ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル事業承繼ノ場合ニ之ヲ準用ス
合併ニ因リ事業ヲ承繼シタル會社ハ登記簿ノ謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第二十一條　旅客自動車運輸事業者死亡シタルニ因リ其ノ事業ヲ承繼シタル相續人ハ戶籍謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第二十二條　旅客自動車運輸事業休止ノ許可申請書ニハ休止セントスル路線（事業ノ一部ヲ休止セントスルトキハ其ノ路線竝ヲ添附スルコト）、期間及事由ヲ記載スベシ

許可ヲ受ケタル期間中ニ事業ヲ再開シタルトキハ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第二十三條　旅客自動車運輸事業廢止ノ許可申請書ニハ廢止セントスル路線（事業ノ一部ヲ廢止セントスルトキハ其ノ路線竝ヲ添附スルコト）及事由ヲ記載シ第十九條第二項第四號ニ準ズル書類ヲ添附スベシ

第二十四條　旅客自動車運輸事業ヲ營ム會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ノ認可申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ株主總會若ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書又ハ無限責任社員若ハ總社員ノ同意書ノ謄本ヲ添附スベシ

ル場合ニ之ヲ準用ス

公共團體ニ於テ旅客自動車運輸事業ノ讓渡ニ關シ第一項及第二項ノ規定ニ依ル書類ヲ鐵道大臣ニ提出スルトキハ同時ニ其ノ謄本ヲ內務大臣ニ提出スベシ

鐵受人專業ヲ承繼シタルトキハ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

鐵受許可ヲ受ケタル者會社ヲ設立セントスルモノナルトキハ前項ノ屆書ニハ會社ノ登記簿ノ謄本ヲ添附スベシ

第二十條　會社ノ合併ニ因ル旅客自動車運輸事業承繼ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者之ニ連署スベシ

一　合併スル會社及合併ニ因リ設立スル會社ノ住所及商號
二　合併ノ方法及條件
三　合併ノ事由

前項ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スベシ

一　前條第二項第一號ニ揭グル路線圖
二　合併契約書ノ謄本及合併比率說明書
三　合併スル會社ノ最近ノ財產目錄、貸借對照表、興業費明細表及最近一年間ノ運輸收支表
四　合併ニ關スル株主總會若ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書又ハ無限責任社員若ハ總社員ノ同意書ノ謄本

第二章　旅客自動車運送事業

第三十一條　旅客自動車運送事業經營ノ免許申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　本籍及住所
二　氏名、商號又ハ名稱
三　事業計畫
四　事業經營ノ事由

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　興業費概算書（經過、內譯及資金調達方法ヲ明示スルコト）
二　運輸收支概算書
三　申請者會社ナルトキハ現ニ旅客自動車運送事業ヲ經營スルモノヲ除クノ外定款及登記簿ノ謄本竝ニ最近ノ財產目錄及貸借對照表、會社ヲ設立セントスルモノナルトキハ定款ノ謄本

第三十二條　事業計畫ニハ左ノ事項ヲ定ムベシ

一　事業種別、路線ヲ定メ定期ニ非ズシテ自動車ヲ運行シテ旅客ノ運送ヲ目的トスル事業（路線旅客自動車運送事業）、經營區間ヲ定メ自動車ヲ運行シテ團體旅客ノ運送ヲ目的トスル事業（團體旅客自動車運送事業）又ハ其ノ他ノ事業（普通旅客自動車運送事業）ノ別ヲ記載スルコト
二　主タル事業區域

ニ依ル書類ヲ鐵道大臣ニ提出スルトキハ同時ニ其ノ謄本ヲ內務大臣ニ提出スベシ

第一項第二號乃至第四號ニ揭グル事項ヲ變更セントスルトキハ第一項及第二項ノ規定ニ準ジ作成シタル書類ヲ提出シ鐵道大臣（樺太ニ在リテハ樺太廳長官）ノ認可ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テハ前二項（樺太ニ在リテハ第三項）ノ規定ヲ準用ス

樺太廳長官前項ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク鐵道大臣ニ之ヲ報告スベシ

管理ノ委託及受託終了シタルトキハ其ノ事由及年月日ヲ記載シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第二十六條　管理ノ委託及受託ヲ爲シタル事業ニ關スル許可又ハ認可ノ申請、屆出、報告其ノ他ノ手續ハ委託者及受託者連署シテ之ヲ爲スベシ

管理ノ委託及受託ヲ爲シタル事業ニ關スル帳簿、乘車券、荷物切符等ニハ委託關係ヲ明示スル文言ヲ表示スベシ

第二十七條　管理ノ委託及受託ヲ開始セントスルトキハ當事者ハ豫メ管理ノ委託及受託ノ區間及期間ヲ公告スベシ公告シタル事項ヲ變更セントスルトキ又ハ管理ノ委託及受託終了シタルトキ亦同ジ

第二十八條　旅客自動車運輸事業ノ共同經營ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シ當事者連署シタル書面ヲ提出シ鐵道大臣（樺太ニ在リテハ樺太廳長官）ノ認可ヲ受クベシ

一　路線ノ起點終點（專用自動車道ノ起點終點ヲ含ム）ノ地名地番又ハ主ナル經過地名ニ變更アリタルトキ
二　主タル事務所ノ所在場所ノ地名地番ニ變更アリタルトキ
三　本籍、住所、氏名、商號又ハ名稱ヲ變更シタルトキ
四　事業者法人ナル場合ニ於テ其ノ主タル代表者ニ變更アリタルトキ
五　營業所ノ所在場所ノ地名地番ニ變更アリタルトキ

第三十條ノ二　地方長官旅客自動車運輸事業ニ關スル書類ニシテ鐵道大臣ノ處分ヲ要スルモノヲ進達セントスルトキハ當見ノ附ス

一　當事者ノ住所及主タル事務所竝ニ氏名、商號又ハ名稱
二　共同經營ノ區間及方法
三　收入ノ割賦及經費分擔ノ方法
四　共同經營ノ期間
五　共同經營ノ事由

前項ノ認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　共同經營契約書ノ謄本
二　第十九條第二項第四號ニ準ズル書類

第一項第二號乃至第四號ニ揭グル事項ヲ變更セントスルトキハ前二項ノ規定ニ準ジ作成シタル書類ヲ提出シ鐵道大臣（樺太ニ在リテハ樺太廳長官）ノ認可ヲ受クベシ

第二十五條　第三項ノ規定ハ第一項及前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

共同經營終了シタルトキハ其ノ事由及年月日ヲ記載シ當事者連署ノ上遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

樺太廳長官第一項、第三項及第四項ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク鐵道大臣ニ之ヲ報告スベシ

第二十九條　旅客自動車運輸事業者他ノ運送事業者ト連絡運輸ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ記載シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ旅客自動車運送事業者自己ノ經營スル他ノ運送機關ト通シ運送ヲ爲シタルトキ亦同ジ

一　相手方ノ主タル事務所及氏名、商號又ハ名稱竝ニ其ノ起點終點及分岐點ノ地名地番ヲ明示スルコト）
二　鐵道敷設契約書ノ謄本及鐵道敷設概況説明書
三　當該路線ノ最近ノ興業費明細表及最近一年間ノ運輸收支表
四　申請者會社ニシテ鐵道又ハ軌道ニ付株主總會又ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書又ハ同意書ノ謄本
五　鐵道受入會社ナルトキハ現ニ旅客自動車運輸事業ヲ經營スルモノヲ除クノ外定款及登記簿ノ謄本竝ニ最近ノ財產目錄及貸借對照表、會社ヲ設立セントスルモノナルトキハ定款ノ謄本
六　自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當權ノ設定アルトキハ抵當權者ノ同意書ノ謄本

旅客自動車運輸事業ノ一部ヲ鐵道又ハ軌道ニ讓渡スル場合ニ於テハ鐵道又ハ軌道ノ讓受及殘存部分ニ付各別ノ事業計畫書ヲ提出シ事業計畫變更ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

事業ノ全部ヲ鐵道又ハ軌道ニ讓渡スル場合ニ於テ鐵道又ハ軌道ノ讓受人ガ鐵道又ハ軌道ノ事業ニ付事業計畫ヲ變更セントスルトキハ其ノ關係ヲ明示シ該變更ニ關スル手續ヲ省略スルコトヲ得

第二條　第三項ノ規定ハ鐵道又ハ軌道ノ讓受人ガ鐵道又ハ軌道ノ讓受ニ依リ旅客自動車運輸事業ヲ營ムノ會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ノ認可申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ株主總會若ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書又ハ無限責任社員若ハ總社員ノ同意書ノ謄本ヲ添附スベシ

第二十一條　旅客自動車運輸事業者死亡シタルニ因リ其ノ事業ヲ承繼シタル相續人ハ戶籍謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第二十二條　旅客自動車運輸事業休止ノ許可申請書ニハ休止セントスル路線（事業ノ一部ヲ休止セントスルトキハ其ノ路線竝ヲ添附スルコト）、期間及事由ヲ記載スベシ

許可ヲ受ケタル期間中ニ事業ヲ再開シタルトキハ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第二十三條　旅客自動車運輸事業廢止ノ許可申請書ニハ廢止セントスル路線（事業ノ一部ヲ廢止セントスルトキハ其ノ路線竝ヲ添附スルコト）及事由ヲ記載シ第十九條第二項第四號ニ準ズル書類ヲ添附スベシ

第二十四條　旅客自動車運輸事業ヲ營ム會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ノ認可申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ株主總會若ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書又ハ無限責任社員若ハ總社員ノ同意書ノ謄本ヲ添附スベシ

五　合併後存續スル會社ニ在リテハ現ニ旅客自動車運輸事業ヲ經營スルモノヲ除クノ外定款及登記簿ノ謄本、合併ニ因リ設立スル會社ニ在リテハ定款ノ謄本
前條第四項及第五項ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル事業承繼ノ場合ニ之ヲ準用ス
合併ニ因リ事業ヲ承繼シタル會社ハ登記簿ノ謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第二十一條　旅客自動車運輸事業者死亡シタルニ因リ其ノ事業ヲ承繼シタル相續人ハ戶籍謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第二十二條　旅客自動車運輸事業休止ノ許可申請書ニハ休止セントスル路線（事業ノ一部ヲ休止セントスルトキハ其ノ路線竝ヲ添附スルコト）、期間及事由ヲ記載スベシ

許可ヲ受ケタル期間中ニ事業ヲ再開シタルトキハ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第二十三條　旅客自動車運輸事業廢止ノ許可申請書ニハ廢止セントスル路線（事業ノ一部ヲ廢止セントスルトキハ其ノ路線竝ヲ添附スルコト）及事由ヲ記載シ第十九條第二項第四號ニ準ズル書類ヲ添附スベシ

第二十四條　旅客自動車運輸事業ヲ營ム會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ノ認可申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ株主總會若ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書又ハ無限責任社員若ハ總社員ノ同意書ノ謄本ヲ添附スベシ

五　合併後存續スル會社ニ在リテハ現ニ旅客自動車運輸事業ヲ經營スルモノヲ除クノ外定款及登記簿ノ謄本、合併ニ因リ設立スル會社ニ在リテハ定款ノ謄本
前條第四項及第五項ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル事業承繼ノ場合ニ之ヲ準用ス
合併ニ因リ事業ヲ承繼シタル會社ハ登記簿ノ謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第二十一條　旅客自動車運輸事業者死亡シタルニ因リ其ノ事業ヲ承繼シタル相續人ハ戶籍謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第二十二條　旅客自動車運輸事業休止ノ許可申請書ニハ休止セントスル路線（事業ノ一部ヲ休止セントスルトキハ其ノ路線竝ヲ添附スルコト）、期間及事由ヲ記載スベシ

許可ヲ受ケタル期間中ニ事業ヲ再開シタルトキハ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第二十三條　旅客自動車運輸事業廢止ノ許可申請書ニハ廢止セントスル路線（事業ノ一部ヲ廢止セントスルトキハ其ノ路線竝ヲ添附スルコト）及事由ヲ記載シ第十九條第二項第四號ニ準ズル書類ヲ添附スベシ

第二十四條　旅客自動車運輸事業ヲ營ム會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ノ認可申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ株主總會若ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書又ハ無限責任社員若ハ總社員ノ同意書ノ謄本ヲ添附スベシ

イ　路線旅客自動車運送事業ニ在リテハ路線ノ起點終點ノ地名地番、主ナル經過地及延長ヲ記載スルノ外第三條ノ規定ニ準ジ作成シタル路線圖ヲ添附スルコト

ロ　團體旅客自動車運送事業ニ在リテハ出發地、目的地及此等相互間ノ料程ヲ記載スルノ外此等ヲ示ス略圖ヲ添附スルコト

ハ　普通旅客自動車運送事業ニ在リテハ主トシテ營業ヲ行フ地域ヲ記載スルコト

三　車輛數　車輛總數竝ニ之ヲ車名、年式、動力ノ種類、旅客定員及主タル使用地別ニ記載スルコト

四　路線旅客自動車運送事業ニシテ觀光旅客ノ運送ヲ目的トスルモノニ在リテハ運輸系統及停留所、特定ノ場所ニ出入スル旅客ノ運送ヲ目的トスルモノニ在リテハ其ノ場所及停留所、團體旅客自動車運送事業ニ在リテハ車輛ノ運行駐路

五　運賃及運輸ニ關スル料金（無償ノモノニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スルコト）

六　主タル事務所及營業所ノ名稱及位置

七　車庫ノ位置及車輛格納力（構造ノ大要ヲ示ス圖面ヲ添附スルコト）

路線若ハ經營區間ノ延長又ハ主トシテ營業ヲ行フ地域ノ變更ヲ申請スル場合ニ於テ既免許事業ノ事業計畫ニ變更ヲ生ズルトキハ其ノ關係ヲ明示シ該變更ニ關スル手續ヲ省略スルコトヲ得

第三十三條　旅客自動車運送事業經營ノ免許ヲ受ケタル者其ノ事業ヲ開始シタルトキハ運輸ノ開始ノ日ヨリ三十日以内ニ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ地方長官ニ提出スルコト

一　營業所ノ名稱及位置

二　營業ノ種別

三　營業ノ範圍竝ニ營業區域及其ノ內訳

四　營業ノ開始ノ日

五　營業ノ方法及營業所ノ名稱

六　營業ノ種別ニ應ジ左ノ事項

イ　路線旅客自動車運送事業ニ在リテハ路線ノ起點終點ノ地名地番、主ナル經過地及延長ヲ記載スルノ外第三條ノ規定ニ準ジ作成シタル路線圖ヲ添附スルコト

ロ　團體旅客自動車運送事業ニ在リテハ出發地、目的地及此等相互間ノ料程ヲ記載スルノ外此等ヲ示ス略圖ヲ添附スルコト

ハ　普通旅客自動車運送事業ニ在リテハ主トシテ營業ヲ行フ地域ヲ記載スルコト

三　車輛數　車輛總數竝ニ之ヲ車名、年式、動力ノ種類、旅客定員及主タル使用地別ニ記載スルコト

四　路線旅客自動車運送事業ニシテ觀光旅客ノ運送ヲ目的トスルモノニ在リテハ運輸系統及停留所、特定ノ場所ニ出入スル旅客ノ運送ヲ目的トスルモノニ在リテハ其ノ場所及停留所、團體旅客自動車運送事業ニ在リテハ車輛ノ運行駐路

五　運賃及運輸ニ關スル料金（無償ノモノニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スルコト）

六　主タル事務所及營業所ノ名稱及位置

七　車庫ノ位置及車輛格納力（構造ノ大要ヲ示ス圖面ヲ添附スルコト）

二　合併契約書ノ謄本及合併比率說明書

三　合併ニ關スル株主總會若ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書又ハ無限責任社員若ハ經營區間ノ變更ニ關スル書類

四　合併後存續スル會社ニ在リテハ現ニ旅客自動車運送事業ヲ經營スルモノヲ除クノ外定款及登記簿ノ謄本、合併ニ因リ設立スル會社ニ在リテハ定款ノ謄本

前條第四項及第五項ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル事業承繼ノ場合ニ之ヲ準用ス

合併ニ因リ事業ヲ承繼シタル會社ハ登記簿ノ謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第三十八條　旅客自動車運送事業者死亡シタルニ因リ其ノ事業ヲ承繼シタル相續人ハ戶籍謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第三十九條　旅客自動車運送事業ヲ休止ノ許可申請書ニハ休止セントスル事業ノ種別、路線、經營區間又ハ主トシテ營業ヲ行フ地域、期間及事由ヲ記載スベシ

許可ヲ受ケタル期間中ニ事業ヲ再開シタルトキハ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第二十類　通信、交通及電氣　第二編　交通

ベシ

一　路線旅客自動車運送事業ニ在リテハ第十九條第二項第一號ニ揭グル路線圖ニ準ジ作成シタル圖面、團體旅客自動車運送事業ニ在リテハ第三十二條第一項第二號「ロ」ニ揭グル圖面

二　合併契約書ノ謄本及合併比率說明書

三　合併ニ關スル株主總會若ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書又ハ無限責任社員若ハ經營區間ノ變更ニ關スル書類

四　合併後存續スル會社ニ在リテハ現ニ旅客自動車運送事業ヲ經營スルモノヲ除クノ外定款及登記簿ノ謄本、合併ニ因リ設立スル會社ニ在リテハ定款ノ謄本

前條第四項及第五項ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル事業承繼ノ場合ニ之ヲ準用ス

合併ニ因リ事業ヲ承繼シタル會社ハ登記簿ノ謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第三十八條　旅客自動車運送事業者死亡シタルニ因リ其ノ事業ヲ承繼シタル相續人ハ戶籍謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第三十九條　旅客自動車運送事業ヲ休止ノ許可申請書ニハ休止セントスル事業ノ種別、路線、經營區間又ハ主トシテ營業ヲ行フ地域、期間及事由ヲ記載スベシ

許可ヲ受ケタル期間中ニ事業ヲ再開シタルトキハ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第四十條　旅客自動車運送事業廢止ノ許可申請書ニハ廢止セントスル事業ノ種別、路線、經營區間又ハ主トシテ營業ヲ行フ地域及事由ヲ記載シ營事者之ニ連署スベシ

第四十一條ノ二　旅客自動車運送事業ノ管理ノ委託及受託ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者連署シタル書面ヲ提出シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

一　委託者及受託者ノ住所及主タル事務所竝ニ氏名、商號又ハ名稱

二　管理ノ委託及受託ノ範圍

三　管理ノ方法及管理ノ報酬　收入金ノ保管及引繼竝ニ報酬及管理費用ノ支辨方法ヲ記載スルコト

四　管理ノ委託及受託ノ期間

五　管理ノ開始又ハ終了ニ關スル公告ノ方法

第四十一條ノ四　管理ノ委託及受託ヲ開始セントスルトキハ當事者ハ簿メ管理ノ委託及受託ノ範圍及期間ヲ公告スベシ公告シタル

ノ移轉スルトキ

第三十六條　旅客自動車運送事業譲渡ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者之ニ連署スベシ

一　譲渡人及譲受人ノ本點及住所竝ニ氏名、商號又ハ名稱

二　譲渡スル事業ノ種別

三　譲渡ノ範圍竝ニ譲渡價額及其ノ內譯

四　譲渡ノ事由

前項ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スベシ

一　路線旅客自動車運送事業ニ在リテハ第十九條第二項第一號ニ揭グル路線圖ニ準ジ作成シタル圖面、團體旅客自動車運送事業ニ在リテハ第三十二條第一項第二號「ロ」ニ揭グル圖面

二　譲渡契約書ノ謄本

三　申請者會社ニシテ譲渡又ハ譲受ニ付株主總會若ハ社員總會ノ決議又ハ無限責任社員若ハ總社員ノ同意ヲ要スルトキハ其ノ證明及決議ノ要領書又ハ同意書ノ謄本

四　譲受人會社ナルトキハ現ニ旅客自動車運送事業ヲ經營スルモノヲ除クノ外定款及登記簿ノ謄本竝ニ最近ノ財產目錄及貸借對照表、會社ヲ設立セントスルモノナルトキハ定款ノ謄本

五　自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當

三百十九ノ九ノ十五ノ五

事項ヲ變更セントスルトキ又ハ管理ノ委託及受託終了シタルトキ亦同ジ

第四十二條　旅客自動車運送事業ノ共同經營ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シ當事者連署シタル書面ヲ提出シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

一　營事者ノ住所及主タル事務所竝ニ氏名、商號又ハ名稱

二　共同經營ヲ爲ス事業ノ種別

三　共同經營ノ區間又ハ區域及方法

四　收入ノ割賦及經費分擔ノ方法

五　共同經營ノ期間

六　共同經營ノ事由

前項ノ認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　共同經營契約書ノ謄本

二　第三十六條第二項第三號ニ準ズル書類

共同經營ヲ爲ス場合ニ於テ事業計畫ヲ變更セントスルトキハ其ノ關係ヲ明示シタル書類及圖面ヲ提出シ該變更ニ關スル手續ヲ省略スルコトヲ得

第一項第三號乃至第五號ニ揭グル事項ヲ變更セントスルトキハ第一項及第二項ノ規定ニ準ジ作成シタル書類ヲ提出シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス

共同經營終了シタルトキハ其ノ事由及年月

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　管理契約書ノ謄本

二　第三十六條第二項第三號ニ準ズル書類

管理ノ委託及受託ヲ爲ス場合ニ於テ事業計畫ヲ變更セントスルトキハ其ノ關係ヲ明示シタル書類及圖面ヲ提出シ該變更ニ關スル手續ヲ省略スルコトヲ得

第一項第二號乃至第四號ニ揭グル事項ヲ變更セントスルトキハ第一項及第二項ノ規定ニ準ジ作成シタル書類ヲ提出シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス

管理ノ委託及受託終了シタルトキハ其ノ事由及年月日ヲ記載シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第四十一條ノ三　管理ノ委託及受託ヲ爲シタル事業ニ關スル許可又ハ認可ノ申請、屆出、報告其ノ他ノ手續ハ委託者及受託者連署シテ之ヲ爲スベシ

管理ノ委託及受託ヲ爲シタル事業ニ關スル帳簿、傳票等ニハ委託關係ヲ明示スル文言ヲ表示スベシ

第四十一條ノ四　管理ノ委託及受託ヲ開始セントスルトキハ當事者ハ簿メ管理ノ委託及受託ノ範圍及期間ヲ公告スベシ公告シタル

日ヲ記載シ営事者連署ノ上運輸ナクシテヲ届出ヅベシ

第四十三條　路線旅客自動車運送事業ハ観光旅客又ハ特定ノ場所ニ出入スル旅客ニ非ザル者ノ運送ヲ目的トシテ之ヲ経営スルコトヲ得ズ

團體旅客自動車運送事業又ハ普通旅客自動車運送事業ニ在リテハ個別ニ運賃ヲ受ケ其ノ他旅客自動車運輸事業ニ類似スル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

普通旅客自動車運送事業ハ旅客定員八人以上ノ車輛ヲ使用シテ之ヲ経営スルコトヲ得ズ

第四十四條　旅客自動車運送事業者ハ左ニ掲グル場合ニ於テハ其ノ事業ノ種別、事由及年月日ヲ記載シ運輸ナクシテヲ届出ヅベシ

一　路線旅客自動車運送事業ニ於テ路線ノ起點終點ノ地名、地番又ハ主ナル經過地名ニ、團體旅客自動車運送事業ニ於テ出發地名又ハ目的地名ニ變更アリタルトキ

二　主タル事務所又ハ營業所ノ所在場所ノ地名地番ニ變更アリタルトキ

三　本籍、住所、氏名、商號又ハ名稱ヲ變更シタルトキ

四　事業者法人ナル場合ニ於テ其ノ主タル代表者ニ變更アリタルトキ

第四十五條　路線旅客自動車運送事業又ハ區

申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　本籍及住所

二　氏名、商號又ハ名稱

三　事業計畫

四　事業經營ノ事由

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　興業費概算書（總額、内譯及資金調達方法ヲ明示スルコト）

二　運輸收支概算書

三　現ニ貨物自動車運送事業ヲ經營スル者ニ在リテハ其ノ事業種別及主タル事業區域（事業ノ一部ニ事業區間ヲ定ムル事業ヲ營ムモノニ在リテハ其ノ事業區間ヲ附記スルコト）ヲ記載シタル書面

四　申請者會社ナルトキハ現ニ貨物自動車運送事業ヲ經營スルモノヲ除クノ外定款及登記簿ノ謄本竝ニ最近ノ財產目錄及貸借對照表、會社ヲ設立セントスルモノナルトキハ定款ノ謄本

事業區間ヲ定ムル事業ニ關シ前二項ノ規定ニ依ル書類ヲ提出スルトキハ同時ニ其ノ副本ヲ内務大臣ニ提出スベシ

第四十六條　事業計畫ニハ左ノ事項ヲ定ムベシ

一　事業種別　一般ノ需要ニ應ズル事業（普通貨物自動車運送事業又ハ特定人ノ需要ニ應ズル事業（特定貨物自動車運送事業ノ別ヲ記載スルコト

二　主タル事業區域其ノ他

イ　普通貨物自動車運送事業ニ在リテハ主タル事業區域ヲ記載スルコト（普通貨物自動車運送事業中主タル事業區域ヲ定メ營ム部分ヲ區域貨物自動車運送事業ト稱スル以下之ニ同ジ）但シ事業ノ一部ニ事業區間ヲ定ムル事業（區間貨物自動車運送事業）ヲ營ムモノニ在リテハ事業區間ノ兩端ノ地及主ナル營業地ヲ記載スルノ外事業區間ノ兩端ノ地、營業所ノ位置及車輛ノ主タル運行經路ヲ示ス略圖ヲ添附スルコト

ロ　特定貨物自動車運送事業ニ在リテハ前項ニ揭グル事項ノ外特定ノ荷主及主タル取扱物品ヲ記載スルコト

三　車輛數、車輛總數竝ニ之ヲ車名、年式、動力ノ種類、最大積載量及主タル使用地別ニ記載スルコト

四　車輛數ノ配置概要、市郡別（東京都ニ在リテハ區ノ存スル區域、市、郡別）ニ記載スルコト

五　運賃及運輸ニ關スル料金（普通貨物自動車運送事業ニ在リテハ區域貨物自動車運送事業別ニ記載スルコト

六　主タル事務所及營業所（業務ノ他人ニ

代理セシムルモノヲ含ム）ノ名稱及位置

區間貨物自動車運送事業ニ在リテハ車輛ノ主タル運行經路ニ依ル營業所關ノ群毎ヲ附記スルコト

七　車庫ノ位置及車輛格納力（構造ノ大要ヲ示ス圖面ヲ添附スルコト）

八　區間貨物自動車運送事業ニ在リテハ一月間ノ最少運行回數

九　申請者小運送業法ニ依ル小運送業（以下小運送業ト稱ス）ヲ營ム者（以下小運送業者ト稱ス）又ハ營マントスル者ナルトキハ前各號ニ揭グル事項ノ外其ノ取扱駅竝ニ第六十九條ノ二ノ規定ニ依ル運賃及運輸ニ關スル料金

第五十條　地方長官ハ許可申請書ヲ受附タルトキハ申請者ノ資產及信用、事業ノ成否及敷用、運路其ノ他ニ關シ必要ト認ムル事項、他ノ自動車運送事業ニ及ボス影響竝ニ免許ノ要否ニ關スル意見書ヲ添ヘ之ヲ運輸大臣ニ送付スベシ

前項ノ申請書ニシテ區間貨物自動車運送事業ノ營ノ專用ニ關スルモノナルトキハ地方長官ハ前項ノ規定ニ依ル外第四條及第五條第三號ノ規定ニ準ジ管理者ノ意見ヲ徵シ之ニ關スル意見書ヲモ添附スベシ

地方長官第四十八條第三項ノ規定ニ依リ内務大臣ニ提出スベキ書類ヲ受附タルトキハ前項ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　本籍及住所

二　氏名、商號又ハ名稱

三　事業計畫

四　事業經營ノ事由

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　興業費概算書（總額、内譯及資金調達方法ヲ明示スルコト）

二　運輸收支概算書

三　現ニ貨物自動車運送事業ヲ經營スル者ニ在リテハ其ノ事業種別及主タル事業區域（事業ノ一部ニ事業區間ヲ定ムル事業ヲ營ムモノニ在リテハ其ノ事業區間ヲ附記スルコト）ヲ記載シタル書面

四　申請者會社ナルトキハ現ニ貨物自動車運送事業ヲ經營スルモノヲ除クノ外定款及登記簿ノ謄本竝ニ最近ノ財產目錄及貸借對照表、會社ヲ設立セントスルモノナルトキハ定款ノ謄本

事業區間ヲ定ムル事業ニ關シ前二項ノ規定ニ依ル書類ヲ提出スルトキハ同時ニ其ノ副本ヲ内務大臣ニ提出スベシ

第四十七條　旅客自動車運送事業ノ用ニ供スル車輛ノ外側ニハ見易キ箇所ニ事業者ノ名稱又ハ徽章及事業種別ヲ表示スベシ

第四十六條　團體旅客自動車運送事業ノ用ニ供スル車輛ノ内部ニハ免許ヲ受ケタル經營區間ノ認證狀ヲ揭示スベシ

事業ヲ開始シ又ハ車輛ヲ增加スルトキハ其ノ車輛數ニ應ジ前項ノ認證狀ノ下附ヲ申請スルコトヲ得其ノ認證狀ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキ亦同ジ

車輛數ヲ減ジタルトキハ第一項ノ認證狀ハ運輸ナクシテヲ返納スベシ

第四十七條　旅客自動車運輸事業運輸規程第一條、第二條、第三條ノ三、第四條ノ三、第五條、第七條乃至第十一條、第十四條乃至第二十條ノ規定、旅客自動車運輸事業會計規程ハ路線旅客自動車運送事業及團體旅客自動車運送事業ニ、旅客自動車運輸事業運輸規程第一條、第二條、第三條ノ三、第四條ノ三、第五條、第七條乃至第十一條、第十五條、第十六條及第十八條乃至第二十條ノ規定竝ニ旅客自動車運輸事業會計規程ハ普通旅客自動車運送事業ニ之ヲ準用ス

第三章　貨物自動車運送事業

第四十八條　貨物自動車運送事業ノ用ニ供スル車輛ノ

ハ前二項ノ規定ニ依ル書類ノ寫ヲ添ヘ内務大臣ニ之ヲ提出スベシ

第五十一條　貨物自動車運送事業經營ノ免許ヲ受ケタル者其ノ事業ヲ開始シタルトキハ運輸ナクシテヲ届出ヅベシ

免許ヲ受ケタル者會社ヲ設立セントスルモノナルトキハ前項ノ届書ニハ會社ノ登記簿ノ謄本ヲ添附スベシ

第五十二條　自動車交通事業法第十六條ノ四第二項ノ規定ニ依ル事業開始期間伸長ノ申請書ニハ伸長ノ期間及事由ヲ記載スベシ

第五十三條　事業計畫變更ノ認可申請書ニハ變更セントスル事項及事由ヲ記載シ新舊ヲ對照シタル書類及圖面ヲ添附スベシ

申請者小運送業者（小運送業ヲ營マントスル者ヲ含ム）ナルトキハ前項ノ申請書ニハ其ノ旨ヲ附記スベシ

前項ノ申請書ニシテ讓渡又ハ讓受ノ場合ニ於テ事業區間ヲ新設又ハ變更セントスルモノナルトキハ同時ニ其ノ副本ヲ内務大臣ニ提出スベシ

第五十三條ノ二　地方長官前條ノ申請書ニシテ事業區間ノ新設又ハ變更ニ關スルモノヲ受附ケタルトキハ第五十條第一項及第二項ノ規定ニ準ジ之ヲ遣送スベシ

地方長官前條第三項ノ規定ニ依リ内務大臣ニ提出スベキ書類ヲ受附ケタルトキハ前項

法書ニ之ヲ準用ス

第十六條及第十七條ノ規定ハ貨物自動車運送事業ノ營ノ專用自動車運ノ工事方法ノ變更ニ之ヲ準用ス

第五十六條　貨物自動車運送事業讓渡ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者之ニ連署スベシ

一　讓渡人及讓受人ノ本籍及住所、會ニ氏名、商號又ハ名稱

二　讓渡ノ範圍及讓渡價額

三　讓渡ノ事由

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　讓渡又ハ讓受後ニ於ケル事業計畫書

二　讓渡契約書ノ謄本又ハ讓渡價額說明書

三　當該事業ノ最近ノ興業費明細表及最近一年間ノ運輸收支表

四　申請者會社ニシテ讓渡又ハ讓受ニ付株主總會若ハ社員總會ノ決議又ハ無限責任社員若ハ總社員ノ同意ヲ要スルトキハ其ノ證明及決議ノ要領書又ハ同意書ノ謄本

五　讓受人會社ナルトキハ現ニ貨物自動車運送事業ヲ經營スルモノヲ除クノ外定款及登記簿ノ謄本竝ニ最近ノ財產目錄及貸借對照表、會社ノ設立セントスルモノナルトキハ定款ノ謄本

六　自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當權ノ設定ヲセントスルトキハ當該權者ノ同意書ノ

謄本

公共團體ニ於テ貨物自動車運送事業ヲ經營スル者ノ外定款及登記簿ノ謄本、合併ニ因リ設立スル會社ニ在リテハ定款ノ謄本

合併ニ因リ事業ヲ承繼シタル會社ハ登記簿ノ謄本ヲ添附シ遞滯ナク之ヲ届出ヅベシ

第五十八條　會社ノ合併ニ因ル貨物自動車運送事業承繼ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者之ニ連署スベシ

一　合併スル會社及合併ニ因リ設立スル會社ノ住所及商號

二　合併ノ方法及條件

三　合併ノ事由

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　合併後ニ於ケル事業計畫書

二　合併契約書ノ謄本及合併比率說明書

三　合併スル會社ノ最近ノ財產目錄、貸借對照表、與業損益明細表及最近一年間ノ運輸收支表

四　合併ニ關スル株主總會若ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書又ハ無限責任社員若ハ總社員ノ同意書ノ謄本

五　合併後存續スル會社ニ在リテハ現ニ貸物自動車運送事業ヲ經營スルモノヲ除ク外定款及登記簿ノ謄本、合併ニ因リ設立スル會社ニ在リテハ定款ノ謄本

合併ニ因リ事業ヲ承繼シタル會社ハ登記簿ノ謄本ヲ添附シ遞滯ナク之ヲ届出ヅベシ

第五十九條　貸物自動車運送事業ヲ譲渡シ又ハ譲受ケタル者會社ヲ設立セントスルモノナルトキハ前項ノ謄書ニハ會社ノ登記簿ノ謄本ヲ添附スベシ

第五十七條　會社ノ合併ニ因ル貨物自動車運送事業承繼ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者之ニ連署スベシ

一　合併スル會社及合併ニ因リ設立スル會社ノ住所及商號

二　合併ノ方法及條件

三　合併ノ事由

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　合併後ニ於ケル事業計畫書

二　合併契約書ノ謄本及合併比率說明書

三　合併スル會社ノ最近ノ財產目錄、貸借對照表、與業損益明細表及最近一年間ノ運輸收支表

四　合併ニ關スル株主總會若ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書又ハ無限責任社員若ハ總社員ノ同意書ノ謄本

五　合併後存續スル會社ニ在リテハ現ニ貸物自動車運送事業ヲ經營スルモノヲ除ク外定款及登記簿ノ謄本、合併ニ因リ設立スル會社ニ在リテハ定款ノ謄本

合併ニ因リ事業ヲ承繼シタル會社ハ登記簿ノ謄本ヲ添附シ遞滯ナク之ヲ届出ヅベシ

第五十九條　貸物自動車運送事業ヲ譲渡シ又ハ譲受ケタル者會社ヲ設立セントスルモノナルトキハ前項ノ謄書ニハ會社ノ登記簿ノ謄本ヲ添附スベシ

第五十七條　會社ノ合併ニ因ル貨物自動車運送事業承繼ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者之ニ連署スベシ

一　合併スル會社及合併ニ因リ設立スル會社ノ住所及商號

二　合併ノ方法及條件

三　合併ノ事由

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　合併後ニ於ケル事業計畫書

二　合併契約書ノ謄本及合併比率說明書

三　合併スル會社ノ最近ノ財產目錄、貸借對照表、與業損益明細表及最近一年間ノ運輸收支表

四　合併ニ關スル株主總會若ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書又ハ無限責任社員若ハ總社員ノ同意書ノ謄本

五　合併後存續スル會社ニ在リテハ現ニ貸

物自動車運送事業ヲ經營スルモノヲ除ク外定款及登記簿ノ謄本、合併ニ因リ設立スル會社ニ在リテハ定款ノ謄本

合併ニ因リ事業ヲ承繼シタル會社ハ登記簿ノ謄本ヲ添附シ遞滯ナク之ヲ届出ヅベシ

第五十八條　會社ノ合併ニ因ル貨物自動車運送事業承繼ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者之ニ連署スベシ

一　合併スル會社及合併ニ因リ設立スル會社ノ住所及商號

二　合併ノ方法及條件

三　合併ノ事由

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　合併後ニ於ケル事業計畫書

二　合併契約書ノ謄本及合併比率說明書

三　合併スル會社ノ最近ノ財產目錄、貸借對照表、與業損益明細表及最近一年間ノ運輸收支表

四　合併ニ關スル株主總會若ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書又ハ無限責任社員若ハ總社員ノ同意書ノ謄本

五　合併後存續スル會社ニ在リテハ現ニ貸

第六十二條　貸物自動車運送事業ノ管理ノ委託及受託ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者之ニ連署スベシ

一　委託者及受託者ノ住所及主タル事務所

二　管理ノ委託及受託ノ範圍

三　管理ノ方法及管理ノ報酬、收入金ノ保管及引續費ニ報酬及管理費用ノ支辨方法ヲ記載スルコト

四　管理ノ委託及受託ノ期間

五　管理ノ開始又ハ終了ニ關スル公告ノ方法

六　管理ノ委託及受託ノ事由

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　管理契約書ノ謄本

二　第五十六條第二項第四號ニ準ズル書類

公共團體ニ於テ貨物自動車運送事業ノ管理ノ委託及受託ニ關シ前二項ノ規定ニ依ル書類ヲ經由大臣ニ提出スルトキハ同時ニ其ノ謄本ヲ內務大臣ニ提出スベシ

第一項第二號乃至第四號ニ揭グル事項ヲ變更セントスルトキハ第二項及第二項ノ規定ニ準ジ作成シタル書類ヲ提出シ經由大臣（樺太ニ在リテハ樺太廳長官）ノ認可ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ事由ヲ經由大臣ニ報告スベシ

樺太廳長官前項ノ規定ニ依リ認可ヲ與ヘタルトキハ遞滯ナク經由大臣ニ之ヲ報告スベシ

第六十三條　貸物自動車運送事業ノ管理ノ委託及受託ノ認可ヲ受ケタル者ハ遞滯ナク左ノ事項ヲ公告シタル後ニ非ザレバ其ノ委託及受託ヲ終了セシムルコトヲ得ズ

一　委託者及受託者ノ住所及主タル事務所

二　管理ノ委託及受託ノ範圍

三　管理ノ方法及管理ノ報酬、收入金ノ保管及引續費ニ報酬及管理費用ノ支辨方法ヲ記載スルコト

四　管理ノ委託及受託ノ期間

五　管理ノ開始又ハ終了ニ關スル公告ノ方法

六　管理ノ委託及受託ノ事由

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　管理契約書ノ謄本

二　第五十六條第二項第四號ニ準ズル書類

公共團體ニ於テ貨物自動車運送事業ノ管理ノ委託及受託ニ關シ前二項ノ規定ニ依ル書類ヲ經由大臣ニ提出スルトキハ同時ニ其ノ謄本ヲ內務大臣ニ提出スベシ

第一項第二號乃至第四號ニ揭グル事項ヲ變更セントスルトキハ第二項及第二項ノ規定ニ準ジ作成シタル書類ヲ提出シ經由大臣（樺太ニ在リテハ樺太廳長官）ノ認可ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ事由ヲ經由大臣ニ報告スベシ

樺太廳長官前項ノ規定ニ依リ認可ヲ與ヘタルトキハ遞滯ナク經由大臣ニ之ヲ報告スベシ

第六十三條　貸物自動車運送事業ノ管理ノ委託及受託ノ認可ヲ受ケタル者ハ遞滯ナク左ノ事項ヲ公告シタル後ニ非ザレバ其ノ委託及受託ヲ終了セシムルコトヲ得ズ

一　委託者及受託者ノ住所及主タル事務所

二　管理ノ委託及受託ノ範圍

三　管理ノ方法及管理ノ報酬、收入金ノ保管及引續費ニ報酬及管理費用ノ支辨方法ヲ記載スルコト

四　管理ノ委託及受託ノ期間

五　管理ノ開始又ハ終了ニ關スル公告ノ方法

第六十四條　管理ノ委託及受託ノ事由ヲ變更セントスルトキハ前項ノ規定ニ準ジ作成シタル書類ヲ提出シ經由大臣（樺太ニ在リテハ樺太廳長官）ノ認可ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テハ第二項及第二項ノ規定ニ準ズ

第六十五條　貸物自動車運送事業ノ共同經營ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シ當事者連署シタル書面ヲ提出シ經由大臣（樺太ニ在リテハ樺太廳長官）ノ認可ヲ受クベシ

一　當事者ノ住所及主タル事務所竝ニ氏名、商號又ハ名稱

二　共同經營ノ範圍及方法

三　收入ノ割賦及經費分擔ノ方法

四　共同經營ノ期間

五　共同經營ノ事由

前項ノ認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　共同經營契約書ノ謄本

二　第五十六條第二項第四號ニ準ズル書類

第一項第二號乃至第四號ニ揭グル事項ヲ變更セントスルトキハ前二項ノ規定ニ準ジ作成シタル書類ヲ提出シ經由大臣（樺太ニ在リテハ樺太廳長官）ノ認可ヲ受クベシ

第六十六條　區間貨物自動車運送事業ト鐵道軌道、軌道又ハ區間貨物自動車運送事業トノ連絡運輸ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ記載シ遞滯ナク之ヲ届出ヅベシ

一　相手方ノ住所及氏名、商號又ハ名稱竝ニ運送機關

二　連絡運輸ノ範圍及取扱物品ノ種類

三　運賃ノ割賦方法

四　連絡運輸ノ期間

前項ノ届書ニハ連絡運輸契約書ノ謄本ヲ添附スベシ

第一項ニ揭グル事項ヲ變更シタルトキハ遞滯ナク之ヲ届出ヅベシ

第六十七條　貨物自動車運送事業者ハ第一號乃至第四號ニ揭グル場合ニ於テハ鐵道大臣ニ、第五號ニ揭グル場合ニ於テハ地方長官

二　第五十六條第二項第四號ニ準ズル書類

第一項第二號乃至第四號ニ揭グル事項ヲ變更セントスルトキハ前二項ノ規定ニ準ジ作成シタル書類ヲ提出シ經由大臣（樺太ニ在リテハ樺太廳長官）ノ認可ヲ受ケベシ

第六十六條　區間貨物自動車運送事業ト鐵道軌道、軌道又ハ區間貨物自動車運送事業トノ連絡運輸ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ記載シ遞滯ナク之ヲ届出ヅベシ

一　相手方ノ住所及氏名、商號又ハ名稱竝ニ運送機關

二　連絡運輸ノ範圍及取扱物品ノ種類

三　運賃ノ割賦方法

四　連絡運輸ノ期間

前項ノ届書ニハ連絡運輸契約書ノ謄本ヲ添附スベシ

第六十七條　貨物自動車運送事業者ハ第一號乃至第四號ニ揭グル場合ニ於テハ鐵道大臣ニ、第五號ニ揭グル場合ニ於テハ地方長官

第三項ノ規定ニ依リ地方長官ノ爲シ得ル命令ハ其ノ管轄區域內ニ於テ營業スル物品ノ運送ニシテ小運送業者ノ行フ小運送ニ該當セザルモノニ限ルモノトス

地方長官前項ノ命ヲ爲シタルトキハ直ニ關係自動車運送事業組合ニ其ノ旨ヲ通知スベシ

第六十九條ノ二　小運送業者タル貨物自動車運送事業者ガ小運送業ノ範圍ニ於テ營ム貨物自動車運送事業ノ運賃及運輸ニ關スル料金ニ付テハ小運送業法ニ依リ認可ヲ受ケタル所ニ依ル

第六十九條ノ三　貨物自動車運送事業者ハ臨時ノ必要アルトキハ一月以內ニ限リ認可ヲ受ケズシテ主タル事業區域內ニ於テ車輛ノ配置ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ車輛ノ配置ヲ變更シタルトキハ其ノ期間及事由ヲ記載シ遞滯ナク之ヲ地方長官ニ届出ヅベシ期間內ニ舊ニ復シタルトキ亦同ジ

第六十九條ノ四　地方長官貨物自動車運送事業ニ關スル書類ニシテ鐵道大臣ノ權分ヲ要スルモノヲ遞遞セントスルトキハ意見ヲ附スベシ

第四章　自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會

第七十條　組合設立ノ認可申請書ニハ左ニ揭

二　第五十六條第二項第四號ニ準ズル書類

第一項第二號乃至第四號ニ揭グル事項ヲ變更セントスルトキハ前二項ノ規定ニ準ジ作成シタル書類ヲ提出シ經由大臣（樺太ニ在リテハ樺太廳長官）ノ認可ヲ受ケベシ

第六十六條　區間貨物自動車運送事業ト鐵道軌道、軌道又ハ區間貨物自動車運送事業トノ連絡運輸ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ記載シ遞滯ナク之ヲ届出ヅベシ

一　相手方ノ住所及氏名、商號又ハ名稱竝ニ運送機關

二　連絡運輸ノ範圍及取扱物品ノ種類

三　運賃ノ割賦方法

四　連絡運輸ノ期間

前項ノ届書ニハ連絡運輸契約書ノ謄本ヲ添附スベシ

第六十七條　貨物自動車運送事業者ハ第一號乃至第四號ニ揭グル場合ニ於テハ鐵道大臣ニ、第五號ニ揭グル場合ニ於テハ地方長官

ニ其ノ事業種別、事由及年月日ヲ記載シ遞滯ナク之ヲ届出ヅベシ

一　主タル事務所ノ所在場所ノ地名地番ニ變更アリタルトキ

二　住所、氏名、商號又ハ名稱ヲ變更シタルトキ

三　事業者法人ナル場合ニ於テ其ノ主タル代表者ニ變更アリタルトキ

四　區間貨物自動車運送事業ニ於テ事業區間ノ主ナル營業地ノ地名又ハ專用自動車道ノ起點終點ノ地名地番ニ變更アリタルトキ

五　營業所ノ所在場所ノ地名地番ニ變更アリタルトキ

第六十八條　自動車交通事業法第十六條ノ六第一項ノ規定ニ依ル命令ハ自動車交通事業法若ハ同法ニ基キテ發スル命令ノ規定又ハ小運送業法若ハ同法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ他ノ行政官廳ノ處分ヲ要スル事項ニ關スルモノヲ除キ地方長官ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

自動車交通事業法第十六條ノ六第二項ノ規定ニ依ル裁定（同法第十六條ノ八ニ於テ準用スル同法第十一條第三項ノ規定ニ依ル場合ヲ含ム）ノ申請ハ當該事項ノ命令ヲ爲シタル行政官廳ニ之ヲ爲スベシ

第六十九條　自動車交通事業法第十六條ノ六

グル事項ヲ記載シ設立委員之ニ連署スベシ

一　定款

二　事務所

三　事業計畫

四　組合ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法

五　初年度ニ於ケル收支豫算竝ニ賦課金ノ額及賦收方法

六　監事ノ氏名及住所

前項ノ申請書ニハ創立總會ノ議事錄ノ謄本、組合員名簿及監事ノ履歷書ヲ添附スベシ

組合ハ設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ登記簿ノ謄本ヲ添附シ遞滯ナク之ヲ届出ヅベシ

第七十一條　組合ノ理事長ノ肇職ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一　肇職ノ既要

二　肇職ノ事由

三　其ノ他參考トナルベキ事項

第七十二條　組合ノ監事ノ選任ノ認可申請書ニハ監事ノ履歷書及證書ノ謄事錄ノ謄本ヲ添附スベシ

第七十三條　組合ノ理事長理事ヲ任命シタルトキハ遞滯ナク其ノ住所、氏名及履歷ヲ届出ヅベシ

理事長、理事又ハ監事辭任又ハ死亡シタルトキハ組合ハ遞滯ナク其ノ旨ヲ届出ヅベシ

其ノ任期滿了シタルトキ亦同ジ

第七十四條　組合ノ定款ノ變更ノ認可申請書ニハ變更セントスル事項及事由ヲ記載シ總會ノ議事錄ノ謄本ヲ添附スベシ

第七十五條　組合ノ統制規程ノ制定又ハ變更ノ認可申請書ニハ制定又ハ變更セントスル事項及事由ヲ記載シ總會ノ議事錄ノ謄本ヲ添附スベシ

第七十六條　組合ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ組合員ニ代リ其ノ事業ニ關スル運賃又ハ運輸ニ關スル料金ノ新設又ハ變更ノ認可ヲ申請スルコトヲ得

組合前項ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ運賃又ハ運輸ニ關スル料金ノ新設又ハ變更ノ事情及算出ノ基礎ヲ明ニスル書面ヲ添附シ旅客自動車運輸事業及貨物自動車運送事業ニ在リテハ鐵道大臣ニ、旅客自動車運送事業ニ在リテハ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

第一項ノ認可アリタルトキハ當該組合ノ組合員ハ其ノ運賃又ハ運輸ニ關スル料金ノ新設又ハ變更ニ付事業計畫變更ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第七十七條　組合統制規程ニ基キ運賃又ハ運輸ニ關スル料金ニ付決定ヲ爲サントスルトキハ認可ヲ受クベシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル認可申請ニ之ヲ準用ス

五　事務所

六　理事長、理事及監事ノ氏名及住所

第八十九條　組合ハ左ニ揭グル場合ニ於テハ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

一　定款又ハ統制規程ノ施行規則ヲ制定シ又ハ變更シタルトキ

二　事務所ヲ新設シ移轉シ又ハ廢止シタルトキ

第九十條　地方長官組合ニ關スル書類ニシテ鐵道大臣ノ處分ヲ要スルモノヲ遞遞セントスルトキハ意見ヲ附スベシ

第九十一條　自動車運送事業組合聯合會（以下聯合會ト稱ス）ノ理事長及理事ノ任命ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一　理事長及理事ノ氏名、住所及履歷

二　俸給ノ事情

三　其ノ他參考トナルベキ事項

聯合會ノ會長理事長及理事ヲ任命シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

第九十二條　聯合會ノ會長、理事長、理事、監事又ハ評議員解任又ハ死亡シタルトキハ聯合會ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ屆出ヅベシ其ノ任期滿了シタルトキ亦同ジ

第九十三條　第八十一條ノ規定ハ自動車交通事業法ニ依リ使用料金ノ重最、構造裝置等ニ依リ使用料金ニ差等ヲ設ケルモノニ在リテハ其ノ料金ヲ記載スベシ

第九十四條　第七十條乃至第七十二條、第七十四條乃至第八十條及第八十二條乃至第八十九條ノ規定ハ之ヲ聯合會ニ準用ス但シ第七十一條中組合ノ理事長トアルハ聯合會ノ會長、理事長及理事トシ第八十條中地方長官トアルハ鐵道大臣トシ第八十二條、第八十三條第二項、第八十四條第一項中理事長又ハ各組合ノ理事長トアルハ會長又ハ各聯合會ノ會長トシ第八十六條第二項中理事トアルハ理事長若ハ理事トシ第八十八條中運事長、理事及監事トアルハ會長、理事長、理事及監事トス

第九十五條乃至第百一條　（削除）

第百二條　自動車道事業經營ノ免許申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　本籍及住所

二　氏名、商號又ハ名稱

三　區間

イ　一般自動車道ノ軌路路線名稱及一般ノ有效幅員

ロ　主ナル經過地

ハ　事業計畫

四　事業經營ノ事由

五　事業經營ノ事由

前項ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スベシ

イ　一般自動車道ノ延長及一般ノ有效幅員ノ詳細ヲ記載シタル圖面

ロ　一般自動車道ノ延長及一般ノ有效幅員ノ詳細ヲ記載シタル圖面

ハ　事業計畫書

ニ　收支概算書

ホ　資金調達ノ方法ヲ記載シタル書類

ヘ　工事ノ施行方法ヲ記載シタル書類

ト　工事ノ着手及竣成ノ豫定期日ヲ記載シタル書類

チ　事業ノ開始ノ豫定期日ヲ記載シタル書類

リ　事業ノ收支豫算ヲ記載シタル書類

ヌ　事業ノ開始ノ豫定期日ヲ記載シタル書類

ル　事業ノ收支豫算ヲ記載シタル書類

ヲ　其ノ他參考トナルベキ書類

第百三條　第八十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百四條　一般自動車道ノ使用料金及使用方法ニ付テハ第八十一條ノ規定ニ依リ公告及縱覽ニ供スベシ

第百五條　使用料金ハ乘用自動車、貨物自動車其ノ他ノ自動車ニ區別シ均一ニ定メ又ハ自動車ノ種類、構造裝置等ニ依リ差等ヲ設ケ又ハ一般自動車道ノ延長及一般ノ有效幅員ニ依リ差等ヲ設ケ又ハ其ノ兩者ヲ併用スルコトヲ得

第百六條　地方長官ハ免許申請書ニ左ノ事項ニ關スル調査書ヲ添ヘ免許ノ許否ニ關スル意見ヲ附シ之ヲ進達スベシ

一　申請者ノ資產及信用程度

二　事業ノ成否及效用

三　附近ニ於ケル一般ノ道路又ハ自動車道ノ現況及其ノ交通狀態竝ニ一般ノ道路ノ新設改築計畫

四　自動車運事業、旅客自動車運輸事業、鐵道、軌道、索道等（未開業ノモノヲ含ム）ニ及ボス影響

五　附近ニ於ケル自動車道事業、旅客自動車運輸事業、鐵道、軌道、索道等ノ出願アルトキハ其ノ名稱、區間、申請者、申請書ノ受附年月日等

第百七條　免許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナル場合ニ於テ發起人ガ加入シ又ハ脫退セントスルトキハ內務大臣及鐵道大臣（樺太ニ在リテハ樺太廳長官）ノ認可ヲ受クベシ

樺太廳長官前項ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク內務大臣及鐵道大臣ニ之ヲ報告スベシ

第百八條　事業計畫變更ノ認可申請書ニハ變更セントスル事項及事由ヲ記載シ新舊ヲ對

照シ變更ノ理由ヲ明ニスル書面ヲ添附スベシ

第百九條　第八十二條乃至第八十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百十條　第八十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百十一條　第八十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百十二條　第八十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百十三條　第八十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百十四條　第八十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百十五條　第九十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百十六條　第九十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百十七條　第九十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百十八條　第九十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百十九條　第九十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百二十條　第九十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百二十一條　第九十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百二十二條　第九十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百二十三條　第九十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百二十四條　第九十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百二十五條　第百條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百二十六條　第百一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百二十七條　第百二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百二十八條　第百三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百二十九條　第百四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百三十條　第百五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百三十一條　第百六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百三十二條　第百七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百三十三條　第百八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百三十四條　第百九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百三十五條　第百十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百三十六條　第百十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百三十七條　第百十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百三十八條　第百十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百三十九條　第百十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百四十條　第百十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百四十一條　第百十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百四十二條　第百十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百四十三條　第百十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百四十四條　第百十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百四十五條　第百二十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百四十六條　第百二十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百四十七條　第百二十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百四十八條　第百二十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百四十九條　第百二十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百五十條　第百二十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百五十一條　第百二十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百五十二條　第百二十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百五十三條　第百二十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百五十四條　第百二十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百五十五條　第百三十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百五十六條　第百三十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百五十七條　第百三十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百五十八條　第百三十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百五十九條　第百三十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百六十條　第百三十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百六十一條　第百三十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百六十二條　第百三十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百六十三條　第百三十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百六十四條　第百三十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百六十五條　第百四十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百六十六條　第百四十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百六十七條　第百四十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百六十八條　第百四十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百六十九條　第百四十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百七十條　第百四十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百七十一條　第百四十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百七十二條　第百四十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百七十三條　第百四十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百七十四條　第百四十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百七十五條　第百五十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百七十六條　第百五十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百七十七條　第百五十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百七十八條　第百五十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百七十九條　第百五十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百八十條　第百五十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百八十一條　第百五十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百八十二條　第百五十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百八十三條　第百五十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百八十四條　第百五十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百八十五條　第百六十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百八十六條　第百六十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百八十七條　第百六十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百八十八條　第百六十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百八十九條　第百六十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百九十條　第百六十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百九十一條　第百六十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百九十二條　第百六十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百九十三條　第百六十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百九十四條　第百六十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百九十五條　第百七十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百九十六條　第百七十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百九十七條　第百七十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百九十八條　第百七十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第百九十九條　第百七十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百條　第百七十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百一條　第百七十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百二條　第百七十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百三條　第百七十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百四條　第百七十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百五條　第百八十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百六條　第百八十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百七條　第百八十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百八條　第百八十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百九條　第百八十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百十條　第百八十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百十一條　第百八十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百十二條　第百八十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百十三條　第百八十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百十四條　第百八十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百十五條　第百九十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百十六條　第百九十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百十七條　第百九十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百十八條　第百九十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百十九條　第百九十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百二十條　第百九十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百二十一條　第百九十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百二十二條　第百九十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百二十三條　第百九十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百二十四條　第百九十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百二十五條　第二百條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百二十六條　第二百一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百二十七條　第二百二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百二十八條　第二百三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百二十九條　第二百四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百三十條　第二百五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百三十一條　第二百六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百三十二條　第二百七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百三十三條　第二百八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百三十四條　第二百九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百三十五條　第二百十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百三十六條　第二百十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百三十七條　第二百十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百三十八條　第二百十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百三十九條　第二百十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百四十條　第二百十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百四十一條　第二百十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百四十二條　第二百十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百四十三條　第二百十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百四十四條　第二百十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百四十五條　第二百二十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百四十六條　第二百二十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百四十七條　第二百二十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百四十八條　第二百二十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百四十九條　第二百二十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百五十條　第二百二十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百五十一條　第二百二十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百五十二條　第二百二十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百五十三條　第二百二十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百五十四條　第二百二十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百五十五條　第二百三十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百五十六條　第二百三十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百五十七條　第二百三十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百五十八條　第二百三十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百五十九條　第二百三十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百六十條　第二百三十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百六十一條　第二百三十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百六十二條　第二百三十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百六十三條　第二百三十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百六十四條　第二百三十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百六十五條　第二百四十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百六十六條　第二百四十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百六十七條　第二百四十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百六十八條　第二百四十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百六十九條　第二百四十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百七十條　第二百四十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百七十一條　第二百四十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百七十二條　第二百四十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百七十三條　第二百四十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百七十四條　第二百四十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百七十五條　第二百五十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百七十六條　第二百五十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百七十七條　第二百五十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百七十八條　第二百五十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百七十九條　第二百五十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百八十條　第二百五十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百八十一條　第二百五十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百八十二條　第二百五十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百八十三條　第二百五十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百八十四條　第二百五十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百八十五條　第二百六十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百八十六條　第二百六十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百八十七條　第二百六十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百八十八條　第二百六十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百八十九條　第二百六十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百九十條　第二百六十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百九十一條　第二百六十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百九十二條　第二百六十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百九十三條　第二百六十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百九十四條　第二百六十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百九十五條　第二百七十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百九十六條　第二百七十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百九十七條　第二百七十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百九十八條　第二百七十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第二百九十九條　第二百七十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百條　第二百七十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百一條　第二百七十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百二條　第二百七十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百三條　第二百七十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百四條　第二百七十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百五條　第二百八十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百六條　第二百八十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百七條　第二百八十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百八條　第二百八十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百九條　第二百八十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百十條　第二百八十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百十一條　第二百八十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百十二條　第二百八十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百十三條　第二百八十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百十四條　第二百八十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百十五條　第二百九十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百十六條　第二百九十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百十七條　第二百九十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百十八條　第二百九十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百十九條　第二百九十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百二十條　第二百九十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百二十一條　第二百九十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百二十二條　第二百九十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百二十三條　第二百九十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百二十四條　第二百九十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百二十五條　第三百條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百二十六條　第三百一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百二十七條　第三百二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百二十八條　第三百三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百二十九條　第三百四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百三十條　第三百五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百三十一條　第三百六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百三十二條　第三百七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百三十三條　第三百八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百三十四條　第三百九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條　第三百十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百三十六條　第三百十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百三十七條　第三百十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百三十八條　第三百十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百三十九條　第三百十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百四十條　第三百十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百四十一條　第三百十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百四十二條　第三百十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百四十三條　第三百十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百四十四條　第三百十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百四十五條　第三百二十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百四十六條　第三百二十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百四十七條　第三百二十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百四十八條　第三百二十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百四十九條　第三百二十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百五十條　第三百二十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百五十一條　第三百二十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百五十二條　第三百二十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百五十三條　第三百二十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百五十四條　第三百二十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百五十五條　第三百三十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百五十六條　第三百三十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百五十七條　第三百三十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百五十八條　第三百三十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百五十九條　第三百三十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百六十條　第三百三十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百六十一條　第三百三十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百六十二條　第三百三十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百六十三條　第三百三十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百六十四條　第三百三十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百六十五條　第三百四十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百六十六條　第三百四十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百六十七條　第三百四十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百六十八條　第三百四十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百六十九條　第三百四十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百七十條　第三百四十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百七十一條　第三百四十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百七十二條　第三百四十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百七十三條　第三百四十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百七十四條　第三百四十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百七十五條　第三百五十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百七十六條　第三百五十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百七十七條　第三百五十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百七十八條　第三百五十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百七十九條　第三百五十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百八十條　第三百五十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百八十一條　第三百五十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百八十二條　第三百五十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百八十三條　第三百五十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百八十四條　第三百五十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百八十五條　第三百六十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百八十六條　第三百六十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百八十七條　第三百六十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百八十八條　第三百六十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百八十九條　第三百六十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百九十條　第三百六十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百九十一條　第三百六十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百九十二條　第三百六十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百九十三條　第三百六十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百九十四條　第三百六十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百九十五條　第三百七十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百九十六條　第三百七十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百九十七條　第三百七十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百九十八條　第三百七十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第三百九十九條　第三百七十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百條　第三百七十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百一條　第三百七十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百二條　第三百七十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百三條　第三百七十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百四條　第三百七十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百五條　第三百八十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百六條　第三百八十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百七條　第三百八十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百八條　第三百八十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百九條　第三百八十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百十條　第三百八十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百十一條　第三百八十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百十二條　第三百八十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百十三條　第三百八十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百十四條　第三百八十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百十五條　第三百九十條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百十六條　第三百九十一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百十七條　第三百九十二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百十八條　第三百九十三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百十九條　第三百九十四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百二十條　第三百九十五條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百二十一條　第三百九十六條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百二十二條　第三百九十七條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百二十三條　第三百九十八條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百二十四條　第三百九十九條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百二十五條　第四百條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百二十六條　第四百一條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百二十七條　第四百二條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百二十八條　第四百三條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四百二十九條　第四百四條ノ規定ハ自動車道事業ニ之ヲ準用ス

第四

照シタル書類及圖面ヲ添附スベシ

主タル事務所ノ名稱ヲ變更シ又ハ主タル事務所ヲ新設シ廢止シ若ハ移轉シタルトキハ內務大臣及鐵道大臣ニ、營業所ノ名稱ヲ變更シ又ハ營業所ヲ新設シ廢止シ又ハ移轉シタルトキハ地方長官ニ遞信ナク之ヲ屆出ヅベシ

工事方法變更ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テ事業計畫ノ變更ヲ伴フモノナルトキハ第一項ノ書類及圖面ヲ提出シ該變更ニ關スル手續ヲ省略スルコトヲ得

第百九條　工事施行ノ認可申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スベシ

一　實測圖

二　工事方法書

三　工事費豫算書（第四號樣式）

四　免許ヲ受ケタル者會社ヲ設立セントスルモノナルトキハ定款及會社ノ登記簿ノ謄本

第百十條　實測圖ハ左ノ三種トス

一　平面圖

縮尺ハ二千五百分ノ一以上トシ左ノ事項ヲ記載シ縮尺方位ヲ示スベシ

イ　起點終點ノ地名地番竝ニ經過市町村名及其ノ境界線

ロ　中心線ヨリ左右各二十米以上ニ至ル區域內ノ地形地物

ハ　二十米毎（地形ニ依リ短縮スルコトヲ得）ノ測點及百米毎ノ遞加距離ヲ示シタル中心線

ニ　曲線ノ起點終點、半徑及交角

ホ　總幅員線、敷地境界線及自動車運行ノ爲必要ナル沿線土地ノ境界線

ヘ　鐵橋、隧道其ノ他ノ主要ナル工作物ノ位置及名稱

ト　一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路トノ連絡若ハ交叉ノ位置及名稱竝ニ鐵道、軌道等トノ交叉ノ位置及名稱

チ　駐車場、給油所、使用料金徵收所、事務員駐在所等ノ位置

リ　通信、信號、標識及保安ノ設備ノ位置

市街地ニ在リテハ縮尺五百分ノ一以上ノ平面圖ニ「イ」乃至「リ」ニ掲グル事項ヲ記載シ別ニ之ヲ添附スベシ

二　縱斷面圖

縮尺ハ橫ヲ平面圖、縱ヲ橫斷面圖ト同一トシ左ノ事項ヲ記載スベシ

イ　測點番號、測點間距離及遞加距離

ロ　測點毎ノ中心線ノ地面、施工基面及盛土ノ高、切土ノ深

ハ　勾配及其ノ延長

ニ　橫斷曲線ノ位置及延長

ホ　曲線ノ起點終點、半徑及方向

ヘ　鐵橋、隧道其ノ他ノ工作物ノ位置及名稱（鐵橋及溝渠ニ在リテハ其ノ種類及材質、徑間ノ長及數、隧道ニ在リテハ其ノ長ヲ明示スルコト）

ト　一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路トノ連絡若ハ交叉ノ位置及名稱竝ニ鐵道、軌道等トノ交叉ノ位置及名稱

三　橫斷面圖

縮尺ハ二百分ノ一以上トシ二十米毎（地形ニ依リ伸縮スルコトヲ得）ニ一般自動車道ノ敷地境界線ヨリ左右各五米以上ニ至ル區間ノ橫斷面ヲ示シ左ノ事項ヲ記載スベシ

イ　測點番號

ロ　施工基面ノ幅

ハ　盛土切土ノ斜面ノ勾配

ニ　屈曲部ニ於ケル路面ノ片勾配

ホ　敷地ノ境界及自動車運行ノ爲必要ナル沿線土地ノ境界

第百十一條　工事方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　工事ヲ執行スル區間ノ起點終點ノ地名竝ニ中心線ノ位置及延長

二　荷重

三　縱斷勾配

設計圖ハ縮尺ヲ一般圖ニ在リテハ二百分ノ一以上、詳細圖ニ在リテハ五十分ノ一以上（鋼橋ニ在リテハ十五分ノ一以上）トスベシ但シ簡易ナル工作物ニ在リテハ定規圖ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百十二條　一般自動車道ノ全部ニ付工事施行ノ認可ヲ一時ニ申請スルコト能ハザルトキハ其ノ事由ヲ記載シ分割シテ認可ヲ申請スルコト得

第百十三條　自動車交通事業法第十九條第二項及第二十條第二項ノ期間伸長ノ申請書ニハ伸長ノ期間及事由ヲ記載スベシ

第百十四條　一般自動車道ノ供用ノ開始ノ認可申請書ニハ供用ヲ開始セントスル區間及時期ヲ記載スベシ

一般自動車道ノ供用ヲ開始シタルトキハ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第百十五條　工事方法變更ノ認可申請書ニハ變更セントスル事項及事由ヲ記載シ新舊ヲ對照シタル書類及圖面ヲ添附スベシ

第百十六條　工事方法ノ變更ニシテ左ニ掲グルモノハ其ノ事由ヲ記載シ新舊ヲ對照シタル書類及圖面ヲ添附シ遲滯ナク地方長官ニ之ヲ屆出ヅベシ

一　擬制勾配ヲ緩ナラシメ又ハ二十分ノ一ヲ超エナラシムルトキ

二　擬制曲線ヲ變更スルトキ

三　施工基面ノ高ノ變更ニシテ路端ノ高ヲ增加スルトキ（洪水氾濫區域ノ除ク）又ハ水流水面ノ最高水位上三十糎迄低下スルトキ

四　視距ヲ長カラシメ又ハ百三十米迄短縮スルトキ

五　盛土切土ノ斜面ノ勾配ヲ緩ナラシムルトキ

六　路肩ノ幅員ヲ擴張スルトキ

七　曲線ノ半徑ヲ長カラシメ又ハ三百米迄短縮スルトキ

八　屈曲部ノ兩端ニ於ケル緩和區間ヲ長カラシムルトキ

九　路面上ノ有效高ヲ大ナラシメ又ハ四・五米迄短縮スルトキ

十　鐵橋又ハ溝渠ノ桁ノ下端ト最高水位トノ間隔ヲ大ナラシムルトキ

十一　既認可ノ設計ト同一設計ニ依リ橋梁、溝渠又ハ隧道ヲ新設スルトキ

十二　通信、信號、標識、保安又ハ照明ノ設備ノ改良又ハ此ノ外ナル變更ヲ爲ストキ

十三　給油所、使用料金徵收所、事務員駐在所等ヲ新設シ又ハ其ノ位置ヲ變更スルトキ

第百十七條　自動車道事業竝ニ其ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者之ニ連署スベシ

一　譲渡人及譲受人ノ本籍及住所（會社ニ在リテハ名稱、商號又ハ名稱）

二　譲渡ノ範圍及譲渡價額

三　譲渡ノ事由

前項ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スベシ

一　區間圖（區間竝ニ其ノ起點終點及分岐點ノ地名地番ヲ明示スルコト）

二　譲渡契約書ノ謄本及譲渡價額說明書

三　當該區間ノ最近ノ興業實明細表及最近一年間ノ收支表

四　申請者會社ニシテ譲渡又ハ譲受ニ付株主總會若ハ社員總會ノ決議又ハ無限責任社員若ハ總社員ノ同意ヲ要スルトキハ其ノ議事及決議ノ要領書又ハ同意書ノ謄本

五　譲受人會社ナルトキハ現ニ自動車道事業ヲ經營スルモノヲ除クノ外定款及登記簿ノ謄本竝ニ最近ノ財產目錄及貸借對照表、會社ヲ設立セントスルモノナルトキハ定款ノ謄本

六　自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當權ノ設定アルトキハ抵當權者ノ同意書ノ謄本

譲受人事業ヲ承繼シタルトキハ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

譲渡許可ヲ受ケタル者會社ヲ設立セントスルモノナルトキハ前項ノ規定ニ依リ提出シタル書類ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

第百十八條　會社ノ合併ニ因ル自動車道事業承繼ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者之ニ連署スベシ

一　合併スル會社及合併ニ因リ設立スル會社ノ住所及商號

二　合併ノ方法及條件

三　合併ノ事由

前項ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スベシ

一　前條第二項第一號ニ掲グル區間圖

二　合併契約書ノ謄本及合併比率說明書

三　合併スル會社ノ最近ノ財產目錄、貸借對照表、興業實明細表及最近一年間ノ收支表

四　合併ニ關スル株主總會若ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書又ハ無限責任社員若ハ總社員ノ同意書ノ謄本

五　合併後存續スル會社ニ在リテハ現ニ自動車道事業ヲ經營スルモノヲ除クノ外定款及登記簿ノ謄本、合併ニ因リ設立スル會社ニ在リテハ定款ノ謄本

合併ニ因リ事業ヲ承繼シタル會社ハ登記簿ノ謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第百十九條　自動車道事業者死亡シタルニ因リ其ノ事業ヲ承繼シタル相續人ハ戶籍謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第百二十條　自動車道事業休止ノ許可申請書ニハ休止セントスル區間（事業ノ一部ヲ休止セントスルトキハ其ノ區間ヲ附スルコト）、期間及事由ヲ記載スベシ

許可ヲ受ケタル期間中ニ事業ヲ再開シタルトキハ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第百二十一條　自動車道事業廢止ノ許可申請書ニハ廢止セントスル區間（事業ノ一部ヲ廢止セントスルトキハ其ノ區間ヲ附スルコト）及事由ヲ記載シ第百十七條第二項第四號ニ準ズル書類ヲ添附スベシ

第百二十二條　自動車道事業ヲ營ム會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ノ認可申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ株主總會若ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書又ハ無限責任社員若ハ總社員ノ同意書ノ謄本ヲ添附スベシ

解散ノ決議若ハ總社員ノ同意ノ認可ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ會社解散シタルトキハ會社ノ登記簿ノ謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第百二十三條　自動車道事業者ハ第一號乃至第四號ニ揭グル場合ニ於テハ內務大臣及鐵道大臣ニ、第五號ニ揭グル場合ニ於テハ地方長官ニ其ノ事由及年月日ヲ記載シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

一　一般自動車道ノ起點終點ノ地名地番又ハ主ナル經過地名ニ變更アリタルトキ

二　主タル事務所ノ所在場所ノ地名地番ニ變更アリタルトキ

三　本籍、住所、氏名、商號又ハ名稱ヲ變更シタルトキ

四　事業著法人ナル場合ニ於テ其ノ主タル代表者ニ變更アリタルトキ

五　營業所ノ所在場所ノ地名地番ニ變更アリタルトキ

第百二十三條ノ二　地方長官自動車道事業ニ關スル書類ニシテ內務大臣及鐵道大臣ノ處分ヲ要スルモノヲ遲遲セントスルトキハ意見ヲ附ケ

第六章　雜則

第百二十四條　自動車ノ登錄ハ當該自動車ノ主タル使用地ヲ管轄スル地方長官之ヲ管掌ス

第百二十五條　自動車ノ登錄ヲ申請セントスル者ハ第五號樣式ニ依リ一輛毎ニ作成シタル登錄申請書正副二通ヲ提出スベシ

第百二十六條　地方長官登錄申請書ヲ受附ケタルトキハ之ニ登錄番號及登錄年月日ヲ記入シ正本ハ之ヲ自動車登錄簿ニ編綴シ副本ニハ官印ヲ押捺シ正本ト契印シテ之ヲ申請者ニ還付スベシ

第百二十七條　登錄事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ登錄ヲ受ケタル者ハ費申請書ノ副本ヲ添ヘ第五號樣式ニ準ジ作成シタル變更登錄申請書ヲ地方長官ニ提出スベシ

前項ノ場合ニ於テハ登錄ヲ受ケタル者ハ其ノ事由ヲ具シ舊申請書ノ副本ヲ添ヘ遲滯ナク登錄ノ抹消ヲ申請スベシ

一　登錄ヲ受ケタル自動車ガ自動車交通事業財團ニ屬セザルニ至リタルトキ

二　登錄ヲ受ケタル自動車ノ主タル使用地ガ他ノ地方長官ノ管轄ニ屬スルニ至リタルトキ

三　自動車交通事業財團ノ所有權保存ノ登記ノ申請ガ却下セラレ又ハ登記ガ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

四　自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當權ノ登記ノ全部ガ抹消セラレタルトキ

地方長官前項ノ申請書ヲ受附ケタルトキハ舊申請書ノ正本ヲ自動車登錄簿ヨリ取外シ副本ト共ニ之ヲ保管スベシ

第百二十八條　左ノ場合ニ於テハ登錄ヲ受ケタル者ハ其ノ事由ヲ具シ舊申請書ノ副本ヲ添ヘ遲滯ナク登錄ノ抹消ヲ申請スベシ

一　登錄ヲ受ケタル自動車ガ自動車交通事業財團ニ屬セザルニ至リタルトキ

二　登錄ヲ受ケタル自動車ノ主タル使用地ガ他ノ地方長官ノ管轄ニ屬スルニ至リタルトキ

三　自動車交通事業財團ノ所有權保存ノ登記ノ申請ガ却下セラレ又ハ登記ガ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

四　自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當權ノ登記ノ全部ガ抹消セラレタルトキ

地方長官前項ノ申請書ヲ受附ケタルトキハ舊申請書ノ正本ヲ自動車登錄簿ヨリ取外シ副本ト共ニ之ヲ保管スベシ

第一項第二號ノ場合ニ於テハ遲滯ナク新使用地ニ於テ登錄ヲ申請スベシ

第百二十九條　前二條ノ場合ニ於テ舊申請書ノ副本ノ紛失等ニ因リ之ヲ添附スルコト能ハザルトキハ其ノ旨ヲ申請書ニ附記スベシ

第百三十條　何人ト雖モ自動車登錄簿ノ記載事項ヲ記載シタル書面ヲ地方長官ニ提出シ其ノ相違ナキ旨ノ認證ヲ申請スルコトヲ得

第百三十一條　旅客自動車運輸事業、貨物自動車運送事業又ハ自動車道事業經營ノ免許失效シタルトキハ遲滯ナク免許狀ヲ返納スベシ

第百三十二條　旅客自動車運輸事業者ハ第六號樣式及第七號樣式ニ依ル營業報告書及統計報告書ヲ、旅客自動車運送事業者、貨物自動車運送事業者（會社ニ非ザル區域貨物自動車運送事業者ヲ除ク）及自動車道事業者ハ夫々第八號樣式、第九號樣式又ハ第十號樣式ニ依ル事業說明書ヲ關東廳令ノ定ムル所ニ從ヒ毎營業年度ノ經過後二月以內ニ行政官廳ニ之ヲ提出スベシ

前項ノ報告書ヲ提出スベキ行政官廳ハ旅客自動車運輸事業及旅客自動車運送事業ニ在リテハ鐵道大臣及地方長官、貨物自動車運送事業ニ在リテハ鐵道大臣、地方長官及鐵道局長、自動車道事業ニ在リテハ內務大臣、鐵道大臣及地方長官トス

第百三十三條　該當自動車運輸事業者、該當自動車運送事業者及貨物自動車運送事業者ハ毎年三月三十一日現在ニ於ケル使用車輛ニ付夫々第十一號樣式、第十二號樣式又ハ第十三號樣式ニ依ル車輛明細書ヲ調製シ翌月末日迄ニ鐵道大臣及地方長官ニ之ヲ提出スベシ

第百三十四條　自動車交通事業法第三十四條第三項ノ規定ニ依ル諮詢ハ第十四號樣式ニ依ル

第百三十四條ノ二　自動車交通事業法第十六條ノ二十六第二項（同法第十六條ノ三十七ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル關覈ハ第十五號樣式ニ依ル

第百三十五條　自動車交通事業法、自動車運送事業組合令又ハ本令ノ規定ニ依リ鐵道大臣又ハ內務大臣ニ提出スベキ申請書其ノ他ノ書類ハ聯合會ニ關スルモノヲ除クノ外當該事件ノ關スル土地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ但シ事件ガ二以上ノ地方長官ノ管轄區域ニ跨ル場合ニ在リテハ其ノ事件ノ主トシテ關スル土地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ

地方長官前項但書ノ書類ヲ受附ケタルトキハ申請書ニ在リテハ關係地方長官ニ商議シ其ノ他ノ書類ニ在リテハ關係地方長官ニ遲滯ナク之ヲ通知スベシ

地方長官前項但書ノ書類ヲ受附ケタルトキハ關係地方長官ノ處分ヲ要スルモノヲ遲遲セントスルトキハ其ノ意見ヲ附ケ

第百三十三條　該當自動車運輸事業者、該當自動車運送事業者及貨物自動車運送事業者ハ毎年三月三十一日現在ニ於ケル使用車輛ニ付夫々第十一號樣式、第十二號樣式又ハ第十三號樣式ニ依ル車輛明細書ヲ調製シ翌月末日迄ニ鐵道大臣及地方長官ニ之ヲ提出スベシ

第百三十四條　自動車交通事業法第三十四條第三項ノ規定ニ依ル諮詢ハ第十四號樣式ニ依ル

第百三十四條ノ二　自動車交通事業法第十六條ノ二十六第二項（同法第十六條ノ三十七ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル關覈ハ第十五號樣式ニ依ル

第百三十五條　自動車交通事業法、自動車運送事業組合令又ハ本令ノ規定ニ依リ鐵道大臣又ハ內務大臣ニ提出スベキ申請書其ノ他ノ書類ハ聯合會ニ關スルモノヲ除クノ外當該事件ノ關スル土地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ但シ事件ガ二以上ノ地方長官ノ管轄區域ニ跨ル場合ニ在リテハ其ノ事件ノ主トシテ關スル土地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ提出スベシ

地方長官前項但書ノ書類ヲ受附ケタルトキハ關係地方長官ニ商議シ其ノ他ノ書類ニ在リテハ關係地方長官ニ遲滯ナク之ヲ通知スベシ

地方長官小運送業者タル貨物自動車運送事業者ニ對シ左ノ處分ヲ爲サントスルトキハ關係鐵道局長ニ商議スベシ

一　第六十八條第一項ノ命令ヲ爲サントスルトキ

二　第六十九條第一項ノ命令ヲ爲サントスルトキ

第百三十八條　鐵道又ハ軌道ト運絡運輸ヲ爲ス場合ニ於テハ關係地方長官ハ關係鐵道局長ニ商議シ其ノ協議ヲ經テ之ヲ定ムベシ

前項ノ書類ハ國有鐵道ノ最寄驛長ヲシテ之ヲ取次ガシムルコトヲ得

第百三十八條ノ二　本令ノ規定ニ依リ屆出ヅベキ事項ハ地方長官又ハ鐵道局長ノ處分ヲ經ダル事項ニ關スル場合及本令中特ニ規定スル場合ヲ除クノ外第一章、第三章及第四章ニ規定スルモノニ在リテハ鐵道大臣ニ、第五章ニ規定スルモノニ在リテハ內務大臣及鐵道大臣ニ之ヲ屆出ヅベシ

第百三十九條　本令中地方長官トアルハ自動車道事業ニ關スル場合ヲ除キ東京都ニ在リテハ警視總監ニ、但シ事件ガ專用自動車道ニ關スルモノニ在リテハ警視總監及東京都

長官トス

附　則

本令ハ自動車交通事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和八年十月一日ヨリ施行）

本令施行前ニ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

附　則（昭和十六年鐵道、内務省令第一號）

本令ハ昭和十五年法律第百六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十六年二月一日ヨリ施行）

自動車交通事業法第八條ノ規定ニ依ル自動車登錄規程、自動車運輸事業以外ノ自動車ニ依ル運送事業規則及昭和十五年鐵道省令第六號ハ之ヲ廢止ス

從前ノ規定ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本令ニ依リ新ニ認可ヲ受クベキモノトナリタル事項ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本令ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ目的地經營區間ヲ定メ旅客定員八人以上ノ自動車ノ使用ニシテ旅客運送ヲ爲ス貸切自動車事業ヲ經營スル者ハ團體旅客自動車運送事業經營ノ免許ヲ、物品運送ヲ爲ス自動車運送事業又ハ不定期貸物自動車事業ヲ經營スル者ハ區間貸物自動車運送事業經營ノ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

自動車交通事業法第八條ノ規定ニ依ル自動車登錄規程ニ依リテ爲シタル自動車ノ登錄ニシテ本令施行ノ際現ニ自動車交通事業財團ニ關スル自動車ニ關スルモノハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

附　則（昭和十八年鐵道、内務省令第一號）

第一條　本令ハ昭和十八年法律第五十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十八年八月十五日ヨリ施行）

第二條　本令施行ノ際現ニ貨物自動車運送事業ヲ營ム者ハ本令施行後三月内ニ從前ノ事業計畫ヲ添附シ之ニ基ク第四十九條ノ事業計畫ヲ鐵道大臣ニ提出ヅベシ

第三條　本令施行後從前ノ例ニ依リ貨物自動車運送事業ニ關シ鐵道大臣又ハ地方長官ノ免許、許可又ハ認可ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク鐵道大臣ニ前條ニ準ズル提出ヲ爲スベシ但シ此ノ場合ニ於ケル提出ニシテ前條ノ規定ニ依ル提出ト併合シテ之ヲ爲シ得ルトキハ本條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第四條　從前ノ第六十八條第一項ノ規定ニ依リ小運送業ノ範圍ニ於テ區域貨物自動車運送事業經營ノ免許ヲ受ケタルモノト看做サレタル者及同條第二項ノ規定ニ依ヅ小運送

第七條　本令施行ノ際現ニ存スル自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會ニ付テハ仍從前ノ規定ヲ適用ス（標式略ス）

●自動車交通事業法施行ニ關シ取扱方

昭和十八年八月十三日
鐵道省訓令第一號
都廳府縣

自動車交通事業法施行ニ關シ取扱方左ノ通定ム

第一條　地方長官（樺太廳長官ヲ除ク）路線ガ接續スル二以上ノ旅客自動車運輸事業者ガ相互ニ又ハ一方的ニ他ノ路線ニ自動車ヲ乘入レ直通運輸ヲ爲サントスル事業計畫ノ變更ヲ認可セントスルトキハ當分前鐵道大臣ニ稟伺スベシ

第二條　地方長官旅客自動車運送事業ニ付左ノ當分ヲ爲サントスルトキハ當分前鐵道大臣ニ稟伺スベシ但シ第四號ノ場合ニシテ當該事件ガ二以上ノ事業者ニ共通スルトキハ其ノ要旨ニ付稟伺スルコトヲ得

一　事業經營ノ免許

二　事業種別ノ變更ノ認可

三　路線旅客自動車運送事業ノ實要ナル路線ノ變更ノ認可ヲ鐵道大臣ニ稟伺スベシ

線ノ變更ノ認可又ハ團體旅客自動車運送事業ノ目的地若ハ出發地ノ變更ノ認可

四　運賃又ハ運輸ニ關スル料金ノ新設若ハ變更ノ認可又ハ命令

五　事業讓渡ノ許可

六　會社ノ合併ニ因ル事業兼營ノ許可

七　免許ノ取消

地方長官旅客自動車運送事業ニ付左ノ當分ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク鐵道大臣ニ報告スベシ

一　事業廢止ノ許可

二　會社解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ノ認可

第三條　地方長官貨物自動車運送事業ノ停止ヲ命ゼントスルトキハ當分前鐵道大臣ニ稟伺スベシ

第四條　自動車交通事業法第十六條ノ十八第一項ノ規定ニ依ル組合ノ理事長ノ任命ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一　理事長ノ氏名、住所及履歷

二　給與ノ事情

三　其ノ他參考トナルベキ事項

地方長官自動車運送事業組合令第二條第三項ノ規定ニ依リ組合ノ設立ニ參與セシムル者ヲ任命シタルトキハ其ノ氏名及住所ヲ告示スベシ

地方長官組合ノ役員ヲ解任セントスルトキハ當分前鐵道大臣ニ稟伺スベシ

第五條　樺太廳長官旅客自動車運輸事業及貨物自動車運送事業ニ付左ノ當分ヲ爲サントスルトキハ當分前鐵道大臣ニ稟伺スベシ

一　事業讓渡ノ許可

二　會社ノ合併ニ因ル事業兼營ノ許可

第六條　地方長官自動車運送事業ニ關シ管理ノ委託及受託ヲ認可ヲ爲サントスルトキハ左ノ條件ヲ附スベシ

一　鐵道大臣、地方長官又ハ鐵道局長管理ノ委託及受託ヲ爲シタル事業ニ關シ事業上ノ報告ヲ爲サシメ書類ヲ提出セシメ又ハ監督員ヲ派遣シテ事業ノ狀況ヲ監査セシメントスルトキハ受託者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

二　鐵道大臣又ハ地方長官公益上ノ必要ニ因リ委託者ニ對シ改善命令ヲ發シタルトキハ受託者ハ其ノ實施ニ付委託者ト共ニ其ノ責ニ任ズルモノトス

三　委託者又ハ受託者管理ノ委託及受託ヲ爲シタル事業ノ經營ニ關シ法令、法令ニ基キテ爲シタル處分又ハ處分ニ附シタル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ鐵道大臣又ハ地方長官ハ管理ノ委託及受託ノ認可ヲ取消スコトアルベシ受託者ノ管理執行不確實又ハ資產狀態ノ著シキ不良其ノ他ノ事由ニ因リ受託ヲ繼續セシムルニ適セズト認メタルトキ亦同ジ

第七條　自動車交通事業ニ關シ都廳府縣令ヲ制定シ又ハ變更セントスルトキハ客ヲ具シ鐵道大臣ニ稟伺スベシ

第八條　地方長官本令ニ依リ認可又ハ稟伺ヲ經タルモノヲ除分シタルトキハ其ノ都度鐵道大臣ニ之ヲ報告スベシ

第九條　本令中地方長官トアルハ東京都ニ在リテハ警視總監トス

附　則

昭和十六年鐵道省訓令第一號ハ之ヲ廢止ス

●自動車交通事業法第三十五條ノ規定ニ依ル職權委任ニ關スル件

（昭和八年八月五日
鐵道、内務省令）

沿革　昭和一六年一月鐵道、内務省令第二號、一八年八月第二號改正

自動車交通事業法第三十五條ノ規定ニ依ル職權委任ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　旅客自動車運輸事業ニ關スル職權ニシテ左ニ掲グルモノニ關スルモノハ之ヲ地方長官ニ委任ス

一　一般ノ道路又ハ一般通行ノ用ニ供スル道路ノ新設改築アリタル場合ニ於ケル事業ノ一部廢止ノ部分ニ代ルベキ路線ニ依ル事業ノ經營

二　事業計畫ノ變更但シ左ニ掲グル事項ヲ除ク

イ　運賃及運輸ニ關スル料金ノ新設又ハ變更

ロ　運輸系統ノ新設又ハ變更ニシテ其ノ全部又ハ一部ガ東京都ノ區、京都市、大阪市、橫濱市、神戸市又ハ名古屋市ノ區域内ニ關スルモノ

ハ　旅客自動車運輸事業設備規程ニ適合セザル車體又ハ車體ノ變更、增車、新車ニ依ル車輛ノ代替及旅客自動車運輸事業基準規程ニ適合セザル車輛數ノ減少

三　運輸開始

四　運輸開始ノ認可申請期間ノ伸長

五　事業ノ休止

第二條　臨時ノ必要ニ因リ一月以内ノ期間ヲ限リ經營スル旅客自動車運輸事業ノ免許、許可、認可其ノ他ノ處分ハ前條及第四條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ地方長官ニ委任ス

第三條　貨物自動車運送事業ニ關スル職權ニシテ左ニ掲グル事項ニ關スルモノハ之ヲ地方長官ニ委任ス

一　事業計畫ノ變更但シ左ニ掲グル事項ヲ除ク

イ　事業種別ノ變更

ロ　主タル事業區域ノ變更、事業區間ノ新設若ハ變更又ハ特定貨物自動車運送事業ノ特定ノ荷主若ハ主タル取扱物品ノ變更

ハ　運賃及運輸ニ關スル料金ノ新設又ハ變更

ニ　車輛數ノ變更及新車ニ依ル車輛ノ代替

二　事業開始期間ノ伸長

三　事業ノ休止

自動車交通事業法第十六條ノ八ニ於テ準用スル同法第十四條ノ規定ニ依ル職權ハ事業ノ停止ニ關スルモノニ限リ地方長官ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第四條　旅客自動車運輸事業及事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業ニ關スル職權ニシテ鐵道又ハ軌道ト連絡運輸ヲ爲ス場合ニ於ケル運賃及運輸ニ關スル料金ノ新設又ハ變更ニ關スルモノハ之ヲ鐵道局長ニ委任ス

第五條　專用自動車道ノ工事方法ノ變更ニ關スル職權ニシテ左ニ掲グル事項ニ關スルモノハ之ヲ地方長官ニ委任ス

一　市街地ニ在リテハ五十米以内其ノ他ノ地ニ在リテハ百米以内ノ中心線ノ變更

二　有效幅員ノ些少ナル擴張

三　鋪裝及路床ノ構造ノ改良又ハ之ニ基ク路面ノ橫斷勾配ノ變更

四　溝橋、排水設備、高五米以下ノ支壓其ノ他簡易ナル工作物ノ構造及位置ノ變更

五　橋梁、隧道其ノ他主要ナル工作物ノ構造及位置ノ些少ナル變更

六　六米以内ノ橋梁、溝橋又ハ百米以内ノ隧道ノ廢止

七　一般ノ道路、自動車道、一般通行ノ用ニ供スル通路トノ連絡若ハ交叉ノ位置又ハ鐵道、軌道等トノ交叉ノ位置ノ變更

第六條　自動車交通事業法第十六條ノ十二第四項、第十六條ノ二十一（定款ノ變更竝ニ統制規程ノ制定及變更ヲ除ク）及第十六條ノ二十三第二項ノ規定ニ依ル職權ハ之ヲ地方長官ニ委任ス

第七條　自動車道事業ニ關スル職權ニシテ左ニ掲グル事項ニ關スルモノハ之ヲ地方長官ニ委任ス

一　工事竣功期間ノ伸長

二　工事方法ノ變更ニシテ左ニ掲グルモノ

イ　市街地ニ在リテハ五十米以内其ノ他ノ地ニ在リテハ百米以内ノ中心線ノ變更

ロ　有效幅員ノ些少ナル擴張

ハ　鋪裝及路床ノ構造ノ改良又ハ之ニ基ク路面ノ橫斷勾配ノ變更

ニ　溝橋、排水設備、高五米以下ノ支壓其ノ他簡易ナル工作物ノ構造及位置ノ變更

ホ　橋梁、隧道其ノ他主要ナル工作物ノ構造及位置ノ些少ナル變更

ヘ　六米以内ノ橋梁、溝橋又ハ百米以内ノ隧道ノ廢止

ト　一般ノ道路、自動車道、一般通行ノ用ニ供スル通路トノ連絡若ハ交叉ノ位置又ハ鐵道、軌道等トノ交叉ノ位置ノ變更

チ　駐車場ノ新設又ハ其ノ位置、面積及構造ノ變更

三　供用ノ開始

四　事業ノ休止

第八條　樺太ニ在リテハ第一條乃至第三條及第五條ニ規定スルモノノ外旅客自動車運輸事業及貨物自動車運送事業ニ關スル職權ニシテ左ニ掲グル事項ニ關スルモノハ之ヲ樺太廳長官ニ委任ス

一　事業計畫ノ變更ニシテ左ニ掲グルモノ

イ　運賃及運輸ニ關スル料金ノ新設又ハ變更（鐵道又ハ軌道ト連絡運輸ヲ爲ス場合ニ於ケル運賃及運輸ニ關スル料金ヲ除ク）

ロ　旅客自動車運輸事業設備規程ニ適合セザル車輛數ノ減少

ハ　主タル事業區域ノ變更、事業區間ノ新設若ハ變更又ハ特定貨物自動車運送事業ノ特定ノ荷主若ハ主タル取扱物品ノ變更

二　事業ノ讓渡

三　會社ノ合併ニ因ル事業ノ承繼

四　事業ノ管理ノ委託及受託

五　專用自動車道ニ關スルモノニシテ左ニ掲グルモノ

イ　工事施行又ハ開設

ロ　工事施行ノ認可申請期間ノ伸長

ハ　工事方法ノ變更ニシテ第五條ニ掲グル事項以外ノモノ

第九條　樺太ニ在リテハ自動車道事業ニ關スル職權ハ自動車交通事業法第二十九條ノ規定ニ依ルモノヲ除キ第七條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ樺太廳長官ニ委任ス

樺太ニ在リテハ自動車交通事業法第二十九條ノ規定ニ依ル職權ハ樺太廳長官ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第十條　自動車交通事業法第十條第一項、第十六條ノ五第二項、第十六條ノ二十八及第二十五條ノ規定ニ依ル職權ハ同法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ他ノ行政官廳ノ處分ヲ要スル事項ニ關スルモノヲ除キ地方長官ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第十一條　自動車交通事業法第十六條ノ二十八ノ規定ニ依ル職權ハ輸送ノ統制ニ關スルモノニ限リ同法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ他ノ行政官廳ノ處分ヲ要スル事項ニ關スルモノヲ除キ鐵道局長ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第十二條　自動車交通事業法第十條第二項ノ規定ニ依ル裁定（同法第十一條第三項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ申請ハ當該事項ノ命令ヲ爲シタル行政官廳ニ之ヲ爲スベシ

第十三條　地方長官本令ノ規定ニ依ル處分ヲ爲サントスル場合ニ於テ事件ガ二以上ノ地方長官ノ管轄區域ニ關スルトキハ關係地方長官ニ商議ノ上連名ニテ之ヲ爲スベシ

地方長官小運送業者タル貨物自動車運送事業者ニ對シ左ノ處分ヲ爲サントスルトキハ關係鐵道局長ニ商議スベシ

一　第三條ノ規定ニ依リ事業ノ休止又ハ停止ノ處分ヲ爲サントスルトキ

二　第八條又ハ第十條ノ規定ニ依ル處分ニシテ小運送業ノ範圍内ニ於テ行フ貨物自動車運送事業ニ關スルトキ

第十四條　鐵道局長本令ノ規定ニ依ル處分ヲ爲サントスル場合ニ於テ事件ガ二以上ノ鐵道局ノ管轄區域ニ關スルトキハ關係鐵道局長ニ商議スベシ

鐵道局長第十一條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲サントスルトキハ關係地方長官ニ商議スベシ

第十五條　地方長官第一條第二號（減車、旅客定員、常用車豫備車別輛數、運轉系統、停留所ノ新設、廢止及移轉、配置常用車輛數、運行回數竝ニ運輸期間ニ關スル場合ニ限ル）第三號乃至第五號、第二條（免許ニ關スル場合ニ限ル）、第三條第一項第一號（主タル事務所ニ關スル場合ニ限ル）第二號第三號第二項（公共團體ニ關スル場合ヲ除ク）、第六條、第八條（第二號及第四號ニ該當スル事項ニシテ公共團體ニ關スル場合ヲ除ク）若ハ第十條（自動車道事業及公共團體ノ營ム自動車運送事業ニ關スル場合ヲ除ク）ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキ又ハ鐵道局長第四條（旅客自動車運輸事業ニ關スル場合ニ限ル）若ハ第十一條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク鐵道大臣ニ之ヲ報告スベシ

地方長官第一條第一號、第三條第二項（公共團體ニ關スル場合ニ限ル）、第七條（第二號ヲ除ク）、第八條（第二號及第四號ニ該當スル事項ニシテ公共團體ニ關スル場合ニ限ル）、第九條（第七條第二號ニ該當スル事項ニ關スル場合ヲ除ク）又ハ第十條（自動車道事業及公共團體ノ營ム自動車運送事業ニ關スル場合ニ限ル）ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク鐵道大臣及内務大臣ニ之ヲ報告スベシ

前二項ノ規定ニ依ル報告書ニハ申請書ノ副本、添附書類及圖面ヲ添附スベシ

第十六條　本令中地方長官トアルハ自動車道事業ニ關スル場合ヲ除キ東京都ニ在リテハ警視總監トス但シ事件ガ專用自動車道ニ關スルモノニ在リテハ警視總監及東京都長官トス

附　則

本令ハ自動車交通事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和八年十月一日ヨリ施行）

附　則（昭和十六年鐵道、内務省令第二號）

本令ハ昭和十五年法律第百六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十六年二月一日ヨリ施行）

本令施行前鐵道大臣、内務大臣又ハ地方長官ニ於テ受附ケタル申請書ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得、

●旅客自動車運輸事業及區間貨物自動車運送事業補償規則

（昭和十四年一月十四日鐵道省令第一號）

沿革　昭和一六年一月鐵道省令第九號改正

旅客自動車運輸事業及區間貨物自動車運送事業補償規則

第一條　自動車交通事業法施行令（以下勅令ト稱ス）第十三條第一項及第三項ノ規定ニ依ル補償金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ同條第四項ノ規定ニ依リ事業廢止ノ許可ヲ申請シタル上補償金ノ交付ヲ鐵道大臣ニ申請スベシ

勅令第十四條第一項ノ規定ニ依ル補償金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ國ノ經營スル旅客自動車運輸事業（以下運輸事業ト稱ス）又ハ事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業（以下運送事業ト稱ス）ノ運輸開始ノ日ヨリ一年經過後旅客自動車運輸事業者又ハ事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業者（以下事業者ト總稱ス）ノ營業年度ニ依ル一年毎ニ營業年度經過後六月以内ニ補償金ノ交付ヲ鐵道大臣ニ申請スベシ但シ當初分ニ限リ營業年度ノ關係ニ因リ一年以上ノ期間ニ付申請スルコトヲ妨ゲズ

第一項ノ補償金ノ交付申請書ニハ事業廢止ノ許可ニ付監督官廳ニ爲シタル申請書ノ寫及許可アリタル場合ニ於テハ監督官廳ノ證明アル許可書ノ寫ヲ添附スベシ

第二條　補償金計算ノ場合ニ於ケル興業費、

殘存物件ノ價額、運輸收入及營業費ハ左ノ各號ニ依ル

一　與業費ハ事業者ノ決算ニ基キ之ヲ現物、帳簿及證憑書類等ニ對照シ相當ノ財產價額償却額ヲ控除シ査定シタル額

二　殘存物件評價額ハ事業廢止ノ日ニ於ケル有形財產ノ處分價額ニ付査定シタル額

三　運輸收入及營業費ハ國ノ經營スル運輸事業又ハ運送事業ノ運輸開始ノ日ノ屬スル事業者ノ營業年度ノ前營業年度末ヨリ遡リ既往三年間ニ於ケル實績ヲ基礎トシ常態ト認メラルル年額但シ之ニ依リ難キ場合ニハ例明セル實績ヲ基礎トシ査定シタル年額

第三條　勅令第十三條第一項及第三項ノ規定ニ依ル利益ノ年額ノ七年分ハ年利三分五厘ノホフマン式計算ニ依リ利益ノ年額ニ六・一六四ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

第四條　勅令第十三條ノ規定ニ依ル補償金ハ事業者ガ運輸事業又ハ運送事業ノ全部ヲ廢止セザル場合ニ限リ分割シテ之ヲ交付ス

第五條　前條ニ依リ補償金ノ分割交付ヲ爲ス場合ニ於ケル毎營業年度ノ交付金額ハ第三條ノ規定ニ依リ計算シタル金額ニ勅令第十三條第二項ノ規定ニ依ル金額ヲ加算シタルモノヲ均等ニ分割シテ之ヲ交付ス

第六條　勅令第十四條第一項ノ規定ニ依ル補償金ハ一年毎ニ之ヲ計算ス

前項ノ補償金ハ事業者ノ營業年度ニ依ル一年ニ付當該一年間ノ利益金額ト合セ同期間ニ於ケル毎月末與業費ノ月割平均額ノ百分ノ五ニ相當スル金額ヲ超エルコトヲ得ズ前各項ニ付補償金ヲ計算スル期間ニ一年未滿ノ端數アルトキハ其ノ期間ニ應ジテ計算ス

第七條　補償金ヲ受ケタル權利ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ズ

附　則

本令ハ昭和十三年勅令第五百二號施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス（昭和十三年七月九日ヨリ施行）

自動車交通事業法施行規則第二十八條營業報告書樣式左ノ通定ム

自動車交通事業法施行規則第二十八條營業報告書樣式

年　月　日　　自動車運輸事業者名

鐵道省監督局長宛

地方長官（營業總監）宛

年上（下）期自　年　月　日
至　年　月　日營業報告書

一　概況　本項ハ事業ノ概要ヲ示スヲ目的トシ當該期間ニ於テ自動車運輸事業ニ關シ行政廳ニ申請シタル事項及其ノ指令ノ要領、商業登記、訴訟其ノ他ノ重要ナル庶務事項、又會社ニ在リテハ前記各事項ノ外兼業ノ開始又ハ廢止及株主總會ニ關スル事項ヲ記載スベシ

二　設備　本項ハ設備ノ狀況ヲ示スヲ目的トシ當該期間ニ於ケル車輛ノ增減、車庫ノ新設又ハ廢止及自動車道等ニ關スル工事ノ大要、用地ノ增減等ヲ記載スベシ

三　運輸　本項ハ運輸ノ狀況ヲ示スヲ目的トシ當該期間ニ於ケル營業日數、旅客及物品ノ輸送數量、收入總額、營業費總額等ヲ前期及前々期ニ比較シ增減ノ主因ヲ說明スベシ

四　會計　本項ハ會計ノ狀況ヲ示スヲ目的トシ當該期間ニ於ケル株金、社債金、借入金其ノ他ノ資金ノ增減、車輛其ノ他ノ財產ノ價額消却等會計ニ關スル事項ヲ記載スベシ

五　營業報告書ニハ別表ニ準ジ作成シタル諸表ヲ添附スベシ但シ會社ニ非ザル事業者ニシテ事業ノ與業費三萬圓未滿ノモノニ在リテハ第二表及第四表以外ノ諸表ヲ省略スルコトヲ得

●自動車交通事業法施行規則第二十八條營業報告書樣式

（昭和八年八月五日鐵道省告示第三百五十九號）

（別表）

貸借對照表

第一表　　年　月　日現在　　名　稱

借方 科目	借方 金額	貸方 科目	貸方 金額
拂込未濟資本金	圓	資本金又ハ出資金	圓
何々間路線興業費（開業路線）		特別資金	
〃（未開業路線）		法定準備金	
兼業興業費		任意準備金	
貯藏物品		社債金	
假出金		財團抵當借入金	
未收入金		借入金	
預金		支拂手形	
有價證券		當座借越金	
現金		未拂配當金	
……		未拂配當金	
		假受積立金	
		職員證金	
		保證繰越金	
		前期純益金	
		當期純益金	
		……	
合計		合計	

備考

1　個人又ハ組合經營ノ場合ニ於テ自動車運輸事業ニ關スルモノノミヲ記載シ難キトキハ他ノ事業ニ關スルモノト併セテ記載スルコトヲ得以下各表ニ付亦同ジ

2　拂込未濟資本金ニ付テハ其ノ株式數及各株式ノ拂込未濟金額ヲ欄外ニ記載スベシ

3　兼業興業費ハ兼業ノ種類毎ニ開業ト未開業トヲ區別記載シ財團抵當借入金ハ財團ノ種類毎ニ區別記載スベシ

4　假出金、未收入金、有價證券、未拂金、假受金ニ付テハ其ノ主ナルモノノ内譯ヲ欄外又ハ別紙ニ記載スベシ

5　株式ニ普通株、優先株、後配株及舊株、新株等ノ區別アルトキハ各株式數及金額ヲ欄外ニ記載スベシ

損益計算表

第二表　　自年月日至年月日　　名　稱

收入 科目	收入 金額	支出 科目	支出 金額	損益
自動車運輸事業收入	圓	自動車運輸事業支出	圓	圓
運輸收入		營業費		
旅客收入		保存費		
物品收入		輸送費		
運輸雜收		總係費		
雜收入		諸稅		
		道路損傷負擔金		
		財產價額消却金		
		各事業關聯營業費分擔額		
		興業營業關聯費分擔額		
		雜支出		
		支拂利子		
		社債差損金		
		財產價額消却金		
		雜損		
		……		
其ノ他ノ自動車業收入		其ノ他ノ自動車業支出		
地方鐵道業收入		地方鐵道業支出		
軌道業收入		軌道業支出		
……		……		
合計		合計		

備考

1　手荷物收入ハ之ヲ旅客收入ニ、手荷物以外ノ物品ハ旅客自動車ニテ運送シタルモノト雖モ其ノ收入ハ之ヲ物品收入ニ計上スベシ

2　運輸雜收及雜收入ノ主ナル内譯ハ之ヲ欄外ニ記載スベシ

3　保存費ニハ自動車道、車輛、諸建物等ニ係ル保存復舊ノ費用、自動車運輸事業會計規程第三條第二項ノ場合ニ於テ興業費ヨリ控除ス

ベキ金額等ヲ、輸送費ニハ運転手、車掌、其ノ他ノ運輸従事員ノ給料及手當、燃料及油脂、停留所ニ於ケル客貨取扱、客貨誘致ノ爲ノ廣告ニ係ル費用等ヲ、總係費ニハ運輸營業上ノ諸費用ニシテ他ノ科目ニ屬セザルモノヲ計上スベキモノトス

4 輸送費ニ計上セラルル燃料ニ付テハ消費總量、平均單價及金額ヲ欄外ニ說明スベシ

5 各事業ニ於テ支拂利子及社債差損金ヲ分擔シタルトキハ其ノ金額ヲ欄外ニ記載シ其ノ計算方法ヲ說明スベシ

6 財產價額消却金ノ內容ハ之ヲ欄外ニ說明スベシ

7 雜損ノ主ナル內譯ハ之ヲ欄外ニ記載スベシ

利益金處分表

第三表　　自年月日至年月日　　名稱

收入		支出	
科目	金額	科目	金額
	圓		圓
前期繰越金		法定準備金	
當期純益金		任意準備金	
		役員賞與金	
		優先株配當金（年何割何分）	
		普通株配當金（年何割何分）	
		後期繰越金	
合計		合計	

備考

1 優先株又ハ後配株ニ數種アルトキハ各種類毎ニ配當金ヲ記載スベシ

2 年度ノ中間ニ於テ株金ノ拂込アリタルトキハ其ノ期日及金額ヲ欄外ニ記載スベシ

何々間路線興業費明細表

第四表　　自年月日至年月日　　名稱

科目	前期末決算額	當期決算額	計	摘要
	圓	圓	圓	
車輛費				
器械場費				
諸建物費				
道路改良分擔金				
總係費				
自動車道費				
合計				

備考

1 區間ヲ分チテ整理スルトキハ各區間毎ニ本表ヲ調製スベシ

2 開業區間ト未開業區間トアルトキハ各區間別ニ本表ヲ調製スベシ但シ正確ニ區分スルコト能ハザルトキハ一定ノ標準ヲ設ケ合計金額ニ於テ區分シ之ヲ欄外ニ記載スベシ、尙合計ニ於テ區分シタルトキハ其ノ標準ヲ欄外ニ說明スベシ

3 諸建物費其ノ他ヲ各事業ニ分割計上シタルトキハ其ノ標準ヲ欄外ニ說明スベシ

4 自動車道費ニハ測量及監督費、用地費、土工費、路面費、橋梁費、伏函費、隧道費、總係費等ノ目ヲ設ケテ記載スベシ

5 開業區間ニ當期決算額又ハ戻入額アルトキハ其ノ事由ヲ摘要欄ニ說明スベシ

取締役、監査役及主ナル株主表

第五表　年　月　日現在　名稱

種別	氏名	所有株式數	摘要
取締役			
監査役			
株主ナル			

備考

1　主ナル株主ハ株主總數ノ百分ノ五以上ヲ有スルモノヲ記載スベシ

2　所有株式數種アルトキハ種類別ニ摘要欄ニ記載スベシ

●自動車交通事業法施行規則第二十八條統計報告書樣式

（鐵道省告示第三百六十五號昭和八年八月五日）

自動車交通事業法施行規則第二十八條統計報告書樣式ノ通定ム

鐵道省監督局長　地方長官（警視總監）宛

自動車運輸事業者名

年　月　日

年（上）（下）期　自　年　月　日　至　年　月　日　統計報告書

路線表

第一表　年　月　日現在　名稱

種別		區間	粁程 道路及通路	粁程 一般自動車道及專用自動車道	粁程 計	停留所數	摘要
開業路線	旅客運送	何々間	粁	粁	粁		
	物品運送	〃　〃　〃					
	旅客及物品運送	〃　〃　〃					
	計						
未開業路線	旅客運送	〃　〃　〃					
	物品運送	〃　〃　〃					
	旅客及物品運送	〃　〃　〃					
	計						
合計							

備考

1　旅客運送ト物品運送トノ種別ハ免許ヲ受ケタル事業ノ種別ニ依リ記載スベシ

2　區間ハ免許、運轉系統ノ如何ニ拘ラズ重複セザル樣記載スベシ

3　粁程ハ小數點以下二位ヲ四捨五入シ一位ニ止メテ計上スベシ

4　停留所數ハ開業路線ニ係ルモノノミヲ記載スベシ

5　本表ハ營業年度末日現在ヲ以テ作成記載スベシ第二表及第五表ニ付亦同ジ

車輛表

第二表　　年　月　日現在　　名稱

種別	車名	輛數	旅客定員			積載定量	摘要
			座席	立席	計		
			人	人	人	瓩	
旅客自動車							
計							
貨物自動車							
計							
合造車							
計							
牽引車							
計							
附隨車							
計							
合計							

備考

1　本表ハ所有者ノ如何ニ拘ラズ現ニ事業ノ用ニ供スル車輛ニ付之ヲ作成スベシ

2　車名及輛數ハ旅客定員又ハ積載定量別ニ記載スベシ

3　瓦斯倫以外ノ動力ヲ使用スルモノニ在リテハ之ヲ區別シ摘要欄ニ記載スベシ

運輸成績表

第三表　　自年月日至年月日　　名稱

種別	營業日數	使用延車數	車輛走行粁	輸送數量 旅客 人	輸送數量 物品 瓲	運輸收入 旅客 圓	運輸收入 物品 圓	運輸收入 計 圓	摘要
旅客運送			粁						
物品運送									

備考

1　接續セザル路線ニ在リテハ其ノ路線毎ニ區分記載スベシ接續スル路線ト雖モ區間ヲ分チ整理スルトキ亦同ジ
2　營業日數ハ營業休止ノ日數ヲ除キタルモノヲ記載スベシ
3　使用延日車數及車輛走行粁ハ自己路線ニ於テ營業上使用シタル車輛ニ付調査記載スベシ
4　輸送旅客人員ノ計算ハ次ノ方法ニ依ル
イ　片道乘車ハ一券ヲ以テ一人トス
ロ　往復乘車及廻遊乘車ハ一券ヲ以テ二人トス
ハ　定期乘車ハ有效日數ニ二ヲ乘ジタルモノ
ニ　團體及貸切乘車ハ運賃計算人員
ホ　回數乘車ハ乘車シ得ベキ其ノ回數但シ區間制ニシテ乘車區數ニ應ジ乘車券ヲ使用シ得ルモノニ在リテハ適當ノ方法ニ依リ旅客人員ヲ推定算出シ其ノ方法ヲ說明スベシ此ノ場合普通乘車ニ於テ各區券ヲ發賣スルトキハ次ノ如キ算出方法アリ

$$\frac{\text{普通乘車總延區數}}{\text{普通乘車人員}}=\text{一人平均乘車區數}$$

$$\frac{\text{回數乘車總延區數}}{\text{一人平均乘車區數}}=\text{推定旅客人員}$$

例

$$\frac{\overset{\text{普通乘車總延區數}}{\text{一區券　二區券　三區券}}}{\text{100人+80人+70人=250}}=\frac{\text{100枚×1+80枚×2+70枚×3=470}}{\text{100人+80人+70人=250}}\text{區}=1.88\cdots\cdots\text{一人平均乘車區數}$$

$$\frac{\text{50區券×100冊+100區券×80冊=13.000}}{\text{1.88}}\text{人}=6.915\cdots\cdots\text{推定旅客人員}$$

ヘ　乘車券ヲ發賣セザルモノニ在リテハ推定ニ依リ旅客人員ヲ算出シ其ノ方法ヲ摘要欄ニ記載スベシ
ト　定期、回數、廻遊、團體乘車券ニ對スル延人員及運賃ハ之ヲ摘要欄又ハ欄外ニ記載スベシ
5　輸送數量及運輸收入ハ乘車券發賣ノ日又ハ物品受託ノ日ノ屬スル營業年度ニ算入スベシ
6　物品數量ハ運賃計算重量ニ依リ計上スベシ
7　個數扱ノ物品ハ適當ナル方法ニ依リ之ヲ瓲ニ換算シテ計上スベシ

事故表

第四表　　自年月日至年月日　　名稱

種別＼死傷別	件數 死傷ヲ生ジタル場合	件數 死傷ヲ生ゼザル場合	旅客 死	旅客 傷	職員 死	職員 傷	公衆 死	公衆 傷	計 死	計 傷
	件	件	人	人	人	人	人	人	人	人
墜落										
衝突										
顚覆										
車輛火災										
轢死傷										
……										
……										
……										
計										

備考

1　種別ノ競合シタルトキハ主要ナルモノニ付記入スベシ
2　衝突ニハ汽車、電車、家屋、電柱等ニ衝突シタルモノヲ含ム

第五表

職員表

年　月　日　現在

名稱

職名	人員	給料月額	諸給與月額	摘要
取專常取監	長役役役	圓	圓	
締務務	役取取締			
役	社締締			
支庶	人務任記			
主書	屋			
輪	計			
主運車	轉			
技	送任手掌			
主技	術任工			
計				

備考

1 給料月額欄ニハ年俸額ハ其ノ十二分ノ一、日給額ハ其ノ三十倍ヲ記載スベシ
2 諸給與月額欄ニハ臨時手當、賞與金、交際費、社宅料、被服代、時間增手當等ノ諸給與金ヲ一月分ニ平均シタルモノヲ記載スベシ
3 同一人ニテ他ノ職務ヲ兼務スルトキハ之ヲ明ニスベシ
4 株式會社ニ非ザル事業者ニ在リテハ本表ニ準ジ作成スベシ

●自動車運送事業組合令

（昭和十八年八月七日勅令第六百六十五號）

朕自動車運送事業組合令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

自動車運送事業組合令

第一條　自動車運送事業組合（以下組合ト稱ス）ハ其ノ名稱中ニ自動車運送事業組合ナル文字ヲ用フベシ

組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ自動車運送事業組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第二條　鐵道大臣自動車交通事業法第十六條ノ十三第一項ノ規定ニ依リ組合ノ設立ヲ命ズル場合ニ於テハ左ニ掲グル事項ヲ指定シ之ヲ告示ス

一　地區
二　組合員タル資格
三　設立ノ認可ヲ申請スベキ期限

前項ノ場合ニ於テ地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監トス以下同ジ）ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受ケ設立ノ命令ヲ受ケタル者ノ中ヨリ設立委員ヲ命ズ

地方長官特ニ必要アリト認ムルトキハ鐵道大臣ノ認可ヲ受ケ自動車運送事業ニ關シ經驗アル者又ハ學識アル者ヲシテ組合ノ設立ニ參與セシムルコトヲ得

地方長官第二項ノ規定ニ依リ設立委員ヲ命ジタルトキハ其ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ告示ス

前項ノ告示アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スベシ

第三條　組合ノ創立總會ヲ招集スルニハ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ會日ヨリ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ示シ招集ノ通知ヲ發スベシ

第四條　左ニ掲グル事項ハ創立總會ニ諮リ組合ノ設立委員之ヲ定ム

一　定款
二　事務所
三　事業計畫
四　組合ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法
五　初年度ニ於ケル收支豫算竝ニ賦課金ノ類及徵收方法

第五條　組合ノ創立總會ニ於ケル議決及監事ノ選任ハ出席シタル設立ノ命令ヲ受ケタル者ノ過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官別段ノ議決方法ヲ定ムルコトヲ得

第六條　組合ノ創立總會ニ於テハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス

前項ノ代理人ハ設立ノ命令ヲ受ケタル者又ハ設立ノ命令ヲ受ケタル法人ノ業務ヲ執行スル役員タルコトヲ要ス

第七條　組合ノ創立總會終了シタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク組合設立ノ認可ヲ受クベシ

第八條　組合ガ其ノ組合員ニ對シテ爲ス通知又ハ催告ハ組合員名簿ニ記載シタル其ノ者ノ住所ニ、其ノ者ガ別ニ其ノ住所又ハ通知若ハ催告ヲ受クベキ場所ヲ組合ニ通知シタルトキハ其ノ住所又ハ場所ニ宛ツルヲ以テ足ル

前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スベカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

第九條　組合ノ理事長ハ毎事業年度一回通常總會ヲ招集スベシ

組合ノ理事長必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得

第十條　組合ノ總會ニ於ケル決議及監事ノ選任ハ出席シタル組合員ノ過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ヲ以テ別段ノ議決方法ヲ定ムルコトヲ得

第十一條　組合ノ總會ニ於テハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス

前項ノ代理人ハ組合員、組合員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員又ハ當該組合員ノ業務ニ從事スル職員タルコトヲ要ス

第十二條　組合ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第十三條　組合ノ理事長ハ定款及總會ノ議事錄ヲ各事務所ニ、組合員名簿ヲ主タル事務所ニ備置クベシ

組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ揭グル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第十四條　組合ノ理事長ハ通常總會ノ會日ヨリ一週間前ニ組合ノ財產目錄、貸借對照表、收支決算書及事業報告書ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フベシ

前條第二項ノ規定ハ前項ニ揭グル書類ニ之ヲ準用ス

第十五條　組合ハ組合員ニ對シ當該自動車運送事業ニ關スル事項ノ調查ヲ爲ス爲必要ナル資料ノ提出ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ資料ノ提出ヲ求メラレタル者ハ遲滯ナク之ヲ提出スベシ

第十六條　組合ハ鐵道大臣ノ命令ニ因ルニ非ザレバ合併スルコトヲ得ズ

第十七條　組合ノ合併ノ命令アリタルトキハ各組合ノ理事長ハ其ノ命令到達ノ日ヨリ二週間以內ニ財產目錄及貸借對照表ヲ作成スベシ

第十八條　組合ハ前條ノ期間內ニ其ノ債權者ニ對シ第二十二條ノ規定ニ依ル其ノ債權ニ係ル債務ノ承繼ニ異議アラバ一定ノ期間內ニ之ヲ述フベキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス

但シ其ノ期間ハ一月ヲ下ルコトヲ得ズ

債權者ガ前項ノ期間內ニ異議ヲ述ベタルトキハ組合ハ辨濟ヲ爲シ若ハ相當ノ擔保ヲ供シ又ハ債權者ニ辨濟ヲ受ケシムルコトヲ目的トシテ信託會社若ハ信託業務ヲ營ム銀行ニ相當ノ財產ヲ信託スルコトヲ要ス

第一項ノ公告ハ裁判所ガ爲スベキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條　合併ニ因リ設立スル組合ノ定款ノ作成、監事ノ選任其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各組合ノ理事長共同シテ之ヲ爲ス

鐵道大臣特ニ必要アリト認ムルトキハ自動車運送事業ニ關シ經驗アル者又ハ學識アル者ヲシテ合併ニ因ル組合ノ設立ニ參與セシムルコトヲ得

第二十條　組合ノ合併ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十一條　組合ノ合併ハ合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ第三十三條ノ規定ニ依ル登記ヲ爲スニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ

第二十二條　合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第二十三條　鐵道大臣組合ノ解散ヲ命ジタルトキハ其ノ旨ヲ當該組合ノ主タル事務所ノ所在地ノ區裁判所ニ通知スベシ

前項ノ通知アリタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任ス

裁判所必要アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

裁判所清算人ヲ選任シ又ハ解任シタルトキハ其ノ旨ヲ鐵道大臣ニ通知スベシ

第二十四條　組合ノ清算人ハ就職ノ後遲滯ナク組合財產ノ現況ヲ調查シ財產目錄及貸借對照表ヲ作成スベシ

第二十五條　組合ノ清算人ハ組合ノ清算及財產處分ノ方法ヲ定メ裁判所ノ認可ヲ受クベシ

裁判所必要アリト認ムルトキハ清算人ニ對シ清算及財產處分ノ方法ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　組合ハ解散ノ後ト雖モ裁判所ノ認可ヲ受ケ其ノ債務ヲ完濟スルニ必要ナル金額ヲ賦課徵收スルコトヲ得

自動車交通事業法第十六條ノ二十四ノ規定ハ前項ノ賦課徵收ニ之ヲ準用ス

第二十七條　組合ノ清算結了シタルトキハ裁判所ハ其ノ旨ヲ鐵道大臣ニ通知スベシ

第二十八條　組合ノ設立ノ登記ハ設立ノ認可アリタル日又ハ鐵道大臣ガ

自動車交通事業法第十六條ノ十三第三項ノ處分ヲ完了シタル日ヨリ二週間以內ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

設立ノ登記ニハ左ノ事項ヲ揭グルコトヲ要ス

一　目的
二　名稱
三　地區
四　事務所
五　理事長及理事ノ氏名及住所

組合ハ設立ノ登記ヲ爲シタル後二週間以內ニ從タル事務所ノ所在地ニ於テ前項ニ揭グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十九條　組合ノ成立後從タル事務所ヲ設ケタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間以內ニ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記シ其ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以內ニ前條第二項ニ揭グル事項ヲ登記シ他ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ同期間內ニ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス

主タル事務所又ハ從タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域內ニ於テ新ニ從タル事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第三十條　組合ガ主タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間以內ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ三週間以內ニ第二十八條第二項ニ揭グル事項ヲ登記シ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ三週間以內ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ四週間以內ニ同項ニ揭グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄區域內ニ於テ主タル事務所又ハ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ル

第三十一條　第二十八條第二項ニ揭グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以內ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十二條　組合ガ解散シタルトキハ合併ノ場合ヲ除クノ外主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以內ニ解散ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條　組合ガ合併ヲ爲シタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以內ニ合併後存續スル組合ニ付テハ變更ノ登記、合併ニ因リテ設立スル組合ニ付テハ第二十八條第二項ニ揭グル事項ノ登記、合併ニ因リテ消滅スル組合ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十四條　組合ハ清算人就職ノ日ヨリ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以內ニ清算人ノ氏名及住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第三十一條ノ規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三十五條　組合ノ清算ガ結了シタルトキハ清算結了ノ日ヨリ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以內ニ清算結了ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十六條　組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ其ノ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

各登記所ニ自動車運送事業組合登記簿ヲ備フ

第三十七條　組合ノ設立ノ登記ハ第三項ニ規定スル場合ヲ除クノ外組合ノ理事長ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ登記ノ申請書ニハ定款及申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

鐵道大臣ガ自動車交通事業法第十六條ノ十三第三項ノ處分ヲ爲シタル場合ニ於ケル設立ノ登記及第二十八條第三項ノ規定ニ依ル登記ハ鐵道大臣ノ囑託ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ設立ノ登記ノ囑託書ニハ定款ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十八條　第二十八條第三項ノ規定ニ依ル登記ハ前條第三項ニ規定スル場合ヲ除クノ外組合ノ理事長ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第三十九條　組合ノ事務所ノ新設又ハ移轉其ノ他第二十八條第二項ニ揭ゲル事項ノ變更ノ登記ハ組合ノ理事長又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ登記ノ申請書ニハ事務所ノ新設又ハ移轉其ノ他登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十條　第三十二條ノ規定ニ依ル登記ハ鐵道大臣ノ囑託ニ因リテ之ヲ爲ス

第四十一條　第三十三條ノ規定ニ依ル解散ノ登記ハ合併ニ因リテ消滅スル組合ノ理事長ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第四十二條　第三十四條ノ規定ニ依ル登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第三十四條第一項ノ規定ニ依ル登記ノ申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十四條第二項ノ規定ニ依ル登記ノ申請書ニハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十三條　組合ノ清算結了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第四十四條　登記スベキ事項ニシテ行政官廳ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第四十五條　登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第四十六條　民法第四十四條第一項、第五十條、第六十二條及第六十四條ノ規定ハ組合ニ之ヲ準用ス

第四十七條　非訟事件手續法第百四十二條乃至第百四十九條、第百五十條ノ二乃至第百五十一條ノ六及第百五十四條乃至第百五十七條ノ規定ハ組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

第四十八條　民法第七十三條、第七十八條乃至第八十條及第八十二條第二項並ニ非訟事件手續法第三十五條第二項、第三十六條、第三十七條ノ二、第百三十五條ノ二十五第二項第三項、第百三十六條第一項、第百三十七條及第百三十八條ノ規定ハ組合ノ清算ニ之ヲ準用ス、

第四十九條　組合ニ關スル規定ハ自動車運送事業組合聯合會（以下聯合會ト稱ス）ニ之ヲ準用ス但シ第二條第二項中地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監トス以下同ジ）ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受ケトアルハ鐵道大臣ハトシ同條第三項中地方長官特ニ必要アリト認ムルトキハ鐵道大臣ノ認可ヲ受ケトアルハ鐵道大臣特ニ必要アリト認ムルトキハトシ同條第四項及第五條中地方長官トアルハ鐵道大臣トシ第九條、第十三條第一項、第十四條第一項、第三十七條第一項、第三十八條、第三十九條第一項及第四十一條中組合ノ理事長トアルハ聯合會ノ會長トシ第十五條第一項中組合員トアルハ會員及當該自動車運送事業ノ事業者トシ第十七條及第十九條第一項中各組合ノ理事長トアルハ各聯合會ノ會長トシ第二十八條第二項中理事長及理事トアルハ會長、理事長及理事トス

第五十條　組合及聯合會ニハ樺太ニ在リテハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

本令ニ規定スル登記ヲ爲スベキ期間ハ樺太ニ在リテハ之ヲ二倍トス

附　則

第一條　本令ハ昭和十八年法律第五十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十八年八月十五日ヨリ施行）

第二條　本令施行ノ際現ニ存スル自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會ニ付テハ從前ノ規定ヲ適用ス但シ昭和十八年法律第五十五號附則第四條第一項ノ規定ニ依リ解散スル自動車運送事業組合ノ清算ノ場合ニ於テハ自動車交通事業法第十六條ノ十三ノ規定ニ依リ新ニ成立シタル組合ニシテ解散スル自動車運送事業組合ト地區ヲ同ジクスルモノノ理事長其ノ清算人ト爲ル

第三條　本令施行前從前ノ規定ニ依リ處斷スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第四條　昭和十八年勅令第三百五十二號中左ノ通改正ス

第三條中「第十六條ノ三十八」ヲ「第十六條ノ四十一」ニ改ム

●旅客自動車運輸事業運輸規程

（昭和八年八月五日鐵道省令第六號）

沿革　昭和一六年一月鐵道省令第二號、一七年一一月第一一號改正

旅客自動車運輸事業運輸規程左ノ通定ム

旅客自動車運輸事業運輸規程

第一章　總則

第一條　旅客自動車運輸事業ノ運輸ハ本令ノ定ムル所ニ依ルベシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監トス、以下同ジ）ノ許可ヲ受ケ本令ニ依ラザルコトヲ得

地方長官前項ノ規定ニ依リ許可ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク鐵道大臣ニ之ヲ報告スベシ

鐵道大臣ハ旅客自動車運輸事業ノ狀況ニ依リ本令ニ依ラザル運輸ヲ命ズルコトヲ得

第二條　運賃、料金其ノ他ノ運送條件ハ公告ヲ爲シタル後ニ非ザレバ之ヲ實施スルコトヲ得ズ

運賃又ハ料金ヲ增加セントスルトキハ前項ノ公告ハ二週間以上之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條　車輛ノ運行ヲ休止シ又ハ變更セントスルトキハ實施前之ヲ公告スルコトヲ要ス

第三條ノ二　旅客自動車運輸事業者旅客及物品ノ運送條件其ノ他運送ニ關スル事項ニ付規則ヲ定メタルトキハ實施前鐵道大臣及地方長官ニ之ヲ屆出ヅベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第二章　係員

第三條ノ三　運輸ニ從事スル係員ハ運輸上ノ安全便益ヲ旨トシ旅客ニ對シ公平懇切ニ其ノ職務ヲ行フベシ

第四條　運轉士、車掌其ノ他旅客又ハ公衆ニ應接スル係員ハ一定ノ制服ヲ著用スベシ

旅客ノ案內又ハ乘降ノ整理等旅客ノ指導ニ從事スル係員ハ腕章又ハ徽章ニ依リ其ノ係員タルコトヲ表示スベシ

第四條ノ二　旅客ヲ運送スル車輛ニハ車掌ヲ乘務セシムベシ

第四條ノ三　運轉士ハ酒氣ヲ帶ビテ車輛ヲ運轉シ又ハ之ガ運轉中喫煙スベカラズ

第四條ノ四　旅客自動車運輸事業者係員ノ採用、服務、給與又ハ懲戒ニ關スル規則ヲ定メタルトキハ鐵道大臣及地方長官ニ之ヲ届出ヅベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第五條　旅客及荷送人ハ係員ノ職務上ノ指圖ニ從フベシ

第三章　運轉

第六條　車輛ノ外側ニハ見易キ箇所ニ行先及事業者ノ名稱又ハ徽章ヲ表示スベシ

第七條　車輛ニハ豫備タイヤ及應急修理ニ必要ナル器具ヲ備フベシ但シ急速ニ之ヲ供給スベキ施設アルトキ又ハ他ノ車輛ニ依リ容易ニ運送ヲ繼續シ得ルトキハ之ヲ要セズ

第八條　車輛ハ每日其ノ運行開始前其ノ要部ヲ點檢スベシ

第九條　車輛ハ使用ノ狀況ニ依リ六月ヲ超エザル期間每又ハ走行二萬五千粁ニ達セザル每ニ機關、操向裝置、制動裝置、照明裝置、車輪、車軸其ノ他ノ要部ヲ細密ニ檢査スベシ

第十條　車輛ハ一年ヲ超エザル期間每又ハ走行四萬五千粁ニ達セザル每（新造車輛ノ第一回解體檢査ニ在リテハ一年半ヲ超エザル期間每又ハ走行七萬粁ニ達セザル每）ニ解體檢査ヲ爲シタル後ニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

地方長官車輛ノ使用狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ解體檢査ヲ命スルコトヲ得

前項ノ檢査ノ結果車輛ノ運行不適當ト認ムルトキハ地方長官ハ其ノ使用ヲ停止セシムルコトヲ得

第十一條　前二條ノ規定ニ依リ檢査ヲ爲シタルトキハ其ノ概要、費用、年月日其ノ他必要ナル事項ヲ車歷簿ニ記入スベシ重要ナル修繕又ハ改造ヲ爲シタルトキ亦同ジ

第十二條　專用自動車道ハ常ニ車輛ヲ安全且正確ニ運轉スルコトヲ得ベキ狀態ニ之ヲ保持スベシ

第十二條ノ二　車輛ノ障礙、顚覆、衝突、火災等重大事故發生シタルトキハ遲滯ナク別記樣式ニ依リ鐵道大臣及地方長官ニ之ヲ届出ヅベシ

第四章　旅客運送

第十三條　旅客停留所ニハ見易キ場所ニ停留所名及事業者ノ名稱又ハ徽章ヲ表示シ且主要旅客停留所ニハ車輛ノ主ナル行先、運賃及發車時刻ヲ揭示スベシ

運行頻繁ナル路線ニ在リテハ始發及終發ノ時刻竝ニ運轉間隔ノ大要ヲ以テ前項ノ發車時刻ヲ代フルコトヲ得

第十三條ノ二　主要旅客停留所ニシテ旅客ノ取扱上必要アルトキハ係員ヲ駐在セシメ又ハ旅客待合所ヲ設クベシ

旅客待合所ニハ各種運賃表、運行時刻表、路線圖、運轉系統圖其ノ他運輸上必要ナル事項ヲ揭出スベシ此ノ場合ニ於テハ停留所ニハ前條ニ揭ゲル事項（停留所名及事業者ノ名稱又ハ徽章ヲ除ク）ノ揭示ヲ省略スルコトヲ得

第十四條　旅客ノ同伴スル四年未滿ノ小兒ニシテ座席ヲ塞ガザルモノハ無賃ヲ以テ之ヲ運送スベシ

第十四條ノ二　旅客自動車運輸事業者ハ一定ノ樣式ニ依ル乘車券ヲ發行スベシ

乘車券ニハ運賃、通用ノ區間及期間其ノ他必要ナル事項ヲ記載スベ

シ

回數乘車券ニ在リテハ其ノ綴ノ表紙ニ回數券ハ表紙ト共ニスルニ非ザレバ之ヲ行使スルコトヲ得ザル旨記載スベシ

乘車券ノ樣式ヲ定メ又ハ變更シタルトキハ地方長官ニ之ヲ届出ヅベシ

第十四條ノ三　旅客自動車運輸事業者ハ名義ノ如何ヲ問ハズ景品其ノ他ノ利益ヲ附シテ乘車券ヲ發賣スルコトヲ得ズ

第十四條ノ四　天災事變其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ車輛ノ運轉ヲ中斷シタルトキハ旅客ニ對シ相當ノ便宜ヲ與ヘ保護ヲ爲スベシ

第十五條　左ニ揭ゲル者ノ乘車ハ之ヲ拒絕スルコトヲ得

一　附添人ナキ重病者及精神病者

二　泥醉者又ハ不潔ナル服裝ヲ爲ス者

三　其ノ他他ノ旅客ニ迷惑ヲ及ボス虞アル者

傳染病患者ハ他ノ旅客ト之ヲ同乘セシムルコトヲ得ズ

第十六條　旅客ハ左ノ行爲ヲ爲スベカラズ

一　機械裝置ニ手ヲ觸ルルコト

二　進行中乘降スルコト

三　進行中運轉士ニ話シ掛ケ、乘降口ノ扉ヲ開キ又ハ肢體ヲ車外ニ出スコト

四　物品ヲ車外ニ投棄スルコト

五　車內ニ於テ喫煙スルコト

六　他ノ旅客ノ迷惑トナル行爲ヲ爲スコト

前項ニ揭グル行爲ヲ爲ス者係員ノ制止ヲ肯セザルトキハ之ヲ降車セシムルコトヲ得

第十七條　旅客ハ檢査ノ爲乘車券ノ呈示又ハ取集ノ爲其ノ交付ヲ求メラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ反シ乘車券ノ呈示又ハ交付ヲ拒ミタル旅客ニ對シテハ普通運賃ノ外之ト同額ノ割增運賃ヲ請求スルコトヲ得無效ノ乘車券ヲ以テ乘車シタル旅客ニ對シ亦同ジ

第十八條　旅客ハ左ニ揭ゲル物品ヲ車內ニ持込ムコトヲ得ズ

一　犬其ノ他ノ動物ニシテ他ノ旅客ノ迷惑トナル虞アルモノ

二　品質、容積等ニ因リ他ノ旅客ノ迷惑トナル虞アルモノ

三　火藥類（少量ノ銃用火藥類又ハ緩燃導火線ヲ除ク）其ノ他危害ヲ他ニ及ボス虞アルモノ

第十九條　自動車交通事業法第四條ノ二ノ規定ニ依リ旅客ノ運送ニ附隨シテ運送シ得ル物品ハ郵便物、新聞紙、雜誌其ノ他旅客ノ運送ヲ目的トスル車輛ニ積載シ得ル少量ノモノニ限ル但シ火藥類及危害ヲ他ニ及ボス虞アル物品ハ之ヲ運送スルコトヲ得ズ

臭氣ヲ發シ又ハ不潔ナル物品ハ旅客ト同一ノ車室ニ之ヲ積載スルコトヲ得ズ

第二十條　左ノ場合ニ於テハ物品ノ運送ヲ拒絕スルコトヲ得

一　運送ニ適スル設備ナキトキ

二　直ニ運送ヲ爲スコトヲ得ザルトキ

三　旅客ノ運送ニ支障ヲ及ボス虞アルトキ

運送物品中ニ火藥類又ハ危害ヲ他ニ及ボス虞アル物品ヲ收納セル疑アルトキハ係員ハ其ノ內容ニ付說明ヲ求メ又ハ荷送人立會ノ上之ヲ點檢スルコトヲ得

第二十一條　物品運送ノ引受ヲ爲シタルトキハ之ニ對シ荷物切符ヲ發行シ荷送人ニ之ヲ交付スベシ但シ物品ノ種類ニ依リ其ノ必要ナシト認メラルルトキハ此ノ限ニ在ラズ

荷物切符ニハ引換番號、運賃其ノ他必要ナル事項ヲ記載スベシ

第二十一條ノ二　第三條ノ二、第四條ノ四、第十條第二項第三項、第十二條ノ二及第十四條ノ二第四項ノ規定ハ國ニ於テ經營スル旅客自動車運輸事業ニハ之ヲ適用セズ

第五章　罰則

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　係員ノ許諾ヲ受ケズシテ專用自動車道内ニ立入リタルトキ

二　車輛ニ瓦石類ヲ投擲シタルトキ

三　係員ノ職務ノ執行ヲ妨害シタルトキ

附　則

本令ハ自動車交通事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和八年十月一日ヨリ施行）

本令施行ノ際第六條、第七條及第十三條ノ規定ニ適合セザルモノハ本令施行ノ日ヨリ六月以内ニ之ヲ適合セシムベシ

附　則（昭和十六年一月鐵道省令第二號）

本令ハ昭和十五年法律第百六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十六年二月一日ヨリ施行）

本令施行ノ際第四條、第四條ノ二、第十四條ノ二第一項乃至第三項及第二十一條ノ規定ニ適合セザルモノアルトキハ本令施行ノ日ヨリ六月以内ニ之ヲ適合セシムベシ

旅客自動車運輸事業者ニシテ本令施行前第三條ノ二又ハ第四條ノ四ノ規定ニ依ル規則ヲ定メタルモノハ鐵道大臣及地方長官ニ、乘車券ノ樣式ヲ定メタルモノハ地方長官ニ夫々本令施行ノ日ヨリ一月以内ニ之ヲ届出ヅベシ

別記樣式

年　月　日

住所
事業者名　印

鐵道省監督局長宛
地方長官宛

事故届

事故ノ種類	
原因	
發生日時分	
場所	
當該車輛	
現場ノ狀況及當時ノ處置	
損害ノ程度	
當務者處分ノ顚末	

備考

一　當該車輛ハ車名、形式、年式、座席形式、旅客定員及動力ノ種類ヲ記載スベシ

二　現場ノ狀況及當時ノ處置ハ詳細ニ說明シ必要ニ依リ圖面ヲ添附スベシ

三　當務者處分未了ノ場合ハ其ノ旨ヲ附記シ處分結了ト同時ニ之ヲ追報スベシ

●旅客自動車運輸事業運輸規程等ノ特例ニ關スル件

（昭和十六年八月二十九日　鐵道省令第十三號）

旅客自動車運輸事業運輸規程第二條及自動車交通事業法施行規則第四十七條ノ特例ニ關スル件左ノ通定ム

旅客自動車運輸事業運輸規程第二條第二項及自動車交通事業法施行規則第四十七條ニ於テ準用スル旅客自動車運輸事業運輸規程第二條第二項ハ當分ノ内之ガ施行ヲ停止ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●旅客自動車運輸事業基準規程

（昭和八年八月五日　鐵道省令第四號）

【沿革】昭和十六年一月省令第一號改正

旅客自動車運輸事業基準規程左ノ通定ム

旅客自動車運輸事業基準規程

第二十類　通信、交通及電氣　第二編　交通

第一條　旅客自動車運輸事業者ハ同一ノ運輸系統ト認ムベキ路線ノ區間ニ對シ其ノ運輸數量及粁程ニ應ジ相當數ノ自動車ヲ備フルコトヲ要ス

旅客自動車運輸事業者ハ修繕其ノ他ノ場合ニ使用スル爲相當數ノ豫備車ヲ備フルコトヲ要ス

第二條　臨時ノ必要ニ因リ一月以内ノ期間ヲ限リ經營スル旅客自動車運輸事業ニハ本令ノ規定ヲ適用セズ

附　則

本令ハ自動車交通事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和八年十月一日ヨリ施行）

本令施行ノ際自動車運輸事業ノ用ニ供スル自動車ハ第一條ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ之ヲ使用スルコトヲ得

本令施行ノ際自動車運輸事業ノ用ニ供スル自動車ノ數ニシテ本令施行後二年ヲ經過スルモ第二條ノ規定ニ適合セザルトキハ免許ニ有效期間ヲ指定スルコトアルベシ

●旅客自動車運輸事業會計規程

（昭和八年八月五日　鐵道省令第九號）

【沿革】昭和十六年一月省令第四號改正

旅客自動車運輸事業會計規程左ノ通定ム

旅客自動車運輸事業會計規程

第一條　旅客自動車運輸事業ノ會計ハ本令ノ定ムル所ニ依ルベシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ鐵道大臣ノ許可ヲ受ケ本令ニ依ラザルコトヲ得

鐵道大臣ハ必要アリト認ムルトキハ本令ニ依ラザル會計ヲ命ズルコト

ヲ得

第二條　營業年度ハ一年又ハ六月トス

第三條　旅客自動車運輸事業ノ開始ニ必要ナル自動車、專用自動車道等ノ取得又ハ建設ノ爲支出シタル金額ハ之ヲ興業費トス

運輸開始後增設其ノ他ノ改良ヲ加ヘタル場合ニ於ケル費用ハ之ヲ興業費トス但シ新工事ニ因リ撤去セラレタル部分ノ舊工事費ハ新工事費ニ相當スル額ヲ限度トシ興業費ヨリ之ヲ控除スベシ

借入金ノ利子ハ運輸開始前ニ屬スルモノニ限リ之ヲ興業費ニ決算スルコトヲ得

第四條　自動車、專用自動車道其ノ他興業費ニ決算シタルモノノ保存復舊ノ費用、前條第二項ノ場合ニ於テ興業費ヨリ控除スベキ金額、諸稅其ノ他運輸營業上ノ諸費用ハ之ヲ營業費トス

第七條第一項ノ規定ニ依ル自動車ノ價額償却金及之ニ類似スル償却金ハ之ヲ營業費トス

第五條　旅客收入、物品收入及其ノ他運輸營業上ノ諸收入(運輸雜收)ハ之ヲ運輸收入トシ運輸收入及雜收入ハ之ヲ營業收入トス

第六條　財產目錄ニ記載スル有價證券以外ノ財產ノ價額ハ實費決算額ヲ超ユルコトヲ得ズ

財產價額ヲ償却シタルトキハ其ノ殘額ヲ以テ實費決算額トス

第七條　自動車ノ價額ハ使用ノ狀況ニ應ジ一定ノ計畫ニ依リ每營業年度ニ之ヲ償却スベシ

興業費ニ決算シタル借入金ノ利子、他ノ旅客自動車運輸事業承繼ノ爲支出シタル金額等ニシテ之ニ對應スル有形財產ヲ有セザルモノハ一定ノ計畫ニ依リ之ヲ償却スベシ

第八條　興業及營業ニ關聯スル費用ハ當該營業年度ニ於ケル興業費及營業費ノ決算額ノ割合ニ依リ百分率ヲ以テ之ヲ分割スベシ但シ全部ヲ營業費ニ算入スルコトヲ妨ゲズ

第九條　旅客自動車運輸事業者ガ他ノ事業ヲ營ム場合ニ於テ旅客自動車運輸事業及他ノ事業ニ關聯スル興業費、營業費又ハ營業收入ハ當該營業年度ニ於ケル關係各事業ノ興業費、營業費又ハ營業收入ノ決算額ノ割合ニ依リ百分率ヲ以テ之ヲ分割スベシ

第十條　旅客自動車運輸事業者ガ他ノ事業ヲ營ム場合ニ於テ旅客自動車運輸事業及他ノ事業ノ興業及營業ニ關聯スル費用ハ當該事業年度ニ於ケル關係各事業ノ興業費及營業費ノ決算額ノ割合ニ依リ百分率ヲ以テ之ヲ分割スベシ但シ全部ヲ營業費ニ算入スルコトヲ妨ゲズ

第十一條　第八條ノ規定ハ旅客自動車運輸事業者ガ他ノ事業ヲ營ム場合ニ於ケル他ノ事業ノ興業及營業ニ關聯スル費用ニ之ヲ準用ス

第十二條　區間ヲ分チテ興業費ヲ整理スル場合ニ於テ二區間以上ニ關聯スル興業費ハ當該營業年度ニ於ケル關係各區間ノ興業費ノ決算額ノ割合ニ依リ百分率ヲ以テ之ヲ分割スベシ

附　則

本令ハ自動車交通事業法施行ノ日(昭和八年十月一日)ヨリ之ヲ施行ス但シ同法施行ノ日ノ屬スル營業年度末ニ至ル迄ハ本令ニ依ラザルコトヲ得

●旅客自動車運輸事業設備規程

(昭和十六年一月三十日　鐵道省令第三號)

旅客自動車設備規程左ノ通改正ス

旅客自動車運輸事業設備規程

第一條　旅客自動車運輸事業ノ用ニ供スル自動車ノ設備ハ本令ノ定ムル所ニ依ルベシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ鐵道大臣ノ許可ヲ受ケ

本令ニ依ラザルコトヲ得

鐵道大臣ハ必要アリト認ムルトキハ本令ニ依ラザル設備ヲ命ズルコトヲ得

第二條　車臺ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　車枠上面ノ高ハ車體ヲ取附ケタル狀態ニ於テ前車軸後車軸間ノ距離(軸間距離)ノ中央ニテ測リ七百二十粍以下トスルコト

二　車輪ニハ空氣入リゴムタイヤヲ使用スルコト

第三條　車體ハ別ニ定ムル規格ニ依ルベシ

前項ノ規定ニ依リ定メラレタル車體形式ノ稱呼記號ハ車室內ノ見易キ箇所ニ之ヲ標示スベシ

第四條　車輛ハ排出瓦斯ノ車室內ニ侵入スルコトヲ防止スル構造トナスベシ

車輛ニハ必要ニ應ジ適當ナル換氣裝置ヲ爲スベシ

第五條　車輛ニハ旅客座席四人分每ニ十二燭光以上ノモノ一個ノ割合ヲ以テ室內照明裝置ヲ爲スベシ

第六條　車輛ノ乘降口ニハ乘降用取手ヲ、踏段ニハ滑止ヲ設クベシ

立席ヲ設クルモノニ在リテハ握リ手、吊リ革其ノ他適當ナル施設ヲ爲スベシ

第七條　車輛ニハ旅客ノ乘降等ニ依リ運轉士ノ操作ニ支障ヲ來サザルヤウ仕切棒其ノ他適當ナル施設ヲ爲スベシ

第八條　車輛ニハ運輸ノ狀況ニ應ジ適當ナル物品ノ積載設備ヲ爲スベシ

附　則

本令ハ昭和十五年法律第百六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十五年鐵道省令第五號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ旅客自動車運輸事業ノ用ニ供スル自動車ハ本令ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ之ヲ使用スルコトヲ得

軍用自動車補助法第三條ノ規定ニ該當スル自動車ハ第二條第一號ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ之ヲ使用スルコトヲ得

本令施行後新ニ旅客自動車運輸事業ノ用ニ供スル自動車ハ車臺又ハ車體ヲ新ニ製造スルモノヲ除クノ外旅客座席定員十四人以上ノモノニ限リ第二條第一號又ハ第三號ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ之ヲ使用スルコトヲ得

●旅客自動車運輸事業設備規程ノ規定ニ依ル車體規格ニ關スル件

(昭和十六年一月三十日　鐵道省告示第十二號)

旅客自動車運輸事業設備規程第三條ノ規定ニ依ル車體規格ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　旅客自動車運輸事業ノ用ニ供スル自動車ノ車體形式ハ第一號樣式及第二號樣式ニ定ムル所ニ依ルベシ

車體形式ノ稱呼記號ハ左ノ各號ニ依ル

一　車室ノ幅員ハ千六百粍ノモノヲS、二千粍ノモノヲLナル文字ヲ以テ表ハシ之ヲ稱呼記號ノ序列(以下序列ト稱ス)ノ第一位ニ置クコト

二　座席ノ配列ハ前向式ノモノヲA、三方式ノモノヲBナル文字ヲ以

テ表ハシ之ヲ序列ノ第二位ニ置クコト

三　旅客定員ハ座席定員及立席定員ノ合計ヲ示ス數字ヲ以テ表ハシ之ヲ序列ノ第三位ニ置クコト此ノ場合ニ於ケル數字ハ車室ノ內部ニ物品積載設備ヲ爲ス場合ト雖モ其ノ設備ヲ爲サザル場合ニ於ケル旅客定員ト同一ノ數字ヲ以テ表ハスモノトス

第二條　車室ノ長及幅員ハ側窓下枠上面ノ高ニ於ケル有效距離ニ依ル

第三條　車室ノ側壁ハ車輛ノ縱ノ中心線ニ平行ナル垂直面ヲ以テ構成スルモノトス但シ其ノ上部及下部竝ニ側窓下枠上面ノ高ニテ測リ前壁ヨリ千二百五十粍以內及後壁ヨリ八百粍以內ノ部分ニ在リテハ適度ノ變形ヲ與フルコトヲ得

第四條　車室ノ前壁又ハ後壁ニハ適度ノ傾斜ヲ與フルコトヲ得

第五條　床面ヨリ側窓下枠上面迄ノ高ハ軸間距離ノ中央ニテ測リ八百五十粍、側窓ノ高ハ六百三十粍以上トス

第六條　車室ノ高ハ第三條但書ニ揭ゲル部分ヲ除キ千八百粍ヲ降ルコトヲ得ズ但シ車室ノ幅員千六百粍ノモノ及車室ノ長四千五百粍未滿ノモノニ在リテハ千七百五十粍迄之ヲ縮少スルコトヲ得

第七條　扉又ハ乘降用取手等ニ依ル乘降口ノ幅員ノ縮少ハ百五十粍ヲ超ユルコトヲ得ズ

第八條　踏段ノ床面迄ノ高ハ三百八十粍以內トス

第九條　座席ノ高ハ其ノ上面ニテ測リ四百粍以上四百三十粍以下トス

凭レニハ適度ノ傾斜ヲ與フルコトヲ得

座席ノ端（車室壁ニ接スル場合ヲ除ク）ニハ衝立又ハ肘掛ヲ設クベシ但シ前向座席ニ在リテハ其ノ凭レノ後面ニ後列ノ座席定員ニ應ジ取手ヲ設ケ之ニ代フルコトヲ得

衝立又ハ肘掛ハ座席ノ外側ニ之ヲ設クベシ但シ前向座席ノ場合ニ在リテハ其ノ內側ニ之ヲ設クルモノトス

第十條　幅員三百粍以上ノ通路ニ非ザレバ立席ヲ設クルコトヲ得ズ立席定員ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ算定ス

一　立席ハ側窓下枠上面ノ高ニテ測リ前向座席ノモノニ在リテハ前壁及後壁ヨリ夫々千五十粍迄又ハ七百粍迄ノ部分ヲ、三方座席ノモノニ在リテハ前壁、後壁及側壁ヨリ夫々千五十粍迄、七百粍迄又ハ六百五十粍迄ノ部分ヲ除キ之ヲ設クルコト

二　單位立席ノ面積ハ一人ニ付〇、一四平方米ノ割合トスルコト

第十一條　凭レノ厚ハ百粍以內トス但シ其ノ厚ハ其ノ如何ニ拘ラズ其ノ後面ヲ基準トシ五十粍トシテ之ヲ計算ス

車體各部分ノ寸法公差ハ千粍未滿ノモノニ對シテハ正負各五粍、千粍以上ノモノ及柔軟部ニ對シテハ正負各十粍ヲ限度トス

（樣式略ス）

●特定旅客自動車運送業規則

（昭和十六年一月三十日　鐵道省令第六號）

特定旅客自動車運送業規則左ノ通定ム

特定旅客自動車運送業規則

第一條　旅客自動車運輸事業又ハ旅客自動車運送事業ニ非ズシテ自動車ヲ使用シテ旅客ヲ運送スル事業（特定旅客自動車運送業）ヲ經營セント

スル者ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監トス以下同ジ）ノ許可ヲ受クベシ

第二條　特定旅客自動車運送業ニシテ路線ヲ定ムルモノハ特定ノ學校、工場等ニ往復スル其ノ學生、生徒、職工其ノ他ノ特定人ヲ運送スルモノノ外之ヲ經營スルコトヲ得ズ

第三條　特定旅客自動車運送業經營ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　本籍、住所及主タル事務所

二　氏名、商號又ハ名稱

三　路線又ハ事業區域（路線ヲ定ムルモノニ在リテハ起點終點ノ地名地番、延長及停留所ヲ記載シ路線圖ヲ添附スルコト）

四　取扱旅客ノ範圍、有償無償ノ別及有償ノモノニ在リテハ運賃其ノ他ノ料金

五　車輛ノ車名、年式、動力ノ種類及旅客定員別輛數

六　車庫ノ位置及車輛格納力（構造ノ大要ヲ示ス圖面ヲ添附スルコト）

第四條　特定旅客自動車運送業者路線、事業區域、取扱旅客ノ範圍、運賃其ノ他ノ料金、車輛ノ年式、動力ノ種類、旅客定員及輛數、停留所又ハ車庫ノ位置ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由及新舊ノ事項ヲ明示シ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

第五條　許可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ハ公益上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第六條　左ノ場合ニ於テハ運輸ナク地方長官ニ之ヲ屆出ヅベシ

一　事業ヲ開始シタルトキ

二　車輛ノ車名ヲ變更シタルトキ

三　事業ヲ休止シ又ハ廢止シタルトキ

四　事業ヲ營ム會社解散シタルトキ

五　本籍、住所、主タル事務所、氏名、商號又ハ名稱ヲ變更シタルトキ

第七條　地方長官ハ必要アリト認ムルトキハ事業者ヲシテ事業上ノ報告ヲ爲サシメ、書類ヲ提出セシメ又ハ監査員ヲ派遣シテ事業ノ狀況ヲ監査セシムルコトヲ得

地方長官ハ公益上必要アリト認ムルトキハ運賃ノ變更其ノ他事業ノ改善ヲ命ズルコトヲ得

第八條　左ノ場合ニ於テハ地方長官ハ第一條ノ許可ヲ取消シ又ハ事業ヲ停止セシムルコトヲ得

一　法令又ハ許可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ

二　法令ニ基キテ爲シタル處分又ハ許可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

三、公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキ

第九條　左ノ場合ニ於テハ第一條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

一　許可ヲ受ケタル後四月以內ニ事業ヲ開始セザルトキ

二　事業ヲ廢止シタルトキ

第十條　自動車交通事業法施行規則第四十五條及第四十六條ノ規定ハ特定旅客自動車運送業ニ之ヲ準用ス

第十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處

ス

一　許可ヲ受ケズシテ特定旅客自動車運送業ヲ經營シタル者

二　前號ヲ除クノ外本令ニ依リ許可ヲ受ケテ爲スベキ事項ヲ之ヲ受ケズシテ爲シタル者

三　許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

四　本令ニ基キテ爲シタル處分又ハ許可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタル者

五　本令ニ依リテ屆出又ハ報告ヲ爲スベキ事項ニ付虚僞ノ屆出又ハ報告ヲ爲シタル者

自動車交通事業法第五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條　本令ノ規定ニ依ル申請書其ノ他ノ書類ハ其ノ事件ノ關スル土地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ提出スベシ但シ事件ガ二府縣以上ニ跨ル場合ニ在リテハ其ノ事件ノ主トシテ關スル土地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ提出スベシ

地方長官前項但書ノ書類ヲ受附ケタル場合ニ於テ當該事件ガ處分ヲ要スルモノナルトキハ關係地方長官ニ商議ノ上之ヲ爲シ其ノ他ノモノナルトキハ關係地方長官ニ之ヲ通知スベシ

第十三條　本令ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ昭和十六年勅令第七十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十六年二月一日ヨリ施行）

自動車運輸事業以外ノ自動車ニ依ル運送事業規則又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ本令ニ依リ新ニ許可ヲ受クベキモノトナリタル事業（特定ノ學校、工場等ガ無償ニテ其ノ學生、生徒、職工其ノ他ノ特定人ヲ運送スル事業）ヲ營ム者ハ本令施行後三月内ニ限リ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得此ノ期間内ニ事業經營ノ許可申請ヲ爲ストキハ許可又ハ許可ノ拒否ノ日迄亦同ジ

●貨物自動車運送事業運輸設備會計規程

（昭和十六年一月三十日鐵道省令第五號）

沿革　昭和一八年八月鐵道省令第三二號改正

貨物自動車運送事業運輸設備會計規程左ノ通定ム

貨物自動車運送事業運輸設備會計規程

第一條　貨物自動車運送事業ノ運輸、設備及會計（會社ニ非ザルモノノ經營スル區域貨物自動車運送事業ニ付テハ會計ヲ除ク）ニ關シテハ別段ノ定アルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ルベシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ鐵道大臣ノ許可ヲ受ケ本令ニ依ラザルコトヲ得

鐵道大臣ハ必要アリト認ムルトキハ本令ニ依ラザル運輸、設備又ハ會計ヲ命ズルコトアルベシ

第二條　普通貨物自動車運送事業ノ運賃及運輸ニ關スル料金ハ公告ヲ爲シタル後ニ非ザレバ之ヲ實施スルコトヲ得ズ

第三條　營業所ハ主タル事業區域又ハ事業區間内ニ之ヲ設置スベシ

區間貨物自動車運送事業者ハ其ノ事業區間ノ兩端ノ地ニハ營業所ヲ設置スベシ

第四條　普通貨物自動車運送事業者ノ營業所ニハ左ノ事項ヲ公示スベシ

一　運賃及運輸ニ關スル料金

二　區域貨物自動車運送事業ニ在リテハ其ノ主タル事業區域、區間貨物自動車運送事業ニ在リテハ其ノ事業區間、營業所ノ所在地及物品ノ集配ヲ爲ス區域

第五條　普通貨物自動車運送事業者ハ其ノ事業ノ休止又ハ廢止ノ許可ヲ受ケタルトキハ休止又ハ廢止ノ範圍及期日竝ニ休止ノ場合ニハ其ノ期間ヲ營業所ノ見易キ箇所ニ公示スベシ

第六條　普通貨物自動車運送事業者ハ物品運送ノ運送簿ヲ各營業所ニ備付ケ鐵記樣式ニ依リ記入スベシ

第七條　區間貨物自動車運送事業者ハ其ノ營業所ニ運送品ノ寸法又ハ重量ノ測定ニ必要ナル器具ヲ備付クベシ

第八條　普通貨物自動車運送事業者物品ノ運送ヲ引受ケタルトキハ運送引受ノ順序ニ依リ之ヲ運送スベシ但シ正當ノ事由又ハ公益上ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

鐵道大臣ハ公益上必要アルトキハ運送品ノ運送順序ヲ指定シ之ニ依ルベキコトヲ命ズルコトアルベシ

第九條　貨物自動車運送事業者ハ左ノ場合ノ外運送ヲ拒絶スルコトヲ得ズ

一　運送ガ法令ノ規定又ハ公ノ秩序若ハ善良ノ風俗ニ反スルトキ

二　運送ニ付特別ナル書務ノ條件ヲ荷主ヨリ求メタルトキ

三　天災事變其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因ル運送上ノ支障アルトキ

四　運送ニ適スル設備ナキトキ

五　輸送力不足シ直ニ運送ヲ爲シ得ザルトキ

第十條　區域貨物自動車運送事業ハ多數ノ荷主ノ物品ヲ混載シテ運送スルコトヲ目的トシテ之ヲ經營スルコトヲ得ズ但シ停車場、市場、倉庫其ノ他物品ノ多數集散スル場所ニ搬入又ハ搬出スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條　車輛ニハ運送品ノ管守又ハ積卸ニ必要ナル者ノ外乘車セシムルコトヲ得ズ

第十二條　車輛ニハ應急修理ニ必要ナル器具ヲ備フベシ

第十三條　車輛ハ毎日其ノ運行開始前其ノ要部ヲ點檢スベシ

第十三條ノ二　第二條、第四條、第六條及第八條ノ規定ハ小運送業者タル貨物自動車運送事業者ノ範圍ニ於テ營ム貨物自動車運送事業ニハ之ヲ適用セズ

第十四條　營業年度ハ一年又ハ六月トス

第十五條　貨物自動車運送事業者ハ其ノ事業區間

第二十類　通信、交通及電氣　第二編　交通

ノ兩端ノ地ニハ營業所ヲ設置スベシ

第四條　普通貨物自動車運送事業者ノ營業所ニハ左ノ事項ヲ公示スベシ

一　運賃及運輸ニ關スル料金

二　區域貨物自動車運送事業ニ在リテハ其ノ主タル事業區域、區間貨物自動車運送事業ニ在リテハ其ノ事業區間、營業所ノ所在地及物品ノ集配ヲ爲ス區域

第五條　普通貨物自動車運送事業者ハ其ノ事業ノ休止又ハ廢止ノ許可ヲ受ケタルトキハ休止又ハ廢止ノ範圍及期日竝ニ休止ノ場合ニハ其ノ期間ヲ營業所ノ見易キ箇所ニ公示スベシ

第六條　普通貨物自動車運送事業者ハ物品運送ノ運送簿ヲ各營業所ニ備付ケ鐵記樣式ニ依リ記入スベシ

第七條　區間貨物自動車運送事業者ハ其ノ營業所ニ運送品ノ寸法又ハ重量ノ測定ニ必要ナル器具ヲ備付クベシ

第八條　普通貨物自動車運送事業者物品ノ運送ヲ引受ケタルトキハ運送引受ノ順序ニ依リ之ヲ運送スベシ但シ正當ノ事由又ハ公益上ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

鐵道大臣ハ公益上必要アルトキハ運送品ノ運送順序ヲ指定シ之ニ依ルベキコトヲ命ズルコトアルベシ

第九條　貨物自動車運送事業者ハ左ノ場合ノ外運送ヲ拒絶スルコトヲ得ズ

一　運送ガ法令ノ規定又ハ公ノ秩序若ハ善良ノ風俗ニ反スルトキ

二　運送ニ付特別ナル書務ノ條件ヲ荷主ヨリ求メタルトキ

三　天災事變其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因ル運送上ノ支障アルトキ

四　運送ニ適スル設備ナキトキ

五　輸送力不足シ直ニ運送ヲ爲シ得ザルトキ

第十條　區域貨物自動車運送事業ハ多數ノ荷主ノ物品ヲ混載シテ運送スルコトヲ目的トシテ之ヲ經營スルコトヲ得ズ但シ停車場、市場、倉庫其ノ他物品ノ多數集散スル場所ニ搬入又ハ搬出スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條　車輛ニハ運送品ノ管守又ハ積卸ニ必要ナル者ノ外乘車セシムルコトヲ得ズ

第十二條　車輛ニハ應急修理ニ必要ナル器具ヲ備フベシ

第十三條　車輛ハ毎日其ノ運行開始前其ノ要部ヲ點檢スベシ

第十三條ノ二　第二條、第四條、第六條及第八條ノ規定ハ小運送業者タル貨物自動車運送事業者ノ範圍ニ於テ營ム貨物自動車運送事業ニハ之ヲ適用セズ

第十四條　營業年度ハ一年又ハ六月トス

第十五條　貨物自動車運送事業者ハ其ノ事業區間ナル自動車、專用自動車道等ノ取得又ハ建設ノ爲支出シタル金額ハ之ヲ興業費トス

事業開始後增設其ノ他ノ改良ノ加ヘタル場合ニ於ケル費用ハ之ヲ興業費トス但シ新工事ニ因リ撤去セラレタル部分ノ舊工事費ハ新工事費ニ相當スル額ヲ限度トシ興業費ヨリ之ヲ控除スベシ

借入金ノ利子ハ事業開始前ニ屬スルモノニ限リ之ヲ興業費ニ決算スルコトヲ得

第十六條　自動車、專用自動車道其ノ他興業費ニ決算シタルモノノ保存復舊ノ費用、前條第二項ノ場合ニ於テ興業費ヨリ控除スベキ金額、諸稅其ノ他運輸營業上ノ諸費用ハ之ヲ營業費トス

第十九條第一項ノ規定ニ依ル自動車ノ價額

價却金及之ニ類似スル價却金ハ之ヲ營業費トス

第十七條　貨物收入其ノ他運輸營業上ノ諸收入（運輸雜收）ハ之ヲ運輸收入トシ運輸收入及雜收入ハ之ヲ營業收入トス

第十八條　財產目錄ニ記載スル有價證券以外ノ財產ノ價額ハ實價決算積ヲ超ユルコトヲ得ズ

財產價額ヲ價却シタルトキハ其ノ殘額ヲ以テ實價決算額トス

第十九條　自動車ノ價額ハ使用ノ狀況ニ應ジ一定ノ計畫ニ依リ經營年度ニ之ヲ價却ス

ベシ

興業費ニ決算シタル借入金ノ利子、他ノ自動車運送事業承繼ノ爲支出シタル金額等ニシテ之ニ對應スル有形財産ヲ有セザルモノハ一定ノ計畫ニ依リ之ヲ償却スベシ

第二十條　興業及營業ニ關聯スル費用ハ當該營業年度ニ於ケル興業費及營業費ノ決算額ノ割合ニ依リ百分率ヲ以テ之ヲ分割スベシ但シ全部ヲ營業費ニ算入スルコトヲ妨ゲズ

第二十一條　貨物自動車運送事業者ガ他ノ事業ヲ營ム場合ニ於テ貨物自動車運送事業及他ノ事業ニ關聯スル費用ハ當該營業年度ニ於ケル關係各事業ノ興業費及營業費ノ決算額ノ割合ニ依リ百分率ヲ以テ之ヲ分割スベシ但シ全部ヲ營業費ニ算入スルコトヲ妨ゲズ

第二十二條　貨物自動車運送事業者ガ他ノ事業ヲ營ム場合ニ於テ貨物自動車運送事業及他ノ事業ノ興業及營業ニ關聯スル費用ハ當該營業年度ニ於ケル關係各事業ノ興業費及營業費ノ決算額ノ割合ニ依リ百分率ヲ以テ之ヲ分割スベシ但シ全部ヲ營業費ニ算入スルコトヲ妨ゲズ

第二十三條　第二十條ノ規定ハ貨物自動車運送事業者ガ他ノ事業ヲ營ム場合ニ於ケル他ノ事業ノ興業及營業ニ關聯スル費用ニ之ヲ準用ス

第二十四條　區間ヲ分チテ興業費ヲ整理スル場合ニ於テ二區間以上ニ關聯スル興業費ハ當該營業年度ニ於ケル關係各區間ノ興業費ノ決算額ノ割合ニ依リ百分率ヲ以テ之ヲ分割スベシ

附　則

本令ハ昭和十五年法律第百六號施行ノ日（昭和十六年二月一日）ヨリ之ヲ施行ス但シ第十四條乃至第二十四條ノ規定ニ付テハ同法施行ノ日ノ屬スル營業年度末ニ至ルマデハ本令ニ依ラザルコトヲ得

（別記樣式略ス）

●貨物自動車運送事業者補助規則

（昭和十八年八月十三日鐵道省令第三十號）

貨物自動車運送事業者補助規則左ノ通改正ス

貨物自動車運送事業者補助規則

第一條　自動車交通事業法施行令（以下施行令ト稱ス）第九條ノ施設ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一　修繕場

二　車庫

三　貨物自動車（未ダ使用ヲ開始セザルモノニシテ輸送力增強上鐵道大臣ニ於テ特ニ必要ト認メタルモノニ限ル）

四　前各號ニ揭グルモノノ外輸送力增強上特ニ必要ナル施設ニシテ鐵道大臣ノ指定スルモノ

第二條　施行令第九條ノ二ノ補助金ハ補助ヲ受クル年度ノ貨物自動車及貨物自動車運送事業ノ情況ヲ調查シ其ノ能率實ノ五分ノ一以內ニ於テ鐵道大臣之ヲ定ム

第三條　施行令第九條ノ三ノ規定ニ依ル補助ハ貨物自動車運送事業ノ興業費ノ百分ノ九ニ相當スル金額ヨリ當該貨物自動車運送事業ノ益金ヲ控除シタル殘額以內ニ於テ從前ノ實績ヲ基礎トシ鐵道大臣ノ定ムル金額トス

第四條　施行令第九條及第九條ノ二ノ規定ニ依リ補助ヲ受クル場合ニ於テハ補助ヲ受クル年度ニ於ケル貨物自動車運送事業ノ興業費ニ對スル益金ノ割合ガ百分ノ七ヲ超ユルトキハ施行令第九條又ハ第九條ノ二ノ規定ニ依リ算出シタル金額ニ該益金ノ割合ヲ以テ百分ノ七ヲ除シタルモノヲ乘ジタル金額ヲ以テ補助金ノ額トス但シ其ノ額ガ施行令第九條又ハ第九條ノ二ノ規定ニ依リ算出シタル金額ノ半額ニ滿タザルトキハ半額トス

第五條　施行令第九條ノ規定ニ依ル補助ヲ受ケントスル貨物自動車運送事業者ハ第一號乃至第四號及第七號乃至第九號樣式ニ依ル調表ニ、施行令第九條ノ二ノ規定ニ依ル補助ヲ受クル場合ニ於テハ前條ノ調表ニ第一號乃至第四號及第七號乃至第九號樣式ニ依ル調表ニ、施行令第九條ノ三ノ規定ニ依ル補助ヲ受クル場合ニ於テハ第一號及第五號乃至第九號樣式ニ依ル調表ニ夫々必要ナル事項ヲ記載シ鐵道大臣ニ提出スベシ

第六條　貨物自動車運送事業ノ興業費ハ當該年度ニ於ケル貨物自動車運送事業ノ收入ヲ基礎トシ鐵道大臣ノ定ムル額トス

第七條　貨物自動車運送事業者ガ他ノ事業ヲ營ム場合ニ於テ貨物自動車運送事業及他ノ事業ノ興業及營業ニ關聯スル費用ハ當該營業年度ニ於ケル關係各事業ノ興業費及營業費ノ決算額ノ割合ニ依リ百分率ヲ以テ之ヲ分割スベシ但シ全部ヲ營業費ニ算入スルコトヲ妨ゲズ

第八條　施行令第九條ノ施設ノ取得、建設及改良ノ費用ニ施行令第九條ノ二ノ貨物自動車ノ修繕ノ費用ハ其ノ決算額ヲ基礎トシ鐵道大臣ノ査定シタル額トス

第九條　一年未滿ノ期間ヲ以テ營業年度トスル場合ニ於テハ益金ハ一年ヲ通ジ算出シタル額ニ依ル但シ營業年度ノ中間ニ於テ營業ヲ開始スルトキハ當該營業年度開始ノ日ヨリ一年內ニ於テ營業ヲ爲シタル期間ヲ通ジテ算出シタル額ニ依ル

第十條　補助ヲ受クル貨物自動車運送事業者ノ會計ニ付テハ貨物自動車運送事業運輸設備會計規程第二十條但書及第二十二條但書ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第十一條　施行令第九條ノ規定ニ依リ補助ヲ受ケタル貨物自動車運送事業者ハ其ノ許可ノ日ヨリ五年以內ニ當該施設ヲ廢護ハ貸與シ擔保ニ供シ其ノ使用ヲ廢止シ其ノ他之ニ重大ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ鐵道大臣ノ許可ヲ受クベシ

施行令第九條ノ規定ニ依ル補助申請中ノ施設ニ付前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ運輸ナク鐵道大臣ニ之ヲ報出ヅベシ

第十二條　補助ヲ受クル貨物自動車運送事業者ハ其ノ氏名、商號、名稱若ハ住所ヲ變更シタルトキハ運輸ナク鐵道大臣ニ之ヲ報出ヅベシ

第十三條　施行令第九條、第九條ノ二及第九條ノ三ノ規定ニ依リ補助金ノ下付ヲ受ケタル貨物自動車運送事業ニ對スル補助金ハ自動車交通事業法第十六條ノ十二第一項各號ニ揭グル事業ニ要スル費用（同項第二號ニ付テハ組合員ノ事業ノ整備確立ニ要スル事務費トス）又ハ同法第十六條ノ三十三第一項各號ニ揭グル事業ニ要スル費用ノ二分ノ一以內ニ於テ鐵道大臣之ヲ定メ事業年度毎ニ交付スルコトヲ得

第十四條　補助金ヲ受クル貨物自動車運送事業ノ經營ニ關シ鐵道大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ第一號乃至第四號樣式ニ依ル調表ニ、施行令第九條ノ二ノ規定ニ依ル補助ヲ受クル場合ニ於テハ前條ノ調表ニ第一號乃至第四號及第七號乃至第九號樣式ニ依ル調表ニ、施行令第九條ノ三ノ規定ニ依ル補助ヲ受クル場合ニ於テハ第一號及第五號乃至第九號樣式ニ依ル調表ニ夫々必要ナル事項ヲ記載シ鐵道大臣ニ提出スベシ

第十五條　本令ニ依リ鐵道大臣ニ提出スル書類ハ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル鐵道局長ヲ經由スベシ

第五條　第二條ノ規定ニ依ル書類ヲ提出スルトキハ同時ニ其ノ副本ヲ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ提出スベシ

附　則

本令ハ昭和十八年勅令第六百六十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十八年八月十五日ヨリ施行）

（樣式略ス）

●自動車運送事業組合補助規則

（昭和十八年八月十三日鐵道省令第三十一號）

自動車運送事業組合補助規則左ノ通改正ス

自動車運送事業組合補助規則

第一條　自動車運送事業組合（以下組合ト稱ス）又ハ自動車運送事業者ノ會合（以下聯合會ト稱ス）ニ對スル補助金ハ自動車交通事業法第十六條ノ十二第一項各號ニ揭グル事業ニ要スル費用（同項第二號ニ付テハ組合員ノ事業ノ整備確立ニ要スル事務費トス）又ハ同法第十六條ノ三十三第一項各號ニ揭グル事業ニ要スル費用ノ二分ノ一以內ニ於テ鐵道大臣之ヲ定メ事業年度毎ニ交付スルコトヲ得

第二條　補助ヲ受ケントスル組合又ハ聯合會ハ第一號乃至第八號樣式ニ依ル調表書ニ總收支調算書ヲ添ヘ鐵道大臣ニ補助ノ申請ヲ爲スベシ但シ調表ニ變更シタル場合當該事項ニ關スル部分ノミヲ提出スルヲ以テ足ル

第三條　補助ノ許可ヲ受ケタル組合又ハ聯合會ハ第九號樣式ニ依ル請書ヲ鐵道大臣ニ提出シ補助金ノ下付ヲ受クベシ

第四條　補助金ヲ交付セラレタル費用ノ決算ニ關シ鐵道大臣ノ指定スル期日迄ニ第十號樣式ニ依ル報告書ヲ鐵道大臣ニ提出シ補助金ノ下付ヲ受クベシ

第五條　組合又ハ聯合會ノ管理者ガ法令、法令ニ基キテ發スル命令若ハ補助ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ鐵道大臣ハ其ノ補助ノ許可ヲ取消シ補助ヲ停止シ又ハ補助金ヲ償還セシムルコトヲ得

第六條　詐欺ノ行爲ヲ以テ補助金ノ交付ヲ受ケタルトキハ鐵道大臣ハ既ニ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ヲ償還セシム

第七條　補助金ノ交付ヲ受ケタル組合又ハ聯合會ハ事業年度經過後遲滯ナク第二號乃至第八號樣式ニ依ル決算書ニ財產目錄、貸借對照表及總收支決算書ヲ添ヘ鐵道大臣ニ提出スベシ

第八條　本令ニ依リ鐵道大臣ニ提出スル組合ノ書類ハ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル鐵道局長ヲ經由スベシ

組合第二條ノ豫算書及前條ノ決算書ヲ鐵道

附　則

本令ハ昭和十八年勅令第六百六十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十八年八月十五日ヨリ施行）

（樣式略ス）

大臣ニ提出スルトキハ其ノ副本ヲ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ提出スベシ

附則

本令ハ昭和十八年法律第五十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十八年八月十五日ヨリ施行）

（篠式略ス）

一般自動車道構造令

（昭和八年八月五日　内務省　鐵道　令）

【沿革】　昭和十六年一月省令第一號改正

一般自動車道構造令左ノ通定ム

一般自動車道構造令

第一條　一般自動車道ハ二車線以上ノ有效幅員ヲ有セシムベシ

一車線ノ幅員ハ三米トス但シ四車線以上ト爲ス場合ニ於テハ一車線ノ幅員ヲ二米七五ト爲スコトヲ得

第二條　有效路面ノ兩側ニハ幅員五十糎以上ノ路肩ヲ設クベシ

第三條　縱斷勾配ハ二十分ノ一ヨリ急ナルコトヲ得ズ但シ特殊ノ箇所ニ於テ相當ノ距離毎ニ緩ナル勾配ヲ有スル區間ヲ設クル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　縱斷勾配ノ變移スル箇所ニ於テハ相當ノ縱斷曲線ヲ設クベシ

第五條　曲線ノ半徑ハ三百米以上ト爲スベシ但シ特殊ノ箇所ニ於テハ百米迄之ヲ短縮スルコトヲ得

第六條　視距ハ百三十米以上ト爲スベシ但シ特殊ノ箇所ニ於テハ八十米迄之ヲ短縮スルコトヲ得

第七條　路面ニハ左右對稱ノ横斷勾配ヲ附スベシ

第八條　曲線ノ半徑五百米以下ノ箇所ニ於テハ屈曲部ノ内側ニ於テ有效幅員ヲ相當擴大シ路面ノ横斷勾配ハ片勾配ト爲スベシ

片勾配ハ十二分ノ一ヨリ急ナルコトヲ得ズ

第九條　前條ノ場合ニ於テハ屈曲部ノ兩端ニ相當ノ長ノ緩和區間ヲ設クベシ

第十條　曲線ノ背向スル箇所ニ於テハ兩曲線間ニ相當ノ長ノ直線部ヲ設クベシ

第十一條　有效路面、橋梁、溝橋其ノ他ノ工作物ハ九瓲又ハ十三瓲ノ自動車ノ通過ニ耐フル構造ト爲スベシ

第十二條　有效路面ハ適當ナル材料ヲ以テ鋪裝スベシ

第十三條　隧道内及上部横構ヲ有スル橋梁ノ路面上ノ有效高ハ四・五米以上ト爲スベシ一般自動車道ガ橋下ヲ通過スル場合ニ付亦同ジ

第十四條　側溝ノ深及底幅ハ三十糎以上ト爲スベシ

第十五條　路端ノ高ハ特殊ノ箇所ヲ除クノ外水流水面ノ最高水位上三十糎以上ト爲スベシ

第十六條　一般自動車道ハ一般ノ道路、自動車道、一般通行ノ用ニ供スル通路、鐵道、軌道等ト平面交叉ヲ爲スコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ適當ナル保安設備ヲ設ケタルトキニ限リ一般ノ道路又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路ト平面交叉ヲ爲スコトヲ得

第十七條　駐車場、給油所、使用料金徴收所、事務員駐在所其ノ他ノ工作物ハ有效路面外ニ設クベシ

第十八條　車線ノ限界ニハ限界線ヲ設クベシ

限界線ハ路面ト異ル色ヲ以テ表示スベシ

四車線以上ノ一般自動車道ニ在リテハ往路復路ノ區劃ヲ爲シ交通ヲ完全ニ分離スル施設ヲ爲スベシ

第十九條　出入口、屈曲部其ノ他必要ナル箇所ニハ速度制限標ヲ設クベシ

第二十條　交通上危險ノ虞アル坂路、屈曲部、斷崖等ニハ警戒標、防護柵其ノ他必要ナル設備ヲ爲スベシ

警戒標ノ樣式及其ノ建設方法ニ關シテハ大正十一年內務省令第二十七號ノ規定ヲ準用ス

第二十一條　屈曲部其ノ他必要ナル箇所ニハ信號及照明ノ設備ヲ爲スベシ

第二十二條　適當ノ距離毎ニ通信設備ヲ爲シ駐車場、給油所、事務員駐在所其ノ他必要ナル箇所トノ通信ヲ容易ナラシムベシ

第二十三條　特別ノ事由アル場合ニ於テハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ前各條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

特別ノ事由アル場合ニ於テハ主務大臣ハ本令ニ依ラザル設計ヲ命ズルコトヲ得

附　則

本令ハ自動車交通事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和八年十月一日ヨリ施行）

本令施行前工事ノ施行ニ付認可ヲ受ケタル一般自動車道ニシテ本令ノ規定ニ適合セザルモノハ本令第二十三條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

附　則

本令ハ昭和十五年法律第百六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十六年二月一日ヨリ施行）

本令施行前工事ノ施行ニ付認可ヲ受ケタル一般自動車道ニシテ本令ノ規定ニ適合セザルモノハ昭和八年內務省令一般自動車道構造令第二十三條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

●專用自動車道設備規程

（昭和八年八月五日鐵道省令第八號）

專用自動車道設備規程左ノ通定ム

專用自動車道設備規程

第一條　專用自動車道ノ設備ハ本令ノ定ムル所ニ依ルベシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ鐵道大臣ノ許可ヲ受ケ本令ニ依ラザルコトヲ得

鐵道大臣ハ必要アリト認ムルトキハ本令ニ依ラザル設備ヲ命ズルコトヲ得

第二條　專用自動車道ノ有效幅員ハ三米以上ト爲スベシ

有效幅員六米未滿ノモノニ在リテハ必要ニ應ジ待避所ヲ設クベシ

第三條　曲線ノ半徑ハ百米以上ト爲スベシ但シ特殊ノ箇所ニ於テハ五十米迄之ヲ短縮スルコトヲ得

第四條　視距ハ八十米以上ト爲スベシ但シ特殊ノ箇所ニ於テハ六十米迄之ヲ短縮スルコトヲ得

第五條　曲線ノ半徑三百米以下ノ箇所ニ於テハ屈曲部ノ內側ニ於テ有效幅員ヲ相當擴大シ路面ノ橫斷勾配ハ片勾配ト爲スベシ

片勾配ハ十二分ノ一ヨリ急ナルコトヲ得ズ

第六條　有效路面、橋梁、溝橋其ノ他ノ工作物ハ運轉スベキ自動車ノ通過ニ耐フル構造ト爲スベシ

第七條　專用自動車道ハ一般ノ道路、自動車道、一般通行ノ用ニ供スル通路、鐵道、軌道等ト平面交叉ヲ爲スコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ適當ナル保安設備ヲ設ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八條　一般自動車道構造令第二條乃至第四條、第七條、第九條、第十條、第十二條乃至第十五條及第二十條ノ規定ハ專用自動車道ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ自動車交通事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和八年十月一日ヨリ施行）

●一定ノ路線ニ據リ自動車ヲ以テスル運輸營業ニシテ許可セムトスル時禀伺方

（昭和三年八月二十六日遞信省訓令第一號）

臨　府　縣

一定ノ路線ニ據リ自動車ヲ以テスル運輸營業ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルモノヲ許可セムトスルトキハ起業ノ大要ヲ具シ豫メ本大臣ニ禀伺スヘシ

營業ノ讓渡、相續若ハ廢止又ハ路線ノ新設、廢止若ハ變更ヲ許可セムトスルトキモ亦同シ

一　路線ノ總哩程二十哩以上ノモノ

二　府縣廳所在地（近郊地ヲ含ム）又ハ市制施行地（近郊地ヲ含ム）相互間ヲ連絡スルモノ

三　東京市、京都市、大阪市、橫濱市、神戶市、名古屋市內ニ於テ營業スルモノ

四　鐵道軌道其ノ他一定ノ路線ニ據ル交通機關トノ競爭線ト目スヘキモノ

（昭和三年十一月二十七日鐵道省訓令第一號）

臨　府　縣

一定ノ路線ニ據リ自動車ヲ以テスル運輸營業ニ關シテハ昭和二年八月遞信省訓令第一號ニ據リ本大臣ニ禀伺スヘシ

●自動車運輸營業ノ免許ニ關スル件

（昭和三年十一月二十七日　内務省通牒發土第六一號）

「内務次官ヨリ廳府縣長官宛」

客年十月二十日佐書第一〇號ヲ以テ一定路線ニ據ル自動車運輸營業ノ免許ニ關スル件及通牒置候處今回右營業免許ニ關シテハ鐵道省ノ主管ニ屬シ當省ト協議ノ上措置スルコトト相成候條鐵道省訓令第一號ニ依リ鐵道大臣ニ稟伺セラルルトキハ其ノ副本當省ヘ進達相成度

追テ右自動車ニ對スル道路管理、一般警察竝之等ノ監督ニ關シテハ何等變更セザル義ニ付爲念申添候

●自動車貨物運送規則

（昭和十四年十二月二十八日　鐵道省告示第二百六十一號）

【沿革】昭和十五年十月告示第二三一號改正

自動車貨物運送規則左ノ通定ム

自動車貨物運送規則

第一條　鐵道省所管ノ自動車ニ於ケル貨物ノ運送ニ付テハ別段ノ定アル場合ヲ除キ本規則ニ依ル

宅扱貨物ノ運送及自動車ト鐵道省所管ノ鐵道又ハ航路ト通シ運送（以下通シ運送ト稱ス）スル場合ニ於ケル貨物ノ運送ニ付テハ特ニ本規則ニ定アル場合ヲ除キ貨物運送規則ニ依ル

第二條　左ニ揭グル貨物ハ運送ノ引受ヲ爲サズ

一　一箇ノ高二・四米、幅一・六米又ハ重量二千瓩ヲ超ユルモノ

二　貴重品ニシテ貨物等級表上一級十割增ノモノ及火藥類ニシテ甲種ニ屬スルモノ

三　運送ニ付特殊ノ管理ヲ要スルモノ

第三條　自動車ヲ經由シ鐵道又ハ航路トノ相互間ニ亙リ運送スル貨物ハ鐵道省ニ於テ特ニ承諾シタル場合ヲ除キ運送ノ引受ヲ爲サズ但シ南樣線ヲ經由スル宅扱及小口扱貨物ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　左ニ揭グル貨物ハ鐵道省ニ於テ特ニ承諾シタル場合ニ限リ運送ノ引受ヲ爲ス

一　一箇ノ長四・五米、重量千瓩又ハ容積三立方米ヲ超ユルモノ

二　水ニ容レタル活魚竝ニ汚穢品

三　貨物運送規則第三十一條第一項第一號乃至第三號ノ貨物ニシテ經路指定ノ請求アルモノ

四　通シ運送スル車扱貨物ニシテ列車又ハ連絡船指定ノ請求アルモノ

第五條　貨物ノ扱種別ハ宅扱、小口扱及車扱トス

通シ運送スル場合ニ在リテハ自動車ト鐵道又ハ航路トハ同一扱種別ニ依ル

第六條　一口ト爲シ得ベキ貨物ノ制限ニ付テハ左ニ揭グルモノヲ除キ貨物運送規則第五條ノ例ニ依ル

一　一自動車路線内發著車扱貨物ノ數量ハ重量十五瓲又ハ容積三十六立方米

二　通シ運送スル自動車發車扱貨物ノ數量ハ十五瓲ノ貨車一車ニ積載シ得ル數量

第七條　貨物ノ引渡期間ハ鐵道ノ例ニ依ル

通シ運送スル場合ノ引渡期間ハ自動車ト鐵道トヲ通シ鐵道ノ例ニ依リ之ヲ計算ス

第十二條　ニ依リ一口ノ貨物ヲ分割シテ引渡ヲ受ケタル場合ノ引渡期間ハ最後ノ引渡ヲ受ケタルトキヨリ之ヲ起算ス

輸送期間ハ營業料程ニ依リ之ヲ計算ス

第八條　荷送人ハ左ニ揭グル場合ニ限リ貨物託送ノ際一口毎ニ貨物運送狀ヲ提出スルモノトス

一　貨物引換證ヲ請求スル場合

二　代金引換ノ取扱ヲ請求スル場合

三　塡價額ヲ表示スル場合

四　車扱トシテ通シ運送スル場合

貨物運送狀ヲ要セザル貨物ノ受託方及貨物運送狀ノ樣式ニ付テハ鐵道ノ例ニ依ル

第九條　自動車ト船舶ノミニ跨リ運送スル場合ハ貨物引換證ノ發行ヲ爲サズ

第十條　貨物ノ荷造包裝ニ付テハ鐵道ノ例ニ依ル

第十一條　貨物ノ荷札ニ付テハ鐵道ノ例ニ依ル

第十二條　一口ノ貨物ガ自動車ニ積付クベキ狀態ニ於テ長二・五米、幅一・六米若ハ高二・三六米又ハ重量千五百瓩ヲ超ユルトキハ運送ノ都度分割シテ貨物ノ引渡ヲ受ケ又ハ引取ヲ求ムルコトアルベシ

第十三條　自動車ニ於ケル貨物ノ積卸ハ各扱トモ鐵道省ノ負擔トス但シ左ニ揭グル貨物ニ在リテハ時宜ニ依リ貨主ノ負擔（通シ運送ノ場合接續驛ニ於ケル積卸ヲ除ク）トスルコトアルベシ

一　一箇ノ重量三百瓩又ハ容積一立方米ヲ超ユルモノ

二　バラ積ノモノ

三　積込又ハ取卸ニ特別ノ手配又ハ費用ヲ要スルモノ

貨物運搬用ノ建木其ノ他ノ積付用品等ノ準備ハ貨主ノ負擔トス

第十四條　車扱トシテ通シ運送スル場合自動車ト鐵道トノ接續驛ニ於ケル貨物ノ貨車積卸竝ニ貨車ノ施封又ハ開封ハ鐵道省ニ於テ之ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於ケル貨物ノ積卸作業ニ對シテハ實重量（貨物運送規則第六條別表ニ定アル貨物ハ其ノ所定ニ依ル）一瓲迄毎ニ二十五錢ノ接續料ヲ收受ス

第十五條　貨物ノ種類、性質等ニ依リ鎖錠保護又ハ雨浸ヲ避ケル等ノ必要アルモノト雖自動車ニ在リテハ無蓋自動車ニ積載運送スルコトアルベシ

第十六條　車扱貨物ハ自動車ノ通ズル箇所ニシテ集配區域内ナルトキハ運輸上特ニ支障ナキトキニ限リ別ニ料金ヲ收受セズシテ集貨又ハ配達ノ取扱ヲ爲スモノトス

第十七條　車扱貨物ヲ貨主ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ屆先ニ於テ引渡スコト能ハザル場合ノ取扱方ニ付テハ宅扱貨物ノ例ニ依ル但シ再配達ノ取扱ヲ爲サズ

第十八條　驛ノ中間ニ於テ貨物ノ引渡方ノ請求アルトキハ左ノ各號ノ條件ヲ具備シタル場合ニ限リ之ニ應ズ

一　貨物引換證付又ハ代金引換貨物ニ非ザルトキ

二　貨物ノ損害等ニ關シ留保ヲ爲サズシテ引取ヲ承諾スルトキ

三　正當荷受人タルコトヲ確認シ得ルトキ

四　運輸上ノ支障ナキトキ

第十九條　貨物ノ滅失、毀損又ハ延著ニ對スル損害賠償等ニ付テハ鐵道ノ例ニ依ル但シ無蓋自動車ニ積載シタルニ因ル損害ニ付テハ鐵道省ニ於テ賠償ノ責ニ任セズ

第二十條　自動車ニ於ケル貨物ノ運賃計算粁程ハ貨物營業粁程ニ依ル通シ運送スル場合ニ於ケル運賃計算粁程ハ宅扱及小口扱貨物ニ在リテハ自動車ト鐵道及航路ヲ通算シ車扱貨物ニ在リテハ自動車ト鐵道及航路トハ之ヲ各別ニ計算ス

通シ運送スル場合經路二途以上アルトキハ左ニ揭グル經路ニ依リ運賃計算粁程ヲ計算ス

一　經路ノ指定ニ應ジタルトキハ其ノ經路

二　前號以外ノ場合ハ運賃總額ニ於テ低廉ナル經路

第二十一條　小口扱貨物ノ普通賃率及特別賃率ハ鐵道ニ於ケル小口扱貨物ノ例ニ依ル

車扱貨物ノ賃率ハ鐵道ニ於ケル小口扱普通賃率ヨリ二割ヲ低減シタルモノトス但シ鐵道ニ於ケル小口扱貨物ニ對シ特別賃率ノ定アル場合ハ其ノ賃率ニ依ル

賃率ノ適用方ハ鐵道ニ於ケル小口扱貨物ノ例ニ依ル

第二十二條　自動車ニ於ケル貨物ノ運賃ハ小口扱ハ十瓩毎、車扱ハ百瓩毎ノ計算（十瓩又ハ百瓩未滿ノ端數ハ十瓩又ハ百瓩ニ切上グ）トシ其ノ運賃計算重量ノ最低ヲ左ノ通トス

一　小口扱

火藥類ハ十瓩、制增品（火藥類ヲ除ク）及之ト他ノ貨物トヲ混ジタルモノハ四十瓩、其ノ他ノ貨物ハ六十瓩

二　車扱

千五百瓩

自動車發車扱貨物ニシテ通シ運送スル場合ニ於ケル鐵道又ハ航路ノ運賃計算瓩數ハ貨物ノ重量十瓲又ハ容積二十二立方米以下ノモノハ十瓲、十瓲又ハ二十二立方米ヲ超ユルモノハ十五瓲トス但シ長五米ヲ超ユルモノハ十五瓲トス

前項ノ場合ニ於ケル貨物等級表上減瓲數ノ表示アル貨物ニ對シテハ貨物運送規則第六十二條ニ定ムル減瓲ノ取扱ヲ爲ス

第二十三條　小口扱貨物ノ割引賃率ハ鐵道ニ於ケル小口扱貨物ノ例ニ依ル

自動車ニ於ケル車扱貨物ノ割引賃率ハ別表ニ之ヲ揭グ

割引賃率ノ適用方ハ鐵道ニ於ケル小口扱貨物ノ例ニ依ル

第二十四條　左ニ揭グル貨物ヲ小口扱トスル場合ノ運賃ハ一口毎ニ計算シタル金額ニ對シ下記ノ割增ヲ爲シタルモノトス自動車ニ於ケル車扱運賃ニ付亦同ジ

一　一箇ノ長四・五米、重量三百瓩又ハ容積一・五立方米ヲ超ユルモノ　三割增

二　一箇ノ長六米、重量一瓲又ハ容積三立方米ヲ超ユルモノ　五割增

前項ノ割增率ヲ異ニスルモノ又ハ前項ノ貨物ト其ノ他ノ貨物トヲ一口トシタルトキハ其ノ高キ率ニ依リ運賃ヲ計算ス

第二十五條　通シ運送スル自動車發車扱貨物ニシテ託送ノ際荷送人ヨリ秤量委託ノ請求アルトキハ著驛ニ橋秤ノ設備アルトキニ限リ鐵道ノ例ニ依リ之ニ應ズ

第二十六條　通シ運送スル車扱貨物ノ運賃ハ自動車ト鐵道及航路トヲ各別ニ算出シテ之ヲ合算ス

第二十七條　貨物一口ノ運賃ノ最低ハ小口扱ニ在リテハ火藥類ハ一圓、其ノ他ハ二十錢、車扱ニ在リテハ百瓩ニ付十錢トス

通シ運送スル場合ニ於ケル車扱貨物運賃ノ最低ハ前條ニ依リ算出シタル合算額ニ付鐵道ノ例ニ依ル

第二十八條　自動車ヲ廻送シタル後託送取消シノ請求ニ應ジタル場合ハ貨主ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因ルトキヲ除キ既ニ廻送シタル區間ノ往復ノ貨物營業粁程ニ對シ自動車廻送料トシテ其ノ請求者ヨリ一車一粁迄毎ニ五錢ヲ收受ス

第二十九條　要賃額表示料ハ通シ運送スル場合ト雖全區間ヲ通シ之ヲ計算ス

第三十條　貨物運送規則第二條、第四條、第六條、第十條、第十二條、第十六條乃至第二十二條、第三十一條、第三十二條、第三十六條、第三十八條乃至第四十二條、第四十七條、第四十九條乃至第五十二條、第五十三條第二項及第三項、第五十四條乃至第五十六條、第六十七條第一項、第六十九條乃至第七十七條、第七十九條、第八十一條乃至第八十三條、第八十五條、第八十六條、第八十八條、第九十條ノ規定ハ特ニ定ムル場合及宅扱ヲ除キ本運送ニ之ヲ準用ス此ノ場合車扱ニ付テハ鐵道ニ於ケル小口扱ノ例ニ依ル

附　則

第三十一條　本規則ハ昭和十五年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和五年十二月鐵道省告示第三百五十七號自動車線貨物運送規則ハ之ヲ廢止ス

第三十二條　本規則施行前引渡シヲ受ケタル貨物ノ運送ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル

本規則施行前持込ミ又ハ引渡シタル貨物ニ對スル貨物留置料ニ付亦同ジ

車扱貨物割引貨率表

品目	發驛	著驛	貨率	記事
博覽會、共進會、品評會等ノ出品物	省線及連帶線	省線及連帶線	二割減	本貨率適用條件ハ貨物運送規則別表貨物割引貨率表ノ例ニ依ル
荷造用品（籠、笊、樽、桶、瓶、箱、枠、袋、叺、荷莚）	〃	〃	五割減	一、本貨物ハ官公立圖書館、市町村、學校、青年團、女子青年團等ノ間ニ往復スル貸出圖書ニ限ル
貸出文庫ノ圖書	〃	〃	三割減	二、本貨率ハ官公立圖書館長又ハ市町村長ニ於テ無料貸出圖書ナルコトヲ證明シタル書類ヲ提出シタルモノニ限リ適用ス
牛乳用空罐、空壜、運搬箱	〃	〃	五割減	本貨率ハ貨物引渡後三ケ月以内ニ其ノ著驛ヨリ原發驛ニ返送スルモノナルコトヲ鐵道省ニ於テ認メタルモノニ限リ適用ス
陶器類（特別賃率ノ定ナキモノニ限ル）	〃	〃	小口扱普通貨率ノ四割減	本貨率ハ貨物引渡後三ケ月以内ニ其ノ著驛ヨリ原發驛ニ返送スルモノナルコトヲ鐵道省ニ於テ認メタルモノニ限リ適用ス

●省營自動車路線名稱

（昭和八年九月十五日鐵道省告示第四百二十號）

沿革（會曉）

省營自動車路線名稱左ノ通定ム

省營自動車路線名稱

名稱	區間
常野線	常野本線（常陸大子御前山間） 茂木線（茂木―祖母井―芳賀中ノ島―宇都宮間、芳賀三日市―道場宿―鐺山間、下野原―上赤羽―氷室間及川向郵便局前―宇都宮一條町間）
吾妻線	吾妻本線（澁川眞田間、川原湯口川原湯溫泉間及新鹿澤溫泉口新鹿澤溫泉間） 上州草津線（上州大津上州草津間）
札樽線	苗穗手宮間
十和田線	十和田本線（青森毛馬內間） 淺虫線（堤橋淺虫間） 鉛山線（和井內十和田ホテル前間）
二戸線	金田一荒屋新町間
沼宮內線	沼宮內茶屋場間
古川線	一ノ關吉岡間、栃崎有壁間、築館町築館間及古川十日町陸前古川間
白中線	白中本線（白石原釜間） 船岡線（磐城角田船岡間） 槻木線（一本木槻木間）
福濱線	福島濱江間、川俣鐺炮町川俣中島間及濱江上町請戸間
鹽原線	鹽原本線（西那須野鬼怒川間） 矢板線（鹽谷宿矢板間）
北倉線	北倉本線（安房北條千倉間） 豐房線（安房北條長尾橋間） 西岬線（潮留橋坂田間）
濱名線	豐橋新居町間
岡多線	岡多本線（岡崎多治見間） 高藏寺線（瀨戸記念橋高藏寺間）
白城線	美濃白鳥牧戸間
笹津線	富山笹津間
金福線	金澤福光間
若江線	若江本線（小濱近江今津間） 琵琶湖線（弘川口木ノ本間及蛭口北牧野間）
奥能登線	奥能登本線（穴水能登飯田間） 小木線（宇出津北口―小木町―能登松波間）
諏訪線	諏訪本線（上諏訪湊水町岡谷間） 鹽尻線（長地學校前鹽尻間） 和田峠線（下諏訪丸子町間及大門落合入大門間）
京鶴線	京鶴本線（京都鶴ケ岡間） 山陰線（周山井戸間）
龜草線	龜草本線（龜山草津間及近江八幡線（三雲元八幡間） 山內黑川間）
近城線	加茂信樂間

紀南線	尾鷲紀伊木本間
國鐵線	國鐵本線（國府—丹波日置—鐵山間） 城北線（福住清水—村雲—本鐵山間及村雲大芋間） 園福線（園部河原町—福知山間）
兩備線	兩備本線（倉敷岡山間） 倉敷線（倉敷茶屋町間） 矢掛線（倉敷矢掛間）
雲藝線	雲藝本線（出雲今市備後十日市間） 里熊線（三刀屋木次町間） 大田線（赤名石見大田間）
西讃線	西讃本線（觀音寺琴平間及琴彈公園觀音寺海水浴場間） 豐濱線（財田大野豐濱間） 善通寺線（一ノ谷善通寺間） 仁尾線（善通寺大通蔦島渡船場間）
川池線	川池本線（川之江阿波池田間） 三島線（上分伊豫三島間）
豫土線	松山佐川間及富士見町西佐川間
南豫線	南豫本線（伊豫大洲近永間及土居古市土居町間） 小田町線（伊豫大洲參川口間） 卯之町線（坂石卯之町間）
大栃線	土佐山田大栃間
安藝線	廣島—吳—仁方間
廣濱線	廣島濱田港間
岩日線	岩國日原間及出合橋周防廣瀨間

光線	光室積間
防長線	三田尻東萩間
山鹿線	矢部川肥後大津間
佐俣線	宇土熊延佐俣前間
山川線	山川本線（山川港—利永—枕崎間） 川尻線（東大山—川尻港—開聞嶽間）
嬉野線	武雄彼杵間
佐賀關線	幸崎佐賀關間
臼三線	臼杵三重町間
宮林線	宮崎小林町間
都城線	都城油津間
國分線	國分本線（隼人—國分—古江間） 濱之市線（隼人—濱之市—敷根町間）
加治木線	加治木入來間

第二章　鐵道、軌道及索道

第一款　國有鐵道

●鐵道國有法（明治三十九年三月三十一日法律第十七號）

【沿革】大正九年八月法律第四七號改正

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル鐵道國有法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

鐵道國有法

第一條　一般運送ノ用ニ供スル鐵道ハ總テ國ノ所有トス但シ一地方ノ交通ヲ目的トスル鐵道ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　政府ハ明治三十九年ヨリ明治四十八年迄ノ間ニ於テ本法ノ規定ニ依リ左ニ揭クル私設鐵道株式會社所屬ノ鐵道ヲ買收スヘシ

一　北海道炭鑛鐵道株式會社
一　北海道鐵道株式會社
一　日本鐵道株式會社
一　岩越鐵道株式會社
一　北越鐵道株式會社
一　甲武鐵道株式會社
一　總武鐵道株式會社
一　房總鐵道株式會社
一　七尾鐵道株式會社
一　關西鐵道株式會社
一　參宮鐵道株式會社
一　京都鐵道株式會社
一　西成鐵道株式會社
一　阪鶴鐵道株式會社
一　山陽鐵道株式會社
一　德島鐵道株式會社
一　九州鐵道株式會社

前項ニ揭ケタル各會社ハ他ノ私設鐵道株式會社ト合併シ又ハ他ノ私設鐵道株式會社ノ鐵道ヲ買收スルコトヲ得ス

第三條　前條ニ揭ケタル各鐵道買收ノ期日ハ政府ニ於テ之ヲ指定ス

第四條　政府ハ兼業ニ屬スルモノヲ除クノ外買收ノ日ニ於テ會社ノ現ニ有スル權利義務ヲ承繼ス但シ會社ノ株主ニ對スル權利義務、拂込株金ノ支出殘額竝收益勘定、積立金勘定及雜勘定ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條　買收價格ハ左ニ揭クルモノトス

一　會社ノ明治三十五年後半期乃至明治三十八年前半期ノ六箇年度間ニ於ケル建設費ニ對スル益金ノ平均割合ヲ買收ノ日ニ於ケル建設費ニ乘シタル額ヲ二十倍シタル金額
二　貯藏物品ノ實費ヲ時價ニ依リ公債券面金額ニ豫算シタル金額但シ借入金ヲ以テ購入シタルモノヲ除ク

前項第一號ニ於テ益金ト稱スルハ營業收入ヨリ營業費、賞與金及收益勘定以外ノ諸勘定ヨリ生シタル利息ヲ控除シタルモノヲ謂ヒ益金ノ平均割合ト稱スルハ明治三十五年後半期乃至明治三十八年前半期ノ每營業年度ニ於ケル建設費合計ヲ以テ同期間ニ於ケル益金ノ合計ヲ除シタルモノノ二倍ヲ謂フ

第六條　借入金ハ建設費ニ使用シタルモノニ限リ時價ニ依リ公債券面金額ニ換算シ買收價額ヨリ之ヲ控除ス

會社カ鐵道及附屬物件ノ補修ヲ爲サヽル又ハ鐵道建設規程ニ依リ期限內ニ改築若ハ改造ヲ爲ササル場合ニ於テハ其ノ補修、改築又ハ改造ニ要スル金額ハ前項ノ例ニ依リ買收價額ヨリ之ヲ控除ス

第七條　資本勘定ニ屬スル支出ハ借入金ヲ以テシタルモノヲ除クノ外順次ニ建設費及貯藏物品ニ對シ之ヲ爲シタルモノト看做ス

借入金ノ支出ハ前項ノ支出ノ後ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第八條　會社カ明治三十八年前半期ノ營業年度末ニ於テ運輸開始後六箇年度ヲ經過シタル線路ヲ有セサル場合又ハ第五條第一項第一號ノ金額カ建設費ニ達セサル場合ニ於テハ政府ハ其ノ建設費以內ニ於テ協定シタル金額ヲ以テ第五條第一項第一號ノ金額ニ代フ

第九條　左ニ揭クル場合ニ於テハ政府ハ審查委員ヲシテ決定ヲ爲サシムヘシ

一　權利義務ノ承繼ニ關シ又ハ計算ニ關シ會社ニ於テ異議アルトキ
二　前條ノ場合ニ於テ協定調ハサルトキ

審查委員ノ決定ニ對シ不服アルトキハ會社ハ主務大臣ニ訴願ヲ爲スコトヲ得

審查委員ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　買收ノ執行ハ審查委員ノ審查中ト雖之ヲ停止セス

第十一條　會社カ買收ニ因リテ解散シタルトキハ主務大臣ハ解散ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第十二條　買收代價ハ買收ノ日ヨリ五箇年以內ニ於テ券面金額ニ依リ五分利付公債證書ヲ以テ之ヲ交付ス但シ五十圓未滿ノ端數ハ之ヲ五十圓トス

會社殘餘財產ノ分配ハ前項公債證書ヲ以テス

買收後公債證書ノ交付ヲ終ル迄ニ要スル淸算人ノ職務ニ關スル會社ノ費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ支辨ス

第十三條　政府ハ買收ノ日ヨリ公債證書交付ノ日ニ至ル迄買收價額ニ對シ一箇年百分ノ五ノ割合ニ相當スル金額ヲ從前ノ決算期每ニ會社ニ交付スヘシ

前項ニ依リ交付シタル金額ハ淸算中ト雖主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ株主ニ配當スルコトヲ得

第十四條　政府ハ鐵道買收ノ執行ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行ス

第十五條　（削除）

第十六條　（削除）

第十七條　第五條第一項第二號及第六條ニ規定シタル公債時價ハ買收期日前六箇月間ニ於ケル帝國五分利公債ノ平均相場ニ依ル

前項平均相場ハ日本銀行ノ證明ニ依リ政府之ヲ定ム

第十八條　買收ヲ受クヘキ會社カ兼業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ兼業ニ屬スル資產ヲ併セテ買收スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買收價額ハ協定ニ依ル

第九條乃至第十四條ノ規定ハ本條ノ場合ニ之ヲ準用ス

附　則

第二條ニ揭クル會社ノ本法發布以後ニ於ケル貯藏物品ノ購入、建設費ノ增減及債務ノ負擔ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可ヲ受ケサルモノニ付テハ政府之ヲ承繼セス但シ政府ハ其ノ額ヲ査定シ又ハ相當ノ補償ヲ爲シテ之ヲ承繼スルコトヲ得

附　則（大正九年八月法律第四七號）

本法施行前鐵道國有法ニ依リ發行シタル國債ノ元金ノ消滅時效ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●鐵道敷設法（大正十一年四月十一日法律第三十七號）

【沿革】昭和二年三月法律第三七號、同八年三月同第三八號、同九年三月同第一八號、同

十一年五月同第一七號、同十二年四月同第四〇號改正

鐵道敷設法

廢帝國議會ノ協賛ヲ經タル鐵道敷設法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　帝國ニ必要ナル鐵道ヲ完成スル爲政府ノ敷設スヘキ豫定鐵道線路ハ別表ニ掲クル所ニ依ル

第二條　政府ハ前條豫定鐵道線路ヲ調査敷設セムトスルトキハ經費ノ豫算ヲ定メ漸次繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムヘシ

第三條　豫定鐵道線路ニ該當スルモノト雖一地方ノ交通ヲ目的トスルモノニ在リテハ政府ハ地方鐵道トシテ其ノ敷設ヲ免許スルコトヲ得

第四條　豫定鐵道線路ヲ變更シ又ハ豫定鐵道線路中新ニ工事ニ著手スルモノヲ定ムルトキハ鐵道會議ノ諮詢ヲ經ヘシ

第五條　鐵道會議ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法、北海道鐵道敷設法、明治二十七年法律第六號乃至第十號、同年法律第十二號乃至第十五號、明治二十九年法律第七十二號乃至第七十七號、明治三十年法律第十一號、同年法律第三十二號、同年法律第三十三號及同年法律第三十五號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前鐵道建設費豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經タル鐵道線路ハ本法ニ依リ敷設スルモノト看做ス

附　則（昭和十二年四月法律第四〇號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

本州ノ部

一　青森縣田名部ヨリ大畑ヲ經テ大間ニ至ル鐵道

二　青森縣青森ヨリ三厩、小泊ヲ經テ五所川原ニ至ル鐵道

三　青森縣弘前ヨリ田代ニ至ル鐵道

四　青森縣三戸ヨリ七戸ヲ經テ千曳ニ至ル鐵道

五　青森縣三戸ヨリ秋田縣毛馬内ヲ經テ花輪ニ至ル鐵道

六　岩手縣久慈ヨリ小本ヲ經テ宮古ニ至ル鐵道

七　岩手縣山田ヨリ釜石ヲ經テ大船渡ニ至ル鐵道

八　岩手縣小鳥谷ヨリ葛卷ヲ經テ猿野附近ニ至ル鐵道及落合附近ヨリ分岐シテ茂市ニ至ル鐵道

八ノ二　岩手縣花卷ヨリ遠野ヲ經テ釜石ニ至ル鐵道

九　岩手縣川井ヨリ遠野ヲ經テ高田ニ至ル鐵道

十　岩手縣一戸ヨリ荒屋ニ至ル鐵道

十一　岩手縣雫石ヨリ川尻ニ至ル鐵道

十二　岩手縣一ノ關ヨリ槻木附近ニ至ル鐵道

十三　秋田縣鷹ノ巢ヨリ阿仁合ヲ經テ角館ニ至ル鐵道

十四　秋田縣生保内ヨリ鳩ノ湯附近ニ至ル鐵道

十五　秋田縣本莊ヨリ矢島ヲ經テ院内ニ至ル鐵道

十六　秋田縣十文字ヨリ檜山臺附近ニ至ル鐵道

十七　宮城縣氣仙沼ヨリ津谷、志津川ヲ經テ前谷地ニ至ル鐵道及津谷ヨリ分岐シ佐沼ヲ經テ田尻ニ至ル鐵道

十八　宮城縣松島ヨリ石卷ヲ經テ女川ニ至ル鐵道

十九　宮城縣仙臺ヨリ古川ニ至ル鐵道

二十　宮城縣仙臺ヨリ山形縣山寺ヲ經テ山形ニ至ル鐵道及宮城縣川崎附近ヨリ分岐シテ山形縣神町ニ至ル鐵道

二十一　宮城縣長町ヨリ青根附近ニ至ル鐵道

二十二　宮城縣白石ヨリ山形縣上ノ山ニ至ル鐵道

二十三　山形縣鶴岡ヨリ大鳥ニ至ル鐵道

二十四　山形縣楯岡ヨリ寒河江ニ至ル鐵道

二十五　山形縣左澤ヨリ荒砥ニ至ル鐵道

二十六　山形縣米澤ヨリ福島縣喜多方ニ至ル鐵道

二十七　福島縣福島ヨリ宮城縣丸森ヲ經テ福島縣中村ニ至ル鐵道及丸森ヨリ分岐シテ白石ニ至ル鐵道

二十八　福島縣川俣ヨリ浪江ニ至ル鐵道

二十九　福島縣柳津ヨリ只見ヲ經テ新潟縣小出ニ至ル鐵道及只見ヨリ分岐シテ古町ニ至ル鐵道

三十　福島縣須賀川ヨリ長沼ニ至ル鐵道

三十一　福島縣平ヨリ小名濱ニ至ル鐵道

三十二　福島縣石川ヨリ植田ニ至ル鐵道

三十三　栃木縣今市ヨリ高徳ヲ經テ福島縣田島ニ至ル鐵道及高徳ヨリ分岐シテ矢板ニ至ル鐵道

三十四　栃木縣日光ヨリ足尾ニ至ル鐵道

三十五　栃木縣鹿沼ヨリ栃木ヲ經テ茨城縣古河ニ至ル鐵道

三十六　栃木縣茂木ヨリ烏山ヲ經テ茨城縣大子ニ至ル鐵道及栃木縣大桶附近ヨリ分岐シテ黒磯ニ至ル鐵道

三十七　栃木縣市塙ヨリ實積寺ニ至ル鐵道

三十八　茨城縣水戸ヨリ阿野澤ヲ經テ東野附近ニ至ル鐵道及阿野澤ヨリ分岐シテ栃木縣茂木ニ至ル鐵道

三十九　茨城縣水戸ヨリ鉾田ヲ經テ鹿島ニ至ル鐵道

四十　茨城縣常陸大宮ヨリ太田ヲ經テ大甕ニ至ル鐵道

四十一　茨城縣勝田ヨリ上菅谷ニ至ル鐵道

四十二　茨城縣高濱ヨリ玉造ヲ經テ延方ニ至ル鐵道及玉造ヨリ分岐シテ鉾田ニ至ル鐵道

四十三　茨城縣土浦ヨリ水海道、境、埼玉縣久喜、鴻巣、坂戸ヲ經テ飯能ニ至ル鐵道及水海道ヨリ分岐シテ佐貫ニ至ル鐵道竝境ヨリ分岐シテ古河ニ至ル鐵道

四十四　茨城縣土浦ヨリ江戸崎ニ至ル鐵道

四十五　茨城縣古河ヨリ栃木縣佐野ニ至ル鐵道

四十六　千葉縣佐原ヨリ小見川ヲ經テ松岸ニ至ル鐵道及小見川ヨリ分岐シテ八日市場ニ至ル鐵道

四十七　千葉縣八幡宿ヨリ大多喜ヲ經テ小湊ニ至ル鐵道

四十八　千葉縣木更津ヨリ久留里、大多喜ヲ經テ大原ニ至ル鐵道

四十九　千葉縣上總湊ヨリ鴨川ニ至ル鐵道

五十　千葉縣船橋ヨリ佐倉ニ至ル鐵道

五十ノ二　千葉縣我孫子ヨリ埼玉縣大宮ニ至ル鐵道

五十ノ三　埼玉縣與野ヨリ東京府立川ニ至ル鐵道

五十ノ四　埼玉縣大宮ヨリ川越ヲ經テ飯能附近ニ至ル鐵道

五十一　東京府八王子ヨリ埼玉縣飯能ヲ經テ群馬縣高崎ニ至ル鐵道

五十二　東京府大崎ヨリ神奈川縣長津田ヲ經テ松田ニ至ル鐵道

五十二ノ二　神奈川縣櫻木町ヨリ北鎌倉ニ至ル鐵道

五十三　神奈川縣横須賀ヨリ浦賀ニ至ル鐵道

五十四　群馬縣澁川ヨリ中之條ヲ經テ長野原ニ至ル鐵道

五十五　新潟縣來迎寺ヨリ小千谷ヲ經テ岩澤ニ至ル鐵道

五十五ノ二　新潟縣白山ヨリ新發田ニ至ル鐵道

五十六　佐渡國夷ヨリ河原田ヲ經テ相川ニ至ル鐵道
五十七　長野縣豐野ヨリ飯山ヲ經テ新潟縣十日町ニ至ル鐵道及飯山ヨリ分岐シテ屋代ニ至ル鐵道
五十八　長野縣小海附近ヨリ山梨縣小淵澤ニ至ル鐵道
五十九　長野縣松本ヨリ岐阜縣高山ニ至ル鐵道
六　十　長野縣辰野ヨリ飯田ヲ經テ靜岡縣濱松ニ至ル鐵道及飯田ヨリ分岐シテ三留野ニ至ル鐵道
六十一　靜岡縣熱海ヨリ下田、松崎ヲ經テ大仁ニ至ル鐵道
六十二　靜岡縣御殿場ヨリ山梨縣吉田ヲ經テ靜岡縣大宮ニ至ル鐵道及吉田ヨリ分岐シテ大月ニ至ル鐵道
六十三　靜岡縣掛川ヨリ二俣、愛知縣大野、靜岡縣浦川、愛知縣武節ヲ經テ岐阜縣大井ニ至ル鐵道及大野附近ヨリ分岐シテ長篠ニ至ル鐵道竝浦川附近ヨリ分岐シテ靜岡縣佐久間附近ニ至ル鐵道
六十三ノ二　靜岡縣二俣ヨリ愛知縣豐橋ニ至ル鐵道
六十四　富山縣猪谷ヨリ岐阜縣船津ニ至ル鐵道
六十五　富山縣八尾ヨリ福光ヲ經テ石川縣金澤附近ニ至ル鐵道
六十六　富山縣氷見ヨリ石川縣羽咋ニ至ル鐵道
六十七　石川縣羽咋ヨリ高濱ヲ經テ三井附近ニ至ル鐵道
六十八　石川縣穴水ヨリ宇出津ヲ經テ飯田ニ至ル鐵道
六十九　愛知縣千種ヨリ擧母ヲ經テ武節ニ至ル鐵道
七　十　愛知縣豐橋ヨリ伊良湖岬ニ至ル鐵道
七十ノ二　愛知縣岡崎ヨリ擧母ヲ經テ岐阜縣多治見ニ至ル鐵道
七十一　愛知縣武豐ヨリ師崎ニ至ル鐵道
七十二　愛知縣名古屋ヨリ岐阜縣太田ニ至ル鐵道
七十三　岐阜縣中津川ヨリ下呂附近ニ至ル鐵道
七十四　岐阜縣大垣ヨリ福井縣大野ヲ經テ石川縣金澤ニ至ル鐵道
七十五　三重縣四日市ヨリ岐阜縣關ケ原ヲ經テ滋賀縣木ノ本ニ至ル鐵道
七十六　滋賀縣貴生川ヨリ京都府加茂ニ至ル鐵道
七十七　滋賀縣濱大津ヨリ高城ヲ經テ福井縣三宅ニ至ル鐵道及高城ヨリ分岐シテ京都府二條ニ至ル鐵道
七十八　京都府園部ヨリ兵庫縣篠山附近ニ至ル鐵道
七十九　京都府殿田附近ヨリ福井縣小濱ニ至ル鐵道
八　十　京都府山田ヨリ兵庫縣出石ヲ經テ豐岡ニ至ル鐵道
八十一　奈良縣櫻井ヨリ榛原、三重縣名張ヲ經テ松阪ニ至ル鐵道及名張ヨリ分岐シテ伊賀上野附近ニ至ル鐵道竝榛原ヨリ分岐シ松山ヲ經テ吉野ニ至ル鐵道
八十二　奈良縣五條ヨリ和歌山縣新宮ニ至ル鐵道
八十三　兵庫縣谷川ヨリ西脇、北條ヲ經テ姫路附近ニ至ル鐵道
八十四　兵庫縣姫路ヨリ岡山縣江見ヲ經テ津山ニ至ル鐵道
八十五　兵庫縣上郡ヨリ佐用ヲ經テ鳥取縣智頭ニ至ル鐵道
八十六　兵庫縣有年ヨリ岡山縣伊部ヲ經テ西大寺附近ニ至ル鐵道及赤穗附近ヨリ分岐シテ那波附近ニ至ル鐵道
八十七　淡路國岩屋ヨリ洲本ヲ經テ福良ニ至ル鐵道
八十八　鳥取縣郡家ヨリ若櫻ヲ經テ兵庫縣八鹿附近ニ至ル鐵道
八十九　岡山縣勝山ヨリ鳥取縣倉吉ニ至ル鐵道
九　十　岡山縣倉敷ヨリ茶屋町ニ至ル鐵道
九十一　廣島縣福山ヨリ府中、三次、島根縣來島ヲ經テ出雲今市ニ至ル鐵道及來島附近ヨリ分岐シテ木次ニ至ル鐵道
九十二　廣島縣吉田口附近ヨリ大朝附近ニ至ル鐵道
九十三　廣島縣三原ヨリ竹原ヲ經テ吳ニ至ル鐵道
九十四　廣島縣廣島附近ヨリ加計ヲ經テ島根縣濱田附近ニ至ル鐵道
九十五　島根縣濁原附近ヨリ大森ヲ經テ石見大田ニ至ル鐵道
九十六　山口縣岩國ヨリ島根縣日原ニ至ル鐵道
九十七　山口縣岩國ヨリ玖珂ヲ經テ德山ニ至ル鐵道
九十八　山口縣德佐ヨリ大井ニ至ル鐵道
九十九　山口縣小郡ヨリ大田ヲ經テ萩ニ至ル鐵道及大田附近ヨリ分岐シテ於福ニ至ル鐵道

四國ノ部

百　香川縣高松ヨリ琴平ニ至ル鐵道
百一　愛媛縣川之江ヨリ德島縣阿波池田附近ニ至ル鐵道
百二　愛媛縣松山附近ヨリ高知縣越知ヲ經テ佐川ニ至ル鐵道
百三　愛媛縣八幡濱ヨリ卯之町、宮野下、宇和島ヲ經テ高知縣中村ニ至ル鐵道及宮野下ヨリ分岐シテ高知縣中村ニ至ル鐵道
百三ノ二　愛媛縣卯之町ヨリ吉田ヲ經テ宇和島ニ至ル鐵道
百四　愛媛縣大洲附近ヨリ近永附近ニ至ル鐵道
百五　高知縣江川崎附近ヨリ窪川ヲ經テ崎山附近ニ至ル鐵道
百五ノ二　高知縣須崎ヨリ窪川ニ至ル鐵道
百六　高知縣川內附近ヨリ高岡ヲ經テ宇佐ニ至ル鐵道
百七　高知縣叡免ヨリ安藝、德島縣日和佐ヲ經テ古庄附近ニ至ル鐵道
百八　高知縣山田ヨリ蕨野附近ニ至ル鐵道

九州ノ部

百九　福岡縣博多ヨリ佐賀縣山本ニ至ル鐵道
百十　福岡縣篠栗ヨリ長尾附近ニ至ル鐵道
百十ノ二　福岡縣添田ヨリ大分縣日田附近ニ至ル鐵道
百十一　福岡縣久留米ヨリ熊本縣山鹿ヲ經テ宮原附近ニ至ル鐵道
百十一ノ二　福岡縣羽犬塚ヨリ矢部ニ至ル鐵道
百十二　佐賀縣岸嶽ヨリ伊万里ニ至ル鐵道
百十二ノ二　佐賀縣基山ヨリ福岡縣大刀洗ヲ經テ甘木ニ至ル鐵道
百十三　佐賀縣佐賀ヨリ福岡縣矢部川、熊本縣隈府ヲ經テ肥後大津ニ至ル鐵道及隈府ヨリ分岐シテ大分縣森附近ニ至ル鐵道
百十四　佐賀縣肥前山口附近ヨリ鹿島ヲ經テ長崎縣諫早ニ至ル鐵道
百十四ノ二　長崎縣喜々津ヨリ矢上ヲ經テ浦上ニ至ル鐵道
百十五　大分縣中津ヨリ日田ニ至ル鐵道
百十六　大分縣杵築ヨリ富來ヲ經テ宇佐附近ニ至ル鐵道
百十七　大分縣幸崎ヨリ佐賀關ニ至ル鐵道
百十八　大分縣臼杵ヨリ三重ニ至ル鐵道
百十九　熊本縣高森ヨリ宮崎縣三田井ヲ經テ延岡ニ至ル鐵道
百二十　熊本縣高森ヨリ瀧水附近ニ至ル鐵道
百二十一　熊本縣宇土ヨリ濱町ヲ經テ宮崎縣三田井附近ニ至ル鐵道
百二十二　熊本縣湯前ヨリ宮崎縣杉安ニ至ル鐵道
百二十三　宮崎縣小林ヨリ宮崎ニ至ル鐵道
百二十四　鹿兒島縣山野ヨリ熊本縣水俣ニ至ル鐵道
百二十五　鹿兒島縣國分ヨリ宮崎縣都城ニ至ル鐵道
百二十六　鹿兒島縣國分ヨリ高須、志布志、宮崎縣福島ヲ經テ內海附近ニ至ル鐵道及高須ヨリ分岐シテ鹿兒島縣川北附近ニ至ル

鐵道

百二十七　鹿兒島縣鹿兒島附近ヨリ指宿、枕崎ヲ經テ加世田ニ至ル鐵道

北海道ノ部

百二十八　渡島國函館ヨリ戸井ニ至ル**鐵道**

百二十九　渡島國上磯ヨリ木古内ヲ經テ**江差ニ至ル鐵道及木古内ヨリ分岐シテ福山ニ至ル鐵道**

百　三十　膽振國八雲ヨリ俊志國**利別ニ至ル鐵道**

百三十一　膽振國京極ヨリ喜茂別、壯瞥ヲ經テ紋鼈ニ至ル鐵道

百三十二　膽振國京極ヨリ留壽都ヲ經テ壯瞥ニ至ル鐵道

百三十三　膽振國苫小牧ヨリ鵡川、日高國浦河、十勝國廣尾ヲ經テ帶廣ニ至ル鐵道

百三十四　膽振國鵡川ヨリ石狩國金山ニ至ル鐵道及「ペンケオロロツプナイ」附近ヨリ分岐シテ石狩國登川ニ至ル鐵道

百三十五　石狩國札幌ヨリ石狩ヲ經テ天鹽國增毛ニ至ル鐵道

百三十六　石狩國札幌ヨリ當別ヲ經テ沼田ニ至ル鐵道

百三十七　石狩國白石ヨリ膽振國廣島ヲ經テ追分ニ至ル鐵道及廣島ヨリ分岐シテ苫小牧ニ至ル鐵道

百三十八　石狩國比布ヨリ下愛別附近ニ至ル鐵道

百三十九　石狩國「ルベシベ」ヨリ北見國湧ノ上ニ至ル鐵道

百　四十　日高國高江附近ヨリ十勝國帶廣ニ至ル鐵道

百四十一　十勝國上士幌ヨリ石狩國「ルベシベ」ニ至ル鐵道

百四十二　十勝國芽室ヨリ「トムラウシ」附近ニ至ル鐵道

百四十二ノ二　十勝國御影附近ヨリ日高國右左府ヲ經テ膽振國邊富內ニ至ル鐵道

百四十三　天鹽國名寄ヨリ石狩國雨龍ヲ經テ天鹽國羽幌ニ至ル鐵道

百四十四　天鹽國羽幌ヨリ天鹽ヲ經テ下沙流別附近ニ至ル鐵道

百四十五　北見國興部ヨリ幌別、枝幸ヲ經テ濱頓別ニ至ル鐵道及幌別ヨリ分岐シテ小頓別ニ至ル鐵道

百四十六　北見國中湧別ヨリ常呂ヲ經テ網走ニ至ル**鐵道**

百四十七　北見國留邊藥ヨリ伊頓武華ニ至ル鐵道

百四十八　釧路國釧路ヨリ北見國相生ニ至ル鐵道

百四十九　根室國厚床附近ヨリ標津ヲ經テ北見國斜里ニ至ル**鐵道**

百　五十　根室國中標津ヨリ釧路國標茶ニ至ル鐵道

●國有鐵道建設規程（昭和四年七月十五日　鐵道省令第二號）

【沿革】昭和七年五月省令第三號、同第七號、同年九月同第一一號、同八年二月同第二號、同十年十一月同第六號、同十二年三月同第二號、同十三年三月同第一號、同十四年六月同第三號、同年七月同第四號改正

國有鐵道建設規程左ノ通定ム

國有鐵道建設規程

第一章　總則

第一條　國有鐵道ノ線路及車輛ノ構造ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ之ニ依ラザルコトヲ得

一　丙線中特ニ簡易ナル構造ノ鐵道ニシテ別ニ定ムル規程ニ依ルトキ

二　特種ノ設計ヲ必要トスル鐵道ニシテ本規程ニ依ルコト能ハザルトキ

三　其ノ他已ムコトヲ得ザルトキ

註　軌條、車輛等ガ磨耗シ又ハ車輛ノバネガ撓ミタル場合等ニ於テモ本規程ニ牴觸セザルコトヲ要ス

本經伺書第一號ニ於ケル特種ノ設計ヲ必要トスル鐵道トハ齒軌條式、第三軌條式等ノ如キモノヲ謂フ

第二條　本規程ノ適用ニ關シ線路區間ヲ甲線、乙線及丙線ノ三種ニ區別ス

前項ノ線路區間ノ種別ハ別表ニ依ル

第三條　軌間トハ軌條面ヨリ十六粍以內ノ距離ニ於ケル軌條頭部間ノ最短距離ヲ謂フ

第四條　本線路トハ列車ノ運轉ニ常用スル線路ヲ謂ヒ、側線トハ本線路ニ非ザル線路ヲ謂フ

註　列車トハ停車場外ノ本線路ヲ進行スル目的ヲ以テ仕立テタル車輛又ハ車輛列ヲ謂フ

停車場內ノ待避線及操車場內ニ於ケル發著線ノ如キモ本線路ナリ

第五條　停車場トハ左ノ各號ニ掲ゲルモノヲ謂フ

一　驛　列車ヲ停止シ旅客又ハ荷物ヲ取扱フ爲設ケラレタル場所

二　操車場　專ラ列車ノ組成又ハ車輛ノ入換ヲ爲ス爲設ケラレタル場所

三　信號場　驛ニ非ズシテ列車ノ行違又ハ待合セヲ爲ス爲設ケラレタル場所

第六條　信號所トハ停車場ニ非ズシテ手動又ハ半自動ノ常置信號機ヲ取扱フ爲設ケラレタル場所ヲ謂フ

註　信號場ハ構內ヲ有スレドモ信號所ハ之ヲ有セズ

第二節　曲線

第十一條　本線路ニ於ケル曲線ノ半徑ハ左ノ大サ以上タルコトヲ要ス

甲線	三百米
乙線	二百五十米
丙線	二百米

第七條　車輛ノ固定軸距トハ二以上ノ車軸ヲ有スル不撓性臺枠ニ於テ橫游ビヲ附セザル車軸中最前位ニ在ルモノト最後位ニ在ルモノトノ車軸中心間ノ水平距離ヲ謂フ

第二章　線路

第一節　軌間

第八條　軌間ハ一米〇六七トス

第九條　半徑八百米以下ノ曲線ニ於テハ前條ノ軌間ニ相當ノスラックヲ附スルコトヲ要ス但シ三十粍ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノスラックハ分岐ノ場合ヲ除キ五米以上ノ緩和曲線アル場合ハ其ノ全長ニ於テ、其ノ他ノ場合ハ圓曲線端ヨリ五米ノ長サニ於テ之ヲ遞減スルモノトス

註　本條第二項ニ於ケル其ノ他ノ場合トハ複心曲線又ハ側線ノ曲線ニ於ケル如キ場合ヲ謂フ

第十條　前二條ノ軌間ニ對スル公差ハ左ノ各號ニ依ルモノトス

一　轍叉ノ場合ニ於テハ　增五粍、減三粍

二　其ノ他ノ場合ニ於テハ　增七粍、減四粍

註　本條ノ公差ハ軌條ノ磨耗、軌道敷設後ノ狂等ヲ加算セル最大限度ヲ示スモノナルヲ以テ軌道敷設ノ際ニ於テハ出來得ル限リ之ヲ小ナラシムルモノトス

前項ノ半徑ハ分岐ニ附帶スル場合ニ於テ左ノ大サ迄之ヲ縮小スルコトヲ得

（特別ノ線路）四百米

甲線　乙線　丙線

百六十米　百六十米　百米

停車場ニ於ケル本線路ニシテ乘降場ニ沿フ部分ノ曲線ノ半徑ハ左ノ大サ以上タルコトヲ要ス但シ乘降場兩端ノ部分ニ限リ之ニ依ラザルコトヲ得

甲線　乙線　丙線

五百米　四百米　三百米

註　分岐ニ附帶スル曲線トハ分岐內ニ含マルル曲線及分岐ノ爲特ニ其ノ前後ニ生ズル曲線ヲ謂フモノニシテ後者ノ半徑ハ成ル可ク大ナラシムベキモノトス

第十二條　側線ニ於ケル曲線ノ半徑ハ百米以上タルコトヲ要ス但シ特別ノ場合ハ八十米迄之ヲ縮小スルコトヲ得

註　本條但書ハ運轉スル車輛ヲ制限スル場合ニ限リ之ヲ適用ス

第十三條　本線路ニ於ケル直線ト曲線トハ分岐ノ場合ヲ除キ相當ノ緩和曲線ヲ以テ接續スルコトヲ要ス

前項ノ緩和曲線ノ長サハ第二十五條ニ依リ附スルカントノ左ノ倍數ヲ下ルコトヲ得ズ

甲線　乙線　丙線

六百倍　四百五十倍　三百倍

第十四條　本線路ニ於ケル反對方向ノ曲線（分岐ノ場合ヲ除ク）ニ於テハ緩和曲線ノ間ニ十米以上相當ノ長サノ直線ヲ挿入スルコトヲ要ス

第三節　勾配

第十五條　本線路ニ於ケル勾配ハ左ノ限度ヨリ急ナラザルコトヲ要ス但シ乙線ニ在リテハ特別ノ場合ハ其ノ限度ヲ千分ノ三十、電車專用線路ニ在リテハ線路區間ノ種別ヲ問ハズ其ノ限度ヲ千分ノ三十五トス

甲線　乙線　丙線

千分ノ二十五　千分ノ二十五　千分ノ三十五

（特別ノ線路）千分ノ十

千分ノ二十五ヨリ急ナル勾配ニシテ曲線ヲ伴フ場合ニ在リテハ前項ノ限度ヲ超エザル樣相當ノ曲線補正ヲ爲スコトヲ要ス

停車場ニ於ケル本線路ノ勾配ハ其ノ本線路ノ最端轉轍器（最端轉轍器外カ下リ勾配ナル場合ニハ之ヨリ外方二十米ノ箇所）ノ間及列車ノ停止區域ニ於テ千分ノ三・五ヨリ急ナラザルコトヲ要ス但シ車輛ノ解結ヲ爲サザル本線路ニシテ列車ノ發著ニ支障ナキ場合ハ千分ノ十ニ到ルコトヲ得

側線ノ勾配モ亦千分ノ三・五ヨリ急ナラザルコトヲ要ス但シ車輛ヲ留置セザル側線ハ之ニ依ラザルコトヲ得

註　本條第三項ノ但書ハ電車專用驛、簡易ナル驛ノ如キ場合ニ之ヲ適用ス

第十六條　線路ノ勾配變化スル箇所ニハ勾配ノ變化ガ千分ノ十以上ノ場合ニ於テ左ノ大サ以上ノ半徑ヲ有スル縱曲線ヲ挿入スルコトヲ要ス

半徑八百米以下ノ曲線ノ場合　四千米

其ノ他ノ場合　三千米

第四節　建築限界

第十七條　建物其ノ他ノ建造物等ハ建築限界內ニ入ルコトヲ得ズ

第十八條　直線ニ於ケル建築限界ハ第一圖ニ依ル

第十九條　曲線ニ於ケル建築限界ハ半徑八百米ヨリ大ナル曲線ニ於テハ直線ニ於ケル建築限界ト同一トシ半徑八百米以下ノ曲線ニ於テハ其ノ幅ヲ車輛ノ偏倚ニ對シ擴大スルモノトス軌道中心線ノ各側ニ於テ擴大スベキ寸法ハ左ノ式ニ依リ之ヲ算出ス

$$w = \frac{22500}{R}$$

wハ軌道中心線ノ各側ニ於テ擴大スベキ寸法（單位粍）

Rハ曲線ノ半徑（單位米）

前項ノ擴大寸法ハ緩和曲線ノ全長ニ於テ之ヲ遞減スルモノトス但シ緩和曲線ナキ場合又ハ緩和曲線ノ長サガ十七米ヨリ小ナル場合ニハ圓曲線端（直線ト曲線トノ場合）又ハ半徑小ナル圓曲線端（曲線ト曲線トノ場合）ヨリ十七米ノ長サニ於テ之ヲ遞減スルモノトス

曲線ニ於ケル建築限界ハカントニ伴ヒ傾斜セシムルモノトス

第二十條　隧道ニハ前二條ノ建築限界外ニ電燈、電線等ノ添加其ノ他ノ爲必要ナル相當ノ餘裕ヲ附スルコトヲ要ス

前項ノ餘裕ハ第二圖ニ依ルコトヲ通例トス

註　第二圖ハ隧道ノ斷面ガアーチ形ナル普通ノ場合ニ於ケル最小餘裕ヲ示スモノニシテ若其ノ斷面ガ特種ノ形狀ヲ有シ電燈、電線等ノ添加其ノ他ニ對シ差支ナキ場合ニ於テハ必ズシモ本圖ノ如キ餘裕ヲ要セズ例ヘバ斷面角形ニシテ其ノ上部ニ前記ノ添加ニ對シ充分ナル餘裕ヲ存スル場合ハ幅ニ對スル餘裕ヲ縮小シ得ルガ如シ

第五節　軌道中心間隔

第二十一條　停車場外ニ於テハ軌道ノ中心間隔ハ三米六以上、三以上ノ軌道ヲ竝設スル場合ニ於テハ隣接スル二中心間隔ノ一ハ四米以上タルコト要ス

停車場內ニ於テハ竝設スル軌道ノ中心間隔ハ四米以上タルコトヲ要ス但シ構內作業上其ノ必要ナキ箇所ノ軌道中心間隔ハ三米八迄、荷物積卸線ト之ニ隣接スル側線トノ中心間隔及車輛ノ收容ヲ主トスル軌道相互間ノ中心間隔ハ三米四迄之ヲ縮小スルコトヲ得

前二項ノ中心間隔ハ本線路ノ曲線ニ於テハ第十九條ニ依ルwノ二倍以上、側線ノ曲線ニ於テハ半徑三百米ヨリ小ナル場合相當之ヲ擴大スルコトヲ要ス

第六節　軌道

第二十二條　本線路ニ於ケル軌道ノ負擔力ハ第三圖ニ示ス左ノ記號ノ標準活荷重ニ依ルコトヲ標準トス

甲線　乙線　丙線

K-16　K-15　K-13

（特別ノ線路K-18）

前項ノ標準ハ運轉車輛ノ重量其ノ他線路ノ狀況ニ依リ之ヲ增減スルコトヲ要ス

註　本條第一項ノ標準負擔力ハ第五十八條ノ最大限度ノ機關車ニ對

スルモノヲ標準トシタルモノナルヲ以テ之ヨリ大ナル車輛（第六十條及第六十二條參照）ヲ運轉スル區間ニ在リテハ該標準負擔力ヲ增加シ又之ヨリ小ナル車輛ノミヲ運轉スル區間ニ在リテハ該標準負擔力ヲ輕減スベキモノナリ

第二十三條　軌條ハ左ノ大サノモノタルコトヲ標準トス

	甲線	乙線	丙線
停車場外ノ本線路及停車場內ノ主要ナル本線路ノ場合	三十七瓩軌條（特別ノ線路又ハ特別ノ場合ニ在リテハ三十七瓩軌條）	三十七瓩軌條	三十瓩軌條
其ノ他ノ場合	三十瓩軌條	三十瓩軌條	三十瓩軌條

註　五十瓩軌條トハ新製ノ場合ニ長サ一米ニ付約五十瓩ノ重量ヲ有スル軌條ヲ謂フ三十七瓩軌條及三十瓩軌條ニ付テモ亦同樣ナリ

第二十四條　道床ノ厚サハ枕木下面ヨリ施工基面迄左ノ寸法ヲ下ラザルコトヲ要ス但シ丙線ニ限リ地盤ノ支持力大ナル場合ハ百二十粍迄之ヲ減ズルコトヲ得

	甲線	乙線	丙線
	二百粍	二百粍	百五十粍

註　本條ハ一般ノ道床ニ關スル規定ニシテコンクリート道床ノ如キ特種ノ場合ヲ含マズ

第二十五條　直線ニ於テハ兩軌條面ノ高サヲ等シクスルコトヲ要ス曲線ニ於テハ分岐ノ場合ヲ除キ外側軌條ニ於テ相當ノカントヲ附スルコトヲ要ス但シ百十五粍ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十六條　築堤又ハ切取ニ於ケル施工基面ノ幅（側溝ヲ除ク）ハ軌道中心ヨリ外側迄左ノ寸法以上タルコトヲ要ス

甲線	乙線	丙線
二米四	二米二五	二米一

前項ノ幅ハ道床ノ幅其ノ他線路ノ狀況ニ依リ相當之ヲ擴大スルコトヲ要ス

第八節　橋梁

第二十七條　本線路ニ於ケル支間三米五以上ノ橋桁ハ木造ト爲スコトヲ得ズ

第二十八條　交通頻繁ナル道路又ハ河川ニ架設スル橋梁ハ軌道中心ヨリ左右各一米七五以上軌道下ノ蓋ノコトヲ要ス

第二十九條　本線路ニ於ケル橋梁ノ負擔力ハ第三圖ニ示ス左ノ記號ノ標準活荷重ニ依ルモノタルコトヲ要ス但シ電車專用線路ニ對シテハ線路區間ノ種別ヲ問ハズ KZ-13 ニ依ルモノトス

甲線	乙線	丙線
KZ-18	KZ-15	KZ-12

前項ノ負擔力ハ急勾配ヲ含ム運轉區間其ノ他ニシテ特ニ必要アル場合ニ於テハ乙線ニ在リテハ KZ-18、丙線及電車專用線路ニ在リテハ KZ-15 ニ依ルモノトス

第九節　架空電車線

第三十條　架空電車線ノ電氣方式ハ直流式トシ千五百ボルトヲ標準トス

第三十一條　架空電車線ノ高サハ軌條面ヨリ五千二百粍ヲ標準トス前項ノ高サハ橋梁、隧道、雪覆及跨線橋ニ於テハ四千五百五十粍迄、乘降場上家庇ノ部分ニ於テハ四千七百粍迄之ヲ減ジ又停車場構內ニ於テハ必要ニ應ジ五千五百粍迄之ヲ增スコトヲ得

第三十二條　架空電車線ハ軌條面ニ直角ナル軌道中心面ヨリ左右各二百五十粍以上ノ偏倚ナキコトヲ要ス

第三十三條　架空電車線ノ軌條面ニ對スル勾配ハ本線路ニ在リテハ千分ノ五、側線ニ在リテハ千分ノ十五ヨリ急ナラザルコトヲ要ス

第十節　停車場

第三十四條　停車場ニ於ケル列車ノ發著スル本線路（旅客列車專用線路ヲ除ク）ノ有效長ハ左ノ長サヲ標準トス但シ線路ノ狀況ニ依リ之ニ依ラザルコトヲ得

甲線	乙線	丙線
三百八十米乃至四百六十米	二百五十米乃至三百八十米	百五十米乃至二百五十米

第三十五條　旅客ヲ取扱フ驛ニハ乘降場、待合所、便所等ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス

第三十六條　荷物ヲ取扱フ驛ニハ荷物積卸場、荷物庫等ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス

第三十七條　乘降場及荷物積卸場ノ緣端ヨリ軌道中心迄ノ距離ハ一米五六タルコトヲ要ス

前項ノ距離ハ曲線ニ沿フ乘降場及荷物積卸場ニ於テハ曲線半徑八百米ヨリ大ナル場合ニ於テモ第十九條ニ準ジ之ヲ增スコトヲ要ス

乘降場ノ幅ハ兩面ヲ使用スルモノハ三米以上其ノ他ノモノハ二米以上タルコトヲ要ス

乘降場ノ高サハ軌條面ヨリ七百六十粍トス但シ電車專用ノ場合ニ於テハ千百粍、電車及其ノ他ノ列車ニ共用スル場合ニ於テハ九百二十粍トス

乘降場ニ在ル柱類ト乘降場緣端トノ距離ハ一米以上タルコトヲ要ス

乘降場ニ在ル本家、跨線橋口、地下道口、待合所、便所等ト乘降場緣端トノ距離ハ一米五以上タルコトヲ要ス

荷物積卸場ノ高サハ軌條面ヨリ九百六十粍トス但シ手小荷物專用ノ場合ニ於テハ軌條面ヨリ七百六十粍、小口扱貨物專用ノ場合ニ於テハ軌條面ヨリ千二十粍トス

前項ノ高サハ特別ノ場合ハ之ニ依ラザルコトヲ得

第三十八條　地方ノ狀況ニ依リ特ニ前三條ノ規定ニ依ラザル驛ヲ設クルコトヲ得

第三十九條　機關車用轉車臺ノ長サハ十二米乃至二十米トス貨車用ノ轉車臺及遷車臺ノ長サハ五米以上トス

第十一節　分岐及平面交叉

第四十條　本線路ニ於ケル分岐ハ停車場內又ハ信號所ニ於テ爲スコトヲ要ス但シ側線ヲ分岐スル場合又ハ貨物列車ノミヲ運轉スル本線路ニ於ケル分岐ニシテ特別ノ事由アル場合ニ限リ相當ノ保安設備ヲ爲シ之ニ

依ラザルコトヲ得

第四十一條　本線路ハ停車場ニ於テ相當ノ保安設備アル場合ヲ除キ本線路又ハ他ノ鐵道、軌道ト平面交叉ヲ爲スコトヲ得ズ但シ本線路ガ貨物列車ノミヲ運轉スル場合又ハ他ノ鐵道軌道ガ人力若ハ馬力ヲ動力トスル場合ニ於テ相當ノ保安設備ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十二節　常置信號機

第四十二條　停車場ニハ場内信號機ヲ設クルコトヲ要ス但シ列車ノ進路ニ轉轍器ナキ場合又ハ轉轍器ガ常時鎖錠セラルル場合ハ之ヲ設ケザルコトヲ得

第四十三條　停車場ニハ出發信號機ヲ設クルコトヲ通例トス

第四十四條　停車場ニハ必要ニ應ジ入換信號機及誘導信號機ヲ設クルモノトス

第四十五條　閉塞區間ノ始點ニハ閉塞信號機ヲ設クルコトヲ要ス但シ其ノ始點ガ停車場内ニ在リテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ之ヲ設ケザルコトヲ得

一　出發信號機又ハ場内信號機ノ設ケアルトキ

二　出發信號機ヲ設クル必要ナキトキ

第四十六條　停車場外ニ於テ可動橋、線路ノ交叉其ノ他特ニ防護ヲ要スル地點ニハ必要ニ應ジ掩護信號機ヲ設クルモノトス

第四十七條　場内信號機、閉塞信號機及掩護信號機ニ對シテハ其ノ前方相當ノ距離ニ於テ遠方信號機ヲ設クルコトヲ要ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ之ヲ設ケザルコトヲ得

一　場内信號機、閉塞信號機又ハ掩護信號機ガ停止信號ヲ現示スル場合其ノ前方相當ノ距離ニ於テ之ヲ表示スル他ノ常置信號機ノ設ケアルトキ

二　場内信號機、閉塞信號機又ハ掩護信號機ノ信號現示ヲ二百米以上ノ距離ニ於テ列車ヨリ認識スル必要ナキトキ

三　丙線ニ限リ場内信號機、閉塞信號機又ハ掩護信號機ノ信號現示ヲ四百米以上ノ距離ニ於テ列車ヨリ認識シ得ルトキ

四　特殊ノ事由アルトキ

出發信號機ニ對シテハ必要ニ應ジ遠方信號機ヲ設クルモノトス

第十三節　保安設備

第四十八條　相互關係ヲ有スル常置信號機及轉轍器ハ聯動ノ裝置ト爲スコトヲ要ス但シ本線路ニ關セザルモノ、常時鎖錠セラルル轉轍器及使用稀ナル背向轉轍器ニ付テハ之ニ依ラザルコトヲ得

第四十九條　軌道ノ終端ニハ相當ノ車止裝置ヲ設クルコトヲ要ス

第五十條　車輛ガ本線路ニ逸走シ又ハ列車ガ過走シテ危害ヲ生ズル虞アル箇所ニハ相當ノ保安設備ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條　停車場及信號所ニハ電氣通信ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス、但シ驛員ヲ配置セザル停車場ニ在リテハ之ヲ爲サザルコトヲ得

第五十二條　交通頻繁ナル踏切道ニ對シテハ門扉其ノ他相當ノ保安設備ヲ爲スコトヲ要ス

第五十三條　人又ハ牛馬等ノ線路ニ踏ミ入ル虞アル場所ニハ堤塘、柵垣又ハ溝渠等ヲ設クルコトヲ要ス

第五十四條　列車ヲ避クルニ困難ナル隧道、橋梁其ノ他ニハ待避所ヲ設クルコトヲ要ス

前項ノ待避所ハ五十米以内毎ニ之ヲ設クルコトヲ要ス

第十四節　線路標

第五十五條　線路ニハ左ノ標ヲ設クルコトヲ要ス

一　一粁毎ニ其ノ距離ヲ示ス標

二　勾配ノ變更スル箇所ニハ其ノ勾配ヲ示ス標

三　本線路ヨリ分岐スル箇所ニハ車輛ノ接觸限界ヲ示ス標

四　列車ノ運轉上特ニ注意ヲ要スル箇所ニハ必要ニ應ジ之ヲ示ス標

五　踏切道ニハ必要ニ應ジ通行人ノ注意ヲ惹クベキ標

第三章　車輛

第一節　車輛限界

第五十六條　車輛ハ左ノ各號ニ掲グルモノヲ除キ直線軌道上正位ニ於テ第四圖ニ示ス車輛限界外ニ出デザルモノタルコトヲ要ス

一　タイヤノ幅以内ニ於ケル車輪ノ部分

二　停止中ニ限リ開閉スル扉類ニシテ開キタル場合ニ於ケルモノ

三　雪搖裝置、郵便受渡器、クレーン其ノ他特種ノ裝置ニシテ使用スル場合ニ於ケルモノ

四　齒軌條用齒車

註　架空電車線ニ依リ電氣運轉ヲ爲ス車輛ノ屋上裝置ハ車輛限界ノ示ス所ニ依リ其ノ基礎限界外ニ出ヅルコトヲ得レドモ架空電車線ニ依ル運轉區間以外ノ區間ヲ運轉スル場合ヲ考慮シテ屋上裝置ヲ容易ニ取外シ又ハ集電裝置ヲ折疊ミテ基礎限界内ニ收メ得ル構造ト爲スベキモノトス

第五十七條　車輛ハ曲線軌道上正位ニ於テ其ノ中心線ガ軌道中心線ヨリ偏倚シタル場合ニ於テモ其ノ各部ガ前條ノ車輛限界ノ幅ニ第十九條ニ依ルヲヲ各側ニ於テ加算シタル限界外ニ出デザルモノタルコトヲ要ス

第五十八條　機關車（炭水車ヲ含ム）ハ之ヲ二輛連結シ長サ一米ニ付甲線及乙線ニ在リテハ五噸、丙線ニ在リテハ四噸ノ等布活荷重ヲ牽引スル場合ニ軌道及橋梁ニ對シ第三圖ニ示ス左ノ記號ノ標準活荷重ヨリ大ナル影響ヲ與ヘザルモノタルコトヲ要ス

	甲線	乙線	丙線
軌道ニ對シ	K—16	K—15	K—13
	（線路ノ狀況ニ依リK—18）		
橋梁ニ對シ	KS—16	KS—15	KS—12
	（線路ノ狀況ニ依リKL—18）		

註　本條ノ機關車ノ車輪ノ軌條ニ對スル壓力及其ノ配置等ノ軌道及橋梁ニ對スル影響ノ最大限度ヲ規定セルモノニシテ機關車ノ製作ニ當リテハ車輪ノ軌條ニ對スル壓力ノミナラズ輪軸ノ配置等ヲモ考慮シテ本條ノ限度ヲ超エザル樣ニ爲スベキモノナリ

甲線ニ於テ線路ノ狀況ニ依リK—16及KL—18トアルハ特定ノ區

間ニ限リ使用スル目的ヲ以テ製作スル場合ヲ指スモノトス

第五十九條　機關車ノ車輪一對ノ軌條ニ對スル壓力ハ停止中ニ於テ左ノ大サ以下タルコトヲ要ス

	甲線	乙線	丙線
（線路ノ狀況ニ依リ十八噸）	十六噸	十五噸	十三噸

前項ノ壓力ハ第三圖ニ示ス動輪ノ不釣合遠心力、車輛ノバネ下重量等ヲ考慮シテ之ヲ增減スベキモノトス但シ增ス場合ニ於テハ百分ノ五ヲ超ユルコトヲ得ズ

第六十條　前二條ノ限度ハ乙線及丙線ノ急勾配ヲ含ム運轉區間其ノ他ニシテ特ニ必要アル場合ニ於テハ軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍內ニ於テ左ノ限度迄增スコトヲ得

	乙線	丙線
標準活荷重（軌道ニ對シ	K—16	K—15
橋梁ニ對シ	K—16	K—15
車輪一對ノ軌條ニ對スル壓力	十六噸	十五噸

第六十一條　客貨車ノ車輪一對ノ軌條ニ對スル壓力ハ停止中ニ於テ十三噸以下タルコトヲ標準トシ十四噸ニ至ルコトヲ得但シ其ノ重量ハ兩端連結器ノ連結面間ノ距離一米ニ付平均五噸以下タルコトヲ要ス

第六十二條　前條ニ規定スル限度ハ運轉區間又ハ連結位置ニ制限ヲ有スル車輛ニ付テハ軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍內ニ於テ之ヲ超過スルコトヲ得

註　本條ハ電動車、氣動車、石炭車、冷藏車、特種貨車其ノ他特ニ重量大ナル客貨車ニ對スル規定ナリ

第三節　輪軸

第六十三條　輪軸ノ配置及之ニ關スル車輛各部ノ構造ハ十八粍ソスラックヲ有スル半徑百米ノ曲線ヲ通過シ得ルモノタルコトヲ要ス

第六十四條　固定軸距ハ四米六以下タルコトヲ要ス

第六十五條　車輪ノ直徑ハ車輪一對ノ中心線ヨリ五百六十粍ノ距離ニ於ケル踏面ニ於テ測リ七百三十粍以上タルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アル場合ハ之ニ依ラザルコトヲ得

註　第五圖參照

第六十六條　タイヤ（タイヤナキ場合ハリム）ノ幅ハ百二十粍以上百五十粍以下タルコトヲ要ス

タイヤ（タイヤナキ場合ハリム）一對ノ內面距離ハ九百八十八粍以上九百九十四粍以下トシ九百九十粍ヲ以テ標準トス

註　第五圖參照

第六十七條　輪緣ノ高サハ車輪一對ノ中心線ヨリ五百六十粍ノ距離ニ於ケル踏面ヨリ測リ二十五粍以上三十五粍以下タルコトヲ要ス

車輪一對ノ中心線ヨリ輪緣外面迄ノ距離ハ前項ノ踏面ヨリ十粍ノ下位ニ於テ五百十六粍以上五百二十七粍以下タルコトヲ要ス

註　第五圖參照

第四節　車輛連結器

第六十八條　車輛ハ兩端ニ自動連結器ヲ備フルコトヲ要ス

第六十九條　自動連結器ハ其ノ連結部ニ於テ第六圖ニ示ス寸法ノ輪廓ヲ有シ又ハ之ト相互連結シテ使用シ得ルモノタルコトヲ要ス但シ電車ノ連結器ハ之ニ依ラザルコトヲ得

第七十條　自動連結器ノ連結面ノ中心ノ高サハ車輛停止中ニ於テ軌條面上七百九十粍以上八百九十粍以下タルコトヲ要ス

自動連結器ノ肘ハ二百二十五粍以上ノ高サヲ有スルモノタルコトヲ要ス

第五節　制動機

第七十一條　車輛ニハ貫通制動機ヲ備フルコトヲ要ス但シ緩急車ニ非ザル貨車及特種ノ車輛ニハ制動管ノミヲ備ヘ貫通制動機ヲ備ヘザルコトヲ得

第七十二條　貫通制動機ノ制輪子ニ作用スル壓力（タイヤニ制輪子ヲ使用セザル制動機ニ在リテハ之ニ換算シタル壓力）ハ制動車輪ノ軌條ニ對スル壓力ニ對シ左ノ割合以上タルコトヲ要ス但シ特種ノ車輛ハ之ニ依ラザルコトヲ得

	百分ノ五十
一　機關車（タンク機關車ニ在リテハ積載石炭及水量ガ規定量ノ二分ノ一ノ場合其ノ他ノ機關車ニ在リテハ運轉整備ノ場合）	
二　炭水車（空車ノ場合）	百分ノ五十
三　客貨車（空車ノ場合）	百分ノ八十
	百分ノ七十

第七十三條　貫通制動機ハ制動管ガ切斷シタル場合ニ於テハ自動的ニ制動スルモノタルコトヲ要ス但シ特種ノ車輛ニ在リテハ之ニ依ラザルコトヲ得

第七十四條　運轉室ヲ有スル車輛及緩急車ニハ貫通制動機ヲ作用セシメ得ル裝置及制動管ノ壓力ヲ示ス裝置ヲ爲スコトヲ要ス

第七十五條　運轉室ヲ有スル車輛ハ制動管ノ壓力ヲ示ス裝置ヲ爲スコトヲ要ス

第七十六條　自動連結器ヲ有スル車輛ニハ連結器ノ緩衝裝置ヲ設ケ其ノ緩衝作用ハ左ノ試驗ニ堪フルモノタルコトヲ要ス

一　緩衝裝置ヲ有スル連結器ヲ兩端ニ備フル車輛ヲ兩端ヨリ衝撃スル場合

二　緩衝裝置ヲ有スル連結器ヲ一端ニ備フル車輛ヲ緩衝裝置ヲ有セザル連結器ヲ備フル車輛ニ衝撃スル場合

第七十七條　蒸氣機關車及蒸氣動車ニハ左ノ裝置ヲ爲スコトヲ要ス

一　二箇ノ獨立シタル給水器

二　罐內ノ水位ヲ認ムベキ二箇ノ獨立シタル裝置

三　罐ノ安全瓣

四　罐ノ壓力計

五　火粉又ハ燃滓ノ散出ヲ防ク裝置

本號ノ裝置ハ其ノ使用スル燃料ノ性質ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

第七十八條　電氣機關車及電動車ニハ左ノ裝置ヲ爲スコトヲ要ス

一　自動遮斷裝置

二　架空電車線ニ依ル場合ニ於テハ避雷器

第七十九條　運轉室ヲ有スル車輛ニハ氣笛又ハ之ニ相當スル合圖ノ裝置ヲ爲スコトヲ要ス

第八十條　客室ノ床面積ハ旅客定員一人ニ付〇・三平方米以上タルコトヲ要ス

第八十一條　旅客ノ使用スル室ニハ通風、點燈及必要ニ應ジテ暖房ノ裝置ヲ爲スモノトス

第八十二條　客車ノ側面ニ在ル外開戶及引戶ニハ二重ノ閉裝置ヲ爲スコ

トヲ要ス但シ特種ノ裝置ヲ有スル場合ハ之ニ依ラザルコトヲ得

註　本條但書ニ於テ特種ノ裝置トハ自動閉裝置ノ如キヲ謂フ

第七節　車輛ノ標記

第八十三條　機關車ニハ番號ヲ標記スルコトヲ要ス

第八十四條　客貨車ニハ左ノ事項ヲ標記スルコトヲ要ス但シ特種ノ車輛ニ在リテハ之ニ依ラザルコトヲ得

一　國有鐵道ノ記號

二　記號及番號

三　自重

四　客車ニハ等級及旅客定員

五　荷物車、郵便車及貨車ニハ積載量

附　則

本令ハ昭和四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年十月鐵道省令第二號國有鐵道建設規程ハ之ヲ廢止ス

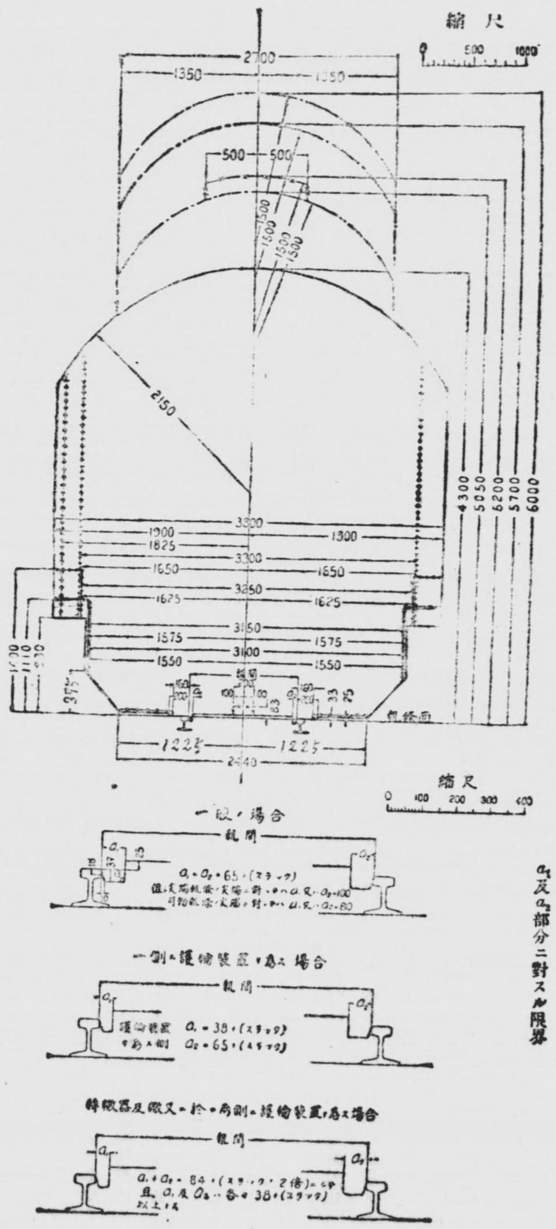
本令施行前工事ニ著手シ又ハ竣工シタル線路其ノ他ノ建造物、車輛等ニシテ本令ニ牴觸スルモノハ之ヲ改築又ハ改造シ終ル迄ハ第一條但シ書ニ依ルモノト看做ス

本令ノ適用ニ當リ機關車ノ運用上直ニ第五十八條及第五十九條ノ規定ニ依リ難キ場合ハ速度ニ制限ヲ加ヘ軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ當該條項ノ制限ヲ超過スルコトヲ得

當該線路ニ第五十六條ニ規定スル車輛限界ニ近キ大サノ車輛ヲ運轉スル時期迄ハ乘降場及荷物積卸場ノ縁端ト車輛ノ踏段又ハ床トノ空隙ヲ小ナラシムル爲一時第三十七條第一項ニ規定スル距離ヲ最小一米四迄縮小スルモノトス

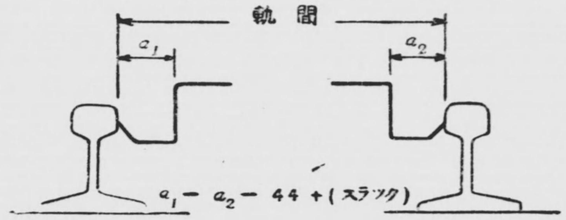
註　第五項ヲ適用スル場合ハ將來乘降場及荷物積卸場ノ改築又ハ之ニ沿フ軌道ノ移轉ニ依リ第三十七條第一項ノ規定ニ依ルコトヲ得ル樣考慮シ置クコトヲ要ス

第一圖　建築限界（單位粍）



a_1 及 a_2 部分ニ對スル限界

合場ノ道切踏ルス有ヲ置裝輪護



凡例

一般ノ場合ニ對スル限界

架空電車線ニ依リ電氣運轉ヲ爲ス區間ニ於テ架空電車線及其ノ懸吊裝置ヲ除キタル上部ニ對スル限界

（本限界ハ橋梁、隧道、雪覆、跨線橋及其ノ前後ニ於テ必要アル場合ニハ ┃┃┃┃┃┃┃ ヲ以テ示ス限度迄、乘降場上家庇ノ部分ニ於テ必要アル場合ニハ ─×─×─×─ ヲ以テ示ス限度迄之ヲ縮小シ又停車場構内ニ於テ必要アル場合ニハ ┃┃┃┃┃┃┃┃┃┃ ヲ以テ示ス限度迄之ヲ擴大スルモノトス）

乘降場及荷物積卸場ニ對スル限界

信號標識並特種ノ隧道及橋梁ニ對スル限界

遷移轉轍器ニ對スル限界

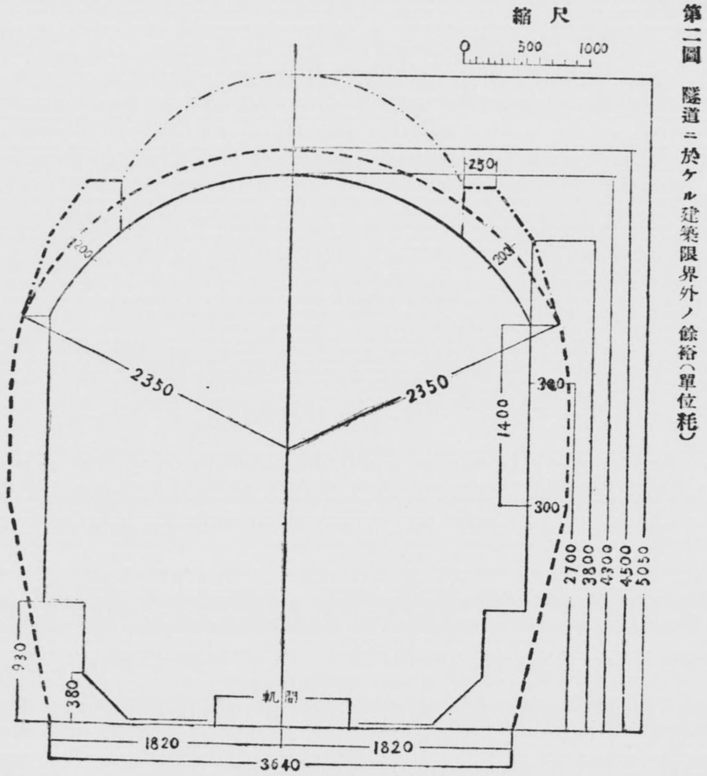
側線及貨物列車ノミノ發著スル本線路ニ於テ燃料搭載、給水ノ設備及信號柱ニ、側線ニ於テ轉車、計重、洗車ノ設備、車庫ノ門路及其ノ内部ノ裝置並軌道間ニ建ツル荷物積卸上家ノ支柱ニ對スル限界

側線及貨物列車ノミノ發著スル本線路ニ於テ架空電車線支持柱ヲ、側線ニ於テ構内照明燈支持柱ヲ四線路以上毎ニ建ツル場合ニ對スル限界（本限界ハ既設停車場ニ於テ一般ノ場合ニ對スル限界ニ依ルコト困難ナル如キ場合ニ限リ之ヲ適用ス）

轉轍器及轍叉ニ對スル限界

齒軌條ニ對スル限界

第二圖　隧道ニ於ケル建築限界外ノ餘裕（單位粍）



凡例

一般ノ場合ニ對スル建築限界

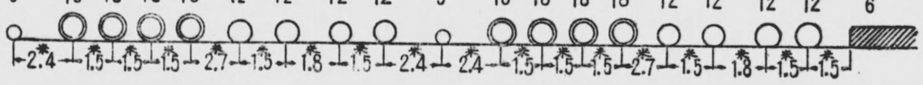
普通ノ區間ニ對スル餘裕

架空線ニ依リ電氣運轉ヲ爲ス區間ニ於テ隧道ニ對シ建築限界ヲ縮小シ得ル限度

架空線ニ依リ電氣運轉ヲ爲ス區間ニ對スル餘裕

第三圖　標準活荷重

記號	荷重（單位瓲）																		瓲／米
K—10	5	10	10	10	10	6.6	6.6	6.6	6.6	5	10	10	10	10	6.6	6.6	6.6	6.6	3.3
K—11	5.5	11	11	11	11	7.3	7.3	7.3	7.3	5.5	11	11	11	11	7.3	7.3	7.3	7.3	3.6
K—12	6	12	12	12	12	8	8	8	8	6	12	12	12	12	8	8	8	8	4
K—13	6.5	13	13	13	13	8.6	8.6	8.6	8.6	6.5	13	13	13	13	8.6	8.6	8.6	8.6	4.3
K—14	7	14	14	14	14	9.3	9.3	9.3	9.3	7	14	14	14	14	9.3	9.3	9.3	9.3	4.6
K—15	7.5	15	15	15	15	10	10	10	10	7.5	15	15	15	15	10	10	10	10	5
K—16	8	16	16	16	16	10.6	10.6	10.6	10.6	8	16	16	16	16	10.6	10.6	10.6	10.6	5.3
K—17	8.5	17	17	17	17	11.3	11.3	11.3	11.3	8.5	17	17	17	17	11.3	11.3	11.3	11.3	5.6
K—18	9	18	18	18	18	12	12	12	12	9	18	18	18	18	12	12	12	12	6



記號	荷重（單位瓲）	
S—10	12.2	12.2
S—11	13.4	13.4
S—12	14.6	14.6
S—13	15.8	15.8
S—14	17.1	17.1
S—15	18.3	18.3
S—16	19.5	19.5
S—17	20.7	20.7
S—18	22	22

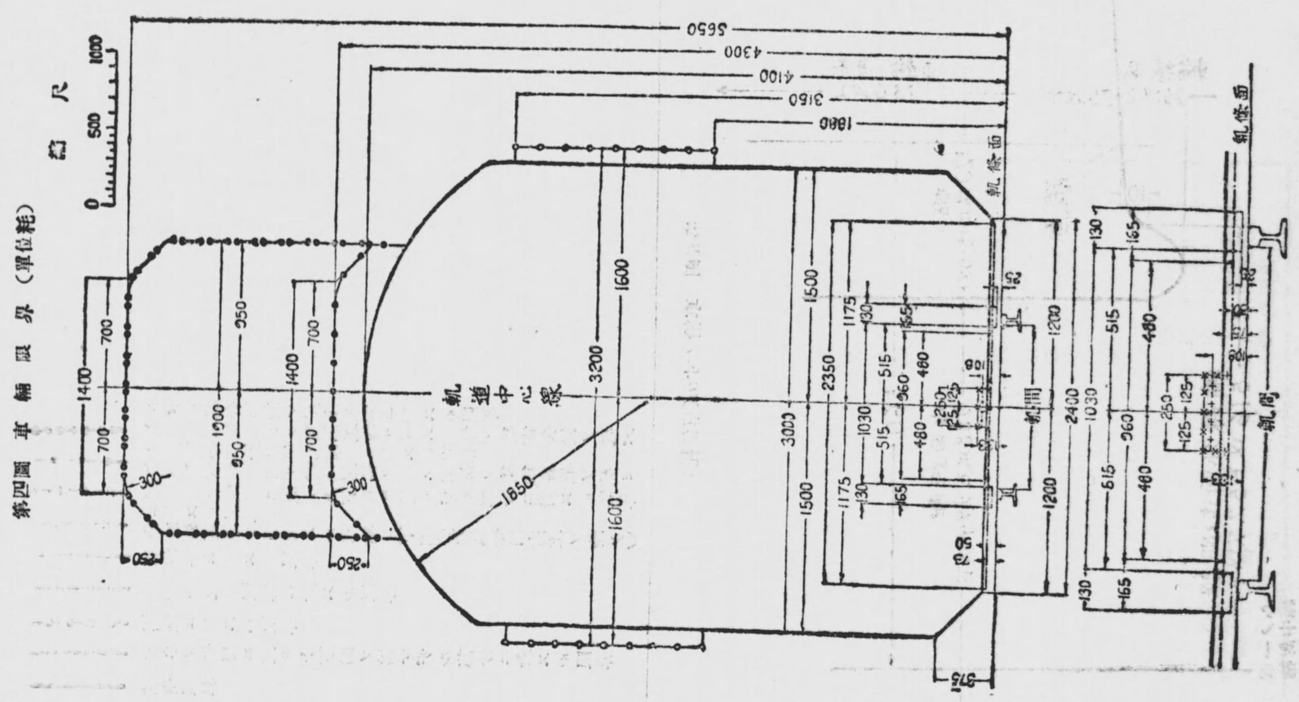
本荷重ハ車輛ノ停止中ニ於ケル軌條ニ對スル壓力ヲ示スモノナリ

本圖ニ於ケル◎ハ動輪ヲ示シ運轉時ニ於ケル動輪ノ不釣合遠心力ハ停止中ニ於ケル壓力ノ百分ノ十五トス

車輛ノバネ下重量ハ其ノ總重量ノ百分ノ二十五トス

K—18トS—18トヲ考慮スヘキ標準活荷重ヲKS—18ト稱ス其ノ他之ニ準ス

第四圖　車輛限界（單位耗）



凡例

基礎限界

バネノ作用ニ依リ上下動ヲ爲サザル部分ニ對スル限界

標識ニ對スル限界

砂撒管及排障器ニ對スル限界

制輪子ニ對スル限界

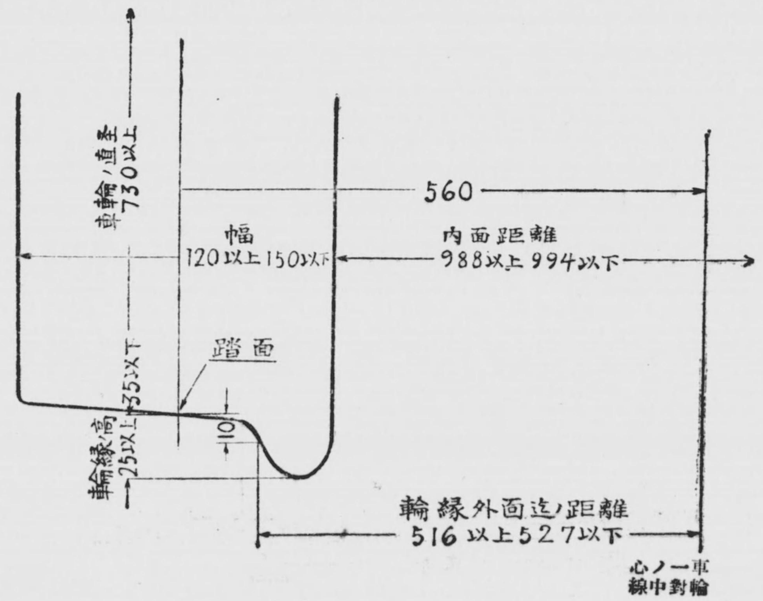
齒軌條區間ヲ通過スル車輛ノ下部（齒軌條用齒車ヲ除ク）ニ對スル限界

同バネノ作用ニ依リ上下動ヲ爲サザル部分ニ對スル限界

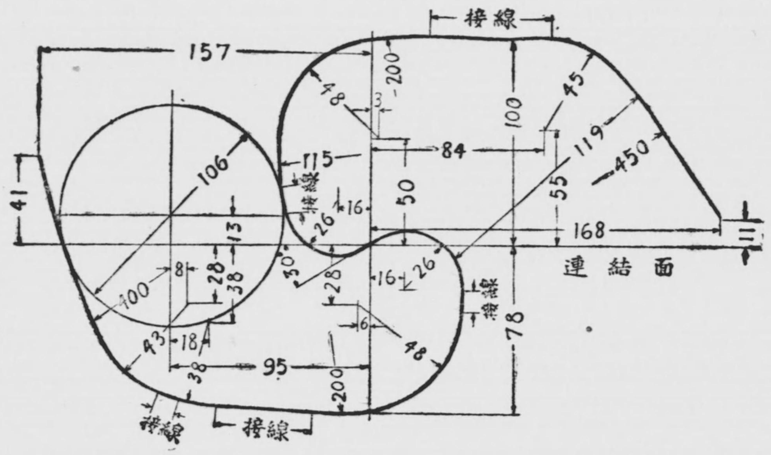
架空電車線ニ依リ電氣運轉ヲ爲ス車輛ノ集電裝置ヲ疊ミタル場合ニ於テ屋上裝置ニ對スル限界

架空電車線ニ依リ電氣運轉ヲ爲ス車輛ノ集電裝置ヲ延バシタル場合ニ於テ屋上裝置ニ對スル限界

第五圖　車輪ノ寸法（單位粍）



第六圖　自動連結器ノ連結部ノ輪廓（單位粍）



（別表）

線路區間種別表

一甲線

線路名稱	區間	
東海道線	東海道本線（東京神戸間、横濱櫻木町間、吹田梅田間）	特別ノ線路 左ノ區間中常時急行旅客列車ヲ運轉スル線路 東京垂井間 關ケ原神戸間
	横須賀線（大船横須賀間）	
	御殿場線（國府津、御殿場、沼津間）	
北陸線	北陸本線（米原敦賀間）	
中央線	中央本線（東京八王子間）	
山陽線	山陽本線（神戸下關間）	特別ノ線路 左ノ區間中常時急行旅客列車ヲ運轉スル線路 神戸明石間
	柳井線（嘛里布、柳井、櫛ケ濱間）	
關西線	城東線（天王寺大阪間）	

東北線	東北本線（東京青森間、日暮里、尾久、赤羽間）	特別ノ線路 左ノ區間中常時急行旅客列車ヲ運轉スル線路 東京大宮間
	山手線（赤羽品川間、池袋田端間）	
	常磐線（日暮里岩沼間）	
	高崎線（大宮高崎間）	
總武線	總武本線（御茶ノ水千葉間）	
鹿兒島線	鹿兒島本線（門司鳥栖間）	
	赤穗線（那波西大寺間）	
	根岸線（櫻木町北鎌倉間）	
	敦賀線（木ノ本敦賀間）	

二乙線

線路名稱	區間
東海道線	東海道本線（鶴見横濱港間、東灘神戸港間、品川汐留間、目黑川鶴見間、大崎蛇窪間、川崎濱川崎間、清水清水埠頭間、名古屋堀川口間、八幡白鳥間、名古屋稻澤間貨物線、梅小路丹波口間、吹田神崎間貨物線、宮原操車場廻送線、小野濱湊川間）
	片町線（木津片町間、放出吹田間、巽淀川間、放出正覺寺間）
	紀勢西線（和歌山紀伊田邊間）
東北線	東北本線（浦町、青森操車場、青森間貨物線及廻送線、日暮里尾久間廻送線、日暮里田端間貨物線）
	山手線（池袋田端間貨物線）
	常磐線（田端三河島間、隅田川支線、南千住隅田川間）
	兩毛線（小山高崎間）
	上越線（高崎宮內間）
	水戸線（小山友部間）
	日光線（宇都宮日光間）
	鹽竈線（岩切鹽竈間）
磐越線	磐越西線（郡山新津間）
奧羽線	奧羽本線（福島青森間、瀧內青森操車場間）
羽越線	羽越本線（新津秋田間）
信越線	信越本線（高崎新潟間）
總武線	總武本線（千葉銚子間、龜戸小名木川間、新小岩金町間）
	房總東線（千葉、大網、安房鴨川間）
	房總西線（蘇我、木更津、安房鴨川間）
	成田線（佐倉我孫子間）
鹿兒島線	鹿兒島本線（鳥栖鹿兒島間）
長崎線	長崎本線（鳥栖長崎港間）
	佐世保線（肥前山口佐世保間）
	大村線（早岐諫早間）
日豐線	日豐本線（小倉大分間、隼人鹿兒島間）
筑豐線	筑豐本線（若松飯塚間）
	伊田線（直方伊田間）
	上山田線（飯塚上山田間）
函館線	函館本線（函館旭川間）
	手宮線（南小樽手宮間）
室蘭線	室蘭本線（長万部岩見澤間、東室蘭室蘭間）
	夕張線（追分夕張間）
宗谷線	宗谷本線（旭川、幌延、稚內間）
	片町線（放出正覺寺間分岐點、平野間）
	總武本線（小名木川越中島間）
	白新線（新潟新發田間）
	邊富內線（御影邊富內間）
	野岩線（會津田島今市間）

	橫濱線（東神奈川八王子間）	
	伊東線（來宮伊東間）	
	西成線（大阪櫻島間、福島梅田間）	
	福知山線（神崎福知山間）	
北陸線	北陸本線（敦賀直江津間、敦賀敦賀港間）	
中央線	中央本線（八王子名古屋間、國分寺東京競馬場前間）	
	篠ノ井線（鹽尻篠ノ井間）	
山陽線	播但線（姬路和田山間）	
	宇野線（岡山宇野間）	
	呉線（三原、呉、海田市間）	
	宇品線（廣島宇品間）	
	山口線（小郡石見益田間）	
山陰線	山陰本線（京都幡生間）	
	舞鶴線（綾部東舞鶴間）	
	大社線（出雲今市大社間）	
關西線	關西本線（名古屋湊町間、今宮大阪港間）	
	參宮線（龜山鳥羽間）	
	草津線（柘植草津間）	
	奈良線（木津京都間）	

三　丙　線

前二號以外ノ線路區間

●國有鐵道簡易線建設規程

（昭和七年五月二十七日
鐵道省令第八號）

【沿革】昭和七年九月省令第二二號、同十年九月同第五號改正

國有鐵道簡易線建設規程左ノ通定ム

國有鐵道簡易線建設規程

第一條　國有鐵道簡易線ノ線路及車輛ノ構造ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本規程ニ規定セザル事項ハ國有鐵道建設規程中丙線ニ對スル規定ニ依ル

第三條　本規程ヲ適用スル線路區間ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　本線路ニ於ケル曲線ノ半徑ハ百六十米以上タルコトヲ要ス

前項ノ半徑ハ分岐ニ附帶スル場合ニ於テ百米迄之ヲ縮少スルコトヲ得

停車場ニ於ケル本線路ニシテ乘降場ニ沿フ部分ノ曲線ノ半徑ハ二百米以上タルコトヲ要ス

第五條　本線路ニ於ケル勾配ハ千分ノ三十五ヨリ急ナラザルコトヲ要ス

曲線補正ハ之ヲ爲サザルコトヲ得

停車場ニ於ケル本線路ノ勾配ハ其ノ本線路ノ最緩轉轍器（最緩轉轍器外ガ下リ勾配ナル場合ニハ之ヨリ外方十米ノ箇所）ノ間及列車ノ停止區域ニ於テ千分ノ三・五ヨリ急ナラザルコトヲ要ス但シ車輛ノ解結ヲ爲サザル本線路ニシテ列車ノ發著ニ支障ナキ場合ハ千分ノ十五ニ到ルコトヲ得

側線ノ勾配モ亦千分ノ三・五ヨリ急ナラザルコトヲ要ス但シ車輛ヲ留置セザル側線ハ之ニ依ラザルコトヲ得

第六條　本線路ニ於ケル軌道ノ負擔力ハ最大軸重十一瓲、最小軸距千五百粍ノ機關車ヲ重連シテ列車ヲ牽引スル場合貢線ニ於テ一時間四十五粁ノ速度ノ運轉ニ耐フルモノナルコトヲ標準トス

前項ノ負擔力ハ運轉車輛ノ重量其ノ他線路ノ狀況ニ依リ之ヲ增減スルコトヲ得

第七條　軌條ハ三十瓲軌條ノ百分ノ八十ノ强度ヲ有スルモノタルコトヲ標準トス

〔註〕本條ノ規定ハ三十瓲古軌條ノ利用ヲ考慮シタルモノニシテ新軌條ヲ使用スル場合ニハ三十瓲軌條ヲ採用スベキモノトス

第八條　道床ノ厚ハ枕木下面ヨリ施工基面迄百二十粍ヲ下ラザルコトヲ要ス但シ地盤ノ支持力大ナル場合ハ百粍迄之ヲ減ズルコトヲ得

第九條　築堤又ハ切取ニ於ケル施工基面ノ幅（側溝ヲ除ク）ハ軌道中心ヨリ分縁迄一米九以上タルコトヲ要ス

前項ノ幅ハ道床ノ幅其ノ他線路ノ狀況ニ依リ相當之ヲ擴大スルコトヲ要ス

第十條　本線路ニ於ケル橋梁ノ負擔力ハ國有鐵道建設規程第三圖ニ示ス標準活荷重 KS—10 ニ依ルモノタルコトヲ標準トス

前項ノ負擔力ハ特ニ必要アル場合ニ於テハ同圖ニ示ス KS—13 ニ依ルモノトス

第十一條　停車場ニ於ケル列車ノ發著スル本線路ノ有效長ハ八十米ヲ標準トス

第十二條　旅客ヲ取扱フ驛ニハ乘降場、待合所、便所等ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス

荷物ヲ取扱フ驛ニハ必要アル場合ニ限リ荷物積卸場、荷物庫等ノ設備ヲ爲スモノトス

〔註〕簡易ナル驛設備ノ例示圖參照

第十三條　乘降場及荷物積卸場ノ緣端ヨリ軌道中心迄ノ距離ハ一米五六タルコトヲ要ス

前項ノ距離ハ曲線ニ沿フ乘降場及荷物積卸場ニ於テハ曲線半徑八百米ヨリ大ナル場合ニ於テモ國有鐵道建設規程第十九條ニ準ジ之ヲ增スコトヲ要ス

乘降場ノ幅ハ兩面ヲ使用スルモノハ三米以上其ノ他ノモノハ一米五以上タルコトヲ要ス

乘降場及荷物積卸場ノ高ハ軌條面ヨリ六百六十粍トス

乘降場ニ在ル柱類ト乘降場緣端トノ距離ハ一米以上タルコトヲ要ス

乘降場ニ在ル本屋、跨線橋口、地下道口、待合所、便所等ト乘降場緣端トノ距離ハ一米五以上タルコトヲ要ス

第十四條　本線路ハ停車場又ハ信號所ニ於テ相當ノ保安設備アル場合ヲ除キ本線路又ハ他ノ鐵道、軌道ト平面交叉ヲ爲スコトヲ得ズ但シ他ノ鐵道、軌道カ人力又ハ馬力ヲ動力トスル場合ニ於テ相當ノ保安設備ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

〔註〕本條但書ノ相當ノ保安設備トハ門扉又ハ警報裝置ノ如キモノヲ謂フ

第十五條　列車ノ行違ヲ爲ス停車場ニハ場内信號機ヲ設クルコトヲ要ス

上下列車ニ對スル場内信號機ハ之ヲ同一柱ニ設クルコトヲ得

第十六條　出發信號機、閉塞信號機、入換信號機及誘導信號機ハ之ヲ設ケザルヲ通例トス

第十七條　場内信號機及掩護信號機ノ信號現示ヲ其ノ防護區域外二百米以上ノ距離ニ於テ列車ヨリ認識スルコト能ハザル場合ハ該信號機ノ前方相當ノ距離ニ於テ遠方信號機ヲ設クルコトヲ要ス但シ上リ勾配線ニシテ其ノ必要ヲ認メザル場合ハ之ヲ設ケザルコトヲ得

第十八條　相互關係ヲ有スル常置信號機及轉轍器ハ聯動ノ裝置ト爲スコトヲ要ス但シ本線路ニ關セザルモノ、常時鎖錠セラルル轉轍器、列車對向通過ノ際取柄ヲ支持スル轉轍器、發條轉轍器及背向轉轍器ニ付テハ之ニ依ラザルコトヲ得

第十九條　機關車（炭水車ヲ含ム）ハ之ヲ二輛連結シ長一米ニ付四瓲ノ等布活荷重ヲ牽引スル場合ニ軌道ニ對シ第六條ノ負擔力、橋梁ニ對シ第十條ノ負擔力ヨリ大ナル影響ヲ與ヘザルモノタルコトヲ要ス

第二十條　機關車ノ車輪一對ノ軌條ニ對スル壓力ハ停止中ニ於テ十一瓲以下タルコトヲ要ス

前項ノ壓力ノ限度ハ特ニ必要アル場合ニ限リ軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ之ヲ增減スルコトヲ得

第二十一條　客貨車ノ車輛一對ノ軌條ニ對スル壓力ハ停止中ニ於テ十二瓲以下タルコトヲ要ス

前項ノ壓力ノ限度ハ特ニ必要アル場合ニ限リ軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ之ヲ增減スルコトヲ得

附　則　（昭和七年九月鐵道省令第十二號）

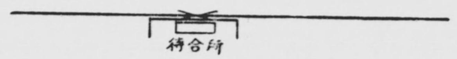
本令ノ適用ニ當タリ機關車ノ運用上直ニ第二十條ノ規定ニ依リ難キ場合ハ當分ノ内軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ當該條項ノ制限ヲ超過スルコトヲ得

當該線路ニ國有鐵道建設規程第五十六條ニ規定スル車輛限界ニ近キ大サノ車輛ヲ運轉スル時期迄ハ乘降場及荷物積卸場ノ緣端ト車輛ノ踏段又ハ床下ノ空隙ヲ小ナラシムル爲一時第十三條第一項ニ規定スル距離ヲ最小一米四迄縮小スルモノトス

簡易ナル驛設備例示圖

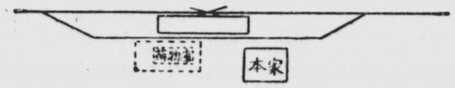
一、列車ノ行違ナキ場合

（イ）　乘降場ニ待合所ノアルモノ（驛員ヲ配置セズ）

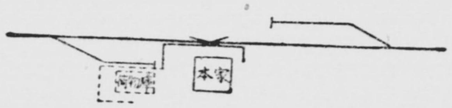


（ロ）　乘降場及本家アルモノ（取扱貨物小量）

（ハ）　貨物線ヲ廻線トナシタルモノ

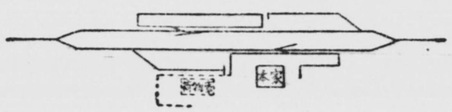


（ハ）　貨物線ヲ廻線トセザルモノ

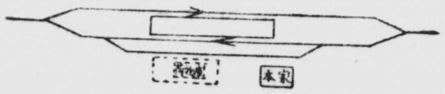


二、列車ノ行違アル場合

（イ）　相對式



（ロ）　島式



●鐵道建設規程ヲ適用スル線路區間

（昭和十四年六月十五日鐵道省告示第百八號）

昭和七年九月鐵道省告示第三百七十六號國有鐵道建設規程ヲ適用スル線路區間左ノ通改正ス

線路名稱	區間
東海道線	有馬線（三田有馬間）
北陸線	七尾線（穴水輪島間） 大糸北線（糸魚川小滝間）
中央線	小海線（小淵澤小海間） 大糸南線（信濃大町中土間） 明知線（大井明知間）
山陽線	可部線（横川安藝飯室間）
山陰線	若櫻線（郡家若櫻間） 倉吉線（上井倉吉間） 三木大江線（宍道備後落合間） 石見江津線（濱原間）
關西線	名松線（松阪伊勢奥津間） 信樂線（貴生川信樂間）
東北線	山線（費積寺島山間） 白河棚倉線（白河磐城棚倉間借入線） 川俣線（松川岩代川俣間） 釜石線（花卷仙人峠間） 山田線（宮古大槌間）
磐越線	會津線（會津若松會津柳津間） 日中線（西若松會津田島間） 喜多方熱鹽線（喜多方熱鹽間）
奥羽線	阿仁合線（鷹ノ巢阿仁合間）
羽越線	赤谷線（新發田赤谷間） 矢島線（羽後本莊羽後矢島間）
信越線	魚沼線（來迎寺西小千谷間）
總武線	木原線（大原上總中野間） 久留里線（木更津上總龜山間）
參宮線	内子線（五郎内子間） 宇和島線（宇和島吉野生間）
高德線	鍛冶屋原線（板西鍛冶屋原間）
德島線	牟岐線（中田阿波福井間） 羽ノ浦古庄間）
鹿兒島線	甘木線（基山甘木間） 山野線（水俣栗野間） 宮之城線（川内町薩摩大口間） 指宿線（西鹿兒島山川間）
久大線	宮原線（惠良賓泉寺間）
豐肥線	高森線（立野高森間）
日豐線	日ノ影線（延岡槵峰間） 妻線（鷹瀨杉安間） 志布志線（志布志油津間） 古江線（志布志古江間） 油津線（元油津飯肥間） 星倉大藤間）
函館線	江差線（木古内江差間） 福山線（木古内碁盤坂間） 瀨棚線（國縫瀨棚間） 札沼線（桑園石狩沼田間） 幌加内線（深川朱鞠内間）
日高線	（佐瑠太樣似間）
根室線	十幌線（上十幌縣平間）

線路名稱	區間
宗谷線	名寄線（名寄初茶志内間） 興濱北線（濱頓別北見枝幸間） 天鹽線（幌延遠別間）
名寄線	名寄本線（中湧別下湧別間） 興濱南線（興部雄武間） 渚滑線（渚滑北見瀧ノ上間） 湧網西線（中湧別中佐呂間間）
網走線	相生線（美幌北見相生間） 湧網東線（網走常呂間）
釧網線	標津線（標茶根室標津間） 中標津厚床間）
	山田線（大槌釜石間） 越美線（北濃福井間） 三江線（濱原本三次間） 大糸線（中土小瀧間） 日中線（熱鹽日中間） 内海線（油津内海間） 佐久間線（二俣佐久間間） 本郷線（廣島可部間） （安藝飯室本郷間） 日ノ影線（槵峰日ノ影間） 今福線（濱田今福間） 釜石線（花卷釜石間） 近永線（宇和島近永間） 長倉線（長倉常陸大子間） 牟岐線（阿波福井牟岐間） 宮原線（賓泉寺宮原間） 福山線（碁盤坂福山間）
	稚見線（大垣稚見間） 奥名田線（小濱奥名田間） 鵜ヶ岡線（殿田鵜ヶ岡間） 宇和島線（八幡濱宇和島間） （路面幅及橋桁竝ニ軌條ノ大サハ丙線ニ準ズ） 音更線（緋平三股間） 名雨線（初茶志内朱鞠内間） 山口線（會津柳津川口間） 只見線（小出只見間） 窪川線（須崎窪川間） 中湧網線（中佐呂間常呂間） 戸井線（函館戸井間） 羽咋線（氷見羽咋間） 江川崎線（近永江川崎間） 根北線（根室標津斜里間） 窪江線（江川崎窪川間） 檜木内線（角館檜木内間）

●國有鐵道簡易線建設規程ニ依リ軸重十二噸ヲ超過スル貨車ヲ運轉シ得ル線路區間

（昭和十年九月九日鐵道省告示第三百六十一號）

【沿革】昭和十二年九月告示第三二六號、同十四年一月同第七號、同年六月同第一一七號同十五年一月同第一五號改正

國有鐵道簡易線建設規程第二十一條第二項ニ依リ軸重十二噸ヲ超過スル貨車（事故救援用操重車ヲ除ク）ヲ運轉シ得ル線路區間左ノ通定ム

線路名稱	區間
山陰線	若櫻線（郡家若櫻間） 三江線（石見江津石見川越間）
關西線	名松線（松阪伊勢奥津間）
磐越線	會津線（會津若松會津柳津間） 日中線（喜多方熱鹽間）
土讃線	須崎土佐久禮間
鹿兒島線	甘木線（基山甘木間）
日豐線	古江線（志布志古江間）
函館線	瀨棚線（國縫瀨棚間） 幌加内線（深川朱鞠内間）
日高線	日高線（佐瑠太靜内間）
留萌線	札沼北線（石狩沼田中徳富間）
名寄線	名寄本線（中湧別下湧別間） 渚滑線（渚滑北見瀧ノ上間）
網走線	相生線（美幌北見相生間）

●京釜鐵道買收法

（明治三十九年三月三十一日）
（法律第十八號）

【沿革】大正九年八月法律第四八號改正

第一條　政府ハ本法ノ規定ニ依リ明治三十九年ニ於テ京釜鐵道株式會社所屬ノ鐵道ヲ買收スヘシ

第二條　政府ハ買收ノ日ニ於テ之ヲ指定ス

但シ會社ノ株主ニ對スル權利義務竝利益勘定、積立金勘定及雜勘定ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條　買收價額ハ左ニ揭クルモノトス

一　拂込株金ノ六分ニ相當スル金額ヲ二十倍シタル金額

二　京仁線ニ於ケル明治三十五年後半期乃至明治三十八年前半期ノ六營業年度間ニ於ケル建設費ニ對スル益金ノ平均割合ヲ買收ノ日ニ於ケル建設費ニ乘シタル額ヲ二十倍シタル金額

前項第二號ニ於テ益金ト稱スルハ營業收入ヨリ營業費及收益勘定以外ノ諸勘定ヨリ生シタル利息ヲ控除シタルモノヲ謂ヒ益金ノ平均割合ト稱スルハ明治三十五年後半期乃至明治三十八年前半期ノ每營業年度ニ於ケル建設費合計ヲ以テ同期間ニ於ケル益金ノ合計ヲ除シタルモノノ二倍ヲ謂フ

第四條　會社ニ於テ塡補スヘキ社債發行ノ差損金ハ會社ノ負擔トス

第五條　左ニ揭クル金額ハ時價ニ依リ公債券面金額ニ換算シ買收價額ヨリ之ヲ控除ス

一　京仁線ヘ操替使用シタル金額

二　京仁線ノ債務ニシテ政府ヘ返還スヘキ金額

前項第二號ノ金額ハ買收ノ日ヨリ以テ年五分ノ單利引法ニ依リテ之ヲ算定ス

第六條　會社カ鐵道及附屬物件ノ補修ヲ爲ササル場合ニ於テハ其ノ補修ニ要スル金額ハ前條第一項ノ例ニ依リ買收價額ヨリ之ヲ控除ス

第七條　權利義務ノ承繼ニ關シ又ハ計算ニ關シ會社ニ於テ異議アルトキハ政府ハ審査委員ヲシテ決定ヲ爲サシムヘシ

審査委員ノ決定ハ終局トス

審査委員ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　買收ノ執行ハ審査委員ノ審査中ト雖之ヲ停止セス

第九條　會社カ買收ニ因リテ解散シタルトキハ主務大臣ハ解散ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第十條　買收代價ハ買收ノ日ヨリ二箇年以内ニ於テ券面金額ニ依リ五分利付公債證書ヲ以テ之ヲ交付ス但シ五十圓未滿ノ端數ハ之ヲ五十圓トス

會社殘餘財產ノ分配ハ前項公債證書ヲ以テス

第十一條　政府ハ買收ノ日ヨリ公債證書交付ノ日ニ至ル迄買收價額ニ對シ一箇年百分ノ五ノ割合ニ相當スル金額ヲ從前ノ決算期每ニ會社ニ交付スヘシ

前項ニ依リ交付シタル金額ハ清算中ト雖之ヲ株主ニ配當スルコトヲ得

第十二條、第十三條、第十四條（削除）

第十五條　第五條ニ規定シタル公債時價ハ買收期日前六箇月間ニ於ケル帝國五分利公債ノ平均相場ニ依ル

前項平均相場ハ日本銀行ノ證明ニ依リ政府之ヲ定ム

附則（大正九年八月法律第四八號）

本法施行前京釜鐵道買收法ニ依リ發行シタル國債ノ元金ノ消滅時效ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●成田鐵道及中越鐵道買收ニ關スル件

（大正九年八月七日）
（法律第五十五號）

於帝國議會ノ協賛ヲ經タル成田鐵道及中越鐵道買收ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　政府ハ成田鐵道株式會社及中越鐵道株式會社所屬ノ鐵道及其ノ附屬物件竝營業ニ屬スル資產ヲ買收ス

第二條　前條ノ規定ニ依ル買收期日ハ政府之ヲ指定ス

第三條　營業ニ屬スル資產ノ買收價額ハ地方鐵道法第三十一條乃至第三十三條ノ規定ニ準シ之ヲ計算ス

第四條　政府ハ買收ノ爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國有鐵道線路名稱

（明治四十二年十月十二日）
（鐵道院告示第五十四號）

【沿革】（略ス）

國有鐵道線路名稱左ノ通定ム

本	名稱	區間
	東海道本線	（東京神戸間、鶴見横濱港間、横濱櫻木町間、大垣美濃赤坂間、東灘神戸港間及貨物支線）
	横濱線	（東神奈川八王子間）
	横須賀線	（大船横須賀間）
	御殿場線	（國府津―御殿場―沼津間）
	伊東線	（熱海伊東間）
	身延線	（富士甲府間借入線）
	二俣線	（掛川新所原間）
	武豐線	（大府武豐間及貨物支線）
	西成線	（大阪櫻島間及貨物支線）
	福知山線	（神崎福知山間及塚口尼ケ崎間）
	有馬線	（三田有馬間）
	北陸本線	（米原直江津間、敦賀敦賀港間及貨物支線）
	小濱線	（敦賀新舞鶴間）
	三國線	（金津三國港間）

北陸線	七尾線（津幡輪島間及貨物支線）	
	中越線（伏木城端間）	
	氷見線（伏木氷見間）	
	新湊線（能町新湊間）	
	大糸北線（糸魚川小滝間）	
高山線	高山本線（岐阜富山間）	
	越美南線（美濃太田北濃間）	
中央線	中央本線（東京鼈尻名古屋間、國分寺東京競馬場前間及貨物支線）	
	八高線（八王子倉賀野間）	
	小海線（小淵澤小諸間）	
	篠ノ井線（鼈尻篠ノ井間）	
	大糸南線（松本中土間）	
	明知線（大井明知間）	
	太多線（多治見美濃太田間）	
	山陽本線（神戸下關間、兵庫和田岬間及貨物支線）	
	播但線（飾磨和田山間）	
	姫新線（姫路新見間及津山津山口間）	
	宇野線（岡山宇野間）	

山陽線	伯備線（倉敷伯耆大山間）	
	藝備線（備中神代廣島間）	
	福塩線（福山塩町間）	
	呉線（三原―呉―海田市間）	
	宇品線（廣島宇品間）	
	可部線（横川安藝飯室間）	
	柳井線（柳井―柳井港間）	
	山口線（小郡石見益田間）	
	美祢線（厚狭正明市間及伊佐大嶺間）	
山陰線	山陰本線（京都松江幡生間、正明市仙崎間及貨物支線）	
	舞鶴線（綾部新舞鶴間、新舞鶴中舞鶴間及貨物支線）	
	宮津線（舞鶴豊岡間）	
	因美線（鳥取東津山間）	
	若櫻線（郡家若櫻間）	
	倉吉線（上井倉吉間）	
	境線（米子境間）	
	木次線（宍道備後落合間）	
	大社線（出雲今市大社間）	
	三江線（石見江津濱原間）	

關西線	參宮線（龜山鳥羽間）	
	名松線（松阪伊勢奥津間）	
	紀勢東線（相可口尾鷲間）	
	草津線（柘植草津間）	
	信樂線（貴生川信樂間）	
	奈良線（木津京都間）	
	櫻井線（奈良高田間）	
	片町線（木津片町間及貨物支線）	
	和歌山線（王寺和歌山市間及貨物支線）	
	紀勢西線（和歌山紀伊木本間及貨物支線）	
	城東線（天王寺大阪間）	
東北本線（東京―田端―青森間、日暮里―尾久赤羽間及貨物支線）		
	山手線（赤羽品川間及池袋田端間）	
	常磐線（日暮里岩沼間、田端三河島間及貨物支線）	
	水郡線（水戸安積永盛間及上菅谷常陸太田間）	
	川越線（大宮高麗川間）	
	高崎線（大宮高崎間）	

東北線	上越線（高崎宮内間）	
	十日町線（越後川口十日町間）	
	兩毛線（小山高崎間）	
	足尾線（桐生間藤間及貨物支線）	
	水戸線（小山友部間）	
	眞岡線（下館茂木間）	
	日光線（宇都宮日光間）	
	烏山線（寶積寺烏山間）	
	白棚線（白河磐城棚倉間借入線）	
	川俣線（松川岩代川俣間）	
	仙山線（仙臺羽前千歳間）	
	鹽竈線（岩切鹽竈間及貨物支線）	
	大船渡線（一ノ關盛間）	
	横黒線（黒澤尻横手間）	
	釜石線（花巻仙人峠間）（軌間〇・七六二米）	
	橋場線（盛岡橋場間）	
	山田線（盛岡釜石間）	
	花輪線（好摩大館間）	
	八戸線（尻内久慈間及八戸湊間）	
	大湊線（野邊地大湊間）	
	大畑線（下北大畑間）	

磐越線
- 磐越東線（平郡山間）
- 磐越西線（郡山新津間）
- 會津線（會津若松會津柳津間及西若松會津田島間）
- 日中線（喜多方熱鹽間）

奥羽線
- 奥羽本線（福島青森間及貨物支線）
- 米坂線（米澤坂町間）
- 長井線（赤湯荒砥間）
- 左澤線（山形左澤間）
- 生保内線（大曲生保内間）
- 船川線（追分船川間及貨物支線）
- 五能線（機織川部間）
- 阿仁合線（鷹ノ巢阿仁合間）
- 黒石線（川部黒石間）

羽越線
- 羽越本線（新津秋田間及貨物支線）
- 赤谷線（新發田赤谷間）
- 矢島線（羽後本莊羽後矢島間）

陸羽線
- 陸羽東線（小牛田新庄間）
- 陸羽西線（新庄余目間）
- 石巻線（小牛田女川間）

信越線
- 信越本線（高崎新潟間及貨物支線）
- 魚沼線（來迎寺西小千谷間）（軌間〇・七六二米）
- 越後線（柏崎白山間）
- 彌彦線（彌彦越後長澤間）

州

總武線
- 總武本線（御茶ノ水銚子間及貨物支線）
- 房總東線（千葉、大網、安房鴨川間）
- 房總西線（蘇我、木更津、安房鴨川間）
- 木原線（大原上總中野間）
- 成田線（佐倉我孫子間、成田松岸間）
- 久留里線（木更津上總龜山間）
- 東金線（大網成東間）

豫讃線
- 豫讃本線（高松八幡濱間及貨物支線）
- 内子線（五郎内子間）
- 宇和島線（宇和島吉野生間）（軌間〇・七六二米）

高德線
- 高德本線（高松佐古間）
- 鍛冶屋原線（板西鍛冶屋原間）
- 撫養線（池谷撫養間）

德島線
- 德島本線（德島阿波池田間）
- 小松島線（德島小松島間）
- 牟岐線（中田日和佐間及貨物支線）

土讃線（多度津土佐久禮間）

鹿兒島本線（門司鹿兒島間及貨物支線）

室木線（遠賀川室木間）

鹿兒島線
- 篠栗線（吉塚篠栗間）
- 筑肥線（博多伊萬里間）
- 甘木線（某山甘木間）
- 三角線（宇土三角間）
- 肥薩線（八代隼人間）
- 山野線（水俣栗野間）
- 宮之城線（川内薩摩大口間）
- 指宿線（西鹿兒島山川間）
- 湯前線（人吉湯前間）

長崎線
- 長崎本線（鳥栖長崎港間）
- 佐賀線（佐賀矢部川間）
- 唐津線（久保田西唐津間、山本岸嶽間及貨物支線）
- 佐世保線（肥前山口北佐世保間）
- 伊萬里線（有田濱龍間）
- 松浦線（上佐世保世知原間、左石楠木間、貨盛谷相浦間及四ツ井淵白ノ浦間）（軌間〇、七六二米）
- 大村線（早岐諫早間）

久大線
- 久大本線（久留米大分間）
- 豊山線（夜明賓珠山間）
- 宮原線（恵良賓泉寺間）

豐肥線
- 豐肥本線（熊本大分間）
- 高森線（立野高森間）

州

筑豐線
- 筑豐本線（若松—飯塚—原田間）
- 漆生線（新飯塚漆生間、上三緒筑前山野間及貨物支線）
- 香月線（中間香月間）
- 伊田線（直方伊田間及貨物支線）
- 宮田線（勝野筑前宮田間及貨物支線）
- 幸袋線（小竹二瀬間及貨物支線）
- 上山田線（飯塚上山田間）

日豐線
- 日豐本線（小倉鹿兒島間）
- 田川線（行橋添田間、後藤寺起行間及貨物支線）
- 宮床線（後藤寺宮床間及貨物支線）
- 日ノ影線（延岡日ノ影間）
- 細島線（富高細島間）
- 妻線（廣瀨杉安間）
- 吉都線（都城吉松間）
- 志布志線（西都城油津間）
- 古江線（志布志古江間）
- 油津線（油津飫肥間及貨物支線）（軌間〇、七六二米）

北海道

- 函館本線（函館旭川間及砂川上砂川間及貨物支線）
- 江差線（五稜郭江差間）
- 福山線（木古内茅盤坂間）
- 瀬棚線（國縫瀬棚間）
- 京極線（倶知安鰊方間）
- 札沼線（桑園石狩沼田間）
- 函館線
  - 幌内線（岩見澤幌内間及幌内太幾春別間）
  - 歌志内線（砂川歌志内間）
  - 手宮線（小樽手宮間）
  - 岩内線（小澤岩内間）
  - 幌加内線（深川朱鞠内間）
- 室蘭線
  - 室蘭本線（長萬部岩見澤間及東室蘭室蘭間）
  - 萬字線（志文萬字炭山間）
  - 夕張線（追分夕張線間及紅葉山登川間）
- 日高線（苫小牧樓似間）
- 留萌線
  - 留萌本線（深川增毛間）
  - 羽幌線（留萌羽幌間）
- 根室線
  - 根室本線（滝川根室間及貨物支線）
  - 富良野線（下富良野旭川間）
  - 士幌線（帶廣十勝三股間）
- 廣尾線（帶廣廣尾間）

宗谷本線（旭川―幌延―稚内港間）

- 名寄線
  - 名寄本線（名寄遠輕間及中湧別下湧別間）
  - 興濱南線（興部雄武間）
  - 渚滑線（渚滑北見濕ノ上間）
- 湧網線
  - 湧網西線（中湧別中佐呂間間）
  - 湧網東線（網走常呂間）
- 宗谷線
  - 名雨線（名寄初茶志内間）
  - 北見線（音威子府―濱頓別―稚内間）
  - 興濱北線（濱頓別北見枝幸間）
  - 天鹽線（幌延遠別間）
- 石北線（新旭川野付牛間）
- 網走線
  - 網走本線（池田網走間及貨物支線）
  - 相生線（美幌北見相生間）
- 釧網線
  - 釧網本線（東釧路網走間）
  - 標津線（標茶根室標津間及中標津厚床間）

韓國

- 京釜線
  - 京釜本線（西大門釜山間）
  - 京仁線（永登浦仁川間）
  - 馬山線（三浪津馬山間）
- 京義線（龍山新義州間及支線）

●國有鐵道防空規則

（昭和十三年五月三日）
（鐵道省令第二號）

【沿革】昭和十四年九月省令第一六號改正

國有鐵道防空規則左ノ通定ム

國有鐵道防空規則

第一條　國有鐵道及之ニ關聯スル國營自動車竝ニ其ノ附帶ノ業務ニ關スル防空（以下鐵道防空ト稱ス）ノ實施及訓練ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　鐵道局長、大臣官房文書課長、工事事務所長及電氣事務所長（以下鐵道局長ト稱ス）ハ鐵道防空ノ實施及之ニ關シ必要ナル設備又ハ資材ノ整備ニ關スル鐵道防空計畫ヲ設定スベシ

第三條　停車場其ノ他鐵道地内ノ施設ニシテ鐵道ノ管理ニ屬セザルモノニ付鐵道局長必要アリト認ムルトキハ當該施設ニ付防空計畫ヲ設定スベキ者ニ協議ノ上之ヲ包含スル鐵道防空計畫ヲ設定スルコトヲ得

第四條　鐵道局長ハ鐵道大臣ヨリ鐵道防空ノ實施ノ開始又ハ終止ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ關係箇所ニ通知スベシ

第五條　鐵道防空ヲ實施スル場合ニ於テ航空機ノ來襲ニ關シテハ左ノ各號ノ區分ニ依リ防空警報ヲ發ス

一　警戒警報　航空機ノ來襲ノ虞アル場合
二　警戒警報解除　航空機ノ來襲ノ虞ナキニ至リタル場合
三　空襲警報　航空機ノ來襲ノ危險アル場合
四　空襲警報解除　航空機ノ來襲ノ危險ナキニ至リタル場合

防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官（以下陸海軍司令官ト稱ス）又ハ其ノ指定スル者ノ發スル防空警報ヲ以テ前項ノ防空警報トス

第六條　鐵道局長前條ノ防空警報ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ關係箇所ニ傳達スベシ

第七條　鐵道局長ハ豫メ防空警報ノ傳達系統ヲ定メ置クベシ

第八條　鐵道防空ノ實施上必要ナル通信ハ別ニ定ムル所ニ依リ他ノ通信ニ優先シテ之ヲ取扱フベシ

第九條　鐵道防空ヲ實施スル場合ニ於ケル燈火管制ハ第十二條ニ規定スル場合ヲ除クノ外警戒管制及空襲管制トス

警戒管制ハ警戒警報又ハ空襲警報解除ノ發セラレタル時ヨリ警戒警報解除又ハ空襲警報ノ發セラルル迄ノ間之ヲ行フ

空襲管制ハ空襲警報ノ發セラレタル時ヨリ空襲警報解除ノ發セラルル迄ノ間之ヲ行フ

第十條　警戒管制又ハ空襲管制中ニ於ケル光ノ秘匿ハ日沒ヨリ日出迄ノ間別表ニ掲グル程度ニ於テ之ヲ爲スベシ

第十一條　前條ノ別表中警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スベキ區域ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ノ通知ニ依リ鐵道局長之ヲ定ム

前項ノ區域以外ノモノハ警戒管制ノ乙ノ程度ヲ適用スベキ區域トス

前二項ノ規定ニ依リ難キ海上ノ區域ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第十二條　第十條ノ別表中一般屋外燈（標識燈類、街路燈類及屋外作業燈類ヲ除ク）ニシテ地方長官ノ通知ニ依リ鐵道局長ノ定ムルモノハ其ノ定ムル期間日沒ヨリ日出迄ノ間警戒管制ノ程度ニ依リ其ノ光ヲ秘匿スベシ

第十三條　左ノ各號ニ揭グル光ニ付テハ本令ノ制限ヲ適用セズ

一　建築物、車輛、船舶、隧道、地下道等ノ內部ノ光ニシテ外部ニ漏レザルモノ

二　特別ノ事情ニ因リ必要アリト認メ鐵道大臣又ハ鐵道局長ノ指定スル光

前項第二號ノ規定ニ依リ光ヲ指定セントスルトキハ鐵道大臣ハ內務大臣、陸軍大臣及海軍大臣ニ、鐵道局長ハ地方長官ニ協議スベシ

第十四條　左ニ揭グル場合ニ於テハ本令ノ規定ニ拘ラズ必要最小限度ノ光ヲ使用スルコトヲ得

一　消防、人命救助等ノ爲緊急ノ必要アルトキ

二　重大ナル事故發生シ又ハ發生ノ虞アルトキ

三　其ノ他緊急ノ必要アルトキ

前項第二號ノ事由ニ因リ光ヲ使用シタルトキハ遲滯ナク陸海軍司令官及所轄警察署長ニ通報スベシ但シ空襲管制中ニ在リテハ豫メ協定シタル事項ヲ除クノ外陸海軍司令官ニ協議スベシ

第一項第三號ノ事由ニ因リ光ヲ使用スルトキハ所轄警察署長ニ協議スベシ

第十五條　第十條ノ別表中ニ於ケル協議ハ鐵道局長ニ於テ地方長官ト之ヲ爲スベシ

第十六條　鐵道防空ヲ實施スル場合ニ於ケル消防、防毒、避難及救護其ノ他鐵道防空上必要ナル事項ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第十七條　鐵道局長ハ其ノ鐵道防空計畫ノ全部又ハ一部ニ基キ鐵道防空ノ訓練ヲ爲スコトヲ得

第十八條　鐵道防空ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル訓練防空警報ハ鐵道局長之ヲ發ス

前項ノ訓練防空警報ハ第五條ノ區分ニ準ジ訓練警戒警報、訓練警戒警報解除、訓練空襲警報及訓練空襲警報解除トス

內務大臣ノ指定スル者又ハ陸海軍司令官若ハ其ノ指定スル者ノ發スル訓練防空警報ヲ以テ第一項ノ訓練防空警報ト爲スコトヲ妨ゲズ

第十九條　鐵道防空ノ訓練ニ關シテハ第六條、第八條、第九條、第十條、第十三條及第十四條ノ規定ヲ準用ス

第二十條　燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル光ノ祕匿ガ第十條ノ別表ニ依リ難キモノニ關シテハ別ニ定ムル程度ニ依ルコトヲ得

附則

本令ハ昭和十三年五月十日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

其ノ一（一般屋外燈）

番號	種類別	分類	警戒管制 甲	警戒管制 乙	空襲管制	遮光條件	記事
1	廣告、看板、裝飾燈類	廣告燈					
		看板燈					
		裝飾燈					
		其ノ他之ニ類スル燈	消燈	消燈	消燈		
2	標識燈類	火災報知機燈					
		非常報知機燈					
		避難所標識燈					
		救護所標識燈					
		警察官署標識燈					
		消火栓標識燈					
		各種機器作動表示燈	透視距離五〇〇米以下ニ減光	透視距離五〇〇米以下ニ減光シ且遮光	透視距離五〇〇米以下ニ減光シ且遮光	地表上三〇〇米以上ノ高サヲ有スル何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト	
		防空上必要ナル各種標識燈					
		其ノ他之ニ類スル燈					
3	街路燈類	街路燈	街路面一〇〇平方米ニ付一・五燭光以內、一燈一六燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈但シ迅速ニ消燈シ得	消燈		
		橋梁燈					
		電車柱燈					
		電柱街燈					
		驛前廣場照明燈					
		其ノ他之ニ類スル燈					
		地下道照明燈	八燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈但シ必要ニ應ジ透視距離五〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	消燈		
		其ノ他ニシテ地表ニ放光スル燈火					
4	門軒燈類	門燈	消燈但シ必要ニ應ジ街路燈類ニ代用スルモノハ該燈類ニ關スル制限內ニ於テ殘置スルコトヲ得	消燈但シ必要ニ應ジ街路燈類ニ代用スルモノハ協議ノ上該燈類ニ關スル制限內ニ於テ殘置スルコトヲ得		光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル	
		軒燈					
		其ノ他之ニ類スル燈火					

番號	種類	細別	管制 警戒 乙	管制 警戒 甲	程度 空襲管制	程度 遮光條件	記事
5	屋外作業燈類	荷物積卸場屋外燈、工場、電氣、水道、倉庫等ノ作業ニ必要ナル屋外燈火、其ノ他之ニ類スル燈火	作業面一〇〇平方米ニ付三燭光以内、一燈一六燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈又ハ隱蔽、但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ協議ノ上作業面ニ於ケル最大照度ヲ〇・二「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得	消燈又ハ隱蔽	線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト	
6	特別屋外燈類	公園燈、庭園燈、社寺屋外燈、廣場照明燈、各種運動競技、娯樂場屋外照明燈、其ノ他他ノ種類ニ屬セザル屋外燈火	消燈、但シ公園燈、社寺屋外燈、廣場照明燈ニ限リ交通治安維持ノ必要アル場合被照面一〇〇平方米ニ付〇・二燭光以内、一燈八燭光以下ニ減光シ且遮光シ各燈ノ間隔ヲ八〇米以上トシテ殘置スルコトヲ得	消燈	消燈		
7	店先燈類	店先裝飾燈、店先吊下燈、店先陳列箱照明燈、其ノ他之ニ類スル燈火	消燈	消燈	消燈		店先トハ戸締面ノ外部ヲ謂フ
8	普通屋内燈類	幕舍内燈、病院屋内燈、教習所教室内燈、工場、電氣、水道、倉庫等ノ作業用屋内燈、其ノ他之ニ類スル燈火	室ノ廣サ三平方米ニ付一燭光以内、一燈五燭光以下ニ減光シ且遮光、但シ光源ト開口部トノ距離ヲ一・八米以上トスルコト	隱蔽	消燈又ハ隱蔽	光源ヨリ直接發スル射光ガ開口部ノ外側ニ於テ水平以上ニ向ハザルコト	
9	交通信號燈類	交通整理信號燈、交通整理手提信號燈、其ノ他之ニ類スル燈火	平常ノ儘	透視距離五〇〇米以下ニ減光シ且遮光	消燈又ハ透視距離五〇〇米以下ニ減光シ且遮光	光源ヨリ直接發スル射光ガ開口部ニ向ハザルコト	
10	交通標識燈類	安全地帶標識燈、停留所標識燈、障碍注意燈、其ノ他之ニ類スル燈火	透視距離五〇〇米以下ニ減光又ハ一箇所一燈トシ五燭光以下ニ減光シ且遮光	透視距離五〇〇米以下ニ減光シ且遮光	消燈、但シ障碍注意燈ニ限リ透視距離三〇〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	乙ノ場合ハ光源ヨリ直接發スル射光ガ可及的上空ニ向ハザルコト、甲ノ場合ハ地表上三〇〇米以上ノ高サヲ有スル何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト	

番號	種類	細別	管制 警戒 乙	管制 警戒 甲	程度 空襲管制	程度 遮光條件	記事
8	普通屋内燈類	幕舍内燈、病院屋内燈、教習所教室内燈、工場、電氣、水道、倉庫等ノ作業用屋内燈、其ノ他之ニ類スル燈火	室ノ廣サ三平方米ニ付一燭光以内、一燈五燭光以下ニ減光シ且遮光、但シ光源ト開口部トノ距離ヲ一・八米以上トスルコト	隱蔽	消燈又ハ隱蔽	光源ヨリ直接發スル射光ガ開口部ノ外側ニ於テ水平以上ニ向ハザルコト	
9	交通信號燈類	交通整理信號燈、交通整理手提信號燈、其ノ他之ニ類スル燈火	平常ノ儘	透視距離五〇〇米以下ニ減光シ且遮光	消燈又ハ透視距離五〇〇米以下ニ減光シ且遮光	光源ヨリ直接發スル射光ガ開口部ニ向ハザルコト	
10	交通標識燈類	安全地帶標識燈、停留所標識燈、障碍注意燈、其ノ他之ニ類スル燈火	透視距離五〇〇米以下ニ減光又ハ一箇所一燈トシ五燭光以下ニ減光シ且遮光	透視距離五〇〇米以下ニ減光シ且遮光	消燈、但シ障碍注意燈ニ限リ透視距離三〇〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	乙ノ場合ハ光源ヨリ直接發スル射光ガ可及的上空ニ向ハザルコト、甲ノ場合ハ地表上三〇〇米以上ノ高サヲ有スル何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト	

其ノ四（國有鐵道關係燈）

番號	分類	種類細別	警戒	制管	制程度	記事
			乙	甲		
11	自動車燈類	前照燈	合計二燈以下トシ各燈ハ燈器ヨリ一〇米ノ地點ニ於テ光軸ニ垂直ナル面ニ於ケル最大照度ヲ三一ルクス一以下ニ減光	合計二燈以下トシ各燈ハ燈器ヨリ一〇米ノ地點ニ於テ光軸ニ垂直ナル面ニ於ケル最大照度ヲ一〇・七ルクス一以下ニ減光シ且遮光		
		側燈 案內燈				
		尾燈 車輛番號照明燈	平常ノ儘	消燈		
		停止燈				
		方向指示器燈	各一燈トシ透視距離三〇〇米以下ニ減光	平常ノ儘		
		室內燈		消燈		
12	普通車輛類	自轉車燈 手車燈 荷牛馬車燈 其ノ他之ニ類スル燈火	平常ノ儘	消燈		
13	携帶燈類	個人携帶燈 其ノ他之ニ類スル燈火				
14	信號合圖燈類	誘導信號機燈 入換信號機燈 臨時信號機燈	確認距離三〇〇米以下ニ減光シ且遮光	確認距離三〇〇米以下ニ減光又ハ消燈	空襲管制ノ場合ハ地表上三〇〇米以上ノ高サヲ有スル何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト	燈器水平ノトキ其ノ光源ヲ地表上三〇〇米以上ノ高サヲ有スル何レノ點ヨリモ認メ得ザルコト
		徐行豫告標燈 入換用ノ信號機ニ類似スル燈 合圖ニ用フル諸燈 其ノ他之ニ類スル燈火	確認距離四〇〇米以下ニ減光シ且遮光	確認距離四〇〇米以下ニ減光シ且遮光又ハ消燈		
		手信號類似ノ各種反應器燈 進路ヲ表示スル燈 其ノ他之ニ類スル燈火	確認距離六〇〇米（別ニ指定セルモノハ八〇〇米）以下ニ減光シ且遮光	確認距離六〇〇米（別ニ指定セルモノハ八〇〇米）以下ニ減光シ且遮光又ハ消燈		
15	地上標識燈類	轉轍器及轍叉等ノ標識燈 車止標識燈 列車又ハ車輛ノ停止位置ヲ表示スル諸標燈 徐行許容標燈 其ノ他之ニ類スル燈火	平常ノ儘	確認距離三〇〇米以下ニ減光シ且遮光	警戒管制ノ場合ハ空襲管制ノ場合ノ遮光ヲ用フルコト	信號機ノ背面光ヲ含ム
		自動ノ閉塞信號機ノ白色識別燈 其ノ他ノ各種標識類似燈		確認距離一〇〇米以下ニ減光シ且遮光又ハ消燈		
16	車輛標識燈類	後部標識燈 前部標識燈 其ノ他之ニ類スル燈火	平常ノ儘	確認距離三〇〇米以下ニ減光シ且遮光		
		自動開閉式扉表示燈 其ノ他之ニ類スル燈火		確認距離六〇〇米以下ニ減光シ且遮光		
		一燈トシ五燭光以下ニ減光又ハ二〇燭光以下ニ減光シ且遮光		確認距離三〇〇米以下ニ減光シ且遮光		「トロリー」前照燈ヲ含ム

17	車輛燈類	車內照明燈	隱蔽又ハ室ノ廣サ三平方米ニ付一〇燭光以內、一燈五〇燭光以下ニ減光シ且遮光	隱蔽又ハ室ノ廣サ三平方米ニ付〇・五燭光以內、一燈二燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈又ハ隱蔽	光源ヨリ直接發スル射光ガ開口部ニ向ハザルコト
			室ノ廣サ三平方米ニ付五燭光以內、一燈一〇燭光以下ニ減光	室ノ廣サ三平方米ニ付〇・三燭光以內、一燈一燭光以下ニ減光	室ノ廣サ三平方米ニ付〇・一燭光以下ニ減光、又ハ窓「カーテン」ヲ閉鎖（硝子戶又ハ網戶ヲ閉鎖ノ上）セル場合ハ警戒管制乙程度ニ、鎧戶ヲ閉鎖セル場合ハ警戒管制甲程度ニナスコト	母屋窓ヨリ漏光セザルコト
		行先表示燈 運行番號表示燈 計器燈 知ラセ燈 其ノ他之ニ類スル燈火	平常ノ儘	透視距離三〇〇米以下ニ減光	透視距離三〇〇米以下ニ減光	
18	車輛特殊火光類	蒸汽機關車煙突火粉 蒸汽機關車焚口火焰 電氣機關車、電車、鋼索車等ノ火花類	平常ノ儘 但シ發光量ノ減少ニ努ムルコト	發光量及發光時間ノ減少ニ努ムルコト 發光量及發光時間ノ減少ニ努メ且遮光	發光量及發光時間ノ減少ニ努ムルコト 隱蔽	
			極力防止ニ努ムルコト	極力防止ニ努ムルコト	極力防止ニ努ムルコト	
		前照燈 側燈 案內燈	合計二燈以下トシ各燈ハ燈器ヨリ一〇米ノ地點ニ於テ光軸ニ垂直ナル面ニ於ケル最大照度ヲ三「ルクス」以下ニ減光	合計二燈以下トシ各燈ハ燈器ヨリ一〇米ノ地點ニ於テ光軸ニ垂直ナル面ニ於ケル最大照度ヲ〇・七「ルクス」以下ニ減光シ且遮光	合計二燈以下トシ各燈ハ燈器ヨリ一〇米ノ地點ニ於テ光軸ニ垂直ナル面ニ於ケル最大照度ヲ〇・五「ルクス」以下ニ減光シ且遮光	空襲管制ノ場合ハ地表上三〇〇米以上ノ高サヲ有スル何レノ點ヨリモ光源ヲ認メ得ザルコト 警戒管制ノ場合ハ空襲管制ノ場合ノ遮光具ヲ用フルコト
						被牽引車ヲ含ム

19	省營自動車燈類	尾燈 車輛番號表示燈 停止燈 方向指示器燈 計器燈 方向幕表示燈	平常ノ儘	各一燈トシ透視距離三〇〇米以下ニ減光	各一燈トシ透視距離三〇〇米以下ニ減光	
			平常ノ儘	平常ノ儘	消燈	
		室內燈	平常ノ儘 但シ遮光	透視距離三〇〇米以下ニ減光		光源ヨリ直接發スル射光ガ開口部ニ向ハザルコト
20	點檢燈類	點檢燈 車號燈 其ノ他之ニ類スル燈火 巡檢燈	平常ノ儘	一燈トシ二燭光以下ニ減光シ且遮光又ハ消燈	消燈又ハ一米ノ距離ニ於テ被照面ノ照度ヲ一「ルクス」以下ニ減光シ且遮光	燈器水平ノトキ其ノ光源ヲ地表上三〇〇米以上ノ高サヲ有スル何レノ點ヨリモ認メ得ザルコト
				消燈又ハ二米ノ距離ニ於テ被照面ノ照度ヲ一「ルクス」以下ニ減光シ且遮光	消燈又ハ一米ノ距離ニ於テ被照面ノ照度ヲ〇・五「ルクス」以下ニ減光シ且遮光	
21	特殊屋內燈類	業務用屋內燈 出札口屋內燈 改集札口屋內燈 詰所屋內燈 待合室屋內燈 跨線橋屋內燈 車庫屋內燈 其ノ他之ニ類スル燈火	隱蔽又ハ協議ノ上漏光面ヲ透過スル光束ヲ一平方米ニ付三「ルーメン」以下ニ減光	隱蔽	消燈又ハ隱蔽	光源ヨリ直接發スル射光ガ開口部ノ外側ニ於テ水平以上ニ向ハザルコト
			室ノ廣サ三平方米ニ付一燭光以內、一燈五燭光以下ニ減光シ且遮光但シ光源ト開口部トノ距離ヲ一・八米以上トスルコト			光源ヨリ直接發スル射光ガ開口部ニ向ハザルコト
			室ノ廣サ三平方米ニ付一〇燭光以內、一燈五〇燭光以下ニ減光シ且遮光	室ノ廣サ三平方米ニ付〇・五燭光以內、一燈二燭光以下ニ減光シ且遮光		

	22 特殊屋外燈類		
	出札口屋外燈改集札口屋外燈	入換作業用構內照明燈	詰所屋外燈車庫屋外燈跨線橋屋外燈其ノ他之ニ類スル燈
屋內各種表示燈屋內時計照明燈其ノ他之ニ類スル燈			
平常ノ儘	窓口一箇又ハ一改集札口ニ對シ一燈トシ五燭光以下ニ減光シ且遮光	作業面一〇〇平方米ニ付三燭光以內、一燈ニ付五〇燭光以下ニ減光シ且遮光	被照面一〇〇平方米ニ付一・五燭光以內、一燈ニ付一六燭光以下ニ減光シ且遮光
透視距離三〇〇米以下ニ減光	消燈	消燈又ハ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・二「ルクス」以下ニ減光シ且遮光	消燈又ハ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・一五「ルクス」以下ニ減光シ且遮光
光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト	消燈又ハ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・二「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得	消燈又ハ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・二「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得	消燈又ハ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・一五「ルクス」以下ニ減光シ且遮光
操車場及組成廨ニ限ル			

23 踏切燈類			24 隧道內照明燈類
踏切警報機燈	踏切表示燈踏切注意標照明燈	踏切照明燈	隧道內照明燈地下道照明燈其ノ他ニシテ地表ニ放光スル燈火
平常ノ儘	五燭光以下ニ減光シ且遮光	踏切道面一〇〇平方米ニ一燈ニ付八燭光以下ニ減光シ且遮光	八燭光以下ニ減光シ且遮光
透視距離三〇〇米以下ニ減光	透視距離三〇〇米以下ニ減光	但シ必要ニ應ジ踏切表示燈、踏切注意標照明燈ニ代用スルモノハ該燈類ニ關スル制限內ニ於テ殘置スルコトヲ得	但シ必要ニ應ジ透視距離五〇米以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコト
透視距離五〇〇米以下ニ減光シ且遮光	透視距離五〇〇米以下ニ減光シ且遮光	但シ必要ニ應ジ踏切表示燈、踏切注意標照明燈ニ代用スルモノハ該燈類ニ關スル制限內ニ於テ殘置スルコトヲ得	消燈又ハ隱蔽
光源ヨリ直接發スル射光ガ可及的上空ニ向ハザルコト	光源ヨリ直接發スル射光ガ可及的上空ニ向ハザルコト	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト
地表上三〇〇米以上ノ高サヲ有スル何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト			

其ノ五（船舶關係燈）

分類	番號	種類	細別	管制程度				記事
				警戒管制		空襲管制	遮光條件	
				乙	甲			
25	航路關係燈類	航路標識燈	航路標識燈ニ類スル燈火	別ニ指示スル所ニ依ル				
				確認距離一〇〇〇米以下ニ減光シ且遮光	確認距離一〇〇〇米以下ニ減光シ且遮光	消燈又ハ隱蔽	乙ノ場合ハ光源ヨリ直接發スル射光ガ可及的上空ニ向ハザルコト 甲ノ場合ハ地表上三〇〇米以上ノ高サヲ有スル何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト	
		橋梁表示燈		平常ノ儘	確認距離一〇〇〇米以下ニ減光シ且遮光	消燈又ハ隱蔽	確認距離ノ所要ヲ充足スルヲ限度トシテ上空ニ對シ遮光スルコト	
26	船燈類	海上衝突豫防法ニ規定スル船燈		海上衝突豫防法ノ規定ニ依ル最小限度ノ光力トシ且遮光但シ增揭燈ハ直ニ點出シ得ル準備ヲ爲シテ消燈シ保安上必要ナルトキニ限リ一時點出スルコト	海上衝突豫防法ノ規定ニ依ル最小限度ノ光力トシ且遮光但シ增揭燈及埠頭繫留船ノ船燈ハ直ニ點出シ得ル準備ヲ爲シテ消燈シ保安上必要ナルトキニ限リ一時點出スルコト	消燈 但シ直ニ點出シ得ル準備ヲ爲シテ保安上必要ナルトキニ限リ一時點出スルコト	湖沼ニ於ケル船舶ノ船燈ヲ含ム	
				海上衝突豫防法ノ規定ニ依ル最小限度ノ光力トシ且遮光但シ增揭燈ハ直ニ點出シ得ル準備ヲ爲シテ消燈シ保安上必要ナルトキニ限リ一時點出スルコト	港內碇泊船ノ船燈ハ確認距離五〇〇米以下ニ減光シ且遮光			

分類	番號	種類	細別	管制程度				記事
				警戒管制		空襲管制	遮光條件	
				乙	甲			
27	船舶照明燈類	船室內照明燈		消燈、隱蔽又ハ室ノ廣サ三平方米ニ付一〇燭光以內、一燈五〇燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈、隱蔽又ハ室ノ廣サ三平方米ニ付一〇・五燭光以內、一燈二燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈又ハ隱蔽	光源ヨリ直接發スル射光ガ開口部ニ向ハザルコト	
		一般船室外照明燈	甲板面一〇〇平方米ニ付三燭光以內、一燈一六燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ協議ノ上被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・二ルクス一以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得	消燈	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト		
		起重機ヲ用フル荷役用船室外照明燈	一箇所三燈以下トシ合計五〇燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈 但シ船體又ハ人命ノ危急ノ場合短時間ニ限リ使用スルコトヲ得				
		探照燈 安全燈 其ノ他ノ火光		消燈 但シ船體又ハ人命ノ危急ノ場合短時間ニ限リ使用スルコトヲ得				艀ノ焚火等ヲ含ム
28	埠頭燈類	埠頭上屋倉庫屋外燈 其ノ他之ニ類スル燈火		面積一〇〇平方米ニ付三燭光以內、一燈一六燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ協議ノ上被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・二ルクス一以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得	消燈又ハ隱蔽	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト	
		埠頭起重機外燈	一箇所三燈以下トシ合計五〇燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ協議ノ上被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・二ルクス一以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得				
		屋內各種表示燈	平常ノ儘	透視距離三〇〇米以下ニ減光	消燈又ハ隱蔽			
		屋外各種表示燈 屋外時計照明燈	消燈 但シ協議ノ上透視距離五〇〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	消燈 但シ協議ノ上透視距離三〇〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	消燈			

	誘導燈	透視距離五〇〇米以下ニ減光	透視距離三〇〇米以下ニ減光	透視距離三〇〇米以下ニ減光	
	出札口屋外燈 改集札口屋外燈	窓口一箇又ハ一改集札口ニ對シ一燈トシ五燭光以下ニ減光シ且遮光	窓口一箇又ハ改集札口ニ對シ一燈トシ一燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト
29 埠頭標識燈類	棧橋突端標識燈 岩壁突端標識燈 波除堤突端標識燈 浮棧橋標識燈 繫船信號燈 稅關監所標識燈 其ノ他之ニ類スル燈火	一箇所一燈トシ五燭光以下ニ減光シ且遮光	確認距離五〇〇米以下ニ減光シ且遮光	消燈又ハ隱蔽	乙ノ場合ハ光源ヨリ直接發スル射光ガ可及的上空ニ向ハザルコト 甲ノ場合ハ地表上三〇〇米以上ノ高サヲ有スル何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト

備考　特別ノ事情ニ因リ必要アリト認メ別ニ告示スル場合ニ於テハ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ關シテハ警戒管制ノ場合及空襲管制ノ場合ヲ通ジ警戒管制ノ乙ノ程度ニ依ル

其ノ六（航空關係燈）

番號	分類		管制程度			記事
	種類	細別	警戒管制		空襲管制	
			乙	甲	遮光條件	
30 航空機燈類	室內燈 左（右）翼燈 尾燈 機首燈 碇泊燈 著陸燈 照明燈 信號燈 計器燈 其ノ他之ニ類スル燈火	別ニ指示スル所ニ依ル				

其ノ七（火焰其ノ他ノ光）

番號	分類		管制程度			記事
	種類	細別	警戒管制		空襲管制	
			乙	甲	遮光條件	
31 火焰類	電氣爐火焰 鑄物爐火焰 軸爐火焰 加熱爐火焰 熔接火焰 鍛冶火焰 鍛延及壓延火焰 汽罐焚口火焰 煙突火焰 塵芥燒却火焰 其ノ他之ニ類スル火焰	隱蔽、消光又ハ漏光面ヲ透過スル光束ヲ一平方米ニ付一「ルーメン」以下ニ減光	隱蔽、消光又ハ漏光部ノ透視距離三〇〇米以下ニ減光	隱蔽又ハ消光		

32	第一種禁制光類	焚火、篝火、狼火等ヨリ發スル光	消光	
33	第二種禁制光類	炭火、マツチ等ヨリ發スル光	平常ノ儘	
		寫眞撮影用閃光	消光	警報ニ使用スルモノヲ除ク
			平常ノ儘但シ炭火ハ透視距離三〇〇米以下ニ減光スルコト	
			隱蔽又ハ消光	

第二款　地方鐵道

●地方鐵道法（大正八年四月十日法律第五十二號）

【沿革】大正十年四月法律第三八號、昭和四年四月同第六二號、同十四年三月同第一九號改正

帝國議會ノ協賛ヲ經タル地方鐵道法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方鐵道法

第一條　本法ハ軌道法ニ規定スルモノヲ除ク外道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人カ公衆ノ用ニ供スル爲敷設スル地方鐵道ニ之ヲ適用ス

地方鐵道業者カ運送營業ノ爲支線ヲ敷設スルトキハ公衆ノ用ニ供セサル場合ト雖本法ヲ適用ス

道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人カ專用ニ供スル爲敷設スル鐵道ニシテ政府ノ鐵道又ハ地方鐵道ニ接續スルモノニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　地方鐵道ハ人力又ハ馬力其ノ他之ニ類スルモノヲ以テ動力ト爲スコトヲ得ス

第三條　地方鐵道ノ軌間ハ三呎六吋トス特別ノ場合ニ在リテハ四呎八吋半又ハ二呎六吋ト爲スコトヲ得

前項ノ軌間ノ制限ハ命令ヲ以テ定ムル特殊ノ地方鐵道ニ付テハ之ヲ適用セス

第四條　地方鐵道ハ之ヲ道路ニ敷設スルコトヲ得ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　地方鐵道會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得但シ兼業トシテ地方鐵道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　削除

第七條　地方鐵道會社ノ社債ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後ニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス

社債ノ額ハ鐵道抵當法ニ依ル債務ノ額ト併セテ總株金拂込額ヲ超ユルコトヲ得ス但シ舊債償還ノ爲ニスル場合ニ於テハ舊債務ノ額ハ之ヲ算

入セス

第八條　鐵道及其ノ附屬物件ハ鐵道抵當法ニ依ルニ非サレハ之ヲ擔保ト爲スコトヲ得ス

第九條　削除

第十條　地方鐵道會社ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ免許ニ屬スル權利義務ヲ承繼ス

第十一條　免許、許可又ハ認可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

第十二條　地方鐵道業ヲ營マムトスル者ハ左ノ書類及圖面ヲ提出シ主務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

一　起業目論見書

二　線路豫測圖

三　建設費概算書

四　運送營業上ノ收支概算書

免許ニハ工事施行ノ認可ヲ申請スヘキ期限ヲ附ス

第十三條　免許ヲ受ケタル者ハ左ノ書類及圖面ヲ監督官廳ニ提出シ工事施行ノ認可ヲ受クヘシ

一　線路實測圖

二　工事方法書

三　建設費豫算書

四　免許ヲ受ケタル者カ會社ノ發起人ナルトキハ定款及會社ノ設立登記謄本

工事施行ノ認可ニハ工事ノ著手及竣功ノ期限ヲ附ス

第十四條　地方鐵道業者ハ天災事變其ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限リ第十二條第二項又ハ前條第二項ノ規定ニ依リテ附セラレタル期限ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

第十五條　左ニ揭クル土地ヲ以テ鐵道用地トス

一　線路用地

二　停車場、信號所、車庫及貨物庫等ノ建設ニ要スル土地

三　鐵道專用ニ供スル發電所、變電所及配電所等ノ建設ニ要スル土地

四　鐵道構內ニ職務上常住ヲ要スル鐵道係員ノ舍宅及運輸保線ノ職務ニ從事スル鐵道係員ノ駐在所等ノ建設ニ要スル土地

五　鐵道ニ要スル車輛、器具、機械ヲ修理製作スル工場及其ノ資材、器具、機械ヲ貯藏スル倉庫等ノ建設ニ要スル土地

第十六條　道路、橋梁、河川、運河及溝渠等ニ關スル工事ノ施設ハ所管行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十七條　政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ地方鐵道ニ接續シ若ハ之ヲ橫斷シテ鐵道若ハ軌道ヲ敷設シ又ハ地方鐵道ニ接近シ若ハ之ヲ橫斷シテ道路、橋梁、河川、運河及溝渠等ヲ造設スルトキハ地方鐵道業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ地方鐵道業者ニ設備ノ共用又ハ變更ヲ命スルコトヲ得

設備ノ共用又ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第十八條　地方鐵道業者ハ監督官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限リ免許ニ屬スル權利義務ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得

第十九條　左ノ場合ニ於テハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

一　工事施行ノ認可ヲ申請スヘキ期限迄ニ認可ヲ申請セサルトキ

二　工事施行ノ認可ヲ受ケサルトキ

三　工事施行ノ認可ニ附シタル工事著手ノ期限迄ニ工事ニ著手セサルトキ

四　營業廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

免許ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ相續人ハ免許ニ屬スル權利義務ヲ承繼スルコトヲ得

第二十條　地方鐵道業者ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ運輸ヲ開始スルコトヲ得ス

第二十一條　地方鐵道業者ハ旅客及荷物ノ運賃其ノ他運輸ニ關スル料金ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

監督官廳ハ公益上必要アリト認ムルトキハ運賃及料金ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十二條　地方鐵道業者ハ旅客列車及混合列車ノ運轉速度及度數ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

監督官廳ハ公益上必要アリト認ムルトキハ列車ノ運轉速度、度數及發著時刻ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十三條　監督官廳ハ監査員ヲ派遣シテ鐵道ノ工事、運輸保線ノ狀態、會計及財產ノ實況ヲ監査セシムルコトヲ得

鐵道ノ工事、運輸保線ノ狀態及會計ノ整理ニ付法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ違ヒ又ハ不適當ナリト認ムルモノアルトキハ監督官廳ハ其ノ改築又ハ改善ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ工事、運轉又ハ設備使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得

監査員ハ地方鐵道業者又ハ其ノ役員若ハ使用人ニ說明ヲ求メ金櫃、帳簿、書類及圖面ヲ檢閱スルコトヲ得

第二十四條　地方鐵道業者ハ地方鐵道ノ監督事務ニ關シ往復スル吏員ニシテ監督官廳ノ發行スル證票ヲ携帶スル者ヲ無賃ニテ乘車セシムヘシ

第二十五條　主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ地方鐵道業者ニ他ノ陸上運送事業者ト連絡運輸、直通運輸、運賃協定其ノ他運輸ニ關スル協定ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ設備ノ共用又ハ變更、運輸ノ手續、運賃ノ割合、費用ノ負擔其ノ他ノ事項ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第二十六條　地方鐵道業者ハ監督官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鐵道ノ貸借又ハ營業若ハ運轉ノ管理ノ委託若ハ受託ヲ爲スコトヲ得ス

營業又ハ運轉ノ管理ノ委託ヲ受ケタル地方鐵道業者ハ其ノ管理ニ付監督官廳ニ對シ委託ヲ爲シタル者ト共ニ其ノ責ニ任ス

第二十七條　地方鐵道業者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ運輸營業ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ス

地方鐵道會社ノ解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十八條　主務大臣ハ地方鐵道ノ會計及運賃ノ割引ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十九條　地方鐵道業者ハ法令ノ定ムル所ニ依リ平時及戰時ニ於テ鐵道ヲ軍用ニ供スル義務ヲ負フ

第三十條　政府カ公益上ノ必要ニ因リ地方鐵道（工事中ノ線路ヲ含ム）ノ全部又ハ一部及其ノ附屬物件ヲ買收セムトスルトキハ地方鐵道業者ハ

之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リテ一部買收セラレタル爲殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ地方鐵道業者ハ殘存開業線路及其ノ附屬物件ノ買收ヲ申請スルコトヲ得

第三十一條　買收價額ハ左ニ揭クルモノトス

一　最近ノ營業年度末迄ニ運輸開始後三年ヲ經過シタル線路ヲ含ム開業線路ニ付テハ其ノ營業年度末ヨリ遡リ既往三年間ニ於ケル開業線建設費ニ對スル益金ノ平均割合ヲ買收ノ日ニ於ケル開業線建設費ニ乘シタル額ヲ二十倍シタル金額

二　最近ノ營業年度末迄ニ運輸開始後三年ヲ經過シタル線路ヲ含マサル開業線路ニ付テハ買收ノ日ニ於ケル開業線建設費以內ニ於テ協定シタル金額

三　工事中ノ線路及買收ノ日迄ニ未タ使用開始ニ至ラサル改良施設ニ付テハ買收ノ日ニ於ケル建設費以內ニ於テ協定シタル金額

前項第一號ノ規定ニ依ル金額カ買收ノ日ニ於ケル建設費ニ達セサルトキハ其ノ建設費以內ニ於テ協定シタル金額ヲ以テ買收價額トス

第三十二條　前條ノ規定ニ於テ益金トハ營業收入ヨリ營業費及賞與金ヲ控除シタルモノヲ謂ヒ益金ノ平均割合トハ三年間ニ於ケル每營業年度末ノ開業線建設費ノ合計ヲ以テ同期間ニ於ケル益金ノ合計ヲ除シタルモノニ一年間ニ於ケル營業年度ノ數ヲ乘シタルモノヲ謂フ

建設費、營業收入及營業費ハ命令ノ定ムル所ニ依リテ算出シタル金額ニ依ル

第三十三條　政府ノ買收スル鐵道又ハ其ノ附屬物件ニ付買收ノ日ニ於テ

補修ヲ要スルモノアルトキハ之ニ要スル金額ヲ買收價額ヨリ控除スル

最近ノ營業年度末迄ニ爲スヘキ補修ヲ其ノ營業年度末迄ニ爲ササリシトキハ前項ノ規定ニ依ルノ外之ニ要スル金額ヲ買收價額計算上ノ營業費ニ加算ス

第三十四條　買收ヲ受クヘキ地方鐵道業者カ兼業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ兼業ニ屬スル資產ヲ併セテ買收スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買收價額ハ協定ニ依ル

第三十五條　買收代價ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ二十五圓未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ額面金額二十五圓トス

前項ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第三十五條ノ二　政府ハ買收ノ日ヨリ買收代價交付ノ日ニ至ル迄買收代價トシテ交付スヘキ國債ノ利子ニ相當スル金額ヲ概算ヲ以テ從前ノ決算期每ニ買收セラレタル者ニ交付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ交付シタル金額ハ清算中ト雖主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ株主ニ配當スルコトヲ得

第三十五條ノ三　第三十條第一項ノ規定ニ依リテ一部買收セラレタル爲殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ地方鐵道業者ハ未タ運輸開始ニ至ラサル殘存線路ニ付其ノ營業廢止ニ因リテ生スル損失ノ補償ヲ申請スルコトヲ得

第三十六條　政府ニ於テ地方鐵道ニ接近シ又ハ竝行シテ鐵道ヲ敷設シタル爲地方鐵道ノ每營業年度ニ於ケル益金又ハ益金ト地方鐵道補助法ニ依リ受クル補助金トノ合計カ當該營業年度ノ建設費ニ益金ノ平均割合ヲ乘シタル額ニ不足スルトキハ政府ハ政府ノ該鐵道運輸開始ノ日ヨリ五年ヲ限リ帝國鐵道特別會計收益勘定歲出豫算ノ範圍內ニ於テ其ノ不足額ヲ補償スルコトヲ得但シ每營業年度ニ於ケル補償額ハ益金又ハ益金及補助金ト合セ建設費ノ百分ノ五ニ相當スル額ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ益金ノ平均割合トハ政府ノ該鐵道運輸開始ノ日ノ屬スル營業年度ノ前營業年度末ヨリ溯リ既往三年間ニ於ケル每營業年度ノ開業線建設費ノ合計ヲ以テ同期間ニ於ケル營業收入ヨリ營業費及賞與金ヲ控除シタル殘額ノ合計ヲ除シタルモノヲ謂フ

ト能ハサルニ至リタルトキハ政府ハ其ノ營業廢止ニ因リテ生スル損失ヲ補償スルコトヲ得殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ未タ運輸開始ニ至ラサル線路ニ付之ヲ準用ス

第三十六條ノ二　前二條ノ補償金額ハ第三十一條乃至第三十三條ノ規定ニ準シテ算出シタル金額ヨリ殘存物件ノ價額ヲ控除シタル殘額以內ニ於テ政府之ヲ定ム

未タ工事ニ著手セサル線路ニ對スル補償金額ハ測量其ノ他ノ費用ヨリ殘存物件ノ價額ヲ控除シタル殘額以內ニ於テ政府之ヲ定ム

第三十五條及第三十五條ノ二ノ規定ハ前二項ノ補償金ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

第三十六條ノ三　政府ニ於テ地方鐵道ニ接近シ又ハ竝行シテ鐵道ヲ敷設シタル爲地方鐵道ノ每營業年度ニ於ケル益金又ハ益金ト地方鐵道補助法ニ依リ受クル補助金トノ合計カ當該營業年度ノ建設費ニ益金ノ平均割合ヲ乘シタル額ニ不足スルトキハ政府ハ政府ノ該鐵道運輸開始ノ日ヨリ五年ヲ限リ帝國鐵道特別會計收益勘定歲出豫算ノ範圍內ニ於テ其ノ不足額ヲ補償スルコトヲ得但シ每營業年度ニ於ケル補償額ハ益金又ハ益金及補助金ト合セ建設費ノ百分ノ五ニ相當スル額ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ益金ノ平均割合トハ政府ノ該鐵道運輸開始ノ日ノ屬スル營業年度ノ前營業年度末ヨリ溯リ既往三年間ニ於ケル每營業年度ノ開業線建設費ノ合計ヲ以テ同期間ニ於ケル營業收入ヨリ營業費及賞與金ヲ控除シタル殘額ノ合計ヲ除シタルモノヲ謂フ

第三十二條ノ規定ハ前二項ノ益金、建設費營業收入及營業費ニ、地方鐵道補助法第六條及第七條ノ規定ハ第一項ノ補償ニ付之ヲ準用ス

第三十六條ノ四　主務大臣ハ地方鐵道ノ買收又ハ補償ニ關シ必要アリト認ムルトキハ當該地方鐵道業者ヲシテ建設費ノ增減ヲ來スヘキ事項ニ付認可ヲ受ケシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ認可ヲ受クヘキ場合ニ於テ之ヲ受ケサルモノニ付テハ政府ハ其ノ額ヲ査定スルコトヲ得

第三十七條　地方鐵道業者カ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト

二　政府ニ於テ又ハ他ノ地方鐵道業者ヲシテ地方鐵道業者ノ計算ニ於テ必要ナル施設若ハ營業ノ管理ヲ爲シ又ハ爲サシムルコト

三　免許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコト

前項ノ規定ニ依リテ解任セラレタル取締役其ノ他ノ役員ハ再任セラルルコトヲ得ス

第三十八條　免許ヲ受ケスシテ地方鐵道ヲ敷設シ又ハ認可ヲ受ケスシテ運輸ヲ開始シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條　左ノ場合ニ於テハ地方鐵道業者又ハ其ノ役員若ハ使用人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一　前條ノ場合ヲ除クノ外本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受クヘキ事項ヲ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ爲シタルトキ

二　法令ニ基キテ爲シタル命令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

三　監査員ノ職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ

四　法令又ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ依リテ爲スヘキ届出、報告其ノ他ノ書類・圖面ノ提出若ハ調製ヲ怠リ又ハ虚僞ノ届出、報告若ハ記載ヲ爲シタルトキ

第四十條　前二條ノ規定ハ公共團體カ地方鐵道業ヲ營ム場合ニ之ヲ適用セス

附　則

第四十一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正八年八月勅令第三七四號ヲ以テ同年八月十五日ヨリ施行）

第四十二條　私設鐵道法及輕便鐵道法ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ爲シタル免許若ハ指定、許可又ハ認可ハ本法ニ依リテ爲シタル免許、許可又ハ認可ト看做ス但シ其ノ免許若ハ指定、許可又ハ認可ニ附シタル條件ニシテ本法ニ牴觸スルモノハ其ノ效力ヲ失フ

第二條及第三條ノ規定ハ舊法ニ依リテ免許又ハ指定ヲ受ケタルモノニ之ヲ適用セス

第四十三條　輕便鐵道法ニ依リテ輕便鐵道抵當原簿ニ登錄セラレタル事項ハ之ヲ鐵道抵當法ニ依リ鐵道抵當原簿ニ登錄セラレタルモノト看做シ輕便鐵道抵當原簿ハ鐵道抵當原簿ト看做ス

第四十四條　輕便鐵道法ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四十五條　軌道又ハ專用鐵道ヲ地方鐵道ニ變更セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

附　則（大正十年四月法律第三八號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年八月勅令第三七三號ヲ以テ同年八月十五日ヨリ施行）

附　則（昭和四年四月法律第六二號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年十二月勅令第三三八號ヲ以テ同年十二月五日ヨリ施行）

附　則（昭和十四年三月法律第一九號）

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十四年四月勅令第二二五號ヲ以テ第二十五條、第三十一條、第三十三條、第三十五條、第三十六條ノ二、第三十六條ノ三及第三十六條ノ五ノ改正ニ關スル規定竝ニ附則第二項ノ規定ハ同年四月二十五日ヨリ、其ノ他ノ規定ハ昭和十三年法律第七十二號施行ノ日ヨリ施行）

昭和九年法律第二十二號ハ之ヲ廢止ス

●地方鐵道法施行規則

（大正八年八月十三日閣令第十號）

【沿革】大正十年八月鐵道省令第一號、昭和四年十二月同第三號、同五年六月同第八號、同十四年八月同第五號改正

地方鐵道法施行規則左ノ通定ム

地方鐵道法施行規則

第一條　地方鐵道ノ免許、許可及認可申請書竝届出ニシテ地方長官ヲ經由スヘキモノハ鐵道ヲ敷設スル地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ但シ二府縣以上ニ亙リ敷設スル地方鐵道ニ在リテハ其ノ起點所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ

第二條　地方長官ハ免許申請書ニ左ノ事項ニ關スル調査書及免許ノ許否ニ關スル意見書ヲ附シ之ヲ進達スヘシ

一　申請者ノ資產及信用程度

二　事業ノ成否

三　事業ノ效用

四　他ノ鐵道、軌道、索道又ハ自動車等（未開業ノモノヲ含ム）ニ及ホス影響

五　他ノ鐵道、軌道、索道又ハ自動車等ノ競願アルトキハ其ノ名稱、區間、申請者名及申請書ノ受付年月日

六　其ノ他必要ト認ムル事項

前條但書ノ場合ニ於テハ免許申請書ヲ受附ケタル地方長官ハ關係地方長官ニ商議シ前項ノ調査書及意見書ヲ作製スヘシ

第二十類　通信、交通及電氣　第二編　交通

第三條　免許ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附シ申請者又ハ其ノ代理人記名捺印スヘシ但シ代理人ニ於テ記名捺印スルトキハ代理權ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

一　組合ニ在リテハ組合契約書ノ謄本

二　會社ヲ設立セムトスルモノニ在リテハ定款ノ謄本

三　既設會社ニ在リテハ地方鐵道ノ營業ヲ目的トスルモノヲ除クノ外定款及登記謄本

四　公共團體ニ在リテハ地方鐵道經營ニ關スル決議要領書

第四條　起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　目的

二　商號又ハ名稱及主タル事務所ノ設置地

三　鐵道事業ニ要スル資金ノ總額及其ノ出資方法

四　線路ノ起終點及其ノ經過スヘキ主ナル市町村名竝線路ノ一部ヲ道路ニ敷設セムトスルトキハ其ノ區間及道路ノ種別

五　軌間

六　動力（蒸氣、電氣等ノ別、電氣ヲ動力トスルモノニシテ自ラ發電設備ヲ有スルモノニ在リテハ原動力ノ種類（火力、水力ノ別）、他ヨリ電力ノ供給ヲ受クルモノニ在リテハ供給者名）

第五條　線路豫測圖ハ左ノ二種トス

一　平面圖

縮尺ハ二萬五千分ノ一以上トシ線路經過地ノ地名及地勢、停車場ノ位置及名稱竝一粁毎ニ粁程ヲ記シ方位ヲ示スヘシ

二　縱斷面圖

縮尺ハ距離ヲ二萬五千分ノ一以上、高ヲ二千分ノ一以上トシ中心線

地面及施工基面ノ高低ヲ示シ隧道及橋梁ノ長、線路ノ勾配竝停車場ノ位置及名稱ヲ記スヘシ

第六條　建設費ノ概算書ハ第一號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第七條　運送營業上ノ收支概算書ハ第二號樣式ニ依リ之ヲ調製シ第三號樣式ニ依ル運輸數量表ヲ添附スヘシ

第七條ノ二　地方鐵道法第三條第二項ノ規定ニ依リ軌間ノ制限ヲ適用セサル地方鐵道ハ左ノ通トス

一　鋼索鐵道

二　懸垂鐵道

第八條　免許ヲ受ケタル者會社ノ發起人又ハ組合員ナルトキハ發起人又ハ法人ニ非サル組合ノ組合員ノ加入又ハ脫退（死亡及除名ヲ含ム）ハ遲滯ナク地方長官ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ屆出ツヘシ

第九條　免許ヲ受ケタル後工事施行ノ認可ヲ受クル前ニ於テ起業目論見書ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ヲ經由シ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ商號又ハ名稱、主タル事務所ノ設置地及電力供給者ノ變更ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ遲滯ナク地方長官ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ屆出ツヘシ

第十條　工事施行ノ認可申請書ハ地方長官ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ

鐵道カ二府縣以上ニ亙ル場合ニ於テハ其ノ關係部分ニ對スル書類及圖面ノ謄本ヲ調製シ之ヲ關係地方長官ニ提出スヘシ

第十一條　線路實測圖ハ左ノ二種トス

一　平面圖

縮尺ハ二萬五千分ノ一以上トシ線路ノ左右各二百米以內ノ地勢ヲ明ニシ其ノ他附近ノ市街、村落、社寺、名勝、舊蹟、公園、道路、鐵道、軌道、山岳、河川（氾濫地域ヲ記載スルコト）運河、港灣、要塞地等ヲ記シ府、縣、郡、市、町村ノ境界及方位ヲ示スヘシ

線路中心線ニハ一粁毎ニ粁程ヲ記シ曲線ノ半徑及交角竝停車場、停留場及信號所ノ位置、名稱及中心粁程ヲ記スヘシ

二　縱斷面圖

縮尺ノ長ハ平面圖ト同一ニシテ高ハ二千分ノ一以上トシ中心線地面及施工基面ノ高低竝築堤ノ高及切取ノ深ヲ二百米毎ニ記シ隧道ノ長、橋梁（溝橋ヲ含ム以下同シ）ノ徑間及徑間數、桁ノ種類及材質、停車場、停留場及信號所ノ名稱及中心粁程、重要ナル踏切道竝線路ノ勾配ヲ記スヘシ

線路カ他ノ鐵道又ハ軌道ト交叉、連絡又ハ接近スルトキハ其ノ鐵道又ハ軌道ノ前後各一粁間ノ中心線及高低ノ關係ヲ明ニスヘシ

線路カ市街地ヲ通過シ又ハ之ニ接近スルトキハ別ニ縮尺二千五百分ノ一ノ平面圖及縮尺長二千五百分ノ一高四百分ノ一ノ縱斷面圖ヲ添附スヘシ

第十二條　工事方法書ニハ左ノ實施設計ヲ記載スヘシ

一　動力

二　軌間

三　單線、複線等ノ別及其ノ區間

四　軌道ノ中心間隔

五　建築定規及車輛定規（各部寸法、兩定規相互ノ關係及建築定規軌條部分ノ明細ヲ記入シタル圖面ニ依リ明示スルコト）

六　最小曲線半徑

七　最急勾配

八　土工定規第四號樣式ニ依ル圖面添附

（イ）線路施工基面ノ幅築堤、切取等ヲ區別シ側溝ヲ除キタル幅ヲ記載スルコト

（ロ）築堤及切取斜面ノ勾配高又ハ地質ニ應スル斜面ノ勾配ヲ記載スルコト

（ハ）用地ノ限界築堤法尻又ハ切取法肩ヨリ用地ノ境界迄ノ距離ヲ乾地、濕地ニ區別シ記載スルコト

九　橋梁

（イ）橋臺、橋脚粗石積、煉瓦積、混凝土工、木造等ノ別ヲ記載スルコト

（ロ）基礎杭打混凝土工、煉瓦沈井工等ノ別ヲ記載スルコト

（ハ）桁鋼、鐵筋混凝土、松等ノ別竝工字形桁、鈑桁、搆桁等ノ別ヲ記載スルコト

（ニ）拂煉瓦卷、鐵筋混凝土工等ノ別ヲ記載スルコト

（ホ）橋梁ノ所定動荷重及桁ノ最大應力第五號樣式ニ依ル圖表添附

（ヘ）重要ナル架橋河川ノ平水位、最高水位及其ノ水位ト桁ノ下端トノ距離

（イ）乃至（ニ）ニ付テハ各部ノ材質及構造寸法ヲ示ス設計圖竝異ル徑間ヲ使用スル橋梁ニ在リテハ徑間配置圖ヲ各橋梁毎ニ添附スヘシ但シ模範設計ヲ定メ之ヲ適用スヘキ箇所ヲ示シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十　隧道

（イ）各其ノ地質ニ應スル施工斷面拱、側壁、仰拱及排水溝ノ材質及構造寸法ヲ圖面ニ依リ明示スルコト

（ロ）坑門材質及構造寸法ヲ圖面ニ依リ明示スルコト

十一　軌條、轉轍器、轍叉及枕木

（イ）軌條ノ重量重量ノ異ル軌條ヲ使用スルトキハ各軌條ノ使用區間ヲ明示スルコト

（ロ）軌條及附屬品ノ材質及形狀軌條又ハ附屬品ノ異ル毎ニ形狀寸法ヲ明示スル圖面添附

（ハ）轉轍器及轍叉ノ構造轉轍器ニ在リテハ重錘取柄式又ハ自動彈機式等ノ別、轍叉ニ在リテハ番號ヲ記シ轉轍器尖端軌條ノ開キ竝轍叉翼軌條及護輪軌條ノ間隔等各部ノ寸法ヲ詳記セル圖面添附

（ニ）枕木ノ寸法及敷設間隔軌條重量ノ異ル毎ニ中心距離ノ最大ナルモノヲ記載スルコト

十二　停車場、停留場及信號所

（イ）建造物、配線、用地境界及實測中心粁程本屋、待合所、貨物庫、車庫、乘降場、貨物積卸場、車常置信號機、跨線橋、地下道、轉車臺、給水器、石炭臺、灰坑等ノ位置、乘降場及貨物積卸場ノ長及幅、轍叉ノ番號、線路ノ配置、用地境界及實測中心粁程ヲ平面圖（縮尺千分ノ一）ニ依リ明示スルコト

（ロ）軌道ト乘降場及貨物積卸場トノ關係橫斷面圖ニ依リ明示スルコト

（ハ）聯動裝置圖表ヲ添附シ說明スルコト

十三　他ノ鐵道又ハ軌道トノ交叉方法交叉設計圖ヲ添附シ停車場、信號所以外ニ於テ人力又ハ馬力ヲ動力トスル鐵道又ハ軌道ト平面交叉ヲ爲ス場合ニ在リテハ其ノ保安設備ニ付說明スルコト

十四　閉塞信號機設計及位置ヲ明示スル圖面ヲ添附シ作用ヲ說明スルコト

十五　車輛

（イ）機關車

一形式四輪聯結六輪タンク機關車、六輪聯結十輪テンダー機關車等ノ別ヲ記載スルコト
一輛數
一重量運轉整備ノトキニ於ケル總重量ヲ瓲ヲ以テ記載スルコト
一働輪一對ノ軌條面最大壓力運轉整備ノトキニ於ケル重量ヲ瓲ヲ以テ記載スルコト
(ロ)客車及貨車
一車種ボギー車、四輪車等ノ別ヲ記載スルコト
一輛數
一自重瓲ヲ以テ記載スルコト
一定員
一荷重瓲ヲ以テ記載スルコト
(ハ)汽動車機關車及客貨車ニ準シ記載スルコト
十六　車輛修繕設備ノ大要
十七　特殊設計
電氣ヲ動力トスルモノニ在リテハ前項ノ外左ノ實施設計ヲ記載スヘシ
一　送電系統發電所、變電所、蓄電所、配電所及電車線路間相互ノ送電關係ヲ圖面ニ依リ明示スルコト
二　電氣鐵道ノ方式直流、交流、架空單線式、架空複線式、第三軌條式等ノ別及電車線ノ電壓ヲ記載スルコト
三　發電所、變電所、蓄電所及配電所
(イ)所在地道、府、縣、郡、市、町、村、番地ヲ記載スルコト
(ロ)出力ノ最大出力、平均出力及最大出力繼續時間ヲ記載スルコト

(ハ)原動機、發電機、電動發電機、回轉變流機、周波數變換機、變壓器、蓄電池、昇壓機等ノ種類、箇數常用ト豫備トニ別容量キロワツトヴオルトアンペア又ハアンペア時數ヲ記載スルコト電壓、電流、相及周波數
四　送電線路及饋電線路電線路毎ニ記載スルコト
(イ)電氣方式直流及交流ノ別竝相及最大電壓線式ヲ記載スルコト
(ロ)電線路ノ構造
一電線ノ種類材質竝單一線、撚線、被覆線及裸線ノ別ヲ記載スルコト
一架設方法架空式ニ在リテハ木柱、鐵柱、鐵塔等ノ別地中式ニ在リテハ暗渠、線渠、直接埋設等ノ別ヲ記載スルコト
五　電車線路
(イ)架空複線式
電線ノ種類、太サ及吊架方法スパン線式又ハブラケット式及直接吊線式又ハ鏈線吊線式等ノ別ヲ記載シ其ノ構造寸法ヲ示ス圖面添附
一支持物ノ種類木柱、鐵柱、鐵塔等ノ別ヲ記載スルコト　建植方法中央柱及側柱ノ別柱間距離平均及最大距離ヲ記載シ最大距離六十米以上ナルトキハ其ノ電線ノ弛度及支持物ノ强度ニ關スル計算ヲ示スコト
一他ノ建造物トノ關係上施設スヘキ設計圖面ヲ添附シ說明スルコト
(ロ)架空單線式
一(イ)ニ揭クル事項
一軌條ノ接續方法說明スルコト
一補助線及軌條ボンドノ種類及太サ

(ハ)第三軌條式
一敷設方法圖面ヲ添附シ說明スルコト
一第三軌條ノ重量及形狀
一第三軌條及軌道軌條ノ接續方法圖面ヲ添附シ說明スルコト
一軌條ボンドノ種類及太サ
六　電氣機關車及電車
(イ)電動機ノ種類、箇數、出力及電壓
(ロ)制御裝置ノ種類及制御器ノ箇數
(ハ)集電裝置ノ種類及箇數
七　鐵道ノ動力トシテ他ヨリ電力ノ供給ヲ受クル場合
(イ)供給電力ノ電氣方式、最大電壓、容量及受給時間
(ロ)送電上ノ責任分界點、電氣工作物ノ所有權分界點圖面ニ依リ明示スルコト
(ハ)受電設備ノ大要圖面ヲ添附シ說明スルコト

第十三條　他ノ鐵道又ハ軌道ト交叉又ハ連絡スル場合ニ於テハ交叉又ハ連絡ニ關スル協定書ノ謄本及鐵道ノ動力トシテ他ヨリ電力ノ供給ヲ受クル場合ニ於テハ供給契約書ノ謄本ヲ工事方法書ニ添附スヘシ

第十四條　建設費豫算書ハ第六號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十五條　免許ヲ受ケタル鐵道線路ノ全部ニ對シ工事施行ノ認可ヲ一時ニ申請スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具シ分割シテ認可ヲ申請スルコトヲ得

第十六條　地方鐵道法第十四條ノ規定ニ依ル期限伸長ノ申請書ハ其ノ理由ヲ具シ地方長官ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ

第十七條　工事施行ノ認可ヲ受ケタル後線路又ハ工事方法書ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ第十一條及第十二條ノ規定ニ準シ線路實測圖及變更セムトスル事項ニ關スル工事方法書(鐵路及停車場ノ變更ニ在リテハ新舊對照圖添附)ヲ調製シ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ運輸開始後ニ於ケル變更ニ限リ同時ニ認可申請書ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ提出スヘシ

前項ノ認可申請書ニハ工費豫算書ヲ添附シ工費支出ノ途ヲ明ニスヘシ但シ重要ナラサル變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

停車場ノ廢止、線路及橋梁ノ重要ナル變更竝洪水氾濫地域ニ於ケル線路及橋梁ノ變更ノ認可申請書ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

第十八條　線路及工事方法書ニ記載シタル事項ノ變更ニシテ左ニ揭クルモノハ其ノ理由ヲ具シ新舊ヲ對照シ所管鐵道局長ニ之ヲ屆出ツヘシ

一　線路中心線ノ變更カ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ在リテハ左右各二十米以內其ノ他ノ地ニ在リテハ各百米以內ナルトキ圖面添附

二　曲線ノ半徑ヲ變更シテ之ヲ長カラシムルトキ又ハ軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ百六十米迄其ノ他ノモノニ在リテハ二百四十米迄之ヲ短縮スルトキ圖面添附

三　施工基面高低ノ變更カ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ在リテハ六百粍以內其ノ他ノ地ニ在リテハ千八百粍以內ナルトキ圖面添附

四　線路ノ勾配ヲ變更シテ之ヲ緩カラシムルトキ又ハ電氣ヲ動力トスルモノニ在リテハ千分ノ二十五迄其ノ他ノモノニ在リテハ千分ノ十七迄之ヲ急カラシムルトキ圖面添附

五　線路ノ勾配千分ノ五ヨリ急カラサル箇所ニ於ケル停車場ノ中心杆程ノ變更カ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ在リテハ二十米以內其ノ他ノ地ニ在リテハ百米以內ナルトキ圖面添附

六　停車場、停留場及信號所ノ名稱變更

七　停留場及側線ノ設ナキ信號所ノ新設又ハ位置變更圖面添附

八　踏切道ノ增減

九　六米以内ノ橋梁及百米以内ノ隧道ノ廢止竝認可ヲ得タル設計ト同一設計ニ依ル橋梁及隧道ノ新設又ハ伸縮圖面添附

十　停車場、停留場及信號所ニ於ケル建造物及配線ノ伸縮增減停車場ヲ停留場ニ又ハ停留場ヲ停車場ニ變更スル場合ヲ除ク竝用地境界ノ變更圖面添附

洪水氾濫地域ニ於ケル線路及橋梁ノ變更ニ付テハ前條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第十九條　工事ニ著手シタルトキハ一週間以内ニ鐵道大臣ニ之ヲ屆出テ毎年六月及十二月ノ末日現在ニ依リ翌月十五日迄ニ第八號樣式ニ依ル工程表ヲ提出スヘシ

第二十條　車輛ニ關シテハ其ノ製作又ハ購入前設計ヲ定メ左ノ事項ヲ記載シ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ政府ノ鐵道所屬ノ車輛又ハ既認可ノ車輛ニシテ改造ヲ加ヘサルモノヲ購入スル場合ニ於テハ前使用者名、舊形式稱號及番號ヲ記載シ左ノ事項ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

一　機關車設計ノ異ル毎ニ設計書ヲ作製スルコト

(イ)形式四輪聯結六輪タンク機關車、六輪聯結十輪テンダー機關車等ノ別ヲ記載スルコト

(ロ)輛數

(ハ)重量運轉整備ノトキニ於ケル機關車及炭水車ノ各車輪一對ノ軌條面壓力ヲ瓲ヲ以テ記載スルコト

(ニ)主要寸法平面、側面及端面竝要部ノ斷面ヲ示シ且主要ナル構造寸法ヲ記入シタル組立圖ヲ添附シ端面圖ニハ車輛定規トノ關係ヲ示スコト

一最大寸法長ハ前後緩衝器間ノ距離、幅ハ車體中心線ヨリ側部ニ於ケル最突出部迄ノ距離ノ二倍、高ハ軌條面ヨリ最高部迄ノ距離

一車輪輪軸距機關車及炭水車ヲ區別シ固定輪軸距、全輪軸距、機關車及炭水車ヲ合シタル全輪軸距

一軌條面ヨリ緩衝器及聯結器ノ中心迄ノ高

一兩側緩衝器中心間ノ距離

(ホ)汽罐ノ構造罐胴、煙櫃及火室ノ構造寸法竝各鋲ノ繼手及各種繋桿ノ構造配置ヲ示ス圖面添附

一火床面積平方米ヲ以テ記載スルコト

一傳熱面積總面積ヲ記載シ焰管ノ面積、火室ノ面積、過熱面積等ヲ區別シ平方米ヲ以テ記載スルコト

一焰管ノ外徑及長長ハ管鈑間ニテ計リタルモノヲ記載スルコト

一實用最高汽壓一平方糎ニ付瓩ヲ以テ記載スルコト

(ヘ)汽機ノ構造汽筩ノ直徑及衝程ヲ記載シ汽筩及汽櫃ノ構造竝搖動弇運動裝置ヲ圖面ニ依リ明示スルコト

(ト)臺框ノ構造圖面ニ依リ明示スルコト

(チ)聯結桿及併行桿ノ構造圖面ニ依リ明示スルコト

(リ)トラックノ構造圖面ニ依リ明示スルコト

(ヌ)車輪車軸ノ構造車輪車軸圖、作圖上必要ナル寸法ヲ詳記シタル輪鐵ノ現尺斷面圖及車輪ト轍叉トノ關係ヲ明示セル斷面圖添附

一車輪ノ直徑働輪、導輪、從輪及炭水車ノ各輪ヲ區別シ記載スルコト

一車輪一對ノ輪鐵内側距離

(ル)擔彈機ノ構造及裝置圖面ニ依リ明示スルコト

(ヲ)緩衝器、聯結器ノ種類及構造兩側緩衝器、中央緩衝聯結器、自動聯結器、螺旋聯結器等ノ別ヲ記載シ其ノ構造ヲ圖面ニ依リ明示スルコト

(ワ)制動機ノ種類及裝置手用、蒸氣、眞空制動機等ノ別ヲ記載シ制動裝置圖添附

(カ)燃料櫃ノ容積立方米ヲ以テ記載スルコト及水槽容積立方米ヲ以テ記載スルコト

(ヨ)牽引重量一時間三十二粁ノ速度ニテ千分ノ十勾配ヲ上ルトキ計算上牽引シ得ヘキ重量ヲ瓲ヲ以テ記載スルコト但シ軌間七百六十二粍ノ鐵道ニ在リテハ十六粁ノ速度ニ依リ計算スルコト

(タ)特殊設計圖面ヲ添附シ構造裝置ヲ說明スルコト

二　客車及貨車設計ノ異ル毎ニ設計書ヲ作製スルコト

(イ)車種ボギー車、四輪車等ノ別、客車ニ在リテハ特等、並等、手小荷物緩急車等、貨車ニ在リテハ有蓋、無蓋、貨物緩急車等ノ別ヲ記載スルコト

(ロ)輛數

(ハ)自重瓲ヲ以テ記載スルコト

(ニ)定員座席定員及起立定員ヲ等級別ニ記載スルコト

(ホ)定員一人ニ對スル客室面積等級ニ依リ區別シ平方呎ヲ以テ記載スルコト

(ヘ)積載容積及荷重郵便室、手小荷物室等ヲ區別シ積載容積ハ立方米荷重ハ瓲ヲ以テ記載スルコト

(ト)主要寸法平面、側面及端面竝要部ノ斷面ヲ示シ且主要ナル構造寸法ヲ記入シタル組立圖ヲ添附シ端面圖ニハ車輛定規トノ關係ヲ示スコト

一最大寸法長ハ前後緩衝器間ノ距離、幅ハ車體中心線ヨリ側部ニ於ケル最突出部迄ノ距離ノ二倍、高ハ軌條面ヨリ最高部迄ノ距離

一車體内寸法客車ニ在リテハ各客室、郵便室、手小荷物室、車掌室ヲ貨車ニ在リテハ車掌室アルモノハ之ヲ區別シ長、幅及高ヲ記載スルコト

一固定輪軸距及ボギー中心間ノ距離

一軌條面ヨリ緩衝器及聯結器ノ中心迄ノ高空車ノトキ

一兩側緩衝器中心間ノ距離

(チ)臺框ノ構造圖面ニ依リ明示スルコト

(リ)トラックノ構造圖面ニ依リ明示スルコト

(ヌ)車輪車軸ノ構造車輪車軸圖、作圖上必要ナル寸法ヲ詳記シタル輪鐵ノ現尺斷面圖及車輪ト轍叉トノ關係ヲ明示セル斷面圖添附

一車輪ノ直徑

一車輪一對ノ輪鐵内側距離

(ル)擔彈機ノ構造及裝置圖面ニ依リ明示スルコト

(ヲ)緩衝器及聯結器ノ種類及構造兩側緩衝器、中央緩衝聯結器、自動聯結器、螺旋聯結器、連環聯結器等ノ別ヲ記載シ其ノ構造ヲ圖面ニ依リ明示スルコト

(ワ)制動機ノ種類及裝置手用、壓搾空氣、車側制動機等ノ別ヲ記載シ制動裝置圖添附

(カ)客車内點燈ノ種類及設備電燈ニ在リテハ電線接續圖添附

(ヨ)特殊設計圖面ヲ添附シ構造裝置ヲ說明スルコト

三　汽動車機關車及客貨車ニ準シ記載スルコト

四　電氣機關車及電車

(イ)第一號及第二號ニ掲クル事項

(ロ)電動機ノ構造圖面添附種類、箇數、出力、齒車ノ比電動機及働輪ノ回轉數ノ割合ヲ記載スルコト及電壓

(ハ)制御器ノ種類、箇數及裝置

(ニ)聚電裝置ノ構造圖面添附種類及箇數

(ホ)車内電線接續圖面ニ依リ明示スルコト

車輛ノ圖面ニハ第九號樣式ニ依ル主要材料表ヲ添附スヘシ

第二十一條　前條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル後車輛ノ設計ヲ變更セムトスルトキハ新舊ヲ對照シ其ノ理由及圖面ヲ具シ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ左ニ掲クルモノハ其ノ理由ヲ具シ所管鐵道局長ニ之ヲ屆出ツヘシ

一　認可ヲ受ケタル設計ト同一設計ニ依ル車輛ノ改造

二　認可ヲ受ケタル設計ト同一設計ニ依ル客車及貨車ノ車種變更

三　客車内點燈ノ種類及設備ノ變更電燈ニ在リテハ電線接續圖添附

四　定員又ハ定員一人ニ對スル客室面積ノ變更

五　吊革又ハ網棚ノ設置、廢止又ハ變更及坐席、扉房其ノ他客車内設備ノ輕微ナル變更（名稱ニ變シ圖面添附）

認可ヲ受ケタル設計ト同一設計ニ依ル車輛ノ增加ニ付テハ其ノ理由ヲ具シ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ニ依ル申請書ニ付テハ同時ニ其ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ提出スヘシ

第二十二條　車輛ヲ製作、購入又ハ改造シタルトキハ第十號樣式ニ準シ形式稱號ノ異ル每ニ竣功圖ヲ添附シ鐵道大臣ニ届出ツヘシ

第二十三條　運輸開始ノ認可申請書ニハ左ノ圖面及諸表ヲ添附シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ同時ニ其ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ提出スヘシ

一　線路平面圖及縱斷面圖（第十一條ノ規定ニ準シ之ヲ作製シ設路貨物料程ニ伸縮差アルトキハ停車場、停留場及信號所ノ換算中心料程ヲ併記スルコト）

二　電氣工事竣功圖表（第十一號樣式）

地方鐵道法第十六條ニ規定スル工事竣功セサルトキハ運輸開始ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス但シ其ノ工事ニ付所管行政廳ノ承認ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　運輸ヲ開始シタルトキハ卽日電信、電話又ハ口頭ヲ以テ鐵道大臣及所管鐵道局長ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十四條ノ二　軌道ヲ地方鐵道ニ變更ノ許可申請書ニハ其ノ理由竝左ノ書類及圖面ヲ具シ地方長官ヲ經由シ鐵道大臣及内務大臣ニ之ヲ提出スヘシ但シ内務大臣ニ提出スル申請書ニハ書類及圖面ヲ具備スルコトヲ要セス

一　工事施行ノ認可ヲ受ケサル區間ニ在リテハ第三條、第四條第三號、第五條及第六條ノ規定ニ依ル書類及圖面

二　工事施行ノ認可ヲ受ケタル區間ニ在リテハ第三條、第十一條、第十二條、第十四條及第二十條ノ規定ニ依ル書類及圖面

軌道ノ特許又ハ工事施行ノ認可申請ニ際シ提出シタル書類又ハ圖面ニシテ前項ニ揭ケル書類又ハ圖面ニ該當スルモノアルトキハ其ノ旨ヲ附記シ之カ提出ヲ省略スルコトヲ得

第二十四條ノ三　專用鐵道ヲ地方鐵道ニ變更ノ許可申請書ニハ其ノ理由及運送營業上ノ收支概算書ヲ具シ地方長官ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ

前條第一項第二號、第二項及第七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條　假設工事ヲ施行セムトスルトキハ其ノ理由、工事設計書及圖面ヲ具シ使用期間ヲ定メ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ運輸開始後ニ於ケル假設工事ニシテ第十八條第一項各號ノ一ニ該當スルモノハ所管鐵道局長ニ之ヲ届出ツヘシ

天災事變ノ際一時ノ用ニ供スル爲假設工事ヲ施行シタルトキハ其ノ使用期間ヲ定メ鐵道大臣ニ之ヲ届出ツヘシ但シ運輸開始後ニ於ケル假設工事ニ付テハ所管鐵道局長ニ之ヲ届出ツヘシ

洪水氾濫地域ニ係ル線路及橋梁ニ關スル假設工事及流水斷面ヲ縮小スル橋梁ニ關スル假設工事ニ付テハ認可申請書及運輸開始前ニ於ケル届書ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出シ運輸開始後ニ於ケル届書ハ地方長官及所管鐵道局長ニ之ヲ提出スヘシ

運輸開始後ニ於ケル假設工事ノ認可申請書ニ付テハ同時ニ其ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ提出スヘシ

第二十六條　他ノ鐵道又ハ軌道ノ車輛ヲ運轉セムトスルトキハ該車輛ノ屬スル鐵道又ハ軌道及車輪一對ノ軌條面最大壓力ヲ記載シ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條　削除

第二十八條　削除

第二十九條　削除

第三十條　會社合併ノ認可申請書ニハ合併ノ事由ヲ具シ連署ノ上左ノ書類ヲ添附シ地方長官ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ

一　株主總會又ハ社員總會ノ議事及決議（書面ニ依ル決議ヲ含ム以下同シ）ノ要領書、無限責任社員又ハ總社員ノ同意書ノ謄本

二　合併契約書ノ謄本

三　合併比率決定ノ說明書

第三十一條　工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ主任技術者ヲ置キ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ

主任技術者ヲ置キタルトキハ遲滯ナク其ノ履歷書ヲ添附シ鐵道大臣ニ之ヲ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

主任技術者ヲ不適任ト認ムルトキハ鐵道大臣ハ其ノ解任ヲ命スルコトアルヘシ

第三十二條　鐵道ノ讓渡、貸借又ハ營業若ハ運轉ノ管理ノ委託若ハ其ノ委託ノ許可申請書ハ連署ノ上左ノ書類ヲ添附シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ

一　株主總會又ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書、無限責任社員又ハ總社員若ハ組合員ノ同意書ノ謄本

二　讓渡、貸借又ハ管理委託ニ關スル契約書ノ謄本

認可ヲ受クヘシ

機關車ニ在リテハ前項ノ外形式稱號及番號ヲ附記スヘシ

第一項ノ認可申請書ニ付テハ同時ニ其ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ提出スヘシ

第二十七條　削除

第二十八條　削除

第二十九條　削除

第三十條　會社合併ノ認可申請書ニハ合併ノ事由ヲ具シ連署ノ上左ノ書類ヲ添附シ地方長官ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ

一　株主總會又ハ社員總會ノ議事及決議（書面ニ依ル決議ヲ含ム以下同シ）ノ要領書、無限責任社員又ハ總社員ノ同意書ノ謄本

二　合併契約書ノ謄本

三　合併比率決定ノ說明書

第三十一條　工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ主任技術者ヲ置キ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ

主任技術者ヲ置キタルトキハ遲滯ナク其ノ履歷書ヲ添附シ鐵道大臣ニ之ヲ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

主任技術者ヲ不適任ト認ムルトキハ鐵道大臣ハ其ノ解任ヲ命スルコトアルヘシ

第三十二條　鐵道ノ讓渡、貸借又ハ營業若ハ運轉ノ管理ノ委託若ハ其ノ委託ノ許可申請書ハ連署ノ上左ノ書類ヲ添附シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ

一　株主總會又ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書、無限責任社員又ハ總社員若ハ組合員ノ同意書ノ謄本

二　讓渡、貸借又ハ管理委託ニ關スル契約書ノ謄本

鐵道ノ讓渡許可申請書ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第三十三條　車輛ノ讓渡、廢止又ハ貸渡ヲ爲シタルトキハ鐵道大臣ニ之ヲ届出ツヘシ但シ二月以内ノ貸渡ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ届書ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ提出スヘシ

第三十四條　旅客運賃ノ認可申請書ニハ粁制ニ在リテハ對粁運賃（第十二號樣式ニ依ル區間制ニ在リテハ各區間ノ運賃、均一制ニ在リテハ均一運賃ヲ記載シ各驛ノ實測換算中心粁程表（第十三號樣式）及營業粁程表（第十四號樣式）ヲ添附スヘシ

第三十五條　荷物運賃ノ認可申請書ニハ手荷物、小荷物及大貨物ヲ區別シ粁制ニ在リテハ對粁運賃、均一制ニ在リテハ均一運賃竝荷物ノ品種及等級ヲ記載シ計算方法（計算上生ジタル厘以下ノ取捨、重量、容積ノ計算方法等ヲ說明スルコト）ヲ附記スヘシ

大貨物ニ關シ別ニ營業粁程ヲ制定セムトスルトキハ其ノ增加割合ヲ前項ノ申請書ニ記載シ計算方法（別增ニ依リテ生ジタル粁未滿端數ノ取捨）ヲ附記スヘシ

第三十五條ノ二　前二條ノ認可申請書ハ所管鐵道局長ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ

第三十六條　旅客運賃又ハ荷物運賃ヲ變更セムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ變更後ニ於ケル收支豫算書ヲ添附シ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ依ル認可申請書ハ所管鐵道局長ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

第三十七條　前四條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル運賃ヲ實施シタルトキハ其ノ月日ヲ記載シ各驛間ノ旅客運賃表（第十五號樣式）及大貨物營業粁程表（第十六號樣式）ヲ添附シ所管鐵道局長ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ届出ツヘシ

第三十八條　現ニ營業中ノ線路ニ於テ新設シタル停車場又ハ停留場ニ係ル旅客運賃又ハ荷物運賃ヲ認可ヲ受ケタル方法ト同一方法ニ依リ制定シタルトキハ實測換算中心粁程表、營業粁程表、各驛間ノ旅客運賃表

及大貨物營業粁程表ヲ添附シ實施ノ月日ヲ鐵道大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ規定ハ停車場又ハ停留場ノ實測換算中心粁程ニ異動ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ營業粁程ニ變更ヲ生セサルトキハ營業粁程表、各驛間ノ旅客運賃表及大貨物營業粁程表ノ添附ヲ要セス

前二項ノ規定ニ依ル届書ハ所管鐵道局長ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

第三十九條　運輸ニ關スル料金ノ認可申請書ニハ其ノ種類及金額ヲ記載シ所管鐵道局長ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ

運輸ニ關スル料金ヲ變更セムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ所管鐵道局長ヲ經由シ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル料金ヲ實施シタルトキハ其ノ月日ヲ記載シ所管鐵道局長ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ届出ツヘシ

第四十條　旅客列車及混合列車ノ運轉速度及度數ノ認可申請書ニハ發著時刻表第十七號樣式運行圖表第十八號樣式及運轉速度表第十九號樣式ヲ添附シ所管鐵道局長ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ

第四十一條　旅客列車及混合列車ノ運轉速度ヲ增加シ又ハ度數ヲ變更セムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ新舊對照運轉速度表、新舊對照運行圖表及變更發著時刻表ヲ添附シ所管鐵道局長ヲ經由シ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ旅客列車及混合列車ノ運轉度數ノ變更ニシテ運轉速度ノ增加ヲ伴ハサルモノハ所管鐵道局長ノ認可ヲ受クヘシ

第四十二條　前二條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル運轉速度及度數ヲ實施シタルトキハ其ノ月日ヲ遲滯ナク前二條ノ區別ニ依リ鐵道大臣又ハ所管鐵道局長ニ届出ツヘシ但シ鐵道大臣ニ提出スヘキ届書ハ所管鐵道局長ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

第四十二條ノ二　旅客列車及混合列車ノ發著時刻ヲ變更シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ運行圖表及發著時刻表ヲ添附シ實施ノ月日ヲ記載シ遲滯ナク所管鐵道局長ニ之ヲ届出ツヘシ

第四十三條　貨物列車ヲ運轉スルトキハ其ノ運轉速度、度數及發著時刻ヲ定メ發著時刻表、運行圖表及運轉速度表ヲ添附シ實施ノ月日ヲ所管鐵道局長ヲ經由シ鐵道大臣ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

貨物列車ノ運轉度數又ハ發著時刻ノ變更ニシテ運轉速度ノ增加ヲ伴ハサルモノハ所管鐵道局長ニ之ヲ届出ツヘシ

第四十四條　天災事變其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ一時旅客列車及混合列車ノ運轉速度及度數ヲ變更シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ發著時刻表ヲ添附シ遲滯ナク所管鐵道局長ニ之ヲ届出ツヘシ

第四十五條　營業休止ノ許可申請書ハ其ノ理由ヲ具シ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

營業廢止ノ許可申請書及會社解散ノ決議ノ認可申請書ニハ其ノ理由ヲ具シ株主總會又ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書、無限責任社員又ハ總社員若ハ組合員ノ同意書ノ謄本ヲ添附シ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ其ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ提出スヘシ

第四十六條　第三十條、第三十二條及前條ノ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ニハ左ノ事項ヲ附記スヘシ

一　資本ノ總額

二　株式ノ總數

三　株主ノ總數

四　出席株主及委任株主ノ總數

五　出席株主及委任株主ノ有スル株式ノ總數竝ニ其ノ議決權ノ箇數

數種ノ株式ヲ發行シタル場合又ハ株式ノ總數カ議決權ノ箇數ト一致セサル場合ニ於テハ前項各號ノ事項ニ付其ノ內容ヲ附記スヘシ

前二項ノ規定ハ社員總會ニ之ヲ準用ス

第四十七條　列車ノ衝突、脫線及顚覆、機關車ノ汽罐破裂、十二時間以上列車運轉不能其ノ他ノ重大ナル事故ハ即時電信、電話又ハ口頭ヲ以テ鐵道大臣及所管鐵道局長ニ報告スルノ外五日以內ニ第二十號樣式ニ依リ所管鐵道局長ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ届出ツヘシ

前項以外ノ事故ハ一月分ヲ取纏メ翌月十五日限リ第二十一號樣式ニ依リ所管鐵道局長ニ之ヲ届出ツヘシ

第四十八條　他ノ陸上運送事業者ト連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ストキハ左ノ事項ヲ記載シ契約書ノ謄本ヲ添附シ實施後一週間內ニ所管鐵道局長ニ之ヲ届出ツヘシ

一　連帶驛名

二　旅客及荷物ノ取扱方法

三　賃金割賦方法

四　共用停車場、倉庫等ニ關スル使用料其ノ他ノ事項

五　線路及車輛ノ使用料竝遲滯料ニ關スル事項

六　運輸上ノ責任負擔方法

七　運輸開始ノ年月日

第四十八條ノ二　他ノ陸上運送事業者ト運賃協定其ノ他運輸ニ關スル協定ヲ爲シタルトキハ協定書ノ謄本ヲ添附シ實施後一週間以內ニ所管鐵道局長ニ之ヲ届出ツヘシ

第四十九條　地方鐵道業者ハ每營業年度經過後二月內ニ營業報告書及統計報告書ヲ調製シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ

第五十條　地方鐵道業者ハ鐵道臺帳ヲ調製シ之ヲ備ヘ置クヘシ

第五十一條　地方鐵道會社ハ商法ニ依ル登記ヲ爲シタルトキ又ハ定款ヲ變更シタルトキハ鐵道大臣ニ之ヲ届出ツヘシ

第五十二條　免許失效シタルトキハ遲滯ナク地方長官ヲ經由シ免許狀ヲ返納スヘシ

第五十三條　地方鐵道法第三十二條第二項ノ規定ニ依ル建設費ハ鐵道及其ノ附屬物件ヲ建設又ハ取得スル爲必要ナル實費決算額トス

一部買收ノ場合ニ於テハ買收及殘存區間ノ建設費ハ各區間ニ付之ヲ計算シ各區間ニ關聯スル建設費ハ左ノ各號ニ依リ各區間ニ付之ヲ分割ス

一　線路測量費ハ各區間ノ粁數ニ依ル百分率

二　車輛費、電車庫費、器械場費、發電所費及變電所費ハ各區間ノ最近營業年度末ヨリ遡リ三年間、運輸開始後三年ヲ經過セサルモノニ在リテハ運輸開始ノ日ヨリ買收ノ日迄ニ於ケル車輛走行粁ニ依ル百分率

三　前二號以外ノモノニ付テハ各區間ニ於ケル建設費決算額（前二號ニ依リテ分割シタル金額ヲ含ム）ノ割合ニ依ル百分率

第五十四條　地方鐵道法第三十二條第二項ノ規定ニ依ル營業收入ハ客車收入、貨車收入其ノ他運輸營業上ノ諸收入ト營業費ハ鐵道及其ノ附屬物件ノ保存復舊ノ費用、諸稅其ノ他運輸營業上ノ諸費用トス

一部買收ノ場合ニ於テハ買收及殘存區間ノ營業收入及營業費ハ營業年度每ニ各區間ニ付之ヲ計算シ各區間ニ跨ル營業收入及營業費ハ左ノ各號ニ依リ營業年度每ニ各區間ニ付之ヲ分割ス

一　客車收入ハ買收及殘存區間ニ跨ル旅客ノ各區間ニ於ケル延人粁數